サルトキハ、適當セル代人ヲ出スヲ許ス、即チ佛國及ヒ獨乙各國ノ法是レナリ、他ノ一法ハ、甚タ嚴ナル者ニシテ、本人必ス兵士トナルヲ要シテ、決シテ代人ヲ出スヲ許サス、即チ普魯士等ノ如キ是レナリ、○國勢ノ更ニ強大ニ至ルヲ務メ、攻伐ヲ事トスル國、或ハ下民ヲ制御スルニ、政府強盛ノ威權ヲ要スル國ノ如キハ、右第二法ノ如キ嚴法ヲ用フル事緊要ナリ、去レトモ此法ハ、私人ノ自由權ヲ十分ニ敬重スル、方今文明國普通ノ狀態ニハ、決シテ適應セサルナリ、

〔第四〕護國軍ハ、國內ノ防禦、及ヒ其兵和保護ノ爲メニ設クル者ニシテ、國境外ニ用ユル者ニアラス、㊀護國軍ノ兵數充足シ、其編制宜シキヲ得、及ヒ其技術練熟スルトキハ、能ク國民ノ鋭氣ヲ養フテ、挫折セサラシメ、且ツ同數ノ常備兵ニ比スルニ、其費用更ニ少許ヲ要シテ、以テ國家ノ勢力ヲ振起スルニ足ル可シ、○加之、護國軍ハ、常ニ國民中ニ在リテ之ト相合スルヲ以、政府ノ權トイヘトモ、此兵ヲ用ヒ、強ヒテ民人ノ自由ヲ壓制スル能ハサルカ故ニ、此兵却テ能ク國家ノ序次、民人ノ自由ヲ保護スルニ足ルト云フ可ク、且ツ此兵モ亦、常備兵ノ如ク武官ノ恭順（ミリテーリセル、ゲホールサーム）〔按〕武官ノ上命ニ恭順スルノ法ハ、文官ノ上命ニ恭順スルノ法ヨリモ、更ニ嚴ナリ、ヲ守ラサル可ラサルノ法アリテ、全ク國家元首ニ從屬スル者ナルカ故ニ、能ク國內ノ反側不逞ノ徒ヲ鎭壓スルニ足ルト云フ可シ、

㊀或ハ護國軍ヲ國境外ノ戰爭ニ用フル國アレトモ、此事決シテ護國軍ノ常分ニアラス、是故ニ單ニ政府ノ指令ノミヲ以テ、之ヲ國境外ノ戰爭ニ用フルハ、決シテ許サヽル所ナリ、◎西班牙一千八百三十八年（天保九年）ノ國憲第七十七章ニ云、「已ムヲ得サル事アルニ方リテハ、國君各州（プロヒンツ）ノナチオナールミリツ（〔按〕護國軍ナリ、）ヲ、本州內ニ於テ用フルヲ得ヘシ、但若之ヲ本州外ニ用ヒントスルトキハ、必ス先コルテス（〔按〕立法府ナリ、）ノ許可ヲ得サル可ラ

ス」ト、○比耳時ノ國憲第百廿三章ニ云、「ビュルゲルガルデ（〔按〕亦護國軍ナリ、）ヲ他方ニ出發セシメントスルトキハ、必ス憲法ヲ以テ之ヲ定ム可シ」ト、

護國兵ハ、常備兵ノ如ク、常ニ戰事ニ從事スルヲ以テ、其當務ト爲サス、無事ノ日ニハ、各〻其本業ニ歸從ス、是レ其常備兵ト相異ナル所以ナリ、去レトモ又此兵ヲ以テ、ランドスツルム（〔按〕非常ノ時、唯其居住ノ近傍ノミヲ防禦スル兵、）ト同視ス可ラス、何者、護國兵ハ、主トシテ武技ニ、練熟スル者ヲ簡用スルカ故ニ、專ラ弱年及ヒ壯年ノ者ヨリ拾拔スト雖トモ、ランドスツルムハ、然ラサレハナリ、㊀○護國軍ハ常ニ常備軍ト相連絡シテ、例ヘハ猶常備軍ハ菓核（クダモノヽサネ）ノ如ク、護國軍ハ其莢殼（カラ）ノ如クナルヘシ、而シテ護國軍ハ必ス常備軍ニ同シキ精神ヲ備ヘ、及ヒ常備軍或ハ其本性ヲ失ヒ、遂ニ卒民（〔按〕兵士ニ對シテ云、）ニ對シテ、讎（アダ）スルニ至ルヲ預防スルヲ宜シトス、然ルニ護國軍ヲ以テ、全ク政府ニ從屬セスシテ、常備軍ト分隔セル者トナシ、且ツ護國軍ヲ以テ國ノ兵トシテ、而シテ王ノ兵ナル常備軍トハ、方ニ相反對セル者ナリト爲ストキハ、遂ニ軍隊ノ和同破ルヽカ故ニ、必竟國家ノ勢力ヲ增大スヘキ軍隊ナル者、却テ其レヲ減損スルニ至ルノ害アリ、常備護國ノ二軍ハ、例ヘハ猶雙手ノコトシ、故ニ其相應護スルヤ、當（マサ）ニ双手ノ相應護スルカ如クナル可シ、然ルニ此二軍相和同セスシテ、互ヒニ讐視スルトキハ、猶左手ノ右手ヲ妨碍スルカコトク、其害タル甚タ尠カラス、

㊀〔按〕護國兵ハ、通例國境外ノ戰爭ニハ、應用セサレトモ、國內ノ防禦ニハ、當然用フ可キ者ナルカ故ニ、必ス強壯精銳ヲ要シテ、大抵四十五歲以下ノ者ヲ撰テ、用フトイヘトモ、ランドスツルムハ、大非常ノ形勢ニ隨テ、唯其居住ノ近傍ヲ防禦セシムル者ナルカ故ニ、必ス強壯精銳ノミヲ撰ム可ラス、大抵六十歲以下ノ者ハ、皆取テ此兵ニ充ツ、

護國軍ノ中、自ラ等級ヲ設ケ、先ツ弱年ニシテ、妻子ノ養育ニ眷顧少キ者、及ヒ氣力盛ニシテ、戰爭ヲ喜フ者等ヲ徵集シテ、之ヲ第一軍トナシ、而シテ既ニ壯年ニ至レル者ヲ徵集シテ、之ヲ第二軍、及ヒ後軍ト爲スナリ、

〔第五〕ランドスツルムハ、唯非常ノ時ニ於テ用フ可キ者ニシテ、素ト眞ニ軍隊ニアラス、又大イニ武技ニ練熟セル者ニアラス、大抵未タ常備軍、若クハ護國軍ニ入ラサル者ニシテ、仍國家ノ防禦ニ耐ユヘキ氣力アル者ハ、皆此軍ニ充ツ可シ、強悍ノ民多キ山國ニテハ、婦人モ亦此軍ニ入リテ、男子ヲ援ケ、能ク強勇ノ功ヲ奏スルコアリ、去レ圧此事ハ、唯異常ノ事トス、通例ハ獨リ男子ノミ、此軍ニ入ル可シ、

ランドスツルムモ亦、國家ノ全軍ト相連絡スルノ制アリテ、必ス國家元首ニ從屬セサル可ラス、又此軍隊中ニ就テ、精鋭ナル者ト否ラサル者トヲ分ツテ、等級ヲ立テ、而シテ攻擊及ヒ軍陣運動ニ堪ヘサル兵ハ、險路ヲ防禦セシメ、及ヒ既ニ擊破セル敵軍ヲ尾擊セシムル丹ハ、能ク良功ヲ奏スルコアリ、

〔第六〕軍隊ハ、自ラ戰爭ヲ用フヘキト否トノ事ヲ、定決スル能ハス、又兵權ハ、通例自ラ民事ノ區域ニ侵入スルヲ得ス、必ス國家元首ノ命ヲ俟テ、始メテ動ク可ク、且ツ其令ニ由テ、兵事ノ端緒ヲ開キ、及ヒ方向ヲ取ル可シ、但シ時アリ公衆ノ安寧ヲ保護スルカ爲メニ、兵力ヲ要スル時ニ於テハ、僅ニ數隊、政官ノ求メニ應シテ、其レヲ援ケ、戰爭ニ從事スルコアリ、㊀

㊀墺地利一千八百四十九年(嘉永二年)ノ國憲第一百十四章ニ云、「國内ニ於テハ、軍隊唯政官ノ求メニ應シテ、出發スルヲ得ヘシ、但シ既ニ憲法ニ裁定セシ場合ヒニ於ケルノミナル可ク、且ツ必ス憲法ニ裁定セル規律ヲ用フ可シ」ト、

第八款　警保、(ポリツァイ、)

第一　警保ノ本性、(エーセン「デル、ポリツァイ〕

此款ニ至リ、始メテ方今警保ノ旨意ヲ說明スルヲ得、○凡ツ國法ニ於テ、警保ヲ論スルノ學今將ニ及ヒテ、頗ル隆盛ニ至リシカ圧、其弊害却テ甚タシク、而シテ實際ニ於テハ、更ニ之ヨリ甚シキ者アリ、何者、或ハ警保權ノ區域ヲ限制スルコ、嚴密ニ過キテ、警保官タル者、公衆安寧ノ爲メニ、當然施行スヘキ事、及ヒ照顧スヘキ事ヲモ、却テ職掌外ノ事トシテ、之ヲ閣キ、或ハ又其權ノ區域ヲ增大スルコ、度ヲ過キテ、警保官タル者、其關係ス可ラサル臣民ノ私事ニ關係シテ、恰モ臣民ノ看護人ノ如クナリテ、遂ニ故ナク其自由ノ權ヲ、障害スルカ如キコアレハナリ、

警保官ノ職掌ハ、本來刑罰ヲ施スニアラス、唯照顧ヲナスナリ、總テ警保官タル者ハ、公衆ノ安寧ヲ保全スルヲ以テ、全ク其目的トナスコ當然ナリ、是故ニ此官ハ其職掌ヲ盡スニ於テ、民事ニ親切ナルコ、實ニ他ノ諸權柄ニ超越セサル可ラス、然ルニ此官動モスレハ、民人ノ嫌忌嫉惡ヲ受ルハ何ソヤ、惡人タル者、或ハ却テ警保官ヲ畏怖セサルハ何ソヤ、ゲーテ(獨乙人、一千七百四十九年ニ生レ、八百三十二年ニ死ス、)嘗テメヒストヘレス(〔按〕一種ノ惡鬼ノ名、)ノ言ニ托シテ作レル詩アリ、「吾レハ能ク警保官ト和スルノ術ヲ知ル、然レ圧慘刻ナル刑官ト和スルノ術ヲ知ラスト、〔按〕蓋シ鬼言ニ托シテ、警保官ノ其職掌ニ堪ヘス、動モスレハ、惡人ノ爲メニ籠絡セラル、ヲ誚ルナリ、〕又溫和柔順ニシテ、絕テ惡事ヲ爲サヽル徒、或ハ却テ、警保官ヲ畏懼シテ、之ニ接スルヲ欲セサルハ何ソヤ、眞ニ怪ムニ堪ヘタリ、是等ノ事ハ、特別ニ論說講明セサレハ、悉ク解ス可ラス、(〔按〕以下數條ニ於テ論說スル所卽チ是ナリ、)

舊羅馬ノ制度ハ、警保權ノ威力ヲ強大ニ爲セシカ圧、未タ曾テ民人ノ大イニ此官ヲ嫌忌嫉惡セシヲ聞カス、此國、民主政體ノ時ニ方リテハ、尊貴ノ人ハ、榮譽ヲ買ハンカ爲メニ警保權ヲ委託セラレテ、之ヲ施行スルコヲ希望セリ、當時エヂールト稱スル官ハ、殊ニ警保權ヲ掌握セシ長官ニシテ、恰モ政府ノ高官ニ入ル門戶ノ如ク然リキ、而シテ德行全キ貴人ハ、行狀檢査(ツェンスール)〔按〕民人

行狀ノ善惡ヲ檢査スルナリ、）ノ務メニ從事スルヲ以テ、甚タ榮譽トナセリ、故ニ行狀ノ警保（シッテンポリツァイ（按）民人ノ行狀ヲ警保スルヲ云、即次款ニ詳ナリ、）ハ、右貴人ノ掌ル所ナリキ、但シ國事警保（スターツポリツァイ（按）國家ノ安寧健全ヲ警保スルヲ云、次款ニ詳ナリ）、ノ權ハ、都府ノ長（ハウプト、デル、スタット、（按）羅馬ニテハ都府ノ長ハ、即兼テ國ノ長ナリキ、）ナルコンスルノ掌中ニアリキ、○當時ノ制度ニテハ、別ニ警保ノ一官局ヲ設クルヿナクシテ、諸官局ノ長官等、各此權ヲ分掌シタリキ、故ニ諸長官等ハ、僅ニ此權ノ一分ヲ握ルニ過キスト雖モ、之ニ由リテ、其榮譽威權、一ナラス盛大トナレリ、凡ソ今時ノ警保權ノ景況ヲ取テ、當時ノ警保權ノ景況ニ比シテ、其優劣如何ヲ考フルトキハ、方今ノ警保權ハ當時ノ警保權ニ及ハサルヿ遠クシテ、實ニ恥ツルニ堪ヘタリ、

中古日耳曼ニ於テハ、警保權ノ制度、頗ル陋劣ナリキ、蓋シ方今ノ警保權甚タ其用ニ適シ難クシテ、興ノ大改革ヲ為スニアラサレハ、其弊得テ救フ可ラサルハ、適ザニ中古陋劣ナル警保權ノ弊ヲ承クレハナリ、且ツ中古ニ於テハ、實ニ警保諸權ノ實心タル道義ノ旨意ハ、全ク國家ノ關セサル所ナリキ、故ニ教會タル者、專ラ神教ノ意ニ由リテ、民人交際上ノ行狀ヲ警保スルノ權ヲ掌握シ、國家ハ民人ノ行狀ニ於テハ、全ク措テ問ハサリキ、○其他中古ノ慣習ニテ、各私人、各親族、各會社ノ自主自立ヲ貴重スルヿ甚タシウシテ、遂ニ全ク公衆ノ同利同益ヲ忘失セシカ故ニ、民事ノ區域ニ侵入スルヲ主トナセル警保權ヲハ、務メテ微弱ニセサル可ラストセリ、是ニ於テ各私人、各親族、各會社ノ自主自立、次第ニ其踰越ス可ラサル區域ノ外ニ侵蝕シ、而シテ警保權ハ、遂ニ私人ノ爲メニ阻止セラルヽニ至レリ、

然ルニ中古ノ末ニ至ルニ及テ、其形勢一變シ、全ク相表裏セル一弊ヲ生シタリ、蓋シ當時國家ノ威權漸ク復興シテ強大トナリ、以テ全ク各私人ノ權ヲ制馭シ得ルノ勢ヲ生セシカ故ニ、頻リニ民人ノ幸福ヲ增益セントシテ、遂ニ深ク民事ノ區域ニ侵入シ、國家ノ全然關ス可ラサルヿニ關シテ、老成人ヲ遇スルヿ、殆ト兒童ヲ馭スルニ異ナラス、遂ニ全ク民人ノ自由ヲ束縛スルニ至レリ、即チ國家タル者天下民人ノ看護（アルゲマイネ、ベホールミュンヅング、）ヲ司リテ全ク過度ノ政令（ヒールレギーレライ（二）ヲ為スコトナリ、凡ソ神教ノ旨意、行狀、及ヒ衣食住ノ規制、幷ニ工商諸業ノ方法等、一モ政府ノ指令ニ出テサル者アラサルニ至レリ、○國家是等ノヿヲ指令スルヤ、其意ハ全ク仁惠ニ出ツト雖モ、其處分不可ナルヲ以テ、却テ民人ノ害トナリ、加之、此法アルカ為メニ、適々警保權ヲ施行スル者、動モスレハ、不正ノ所業ヲ恣ニシテ、大イニ民人ヲ困シムルヿトナリキ、然ルニ此大弊害、却テ又再變ヲ促スノ原因トナリテ、輓近ニ至リテハ、遂ニ大ニ警保官ノ權ヲ限制シテ、決シテ國家安寧ノ增益ニ從事スルヿヲ得サラシメ、唯僅ニ國家及ヒ私人ノ安寧ヲ保護スルヿニ從事スルヲ得セシムルノミトナレリ、

警保權ノ景況、斯ク屢々變回セシカモ、經始偏倚シテ、未タ曾テ中正ヲ得ルニ至ラス、蓋シ此權ノ景況、中正至當ヲ得テ、能ク靜止シ、且ツ能ク公義正道ニ合スルヲ得ルニ至ルハ、恐クハ後世始メテ能クス可キノミ、

此目的ヲ達セント欲セハ、先ツポリツァイ（按）即警保ノ原語ニシテ、公衆ノ安寧健全ヲ照顧警保スルノ義ナリ、警保ノ譯字、原義ヲ盡シ難シト雖モ、未タ妥當ノ譯字ヲ得サルヲ以テ姑ク之ヲ用フ、）ナル名稱ノ本義ヲ明晰ニスルヲ緊要ト為ス、此稱ハ、素ト公衆ノ安寧健全ヲ目下ノ景況ニ應シテ、照顧警保スル一種ノ制御權（オブリツカイトリヘ、ゲワルト、）ヲ徵スルヿ明カナリ、故ニ此權ハ目下ノ景況ニ隨テ、或ハ指令シ、或ハ禁止シ、或ハ強逼シ、以テ其能力ヲ顯ハス者ナリ、是レ即チ此權ノ本性ニ固有スル力ナリ、○是故ニ警保權ハ、他諸權柄ト異ニシテ、須臾モ休止スルヿナク、常ニ能力ヲ備ヘテ、必要ノ時アレハ、必ス之ニ應シテ其力ヲ顯サヽル可ラス、此權ハ、絕ヘテ靜坐スル能ハス、又絕ヘテ睡眠スル能ハス、此權若シ靜坐睡眠スルヿアレハ、則チ是レ公衆ノ交際破ルヽノ徵ト云フ可シ、凡ソ公衆ノ爲メニ已ム可ラサルヿアル毎ニ、此權輒チ其能力ヲ發シテ、自ラ之ヲ助ク可シ、此權ハ必ス自己ノ意見ヲ以テ、其務メヲ成シ、而シテ決シテ淹滯スルナカル可シ、故ニ此權ハ、實ニ一種特

別ノ權柄ト云フ可シ、

預メ警保權ノ能力活動スル所ノ方向ヲ詳定シ、及ヒ其能力ノ品類ヲ細別セントスルハ、徒ニ無益ノ勞ニ屬スルノミ、凡ソ警保權ハ、國家ノ中心ヨリ興起シ、其周邊ニ向テ發動シ、而シテ今日千差萬別ノ事業ニ應シテ其能力ヲ顯ハス者ナリ、故ニ總テ預メ料ル可ラサル事ノ突然生スルニ方リ、其景況ニ應シテ、適宜ノ處分ヲ爲サント欲セハ、此權必ス之ニ應スルノ自由ヲ具ヘサル可ラス、此權若シ此自由ヲ具ヘサルトキハ、決シテ之ニ應シテ、其用ヲ爲スニ足ラス、凡ソ此權ノ關係スヘキ事體ノ景狀、千差萬別ナルニ隨テ、此權ノ活動スル景狀モ、亦宜シク千差萬別ナル可シ、

是故ニ、預メ警保權施行ノ方法ヲ詳定セントスルハ、甚タシキ謬見ナリ、必スヤ此權ヲ掌握スル者、自由ニ其方法ヲ撰ヒ、以テ景狀ニ適スル處分ヲ爲サヽル可ラス、此事即チ此權ノ本性ニ歸ヘリ、然ルニ警保權ノ憲法(ポリツァイゲセッツ、グーブンク、(按)警保權施行ノ方法ヲ、定ムル憲法ナリ、)ヲ以テ、預メ後來此權ヲ施行スルノ方法ヲ、悉皆確定セント欲スルモ、決シテ得ヘカラス、若シ强ヒテ之ヲ確定シ、之ニ由テ此權ヲ施行セシメント欲スレハ、必ス弊害ヲ生ス可シ、○是故ニ此權ヲ掌握スル者ヲシテ、自由ニ其方法ヲ撰ハシメサル可ラス、去レト此自由亦決シテ限制スル所ナキニハアラス、此權ヲ施行スル者、必ス現存ノ法制ヲ遵守スヘキハ、固ヨリ當然ニシテ、唯實ニ己ムヲ得サルノ事生スルニアラサレハ、決シテ現存ノ私法、若クハ國法ニ背キ、或ハ之ヲ破ルヲ許サス、且ツ私人ニ任セテ、却テ功益アルヘキ事ニハ、決シテ此權ヲ施行ス可ラス、○但シ其歸ヲ要スルニ、日々變化スル所ノ公衆ノ要務ニ應シ、今日ノ景況ニ隨ヒ、適宜ノ方法ヲ用フルヲ以テ、此權ノ大眼目ト爲ス可シ、是即チ此權ノ最上ノ憲法ナリ、最高ノ義務ナリ、

去レト此權此ノ如ク自由ヲ得ルトキハ、遂ニ國家ニ害ナキ能ハス、且ツ殊ニ私人ニ害アルハ、更ニ大ニシテ、動モスレハ苛酷ニ至ルヲ免レス、是故ニ預國法ヲ以テ、十分ニ之ヲ防制スルノ術アラサル可ラス、而シテ方今ノ世ニ於テハ、其法僅ニ二件アルノミ、即チ時アリ、上等警保局ニ告訴スルヲ許スノ法(按)私人下等警保局ノ處分ニ服セサルトキハ、則チ之ヲ上等警保局ニ告訴スルヲ許スナリ、)

ト、及ヒ警保權ノ憲法書ヲ設ケテ、此權ヲ限制スルノ二法ノミ、但シ第一法ヲ用フルニ方リテ、上等警保局、若シ告訴セル私人ノ論ヲ是トシテ、之ニ權利ヲ與フルトキハ、遂ニ下等警保局ノ威權ヲ損害スルノ恐レ甚タ少ナカラサルヲ以テ、此法ヲ用フル事ハ、通例爲シ難シトス、又第二法ノ如キハ尋常ノ混亂起ルニ方リ、及ヒ當サニ警保官ノ權ヲ以テ、罰スヘキ罪ヲ犯ス者アルニ方リテ、此官ヲシテ能ク常度ヲ守リ、恣ニ權力ヲ振フ能ハサラシムルニ足ル事必然ナリ、去レト此法ニ由テ常ニ警保官ノ權力ヲ中正適度トナスハ甚タ難クシテ、動モスレハ却テ、此權ヲ限制スル事甚タ過キテ、遂ニ警保權ノ自由ナル活動ヲ、阻止スルニ至ル、是レ即チ此權ノ專恣ニ至ルノ弊ヲ矯メント欲シテ、却テ又此權ニ必要ナル自由力ヲ抑制スルノ一弊ヲ生スルナリ、

以上論スル所、全ク方今警保制度ノ弊害ナリ、今復茲ニ羅馬ノ制度ヲ論説セサル可ラス、抑羅馬ノ法ニテハ警保ノ權ヲ施行スル者ト同權力ナル他官吏、若クハ更ニ之ヨリ權力盛ナル他官吏等、警保權ヲ施行スル者ノ處分ヲ代裁スルノ法アリ、殊ニホルクストリブン(按)羅馬ノ議院ナリ)ナル者、當然此事ヲ爲シ得ルノ權アリシカ、蓋シ此法、能ク警保權ノ制度ニ適應ス、○凡ソ神速ノ果斷ヲ以テ處決スルヲ要スルニ方リテ、警保官ノ處分、若シ至當ヲ得サル事アレハ、又神速ニ此處分ヲ防制セサル可ラス、然ルニ私人警保ノ一局ニ於テ、現ニ不當ノ處分ヲ受ケシトキ、更ニ上等ニシテ遠隔セル官司ニ登訴(インスタンツェンツーグ、(按)下局ノ處分ニ服セサルトキ、更ニ上局ニ訴フルヲ云フ)スルヲ要スル法アルトキハ、決シテ不當ノ處分ヲ、神速ニ防制スルニ足ラス、蓋シ同等ニシテ接近セル官ニ、警保官ノ不當ナル處分ヲ禁止スルノ權ヲ與フルトキハ、能ク其害ヲ防制スルニ足ル可シ、

但シ自由ニ處分スルノ權ヲ警保官ニ許サント欲セハ、亦必ス其處分ニ就テ、十分ナル保任ノ務メヲ負ハシメサル可ラス、若シ此務ナキトキハ、則チ其權遂ニ專恣ニ流ル、必然ナレハナリ、故ニ自由ノ權ヲ許ス事愈々大ナレハ、保任ノ務モ亦隨テ、愈々大ナルヲ要ス、然ルニ此保任ノ法ヲ用ヒント欲セハ、必今時ノ登訴法ヲ廢シテ、他ノ制度ヲ用ヒサル可ラス、○茲ニ相反セル二事ニ於テ、共ニ保護ノ道ナ

サル可ラス、即チ其一、警保官ノ國家安寧ノ爲メ施爲スル諸業ニ、必要ナル自由權ヲ保護シテ、之ヲ失ハサラシムルト、其二、私人ノ權利ヲ保護シテ、警保官ノ暴權ヲ避ケシムルト、是レナリ、（凡ソ警保官自由ノ大權ヲ以テ、事ヲ處分スルヲ得ルモノハ、其處分ノ善惡ニ隨テ、法官ノ審判ヲ受ル可キ當然ナル可ク、而シテ此法官ハ、決シテ訴訟法官（チヒールレフテル、（按）訴訟法ヲ司ル法官ナリ、）遵守スヘキ法律ヲ用ヒス、唯其處分ノ國家安寧ニ害アルト否トニ著眼シテ、其罪ヲ審判スルヲ緊要トナス、（按）警保官ノ處分、縱令ヒ少シク法律ニ背ク所アリト雖モ、其事却テ國家ノ安寧ニ利アレハ、決シテ之ヲ罰セサルヲ緊要トナシ、又其處分縱令ヒ法律ニ背ク所ナシト雖モ、國家ノ安寧ニ害アレハ、必ス之ヲ罰スルヲ以テ緊要トナスヲ云フナリ、若シ警保官實ニ其權ヲ恣ニシテ、人民ノ害ヲ生スルニ方リテハ、害ヲ受ケタル私人ニハ、償金ヲ與ヘシメ、且ツ政府ニ罰金ヲ納メシメ、以テ權ヲ擅ニセシ害ヲ、切ニ其身ニ覺悟セシムルコト、最モ緊要ナリ、）警保權ヲ掌握スル人體ヲ撰フハ、最モ緊要ノ事ニシテ、若シ此權ヲ掌握スルニ堪ユヘキ人體ヲ得ルトキハ、此權ヲ施行スルノ方法、始メテ致當ヲ得ルニ至ル可シ、此事ニ就テモ亦、羅馬ノ制度タル實ニ今時ノ龜鑑トナスニ耐タリ、○今時ノ警保權ニ以テ羅馬ニ於ケルカ如ク、實ニ國家ノ道義ヲ保護スヘキ大權ト爲ント欲セハ、必ス道義ヲ具ヘテ、品行貴キ人物ヲ撰ヒ、此權ヲ掌握セシムルコト甚タ緊要ナリ、フリードリヒ、ローメル（獨乙人、一千七百九十五年ニ生ル、）ハ、方今國家ノ急務タルハ、警保權ノ制度ヲ改革スルニ在ル所以ヲ論シタリシカ、其大旨ニ俊傑數員ヲ合シテ、オルデン（（按）勳章ヲ得タル會社ナリ、）ヲ設ク、（但シ之ヲ眞ノ官吏トナス可ラス、）警保ノ大權ヲ擧ケテ、悉ク之ニ委任シ、以テ此會社ヲシテ、實ニ其處分ヲ保任セシムルノ制度ヲ立ルノ事、方今ノ急務ニシテ、此他決シテ宿弊ヲ除去スルノ術策アルコトナシト云ヘリ、

方今英國ノフリードデンスリフテル（（按）一種ノ法官ナリ、卷之八第三款ニ詳ナリ、）ト稱スル官ハ、才識德望ヲ兼備シ、決シテ他人ニ控制セラレサル人物ヲ合セル會社ニシテ、此官ニ委任スルニ、警保權ノ一分ヲ以テス、

第九款

第二 警保權ノ區分、及ヒ其專要ノ職掌、（ヂー、グリーデルング、ウンド、ハウプトフンクチオン、デル、ポリツァイゲワルト、）

警保ナル旨意ニ著意シテ、考フルトキハ、其發動ニ就テ、二個ノ重要ナル方向アリ、即チ陰ノ方向（ネガチーヘ、リフツング、）及ヒ陽ノ方向（ポシチーヘ、リフツング、）ト是レナリ、而シテ今日生シ來ル所ノ害ヲ防制シテ、自由ナル交際ノ障碍トナル者ヲ除去スルヲ、陰ノ方向ニ發動スト云ヒ、又特ニ公衆ノ安寧ヲ増益スルヲ、陽ノ方向ニ發動スト云フ、凡ソ陰ノ方向ニ發動スル者ハ、唯公衆ノ安寧ヲ保守スル警保（コンセルヒーレンデ、）ナルヲ以テ、之ヲ保安ノ警保（シーヘルハイツポリツァイ、）ト稱シ、陽ノ方向ニ發動スル者ハ、公衆ノ安寧ヲ増進スル警保（プロヅクチーヘ、）ナルヲ以テ之ヲ増安ノ警保（ヲールハールツポリツァイ、）ト稱ス、但シ此區別ハ、唯外貌上ニ於ケルノミニ、實際ニ至テハ、決シテ此區別アルコナシ、故ニ眞實ノ警保權ハ、必ス同時ニ陰陽ノ二方向ニ於テ、發動スル者ナリ、蓋シ唯現ニ公衆ノ障碍トナルヘキ者ヲ除去セシノミニテ、既ニ交際ノ自由ヲ増益スルニ足ルコ多シ、例ヘハ、警保官ナル者、竊盜、攪徒等ヲ驅逐シテ、市街ノ害ヲ除ケハ、即チ之ニ由テ共ニ交際ノ自由ヲ増益スルカ如シ、又其他陰ノ方向ニ發動スル方法ヲ施スニ方リテ、兼テ陽ノ方向ニ發動スル方法ヲモ亦共ニ施スコアリ、例ヘハ、傳染病ノ流行スル時ニ方リテハ、啻ニ患者ヲ僻地ニ遷シテ、其傳染ヲ防クヲ照顧スルノミニ止マラス、尚且ツ患者看護ノ事ニ就テモ、亦必ス意ヲ用ヒテ、之ヲ照顧スルナリ、○方今ノ世ハ、警保權ヲ限制スルコ甚タシクシテ、警保官ヲシテ、唯妨害トナル者ヲ除去スル事ニノミ從事セシメ、良善ノ事ヲ増益セシムルコ、甚タ稀ナリ、而シテ行狀風俗ノ警保ニ至テハ、此事更ニ甚タシ、是レ實ニ今世ノ通弊ト云フヘシ、是故ニ陰陽ノ方向ニ隨テ、警保ノ職官ヲ二分スルハ、甚タ不可ナリ、若シ之ヲ分ツトキハ、二方向ニ發動スル權、互ヒニ應護スルヲ得スシテ、其力遂ニ弛解スルヤ必然ナリ、

又警保權ヲ二分シテ、預防ノ警保、（プレヘンチーヘ）及ヒ防止ノ警保（レプレッシーヘ）トナシ、而シテ將サニ起ラントスル障害ヲ預防シテ、起ラサラシムルヲ、預防ノ警保ト稱シ、又既ニ法制ヲ害スル者アルニ及ヒ、卽チ現ニ障害ノ起ルニ及ンテ、始メテ之ヲ防止スルヲ、防止ノ警保ト稱スル說アリ、去レトモ此區別亦徒ニ外貌上ニ在ルノミ、

此區別ハ、唯保安ノ警保ニ着眼シテ立ル者ナリ、故ニ直ニ增安ノ警保ニ關スル所ナシ、是レ卽チ此區別ノ當ヲ失スル所以ナリ、○又唯預防ノミヲ以テ、警保諸權ノ本性ナリトスル論、盛ニ蔓延セシカト、大ナル謬見ト云フヘシ、例ヘハ、警保官泥濘沼澤ヲ淨燥シ、狹隘幽暗ナル市街ヲ毀チ、廣寬開濶ナル隙地ヲ設ケ、大氣ヲ淸淨ニシ、井泉ヲ鑿ル等、總テ人民ノ健康ニ注意照顧スルトキハ、自ラ將來ノ病患ヲ預防スルニ足リ、且ツ縱令ヒ從來ノ病患ヲ全ク驅除シ得サルモ、大イニ之ヲ減スルニ足ルハ必然ナリ、故ニ此ノ如キ警保事業ハ、決シテ單ニ預防ニアラス、又單ニ防止ニアラス、實ニ民人平常ノ健康ヲ增益スルノ事業ナリ、

今日警保權ノ主トシテ照顧スヘキ重要事件、數種アルカ故ニ、之ニ隨テ警保權ヲ數類ニ區分設定スルハ、大イニ良善ノ法ト云フ可シ、而シテ各類其爲スヘキ事務ノ相殊ナルカ故ニ、必ス別個ノ學習ヲ要シ、別個ノ規律ヲ要シ、及ヒ別個ノ方法ヲ要ス、○去レトモ此各類ヲ以テ、全ク相離分スル者ト爲ス可ラス、且ツ警保官ノ爲スヘキ事務、此各類ニ於テ、全ク盡セリト爲ス可ラス、凡ソ世上ノ事、千變萬化スルニ隨テ、自ラ此各類ニ屬セサル他務ノ須要トナルヿ、必シモ無シト云フ可ラス、方今ノ形勢ニ於テハ、警保權ノ分類、左ノ如クナルヲ要ス、

〔第一〕高宗ナル警保（ホーヘ、ポリッツァイ）卽チ狹義ノ國事警保、（スターツポリツァイ、イン、エンゲルン、シンチ、）（按）汎ク國事ノ警保ト云フトキハ、警保ノ諸類ヲ總稱スト雖モ、狹義ノ國事警保ト云フトキハ、私事ノ警保ヲ除テ、唯國事ニ係レル警保ノミヲ云ツナリ、余カ國事警保ト目スルハ、卽チ國內ニ於テ國家ノ存在、及ヒ安寧ヲ照顧警保スルノ事務ヲ指稱スルナリ、故ニ此警保中ニハ、專ラ政令ノ性顯ハル、總テ國內ノ和平安全ヲ傷害スル事件起ルニ方リテハ、必ス此警保權ヲ施行セサル可ラス、○凡ソ此權ヲ施行スルヤ、通常ハ現存ノ法制許ス所ノ區域內ニ於テ、道ニ係レル方術、（モラリセス、ミッテル、）及ヒ物ニ係ル方術（ヒジーセス、ミッテル、）ヲ用フレハ、則チ足レリ、（按）例ヘハ、風俗ヲ正ウスルニ、法令規律ヲ以テスルカ如キハ、卽チ道ニ係レル方術ト云フヘク、又民人ノ健康ヲ增益センカ爲メニ上ニ論セル如ク沼澤ヲ淨燥シ、陋巷ヲ毀ツカ如キハ、卽チ物ニ係レル方術ト云ヘシ、○去レトモ若シ非常ノ事起ルニ至リテハ、高宗ナル警保權ナル者、方ニ國家ヲ救フヲ以テ、最急務トシ、斷然變シテ非常權トナリ、以テ國家ノ大威力ヲ顯ハサヽル可ラス、

〔第二〕私事ノ警保、（インジヒツアール、ポリツァイ、）則チ私人ニ屬セル權利ノ存在、及ヒ安寧ヲ照顧警保スルヲ云フ、左ニ其諸類ヲ擧ク、

〔甲〕民人糧食ノ事ヲ照顧スルヿ、（ヂー、ソルゲ、ヒュール、エルナールング、ヂル、ベヘルケルング、）〔一〕糧食ノ警保（ナールングス、ポリツァイ、）〔一〕羅馬ハ頗ル實際上ニ練磨セシ國ナリシカ、糧食ノ警保ヲ以テ、政府長官ノ重要ナル事務ト爲シタリ、當時プレベーセル、アヂール及ヒクルリセル、アヂールナル職官ハ、羅馬國中ニ儲糧充足シテ、常ニ缺乏ナカラシムルヿニ注意スルヲ以テ、最要ノヿトナセリ、又其後帝國トナルニ至リテハ、帝躬ラ此務メニ從事シテ、大ニ勉勵セシカ故ニ、賤民等大イニ心服スルニ至リタリキ、

凡ソ民人ノ私事ハ、通例民人ニ任カス可シ、然ルトキハ、民人自ラ能ク勉勵シテ、之ニ從事スルカ故ニ、其成事最モ多ク、最モ良シトス、是故ニ國家ハ常ニ、其經濟ノ法則ニ從テ、唯其弊害ノ生スルヲ預防シ、及ヒ之ヲ鋤除スル（按）既ニ弊害ノ生シタル時ニ於テ施爲ス、）ヿニ從事スルヲ要ス、去レトモ時アリ、非常ノ事起ルニ至リテハ、民人ノ私事ヲ民人ニ全委シ、政府ハ唯其弊害ノ豫防鋤除ニノミ從事ス可ラス、若シ徒ラニ此ノ如キヿヲ爲ストキハ、遂ニ非常ヲ救フニ足ラサル必然ナリ、大非常ノ事起ルニ至リテハ、國家ノ警保權、實ニ强大ノ威力ヲ奮テ、始メテ稍ヽ之ヲ救防シ得ルヿア

リ、故ニ此ノ如キ際ニ臨テハ、國家其威權ヲ以テ、民人ヲ救ハサル可ラス、而シテ國家此事ヲ爲サシメ
ニハ、必ス國家ノ經濟ト、私人ノ力トヲ假リ、之ト合併シテ、丁寧綿密ニ處分シ、以テ非常ノ事ノ益ヽ
增進スルヲ防クヘシ、○其施設ノ術ヲ論スレハ、例ヘハ糧食ノ價、沸騰セル時ニ於テハ、之ヲ自由
ニ輸入スルヲ准許シ、（按）或ハ姑ク輸入稅ヲ廢シ、或ハ姑ラク之ヲ減スルナリ、）又沸騰益ヽ甚シ
キニ至レハ、其輸出ヲ禁止シ、或ハ政府自ラ糧食ヲ買收シテ更ニ之ヲ民間ニ賣與シ、（按）蓋シ廉
價ヲ以テ賣與スルナリ、）又ハ民人糧食ヲ耗費スルノ數ヲ節シテ、濫（ミダリ）ニ許耗多ノ費ヲ爲スヲ禁スル
等、總テ政府ノ權ニアルコハ、力ヲ盡シテ之ヲ爲サヽル可ラス、（按）近年獨佛戰爭ノ時、佛京巴里
斯等ニテ、此等ノコヲ施爲セリ、）
但シ又日常ノ交際上ニ於テモ、警保官儘糧食ノ事ニ關セサル可ラサルコアリ、例ヘハ姦商アリ、一
時ニ無數ノ糧食ヲ買收シテ、頓ニ其缺乏ヲ起シ、以テ他日非常ノ利ヲ射ルヲ謀ルコアレハ、則チ警保
官決シテ之ヲ坐視ス可ラス、凡此ノ如キ姦商行フ所ノ惡計ノ害タルヤ、譬ヘハ猶小瘡ノ全身ニ蔓
延スルカ如クシテ、遂ニ民間ニ缺ク可ラサル汁液ヲ吸盡スルニ至ルカ故ニ、警保官必ス力ヲ極メテ
此ノ如キ惡計ヲ防制セサル可ラス、○凡ソ民人タル者ハ、必相生シ相居ルコ、天理ノ當然ニ出レハ、
則チ一人ノ自由、及ヒ權利ヲ助クルカ爲メニ、衆人ノ自由、及ヒ權利ヲ害スルノ理ハ、決シテアル可ラ
ス、國家宜シク此理ヲ認メ、公衆ノ障害ヲ防制セサル可ラス、
（乙）民人體軀ノ健康ヲ照顧スルコ、（ザー、ゾルゲ、ヒュール、ギー、ライブリへ、ゲスンドハイト、ア
ス、ホルクス、）（健康ノ警保（ゲスンドハイツ、ポリツァイ、））左ノ數條ニ擧ル者即チ是ナリ、
（イ）醫師、（アルット、）外醫、（ウンドアルット、）製藥師、（アポテーケル、）產婆、（ヘバムメ）等ノ技
術ヲ考察シテ、實ニ學術ニ練磨セル者ノミ、其事ヲ業トスルヲ許シ、庸醫下工ハ、其レヲ施スヲ禁ス、
去レハ此事ニ於テモ、亦他ノ諸事ニ於ケルカ如ク、必ス千變萬化ノ景狀ニ隨テ、適應ノ處分アラサ
ル可ラス、故ニ時アリテハ、規則外ノ事ヲ行フモ、亦必要トナルコアリ、○方今各國ニ於テ、多ク
ハ別ニ醫療官吏（メヂチナール、ベアムテ、）ノ一局ヲ設置ス、是レ一ハ、健康ノ警保ヲ掌ラシメ、

一ハ、政府醫療ノコニ關スヘキ時ニ於テ、其術ヲ施サシメンカ爲メナリ、
（ロ）傳染病ノ流行スルニ方リテ、公衆ノ爲メニ之ヲ防拒スルノ方法ヲ施行ス、即チコンツマツ、及ヒカ
ランテーンノ方法、（按）傳染病流行スル地方ヨリ來レル船舶旅客等ヲ、國內ニ入ルヲ許ス件ハ、是
ニ由リテ、遂ニ國內ニ傳染スルノ恐レアルヲ以テ、海濱或ハ國界等ニ於テ、病院
ノ如キ者ヲ設ケ、暫ク是處ニ滯在セシムルノ方法ナリ、）ヲ施行シ、又ハ種痘ノ令ヲ布クカ如キ是ナリ、墺地利ノ土耳其ニ隣接
セル、ミリテールグレンツ（按）土耳其ノ侵來ヲ防拒スル處、）ニ於テ、是等ノ方法、盛大ニ備ハレ
リ、
（ハ）糧食ヲ賣買スル墟場（イチバ）ヲ監視シ、人身ノ健康ニ害アル不熟物、及ヒ人命ヲ傷フ毒物等ノ賣買ヲ
禁ス、
（ニ）患者ノ治療及ヒ、看護ノ爲メニ、公衆ノ館舍ヲ建設シ、而シテ戚族ノ力及ハサル者ハ、皆此館舍
ニ入ルヲ許ス、即チ病院、（スピタール、）癲狂院、（イルレンハウス、）產院、（ゲベールアーンスタル
ト、）偕浴場、（エッヘントリヘス、バット、）救育院、（レッツングスアーンスタルト、ヒュール、ヘルウン
グリュックテ、ペルソーチン、）是レナリ、
（ホ）人民ノ健康ヲ照顧センカ爲メニ、復タ禽獸ノ傳染病ヲ預防シ、而シテ之カ健康ヲ保全スルノ方法
無カル可ラス、
（丙）安全ノ警保（シーヘルハイツポリツァイ、）左ノ數件ニ擧ル者即チ是ナリ、
（イ）公衆ノ爲メニ番衛ヲ置ク（ザー、ゾルゲ、（ヒュール、エッヘントリヘ、ワーヘン、）ゲンダルメリー、コ
ンスタブレル、シュッツメンチル、ナフトエフテル等、（按）共ニ巡邏番衛ヲ掌ル輕卒ナリ、）ヲ以テ之
ニ充ツ、但シ總テ警保ノ諸課ニ於テモ、亦此輕卒ヲ使役ス、蓋シ各課相關涉シテ離レサルハ、素ト警保
ニ固有ナル性ナルヲ以テナリ、

（ロ）屍體ヲ撿査シ、及ヒ墓地ヲ監視ス、（トーデンシャウ、ウンド、ギー、ユーベル、ダス、ベグレブニス、）（ライヘンハウス、）（按）未タ死人ヲ埋葬セサル間、姑ク瘞貯スル所、）キルヒホフ、グルフト、（（按）共ニ墓地ノ類、）

（ハ）火災ノ警保、（ホイエルポリツァイ、）即チ竈爐ノ建築ニ就テ、預メ其規則ヲ公布シ、且ツ常ニ此規則ニ合フト否トヲ監視シテ、將來ノ火災ヲ減シ、消防法ヲ設ケテ、既ニ起リタル火災ヲ消滅シ、及ヒ火難保領ノ法（アッセクランツ、）ヲ立テ、火災ノ爲メニ受ケタル損失ヲ償フ等即チ是レナリ、

（ニ）私人ノ權利ヲ警保照顧シテ、安全ナラシムヿ（ザー、ソルゲ、ヒュール、ザー、レフッシーヘルハイト、デル、プリハーテン、）（之ヲ狹義ノ安全警保（シーヘルハイツポリツァイ、イン、エンゲルン、シンヲ、）ト云フ）

私人ノ權利ヲ警保照顧シテ、安全ナラシムルヿニ就テハ、警保權大イニ司法權ト關シテ、互ニ密渉ス、故ニ時トシテハ、此二種ノ境界ヲ分ツヿ、甚タ難キヿアリ、去レトモ、決シテ分ツ可ラストハ云フ可ラス、左ニ論スル所ノ理ニ由テ、乃チ之ヲ分ツヲ要ス、

警保ノ職務ハ、決シテ正義公直ヲ保全スルニアラス、則チ平穩安寧ヲ保全スルニアリ、平穩安寧ヲ保全スルトハ何ソヤ、現ニ平穩安寧ノ妨碍トナル者ヲ防制シ、公衆和平ノ障害トナル者ヲ除却シ、及ヒ法制秩序ヲ破リテ、公衆ノ安全ヲ傷フ者ヲ驅逐スルヲ云フ、彼ノ罪狀ノ有無輕重ヲ查定シ、曲直ノ疑ハシキヲ判決シ、罪科ヲ斷定スルカ如キハ、決シテ警保官ノ職掌ニアラス、總テ是等正義公直ヲ保全スルノ處分ハ、必ス警保官ノ關スル所ニアラス、（按）是等ノヿハ法院ノ主務ナリ、）唯是レ等ノ處分ヲ補助スルヿハ、或ハ之レアリ、

但シ警保官已ムヲ得サルヿアルニ方リテハ、或ハ其權ヲ常區ノ外ニ施行セサル可ラサルヿアリ、是ヲ以テ各國皆警保官ニ、限制セル懲戒法（ツュフチグングスレフト、）ヲ用フルヲ許スナリ、

但シ警保官ニ唯懲戒法ヲ施行スルヲ許シテ、刑法ヲ施行スルヲ許サヽル所以ハ、蓋シ懲戒法ハ、殊ニ公衆ノ安寧ヲ保全スルカ爲メニ、施行スル者ニシテ、唯姑ク懲戒スルヲ目的ト爲スト雖モ、刑法

ハ、專ラ正義公直ヲ保全スルカ爲メニ、施ス者ナルヲ以テナリ、〇然ルニ若シ警保官ニ懲戒法ヲ施行スルヲ禁スル時ハ、其權力遂ニ振ハサルニ至リ、若シ又懲戒法ヲ施行スルニ於テ、綿密ナル治罪法ノ規律ヲ遵守セシメント欲スル時ハ、其事務甚タ困難ヲ生スルノ恐レ少ナカラス、故ニ此二件ハ、全ク警保官ノ職務ニ相合セサル者ト云フ可シ、〇然ルニ近今佛國ノ制度ニ倣ヒ、元來警保官ノ懲戒スヘキ罪過ヲモ、此法ニ任セスシテ、法院ニ委任スルノ制度ヲ立タル國アリ、此制度アル時ハ、實ニ警保官ノ專恣ニ至ルヲ防クノ益少ナカラス、但シ警保官ノ權力ヲシテ、衰弱痿痺セシメサルヿ、甚タ緊要ナルカ故ニ、常ニ此旨ヲシテ、必ス憲法ニ隨テ、警保刑（ポリツァイストラフ、）（按）警保官ノ掌ル刑ト云フ義ニシテ、則チ唯懲戒ノ爲メニ施ス刑ナリ、）ヲ施行スルノ權利ヲ失フヿナカラシム可ク、且ツ縱令ヒ法院ニモ、憲法ニ隨テ、警保ノ處分ニ關セル、命令指揮ヲ施ス權ヲ與フルモ、此官ヲシテ、唯正義公直ヲ害フル者ヲ罪スルヲ以テ、其本意ト爲サシメ、決シテ公衆便益ノ爲メニスル（（按）即チ安寧平穩ヲ保全スルヲ云フ、）ヲ本意ト爲サシム可ラス、

元來警保官ノ懲戒スヘキ罪過ヲ以テ、全ク法院ノ處分ニ委任セル國ニ於テスラ猶警保官ヲシテ僅ニ少罪過ヲ罰スルノ權ヲ握ラシム、若シ然ラサレハ、此官決シテ、其職ヲ盡ス能ハサルニ至ル、必然ナレハナリ、

警保官ハ其職掌ノ區域內ニ於テハ、決シテ法院ニ從屬スヘキ者ニアラス、即チ法院ノ其自己ノ區域內ニ於テ、決シテ警保官ニ隨屬セサルト同一理ナル可シ、故ニ人若シ警保官ノ處決ニ服セサル者アリテ、更ニ之ヲ法院ニ訴フルヿアリトモ、決シテ法院ニ於テ、之ヲ改裁スルヲ許サス、但シ警保官實ニ法院ニ對シテ、其處分ヲ保任スルノ規律ハ、他官吏ノ保任規律ト、大約相異ナル所ナカル可シ、〇但シ警保官安寧平穩ヲ照顧スルニ方リテハ、時ノ景況ニ隨ヒ、神速ニ强猛ノ威力ヲ施サヽル可ラサルヿアルヲ以テ、惱已ヲ得ス、自己ノ意見ヲ以テ、法ニ合セサルヿヲモ爲サヽル可ラス、去レトモ是レニヨリ遂ニ其權ヲ弄シテ、私人ノ自由、及權利ヲ枉害スルノ恐レアル、亦少ナカラス、是故ニ必ス其處分ヲ、十分ニ保任スルノ責メヲ負ハシメサル可ラス、但シ其處分ノ善惡當否ヲ判定スルヤ、必スシモ唯其事ノ法律ニ合スルト否トノミヲ以テス可ラス、唯其事ノ治安上ニ恰當ナルト否トノヿニ、緊ク

著眼スルヲ要ス、然ラサレハ、大イニ警保官ノ權力ヲ壓制シテ、遂ニ振フ能ハサラシムルノ恐レアリ、去レヒ又決シテ其專恣非理ノ所業ニ及フヲ許ス可ラス、蓋シ以上ノ理ニ由テ、警保官保任ノ規律ヲ立ルトキハ、決シテ警保官ノ威力ヲ傷ハスシテ〔兼テ其專恣ヲ防クニ足ルカ故ニ、此官及ヒ私人ノ爲メニ、共ニ宜シトス、然ルニ唯警保ノ憲法ヲ、綿密ニ制定シテ以テ、此權ヲ限制セントスルモ、徒勞ニ屬スルノミ、何者、凡ツ將來變化窮リナキ世態ノ景況ヲ、悉ク測度シテ、之ニ適當スヘキ憲法ヲ預定スルハ、決シテ能サルヿナレハナリ〔

所謂法院附屬警保官（ゲリフトリヘ、ポリッツァイ、）ナル者ハ、元ト刑法ノ施行ヲ補助スル者ナルカ故ニ、全ク法院ニ隨屬スル者ニシテ、決シテ之ト並立スル能ハサル者ナリ、故ニ其職務ニ就テモ、唯法院ノ指令ヲ遵奉スルノミナリ、

〔第三〕教育ノ警保（クルツールポリッツァイ、）教育ト教育ノ警保トハ、猶國家經濟（スターツヰルトシャフト、）ト經濟ノ警保（ヰルトシャフツ、ポリッツァイ、）トノ如ク、必ス分テ二事ト爲ス可シ、何者、教育ハ、事務（プレーゲ、）ニシテ〔教育ノ警保ハ、權力（ゲワルト、）ナレハナリ、總テ公衆交際上ノヿニ於テハ、必ス警保權ノ關セサルヿナシ、故ニ教育事務、及ヒ經濟事務ニモ亦必ス關ス、但シ其關スルヤ〔唯公衆ノ爲メニ、權力ヲ要スルノ故ヲ以テナリ〔若シ之ヲ要セサル時ニ於テハ、此ノ權決シテ關スヘキノ理ナシ、但シ命令、或ハ禁止ノ權ヲ施行スルヿ緊要ナルニ方リテハ、權力ナル警保〔專ラ主トナリテ〔事務ハ之ニ從屬ス、權力ナル警保〔決シテ事務ニ隨行スルニアラス、〇唯事務ノミヲ以テ、其事ヲ濟スニ至ル時ハ、決シテ警保官ヲ施ス可ラサルハ固ヨリ論ナシ、去レヒ是時ニ於テハ、警保官必ス教育官ノ處分ヲ監察シテ、其怠惰ヲ制スルヲ以テ、主務ト爲ス可ク、又權力ヲ用ヒサル可カラサルカ爲メニ警保官其權力ヲ施スニ方リテハ、必ス事務官ノ裨補ヲ求ムルヲ要ス、總テ各官相助ケ、相救フノ規律ハ、必ス此ノ如クナル可シ、

教育警保ノ品類ハ、左ニ擧ルカ如シ、

〔甲〕公衆ノ行狀風儀ヲ照顧シテ、其善良ヲ保全スルヿ、（ヂー、ゾルゲ、ヒュール、シットリヘ、チールハールト、アス、ガルクス、）〔行狀ノ警保、（シットリフカイツポリッツァイ、）即チ羅馬ニテハ之ヲ行狀ノ檢査（ツェンスール、）ト云ヘリ〕

教育ノ警保權ヲ施シテ、臣民一般ノ行狀風儀ヲ照顧シ、以テ益〻之ヲ善良ナラシムルハ、國家負フ所ノ務メナリ、去レヒ素ト入タル者ヲシテ、今日交際上ノ行狀風儀ヲ善良ナラシムルヿニ心ヲ用フルハ〔專ラ教會（キルフ、）ノ預ル處ニシテ〔教會能ク此責メヲ盡スヰハ、人心ニ感應スルヿ、更ニ深切ニシテ、其良功アルヿ〔絶ヘテ國家政治ノ及フ所ニアラス、教會タル者〔能ク自己ノ務ツヲ敬シミ、以テ天神ヲ畏敬スルノ道ヲ明カニシ、而シテ能ク人ヲシテ〔天神ト合體スルヲ得セシムルヰハ、自ラ仁義禮讓ノ源泉、國家民人ノ上ニ溢流シテ〔決シテ盡クルヿナカル可シ、〇國家ナル者ハ、人ノ良心知識ヲ制馭スルノ權ヲ有セス、且ツ冥々ナル精神ヲ拘管シテ、之ヲ正善ニ遷スノ權ヲ有セス、國家ノ權ノ及フ所ハ、唯外貌ニ顯ハルヽ事上ニ在ルノミ、故ニ國家タル者、決シテ民人ノ道義心ヲ、直ニ照顧スルノ權ヲ有スルニアラス〔唯精神內ニ潜住スル者發出シ、顯レテ外面ノ擧動トナルニ至リ、始メテ國家ノ管スル所トナリテ〔其權內ニ歸スルナリ、〇教會ハ能ク神教ノ道ヲ以テ人ノ暴惡ナル心意ヲ改メ、之ヲ正善ニ遷スヲ得トイヘヒ、國家ハ唯能ク人ノ暴惡ナル所行ヲ禁シ、及ヒ善行ノ障碍妨害トナル者ヲ減除スルヲ得ルノミ、㊁但シ此事務ヲ盡スニ於テモ、動モスレハ指令煩多ニ過キテ、深ク民人私事ノ區域ニ侵入シ、其自由ヲ妨ケ、或ハ又指令ヲ怠リテ〔全ク民事ニ著意セサル等ノ弊害生シ易シ、此二弊害モ亦猶例ヘハ二個ノ相對セル巖礁ノ如シ、當路者宜シク共ニ之ヲ避ケテ、其中路ヲ航ス可シ、

㊀〔按〕國家ノ權ト〔教會ノ權ト相岐分スル所、本文ニ論スルカ如クシテ、遂ニ相犯ス可ラサル者ナリ、然ルニ未タ開明セサル國ニ於テハ、政府往々縦ニ人ノ精神心意ヲ拘管制馭セントス、豈迷誤ノ甚タシキニ非スヤ、卷ノ九教育事務ノ部、及ヒ英人ミルカ著ス所ノ自由ノ理（中村敬太郎カ所レ譯ナリ〕中、此理ヲ詳論ス、宜シク就テ看ル可シ、

‖羅馬國ニテハ、國家タル者、人民ノ行狀ヲ警保スルヲ以テ、貴重スヘキ事務トシ、且ツ其行狀檢査ノ法ヲ立ツルヤ、事咸綜攬シテ、一ツモ遺サヽルノ意ヲ以テセリ、而シテ其檢査官ナル者ハ、總テ民人

ニ存スル仁義禮讓ノ心ヲ妨害スル所業アレハ、之ヲ制止スルノ權アリキ、但シ此官決メ將來ヲ預防スルカ爲メニ、其權ヲ施スニアラス、必ス不正ノ行ヒヲ爲ス者アルニ至リテ、始メテ其權ヲ施シタリキ、是レ公衆ノ際ニ、良風俗ノ行ハレンヿヲ欲スルカ爲メニシテ、現ニ此風俗ヲ傷フ所業了然タル時ニ於テスルノミ（大功績アリテ（衆望ノ歸シタル徒ヲ選テ（撿査官トナセシカ故ニ、決シテ不當ノ事ヲ爲スヿナカリキ、）去レハ其者ノ所業、若シ實ニ法制ニ背ケル時ハ、則チ之ヲ制止スルヿ、全ク法院ノ處分ニ係ルヲ以テ、撿査官ハ敢テ之ニ關セサリキ、〇縱令ヒ高位大官ニ居ル者ト雖モ、若シ良風俗ヲ傷フ所業アル時ハ、決シテ撿査官ノ刑罰ヲ遁カル丶ヿ能ハサリキ、

中古ノ世ニ於テハ、教會ナル者民人ノ行狀風儀ヲ視察照顧スルヿ十分ナリキ、然ルニ今時ニ及ヒテハ教會ノ權頗ル陵夷シテ、十分ニ人ノ精神情意ヲ控制スル能ハサル勢トナリ、又尋常ノ警保官ハ、決シテ此事務ヲ主管スル能ハサルカ故ニ、方今ハ此事務ニ於テ、十分ニ主管スル者アラサルニ至レリ、〇警保ノ諸事務中、其最モ難キ者ニ至リテハ、實ニ卓見高識ヲ備ヘテ、大イニ衆望ノ歸向スル人傑ナル者、全ク自己ノ意見ヲ以テ、自由ニ處分スルニアラサレハ、決シテ其功ヲ成ス可ラス、羅馬ニ於テ若キ事務（カクノコト）ヲ以テ、衆人敬重スル所ノ人傑ニ委托セシハ、蓋シ此國ノ警保制度ノ眞ニ卓絶セシ所以ナリ、然ルニ今時ノ諸制度中、最モ宜シキニ適セサル者ハ、警保ニシテ、決シテ羅馬ノ如キ良法アラサルノミナラス、動モスレハ警保官ナル者、漫ニ細些ノ事ニ關シテ、害ヲ人民ニ流シ、遂ニ其嫉惡嫌忌ヲ受クルニ至ル、加之、政府官吏ノ爲ス所モ亦、過半ハ殆ト警保官ノ所業ニ等シク、共ニ民人ヲ困シムルカ故ニ、満政府遂ニ其嫉惡嫌忌ヲ受クルニ至ルナリ、

警保ノ編制ヲ改革スルニアラサレハ、此弊害決シテ除去ス可ラス、而シテ方今ノ世ニ於テモ、威權ヲ縱ニセント欲スル、偏見劣識ノ官吏ニ警保權ヲ任セスシテ、別ニ衆望ノ歸向セル私人ヲ撰テ、之ニ委托シ、而シテ全ク其自己ノ意見ヲ以テ、其權ヲ施行セシメハ、上ニ論スルカ如キ弊害ヲ除クヿ、決シテ難キニアラス、凡ソ天爵ヲ得テ、天下ノ仰慕ヲ受クル諸士、若クハ一私人ニ、此權ヲ委托セハ能ク良功ヲ奏シ、民人モ亦必ス之ニ敬服スルニ至ルヘシ、而シテ今時ノオルデン（（按）勳爵ヲ得タル夥伴ヲ云、）ノ如キモ、若シ此權ヲ委托セハ、乃チ其功益アル可シ、

國家タル者教會ヲ監視シ、及ヒ神教會同ノ景狀或ハ教育ノ方法（卷ノ九ニ於テ詳論スヘシ）ヲ都察スルノ職務ヲ除ノ外、方今ニ於テハ、行狀風儀ヲ照顧スル警保權ノ種類ト稱スヘキ者、甚タ少シ、

（イ）看護警保（ホールムンドシャフツ、ポリツァイ、）及ヒ婢僕ノ警保、（ゲシンデ、ポリツァイ、）家々能ク治マリ、其眷族相和スルヿ肝要ナルヲ以テ、能ク此目的ヲ達センカ爲メニ此警保ヲ行フナリ、但シ此私法及ヒ尋常ノ看護事務（ホールムンドシャフツプレーゲ、）ノミニテハ未タ此目的ヲ達スルニ足ラサル時ト、及ヒ法院保護ノ術ヲ用フルヿ、條理ニ於テ當然ナラサル時、若シクハ法院ノ保護屆ク能ハサル時トニ於テノミ、此警保ヲ施行ス可シ、

（ロ）一種ノ行肆店舍ヲ視察スルヿ、（ギー、アウフシフト、ユーベル、ゲヰッセ、プリハートアーンスタルテン、）即チ猛烈ナル飲料ヲ賣ル舖行（ミセ）（センケ、ヒュールガイスチゲ、ゲトレンゲ、）展觀舖（シャウプーデ、）貸覽書館（ライービブリチテーク、（按）書籍ヲ貸覽スル處ナリ）等ノ如キハ、動モスレハ風儀亂レテ、不正ノ所業ヲ生シ易ク、又賭博場、（スピールハウス、）妓樓（ボルデル、）ノ如キ者ハ、素ト不正ノ事ヲ爲スカ爲メニ設クル者ナレハ、能ク注思シテ、此等ノ店舍ヲ監視スヘシ、

（ハ）出版ノ警保、（プレスポリツァイ、）卷之十二第二款ニ詳ナリ（按）恐ラクハ第四款ノ誤リナリ、

（乙）民人ノ相協同スル方法ヲ照顧シ（ギー、ヒュール、ソルゲ、ダス、ゲセルシャフトリヘ、レーベン、デス、ホルクス、）其情意ヲ快活ニナシ、（ソルゲ、ヒュール、サイチ、エルハイテルング、）及ヒ其互相ノ交際ヲ便ニスルヿ（ソルゲ、ヒュール、サイチン、ペルセンリヘン、ヘルケール、）ニ著意ス、（エザリデード、即チ民人協同、及ヒ交際ノ警保、（ゲセルシャフツポリツァイ、））

方今ノ世ハ、論說若クハ事業ヲ以テ、志ヲ同ウスル者、自由ニ會社ヲ結テ、相協同スルヿ、愈切要トナリ、且ツ人性ニハ、必相協同セント欲スル心情相具スルヨリ、自ラ從來協同ノ方法體裁ヲ更ニ考窮發明シテ、其品類益許多トナリシカ故ニ、國家此等ノ協同會社ヲ核管シテ、照顧ヲ加フルニ

就テモ、亦一層注心掛慮ヲ要スルコトナレリ、○私人互ヒニ會社ヲ結ヒ、相協同スルニ就テハ、必ス其自由權ニ由テ事ヲ行フハ、固ヨリ當然ナリ、故ニ警保官亦必ス此自由權ヲ能ク認許ス可キハ、論ヲ俟タス、加之、公衆安全ノ爲メニハ、復タ能ク公衆ノ保利ヲモ保護シテ、敢テ私人ヲシテ、此公衆ノ權理ヲ侵カサシメサルヲ要ス、是故ニ此警保ニ於テモ、或ハ時アリテハ、私人ノ自由ヲ限制スルヲ要シ、或ハ時アリテハ、之ヲ助ケテ增進セシムルヲ要スルナリ、（卷ノ十二第八款ヲ參看ス可シ、）

國民ノ情意ヲ快活ニセント著意スルハ、仁善ノ處置ナリ、既ニ羅馬ニ於テハ、下民「麵包及ヒ戯嬉」（パチム、エト、キルケンセス、）ト云ヘル語ヲ以テ、其當然ノ大願欲ヲ訟ヘタリ、而シテ當路ノ人ハ、下民ヲシテ此二個ノ願欲ニ充テシムルヲ以テ、頗ル榮擧トセリ、然ルニ今時ノ警保官ハ、演劇開宴、及ヒ歡樂等ノコニ於テハ、唯其放恣ニ至ルヲ制シ、及ヒ危害ヲ生スルヲ防ク等、總テ陰ノ方向ニ進ム處分ニ勉勵スト雖モ、大イニ民情ヲ鼓舞作興シテ、之ヲ快活優美ニナスカ如キ陽ノ方向ニ進ム所ノ處分ニ至リテハ、羅馬人ノ警保ノ意ニ及ハサル霄壤ナリ、○羅馬人ハ、頗ル治體ニ練熟セシカ、殊ニ此陽ノ方向ニ進ム所ノ處分ヲ以テ、甚タ緊要ナルコトシテ、大イニ之ヲ勉勵シ、而シテ其英傑ナル者ハ、相競テ大演劇ヲ興シタリキ、既ニ此國、民主國ナリシ片ニ於テハ、麵包及ヒ戯嬉ノ事ヲ照顧セシエザールハ、最高ノ官ニ登ルノ階梯ナリキ、

〔丙〕救助警保、（ウンテルスツュッツングス、ポリツァイ、）及ヒ救貧警保（アルメンポリツァイ、）モ亦、此部類ニ〔按〕教育警保ノ部類ヲ云、）ニ列ス可シ、

此警保ヲ施スニ就テハ、先ツ眞ノ貧人ト、唯非常ノ時ニ當テ、一時救助ヲ仰ク者トヲ區別シ、且ツ又貧人中ニ於テモ、天然ノ貧人ト、自ラ求メテ貧窮ニ陷リシ者トヲ、仔細ニ區別スルヲ要ス、然ルニ若シ是等諸類ヲ悉皆同視シテ、全ク其區別ヲ立テサル片ハ、必ス二個ノ害アルヲ免レス、其一ハ、之レニ由テ動モスレハ、貧人ノ自ラ貧困ヲ免レント欲スル氣節ヲ挫折シ、其二ハ、現ニ存スル弊害ヲ、益增加スルコト、屢之アルナリ、是故ニ之レカ區別ヲ立ルニ、左ノ如キヲ要ス、

〔イ〕凶年饑歳等、糧食大イニ缺乏シ、其價非常ニ騰貴スル時、或ハ大火災、若クハ戰爭等起リ、平常ノ糧食頓ニ亡失スル時、又ハ工商ノ業、一時ニ止息スルコトアリテ、庶民其業ニ就ク能ハサル時、以上總テ非常ノ災厄起ルニ方リテハ、政府一時許多ノ民ヲ救助セサル可ラサルアリ、而シテ此ノ如キ時ニ臨ミテハ、平常貧窮ナラサル者ト雖モ、自ラ活計ヲ營ム能ハサルヲ以テ、已ムヲ得ス一時救助ヲ仰クニ至ル、去レモ此輩元來貧窮人ナラサルカ故ニ、非常ノ事歇テ、平常ノ形勢ニ復スルニ至レハ、自ラ能ク生計ヲ營ムヲ以テ、決シテ救助ヲ要セサル可シ、○然ルニ政府若シ救助ノ方法ヲ誤ルコトアル片ハ、却テ是等ノ徒ノ志氣ヲ挫キ、遂ニ懶惰ニ流レシムルノ恐ナキ能ハス、故ニ宜ク意ヲ用ヒ、敬ンテ此弊害ヲ防ク可シ、加之、益其志氣ヲ獎勵シテ、良民トナラシムルコト、最モ緊要ナリ、凡ソ人タル者ハ、皆自ラ其力ニ食ムコト、天理ノ當然ニ出レハ、縱令ヒ非常ノ災厄アルニ方リテハ、一旦之ヲ救助スルコトアリモ、是ニ因テ決シテ其自食ノ心ヲ失ハシムルコトアル可ラス、是故ニ一時災厄ノ爲メニ、救助ヲ仰ク者ヲ以テ、決シテ眞ノ貧人ト混同ス可ラス、其之ヲ待遇スルノ方法ニ至テモ、亦自ラ相同シカラサルヲ要ス、若シ之ヲ混同シ、同方法ヲ以テ之ヲ待遇スル片ハ、遂ニ其廉耻ノ心ヲ失ハシムルコト必然ナレハ、宜シク切ニ意ヲ用フ可シ、蓋シ人ノ自ラ艱難災厄ニ耐ヘテ、能ク之ニ勝ツ所以ノ者ハ獨リ廉耻ノ心ノ存スルニ依レハナリ、

民人タル者ハ、自ラ力メ自ラ食ムコト、甚タ緊要ナレモ、若シ災厄起リ、勉力自養スル能ハサルニ方リテ、之ヲ救助シ、其災厄ニ耐ヘシムルハ、素ト經濟ノ事務ナレハ、決シテ警保官ノ掌ルヘキ職任ニアラス、然ルニ時アリテ、經濟ノ術策未タ全ク災厄ヲ除クニ足ラサルコトアリ、是時ニ方リテハ、警保官已ムヲ得ス、其強盛ノ威力ヲ奮ヒ、經濟ノ事務ヲ助ケ、以テ民人ノ災厄ヲ攘ヒ、其安寧ヲ得セシメサル可ラス、

〔ロ〕天然ノ貧人トハ、素性自ラ營養スル氣力ナク、且ツ戚族ノ救助スヘキ者モアラサルヲ以テ、已ムヲ得ス、公衆ノ救助ヲ仰ク者ナリ、即チ親戚ニ離レタル貧兒、未タ婚セサル幼童、氣力憔衰セル老人、及ヒ病者、癈人等ヲ云フ、而シテ國家是等ノ徒ヲ救助スルハ、素ト神教及ヒ道義ノ旨ニ基キシナリ、中古ノ世ニ於テハ、教會專ラ此救貧ノ務メニ從事シタリシガ、今モ尚基督教ノ旨ニ由テ、此仁恤ノ

務メテ、放擲スル能ハサルハ固リナリ、「去レトモ今時ハ殊ニ救貧ノ方法ヲ以テ、國家ノ掌ルヘキコトナセリ、」蓋シ戚族ノ救助スヘキ者ナキ貧人ヲ看護シテ、決シテ凍餒ノ憂ヒナカラムルハ、國家當然ノ職務ナルヲ以テ、國家敢テ此務ヲ怠ルヲ得サルナリ、○但シ國家此事ヲ爲ス、亦教育ニ係レル事務ニ於ケルカ如ク、決シテ威權ヲ施スヲ以テ、先務ト爲ス可ラス、必ス先ツ卑務ヲ行フヲ以テ、先務ト爲ス可シ、故ニ救貧事務（アルメンプレーゲ、）ト、救貧警保（アルメンポリツァイ、）トハ、又必ス分テ二事ト爲スヲ要ス、而シテ若シ唯救貧事務ノミニテハ、未タ全ク貧人ヲ救助スルニ足ラサル時ニ於ケノミ、已ムヲ得ス、救貧警保ヲ施行ス可シ、故ニ警保官ハ、唯救貧事務ノ官、自ラ其務メヲ盡スニ力足ラサル歟、若クハ其務メヲ怠ル時ニ於ケ、之ヲ補助スルノミ、

其他救貧ノ務メハ、「專ラ各邑（ゲマインデ、）ニ委任シテ、國家ハ直ニ之ニ關スルコトナク、唯國家ノ警保官タル者、邑ノ事務ヲ監督シ、且ツ其力ノ及ハサル所ヲ補助スルヲ以テ、甚タ良制ト爲ス可シ、何者、邑ハ、譬ヘハ家族ノ蔓延セシ者ノ如クシテ、國家ト家族ノ中間ニ位シテ、各自ノ人ヲ管スル者ナレハナリ、是故ニ能ク邑內ニ住居セル貧人ノ狀態ヲ詳悉シテ、之ヲ救助スルハ、邑ノ長スル所ニシテ、國家ノ此務メヲ爲スヨリモ、其功却テ大イナル可シ、

（ハ）自ラ求メタル貧人トハ、元來身體强壯ニシテ、自ラ其力ニ食ム能ハサルニアラス、唯懶惰ニ流レ、職業ヲ惡ミ、徒手遊食ヲ欲スルカ爲メニ、遂ニ貧困ニ陷リ、他ノ救助ヲ仰カサルヲ得サルニ至リタル者ヲ云フナリ、是故ニ政府此貧人ヲ救助センニハ、專ラ警保權ヲ施行シテ、酷ク之ヲ懲戒セサル可ラス、「只救貧事務ノミヲ以テ、之ヲ處スレハ、絶ヘテ益ナシ、」(一)○此故ニ此貧人ハ、必ス操作塲（アルバイツハウス、）懲戒塲（コルレクチオンスハウス、）ニ入レ、操作ニ從事セシメ、以テ嚴ニ之ヲ懲戒スルヲ緊要トス、但シ是等ノコトハ、決シテ邑ノ掌ル所ニアラス、必ス國家警保權ヲ以テ、此事ヲ爲サヽル可ラス、

(一)英國ニテ以利沙伯女王、一千五百三十一年ニ生レ、六百零三年ニ殂ス、在位ノ時ニ、唯痿瘋病ヲ患ル者、癈疾ニ罹ル者老人及ヒ瞽者等ヲ救助スルカ爲メニ、救貧税（アルメンタキス、）ヲ設立セリ、然ルニ其後ニ至リテハ「能ク職業ニ堪ユル者ニテモ、懶惰ニシテ、其業ヲ勉メスシテ、貧窮人トナル片ハ、共ニ救貧税ヲ以テ、救助シ、「而シテ本文論スル所ノ三種ノ貧人ヲ以テ、全ク混淆シテ、相分タサリシカ故ニ、其弊害遂ニ言フ可ラサルニ至レリ、○獨乙及ヒ瑞士ニ於テモ、此三類ノ區別、未タ全ク十分ナルニハアラスト雖モ、英國ノ制度ニ比スレハ、遙カニ優ルト云フヘシ、

（第四）國家經濟ノ警保（スターツサルトシャフツポリツァイ、又ホルクスサルトシャフツポリツァイ、）

國家經濟ノ警保ハ、即チ制馭ノ權柄（オブリグカイトリヘ、ゲワルト、）ナルヲ以テ、此權ニ隨屬セル國家經濟ノ事務（スターツサルトシャフツプレーゲ、）トハ自ラ相異ナルコト、猶教育警保（クルツールポリツァイ、）ト教育事務（クルツゥルプレーゲ、）ノ相異ナルカ如シ、平常ノ形勢ニ於テハ單ニ經濟事務ノミニテ、足ルカ故ニ、決シテ權柄ナル警保ヲ施スヲ須ヒス、唯實ニ權柄ヲ施スコト必要トナル時ニ臨テ、之ヲ施行スルヲ要ス、經濟ノ警保ナル者ハ、即チ左ノ諸類ナリ

（甲）水利ノ警保、（ワッセルポリツァイ、）江河ヲ修理シ、堤防ヲ建築シテ、人ノ沈溺、物ノ流失ヲ預防シ、並ニ江河ヲ通船、或ハ捕魚ノ用ニ供シ、「河水ヲ水工ニ用ヒ及ヒ之ヲ田野ニ灌ク等ノコトニ於テ、公衆利益ノ爲メニ注意照顧シ、「且ツ公衆利益ヲ妨碍スル者アレハ、則チ必ス之ヲ制止シ、」其他海港ヲ開キ、「燈明臺ヲ建テ以テ、船舶ノ便益ヲ謀ル等ナリ、

（乙）道路、及ヒ街衢ノ警保、（エーゲポリツァイ、ウンド、ストラーセンポリツァイ、）即チ道路、街衢、鐵道「橋梁等ノ築造修繕ノコトヲ照顧シテ、其堅牢ヲ保全スルヲ云フ、○橋梁ノ修繕ヲ命スルハ、警保ノ務メニシテ、之ヲ適宜ニ修繕スルハ、經濟ノ任ナリ、

（丙）公衆ノ爲メニ設ケタル井水、及ヒ公衆ノ爲メニ設ケタル園囿ヲ警保スルコト、ツルゲ、ヒュトル、エッヘントリヘ、ブロンチン、ウンド、エッヘントリヘ、プレッツェ、）按、往來スル者ノ爲メニ設ケタル井水、及ヒ衆人散步等ノ爲メニ、設ケタル園囿ノ警保ヲ云フ、其他此ノ如キ園囿ヲ修飾スルカ爲メニ、樹木草花ヲ培殖シ、牌坊ヲ建造シ、及ヒ公衆ノ爲メニ館舍ヲ築營シ、且ツ之ヲ美麗淸潔ニ粧飾

スル等ノヿヲ照顧ス〇縱令ヒ私人ニ屬スル屋舍ト雖モ、亦能ク照顧シテ、若シ公衆ノ安全ヲ害シ公衆ノ忌避ニ觸ル、者アラハ、必ス之ヲ禁止ス、但シ其照顧甚タ過察ニシテ、遂ニ私人ノ所有、及ヒ其快樂ヲ拘束スルニ至ル可ラス

〔丁〕國家經濟ノ警保（ホルクスヰルトシャフトリヘ、ポリツァイ、）（按以上甲乙丙丁ノ四種ヲ總稱シテ國家經濟ノ警保ト云ト雖モ、又丁ノ一類ノミヲモ、國家經濟ノ警保ト云フ、）

此警保ノ事ニ就テハ、卷ノ十ニ於テ、經濟事務ヲ論說スル時、併テ論說ス可シ、（（按）卷之十第八款ニ詳ナリ、即チ專ラ製作ノ事ニ係レル警保ナリ、）

大井潤一 校

國法汎論卷之七下 終

國法汎論卷之八上目錄

司法

第一款　司法權ノ性及ヒ品類
第二款　司法ノ通則
第三款　私法事務ノ編制

此書首卷及ヒ前數卷ハ、一千八百六十四年ニ刊行セル第三版ヲ以テ譯セシト雖モ、頃日六十八年刊行本第四版ヲ得タルニ由リ、本卷以下之ヲ以テ續譯ス、既譯數卷ノ如キハ、他日餘暇ヲ以テ、補訂スヘシト云フ、

明治六年五月

譯者誌

瑞士　イ、カ、ブルンチュリ　著
加藤弘之　譯

司法（ゲリヒト）

第一款　司法權ノ性、及ヒ品類、（ザー、ナツール、ウンド、ザー、アールテン、デス、ゲリヒト、）

司法ノ權ハ、總テ法制ヲ傷害スル者アルニ至リテ、始テ施行スル者ナリ、凡法制ヲ傷害スル者アレハ、則司法權ヲ施行シテ、其傷害ヲ除去シ、以テ法ノ尊嚴ナル所ヲ顯ハスナリ、此故ニ司法ノ權ハ、以テ國家ノ正義公直ノ旨ヲ保全スル所ノ者ナリ、

司法ノ職掌ハ、分テ二類トス、

〔第一〕法ヲ認知スルコト、（エルケントニス、デス、レヒツ）（中古ノ語ヲ以テスレハ、即チ法ヲ覓着スルコト、ヒンデン、デス、レヒツ、）即チ判定、（ウールタイル、）〔按〕判定ニ二類アリ、一ヲ事ノ判定ト云ヒ、二ヲ法ノ判定ト云フ、事ノ判定トハ事ノ虛實、或ハ顚末如何ヲ判定シ、且ツ之ニ次テ、其事ノ曲直、或ハ其罪ノ有無ヲ判定スルヲ云ヒ、又法ノ判定トハ、某事或ハ某罪ニハ、某法當ル可シト判定スルヲ云フ」

〔第二〕法ヲ施用スルコト（ハンドハーベン、デス、レヒツ、）〔按〕法ヲ實地ニ施用シテ、事ヲ處分スルヲ云フ」是レ即チ眞誠ノ司法ナリ、〔按〕汎ク司法ト云フキハ、第一第二ノ二事ヲ合稱スト雖モ、眞誠ノ司法ト云フキハ、唯此第二事ヲ云フナリ、

元來判定ノコトハ、必ス國家ノ權ヲ以テ、爲スヘキ務メト云フ可ラス、人々或ハ事ノ法ニ合スルト否トヲ辨識スルノ眞知ヲ以テ、此事ヲ爲シ得ルアリ、或ハ法律ニ通曉セル學識ヲ以テ、此事ヲ爲シ得ルアリ、是故ニ此事ハ、他諸般ノ學術ヲ以テ、爲シ得ル事業ト、殆ト相殊ナル所ナシ、○然ルニ若シ眞誠ノ司法ヲモ、此理ニ據テ論シ、而テ私人亦以テ、司法ノ權ヲ有シ得ヘシト爲セハ、是レ大イナル謬見ト云フ可シ、凡ッ判定ハ、眞誠ノ司法ニ先ッテ、施スヘキ預事タルニ過キスト雖モ、眞誠ノ司法ハ必法院ノ司ルヘキ務ニシテ、全ク國家ノ權ニ在ル者ナリ、是故ニ判定ノコトハ、或ハ私人ニ委托ス

ルヿアリト雖𪜈、司法ノ權ニ至テハ、國家常ニ之ヲ掌握セサル可カラス、而テ判定ノヿヲ私人ニ委托スル時ト雖モ、決シテ私人ニ其全權ヲ與フルニアラス、必ス國家ノ權ヲ以テ、之ヲ控制スルナリ、私權利若シ屈害毀傷ヲ受ルヿアレハ、之ヲ除去シ、以テ私權利ノ安全ヲ追回復舊スルハ「全ク私法事務（ナヒールレヒツプレーゲ〔按〕又訴訟事務ト譯ス「即聽訟事務ナリ、）ナリ「此時ニ於テ「國家ハ唯此法ニ依テ「私人ニ屬セル權利ヲ保護シ、以テ損害ヲ受ケサラシムルナリ、而シテ國家此目的ヲ達センニハ「一ハ甲人ノ乙人ニ對シテ爲セル背法ノ私事ヲ除去シ、一ハ甲人ヲシテ、其乙人ニ被ラセタル損失ヲ償ハシムレハ、則チ足レリ、即チ之ヲ約言スレハ「總テ屈害ヲ受ケタル私權利ヲ追回復舊スルヲ以テ、則チ足レリトスルナリ、

是故ニ此目的ヲ達センニハ「國家通例唯其權ヲ以テ、私人ニ眞實ノ法ヲ告示スレハ、則チ足ルナリ、〔按〕法院ハ唯法ニ據テ判定メ、原告人ハ宜シク云々スヘシ、被告人ハ宜シク云々スヘシト命スレハ、則チ足ルナリ、但シ若シ兩造（パルタイ〔按〕原告被告ヲ云、）ノ一人、法院ノ判定ニ服セスシテ「猶自論ヲ主張スル片ニ於テハ、已ムヲ得ス國家ノ權ヲ以テ、之ニ強逼ス、

而シテ斯強逼スルハ、即チ其正義公直ノ旨ヲ伸フル所以ナリ「故ニ此事ハ「法院當然奉行ス可シ、縱令ヒ警保官ノ輔助ヲ假ルコト、必要ナルトキト雖トモ、專ラ主トシテ之ニ從事スル者ハ、乃法院ナリ「

元來私法ハ「全ク私人互相ノ交際ヲ制スル者ナルカ故ニ「素ト國家ノ當然關スヘキ者ニアラス、是故ニ私人互ヒニ其權利ヲ屈害スルヿアル毎ニ、必ス國家ノ權ヲ以テ、其屈害ヲ除去スルハ、決シテ國家當然ノ務メト云フ可ラス、若此事ヲ以テ「國家當然ノ務メトナス片ハ、遂ニ大イニ私人ノ自主自由ヲ限制シテ、全ク其交際ヲ妨碍スルニ至ルハ必然ナリ、故ニ私人ノ事ハ「私人ニ任セテ「自ラ處分セシメ「國家ハ宜シク之ニ關セサル可シ「〇去レ𪜈茲ニ甲乙二人アリテ「甲ハ乙ノ權利ヲ屈害セント欲スル片「乙之ヲ防テ、其權利ヲ保全セント欲スト雖モ、甲若シ之ヲ肯セスシテ「猶屈害ヲ行フ片ハ、乙亦甲ノ權利ヲ退盛スルニアラサレハ「決シテ其屈害ヲ免カル、能ハサルナリ、然ルニ若シ是

等ノ事ヲモ「猶總テ私人互相ノ處分ニ任セテ、國家敢テ之ニ關セサル片ハ「遂ニ公衆ノ平和親睦、輙ク乖離スルノ恐レアリ「是ヲ以テ、今時ハ是等ノヿヲ、決シテ臣民互相ノ處分ニ任スルヿナク、必法院ヲシテ「公明ノ心術ニ依リ、良善ノ規律ニ遵テ「兩個私人ノ曲直ヲ判定セシメ、以テ兩個私人ノ私ニ爭鬪スルナカラシムルニ至レリ、是故ニ私法事務ハ必ス一競主ノ訴訟ニ由テ「始メテ施行スル者ナリ、

然ルニ「刑法事務（ストラフレヒツプレーゲ、〔按〕又治罪事務ト譯ス、即斷獄事務ナリ、）ハ、私法事務ト相異ナリ、故ニ啻私人ノ權利ヲ屈害スルノミナラス、尚亦暴惡所行ヲ以テ「國家ノ法制ヲ破リ「其害ヲ生スル者アルニ方リテハ「必ス刑法事務ヲ施スヲ要ス、凡ソ現存ノ法制ヲ紊亂毀傷スルノ所行モ「或ハ私法ニ關係ナキ能ハス、去レ𪜈此所行ヲ企ツルノ心意方法「併ニ暴惡ニシテ、遂ニ公衆ノ平和ヲ傷害スルニ至ル片ハ、必スヤ刑法ヲ施サヽル可ラス「是故ニ刑法ハ「必ス公衆ニ關セル事ノ爲メニ施行スル者ニシテ、則チ亦公衆法（〔按〕即チ國法ヲ云フナリ、）ノ一部分トモ稱ス可シ（緒論ヲ參看スヘシ）〇是故ニ此ノ如キ暴惡所行ヲ爲ス者アルニ方リテハ、其損害ヲ除去シテ「只屈害ヲ受ケタル者ノ權利ヲ追回スルノミヲ以テ、足レリト爲ス可ラス、但シ此ノ如キ暴惡所行ヲ爲ス者アルニ方リテ「此者ニ償金ヲ命シテ、屈害ヲ受ケタル者ノ損害ヲ償ハシムル處分モ亦必要トナルヿナキニハ非サレ𪜈、此事ハ唯私法ノ關係ヨリ生スルヿナルカ故ニ、全ク私法ノ區域ニ屬ス、去レ𪜈此ノ如キ徒ノ償金ノ科ハ「唯罪犯ニ附屬スル者ナルヲ以テ、罪犯ヲ罪スルニ方リ、刑法官ニ於テ、共ニ此償金ヲモ命ス「但シ又時宜ニ由テ、罪犯ノ處決ト、償金ノ處決トヲ區分シテ、償金ハ、尋常ノ訴訟法官ヨリ命スルヿアリ「

刑法ノ本意ハ「刑罰ヲ罪人ニ蒙ラシムルニ在リ、凡ソ國家ノ害ヲ釀成スル罪人アルニ方リテハ、國家其正義公直ノ旨ニ由リテ、嚴ニ其罪人ヲ罰シ「以テ其威權ヲ保全シ、且ツ公衆ノ和平安寧ヲ追回セサル可ラス、〇罪科ト刑罰トハ、必ス適當スルヲ要ス、若シ罪刑適當セサル片ハ、決シテ法制ノ尊嚴ヲ示シ、其紊亂ヲ復スル能ハサルナリ、凡ソ罪人ヲ懲戒シテ、正善ニ遷ラシメ、且ツ兼テ預メ他人ノ

同罪ヲ犯スヲ警戒スルハ、即チ刑罰ノ目的ナリト云フ可シ、去レ𪜈此事ハ乃チ眞ノ眼目トハ云フ可ラス、眞ノ眼目ハ、即チ本人ノ罪科ヲ罰スルニ在リ、是レ蓋シ正義公直ノ旨ニ出ル所以ナリ、(一)

(一)スタール獨乙人、一千八百零二年ニ生レ、六十一年ニ死ス、カ著セルスターツレーレ〔按〕書名、即國家學ノ書ナリ、ニ云ク、「暴惡ノ所行〔國家ニ於テハ即チ罪犯ナリ〕ヲ爲セル者、必ス刑罰ヲ蒙ルハ、即チ正義公直ノ旨ニ出ル所ノ千古不朽ノ法ナリ、故ニ人ノ眞知自由ノ力ヲ失フコナケレハ、皆此理ヲ知ラサルナシ、去レ𪜈罪犯人ニ刑罰ヲ加ヘテ、其苦ミヲ喫セシムル片ハ、則チ此罪犯ニ由テ、嘗テ妨害ヲ受ケタル國家ノ法制秩序、舊ニ復シテ、其安全ヲ得ルニ至ルハ、何ニ由テ然ルヤ、其理ヲ解スルニ至リテハ、決シテ易事ニアラス〇〔按〕以下即チ上文ノ理ヲ解スルナリ、凡ソ罪人ヲ刑罰ニ處スル片ハ、罪人自ッ其刑罰ノ道義ノ理ニ出ル所以ヲ識得ス可シ、是ヲ以テ罪人ヲ刑スル片ハ、道義ノ理、益〻灼然タルニ至ル可シ、是故ニ國家ノ刑罰ハ、決シテ報怨ノ旨ニ出ルニアラス、凡ソ報怨ノ旨意ハ、罪人ヲシテ苦痛ヲ喫セシムルニ在リト雖モ、國家ハ決シテ、罪人ヲ苦シメンカ爲メニ、刑ヲ加フルニ非ス、唯其刑ヲ加ヘンカ爲メニ、苦痛セシムルナリ、報怨ノ爲メニ苦痛ヲ與フルハ、其緩劇輕重、只報怨スル者ノ隨意ニアリテ、絕ヘテ一定ノ限界アルナシ、然ルニ刑罰ハ全ク之ニ反シ、必ス其罪犯ニ應シテ、大小輕重ノ差ヒアリ、」〔按〕以上スタールノ論ナリ、〇法制ハ人ノ善ト惡トヲ問ハス、總テ只其存在ヲ保護ス、故ニ國家ハ決シテ暴惡ノ心ヲ罪セス、唯他人ノ權利ヲ傷害スル暴惡ノ所業ヲ罪スルナリ、〔按〕以上著者ノ論ナリ、

是ニ由テ之ヲ觀レハ、刑罰ナル者ハ、全ク國法ニ屬スル者ナリ、然ルニ古時羅馬及ヒ獨乙ニ於テハ、罪犯人ヲ罰スルスラ、尙ホ私人ニ縱ルセシカ𪜈、今時ハ全ク此私刑ヲ禁シ、刑罰ノ權ハ擧テ國家ニ歸スルニ至レリ、蓋シ近今法理ノ開明進步セシ所以ナリ、其他權利ノ傷害ヲ受ケタル者ノ告訴ニ由テ、始メテ罪犯人ヲ刑スルカ如キモ、亦甚タ刑法ノ理ニ戾ルト云フヘシ、罪犯人ヲ追捕刑罰スルハ最モ國家ノ公事ナリ、故ニ必ス國家自ラ此務メヲ掌ラサル可カラス、〇古時日耳曼ノ法ハ、私ニ仇怨ヲ報シ、及ヒ私ニ爭鬪ヲ生スルヲ許セシカ𪜈、其後佛朗哥(フランケン)王國開明ヲ得ルニ至リテハ、公衆ノ和平ヲ傷ハサランカ爲メニ、必ス私訴（プリハートガラーゲ、〔按〕害ヲ受タル者ヨリ、其旨ヲ法院ニ告訴シテ、罪犯人ヲ罰センコヲ請フヲ云フ、）ヲ爲スヲ通則トナセリ、英國ノ刑法ニハ、今時尙此意ノ存スル所アリ、然ルニ歐洲大地各國ノ如キハ、既ニ數百年前ニ於テ、罪犯者ハ官必ス之ヲ追捕スルノ法立チ、〔按〕スターツアーンワルト、ト稱スル官、此事ヲ掌ルナリ、）爾來漸ク通則トナルニ至レリ、蓋シ此法ノ起ルヤ、其始メハ敎會ノ力ニ由レル者ニシテ、更ニ前法〔按〕私訴ヲ爲スノ法ヲ云フ、）ニ優レル眞法ナリ、而シテ其審理ノ法ハ、或ハ、インクイシチオンス、ヘルハーレン〔按〕法士獨リ審理ヲ司ルノ法ナリ、）ヲ用ヒ、或ハアーンカラーゲヘルハーレン〔按〕スターツアーンワルト、亦審理ノ事ニ加ハルノ法ナリ、）ヲ用フ、〇但シ又時アリテ、自ラ法外ノ處分ヲモ許サヽル可ラス、例ヘハ、傷婚（エーブルッフ、〔按〕夫アル婦、或ハ婦アル夫、他ニ犯姦ノ所業ヲ爲スヲ云フ、）ノ事アルニ方リテハ、夫婦ノ倫ヲ重スルヨリ、法外ノ處分ヲ許シ〔按〕例ヘハ、夫其婦ノ姦通ヲ見ル片ハ、私ヲ以テ姦夫姦婦ヲ殺傷スル𪜈、殺人ノ罪ヲ以テ之ヲ刑セサルナリ、或ハ他人ノ體面ヲ毀損スル等ノ所行ハ、國家ニ取リテハ、甚タ小事ト雖モ、毀損セラレシ當人ノ身上ニ在リテハ、頗ル大事ナルヲ以テ、復タ法外ノ處分ヲ許シ〔按〕例ヘハ人吾レヲ拳毆スル片ハ、則吾レ亦其人ヲ拳毆スル𪜈決シテ罪タラス、其他スターツアーンワルト若シ政令上ノ利害ヲ視察シテ、故ラニ其告訴ノ特權ヲ施行セサル時ノ如キ〔按〕スターツアーンワルトハ、罪犯人ヲ追捕告訴スルノ特權ヲ有スル官ナリ、然ルニ若シ一罪人アルニ方リ、之ヲ追捕告訴スル片ハ、恐クハ政令上ニ害アルヲ思ヒ、其追捕告訴ヲ爲サヽルヲ云フナリ、）亦法外ノ處分ヲ許ス〔按〕害ヲ受ケタル者、私ニ罪犯人ヲ罰スルヲ許スナリ、

私法事務ト刑法事務トハ、「自ラ相離レタルヿナルヲ以テ、之ヲ司ル所ノ官吏モ亦、相區分セル國多シ、實ニ此二個ノ事務ハ、全ク相殊ナルヲ以テ、之ヲ司ル所ノ官吏亦、別個ノ才識ヲ備ヘサル可ラス、例ヘハ訴訟法士（按）即私法事務ノ官ナリ、」タル者ハ「私人互相ノ交際ニ於テ、甚タ錯雜紛亂セル事モ「機敏ノ才ヲ以テ、容易ニ辨解シ、至當ニ處決スルヲ得ルノ天禀ヲ具ヘサル可カラス、然ルニ刑法士タル者ハ、罪犯人ノ心思ヲ洞觀シテ「殊ニ罪犯ノ意ヲ究察シ、及ヒ其罪狀ノ大小輕重ヲ、判別スルノ才識ヲ備ヘサル可ラス、○私法事務ニ於テハ、兩造（パルタイ、（按）原告被告ノ兩對主ヲ云、）ハ、自己ノ事ヲ爲スヲ以テ「憲法許ス所ノ區域內ニ於テ、自由ニ進退スル者ナリ、是故ニ其法士タル者ハ、必ス公平容明ノ心ヲ以テ兩造ノ事ヲ判定セサル可ラス「然ルニ刑法ノ事務ハ、既ニ罪犯人ノ爲メニ傷害セラレタル正義公直ノ旨ヲ保護シテ、之ヲ追回スルヿ「甚タ緊要ナルカ故ニ、法士及ヒ判定者（ウールタイレル、）ハ實ニ強盛ナル精神力ヲ以テ、審理判定セサル可ラス、

第二款　司法ノ通則（ゲマインサーメ、グルントセッツエ、ヒュール、ヂー、レヒップレーゲ）

〔第一〕國憲ニ於テ「法院ヲ政府ヨリ岐分シ以テ別個ノ者トナスハ、近今ノ要則ニシテ「各國大抵此法ヲ用フ、（卷之五第二款、及ヒ卷之六第十款ヲ參看ス可シ、）但シ法院ト政府トヲ以テ「全ク離分シ、絕ヘテ關係ナキ者トスルハ、甚タ不可ナリ、何者、國家元首ナル者ハ「諸權柄ノ由テ發スル所ノ中心ナルヲ以テ、司法權モ亦形貌ニ於テハ、必ス此中心ヨリ發出スレハナリ、故ニ法院ハ「政府ヨリ岐分セル者ト爲ス可シ「決メ全ク離分スル者ト爲ス可ラス「○法院ハ政府ヨリ岐分セシ者ナル故ニ、「實事ニ於テハ「必獨立不羈ニシテ其司法ノ務メニ於テハ、敢テ政府ノ指令ニ從フヲ要セス「㊀凡ッ國家ノ正義公直ヲ保護スルハ、全ク法士ノ要職須務ニシテ、彼ノ利便ヲ謀リ、有用ヲ濟スカ如キハ「決シテ其職掌ニアラス「故ニ法士タル者ハ、已ムヲ得サルノ事情、及ヒ屢〻變易スル衆論等ニ着眼スルヿナク、「現ニ確定セル憲法ヲ其職務ノ規矩トシテ「一向之ヲ遵奉スルニアラサレハ、決シテ能ク其職ヲ盡スト云フ可ラス、凡ッ法士タル者ハ、自己ノ椅前ニ出ル者ヲ、貧富強弱等ニ由テ、愛憎好惡スルヿナク、偏ニ公明正大ノ心ヲ以テ「其曲直邪正ヲ裁判スルヲ要ス「然リ而シテ縱令ヒ政府ノ權ト雖モ、敢テ此裁判ニ容喙スル能ハサルナリ、

㊀葡萄牙ノ國憲第百十八章ニ云「「司法權柄ハ、獨立不羈ナリ、」又其第百二十二章ニ云「「法士ハ、罪犯ニ由テ、判定ヲ受ルニアラサレハ、決シテ其職ヲ失フヿナカル可シ」ト「○普魯士ノ國憲第八十六章ニ云「「法士ハ國君ノ名號ヲ以テ、司法權柄ヲ掌握ス、但シ法士ハ唯憲法ヲ遵奉スルノミ「決シテ他ノ指令ヲ仰ク者ニアラス、」又其八十七章ニ云、「法士ハ國君ノ命ニ由テ、終生間授任セラル、故ニ憲法裁定スル所ノ事故ニ由テ、裁判ヲ受クル時ニアラサレハ、決シテ其職ヲ放タレ、或ハ一時其務メヲ停メラル、ヿナカル可シ、」ト「上ノ理ヨリ生シタル規律、左ノ數條ニ舉ルカ如シ、

〔甲〕何人ニ論ナク、若シ自己ノ權利ヲ「傷害セラレタリト思惟スル卄ニ於テハ、官ニ請願シテ、之ヲ追回シ得ルノ權アリ、國家民人ノ爲メニ、其私權利ヲ保護スルハ、決シテ偏頗アル可ラス「縱令ヒ微賤ノ民、及ヒ外國人ト雖モ「國家必ス亦其權利ヲ保護ス可シ、太古ノ世ニ於テハ、外國人ハ絕ヘテ權利ヲ有セサル者トシテ「國家之レカ保護ヲ爲サヽルノ法ヲ用ヒ、又中古獨乙ニ於テハ「傷和罪フリーデンスブルッツ（按）平和ヲ傷リ、騷亂ヲ醸ス罪ヲ云フ、ヲ犯ス者アル卄ハ、必ス全ク其權利ヲ褫フヲ以テ、刑罰ト爲セシカ㕝「方今ニ至テハ、決シテ此ノ如キヿヲ爲サス「故ニ人ニシテ全ク權利ヲ有セサル者、絕ヘテ之レアラス、○故ニ自己ノ事ヲ了スルニ堪ヘサル者ハ、必ス之ニ代ハリテ「其權利ヲ看護スル者ナカル可ラス、（按）幼童「或ハ狂人痴愚等ハ、自己ノ事ヲ了スルニ堪ヘサル者ナルカ故ニ、父母親戚等之ニ代リテ、其權利ヲ看護ス、故ニ訴訟等ノヿモ亦代者之ヲ司ル「且ッ審理ノ時ニ於テ、訴訟ノ法式煩シク、及ヒ其費用許多ヲ要スル卄ハ「自ラ貧窮人ノ爲メニ、訴訟ノ路ヲ壅閉スルノ患ヒアル

ヲ以テ、官ヨリ貧窮人ニ代リテ〔訴訟ノ事ヲ爲スヘキ者ヲ命シ、務メテ訴訟ノ路ヲ洞開スルヲ佳シト
ス、○但シ又訴訟ノ事ヲ好ム徒、動モスレハ詭譎ノ術ヲ施スノ恐レ少ナカラス、且ツ又一競主(アイテ)儘許多
ノ損失ヲ被ルヿアルヲ以テ〔國家預メ規律ヲ設ケテ〔是等ノ害ヲ防制スベシ、例ヘハ保償ノ制度
(カウチオンス ステルンング、)ノ如キ是ナリ、〔按〕原告人若シ曲ナルトキハ、被告人ノ損失ヲ償ハシメンカ爲メニ、訴訟ノ時ニ於テ、預メ原告人ヨリ金ヲ出サシムルノ制度ナリ、
〔乙〕何人ニ論ナク〔其當然ノ法院ニ於テ、審理ヲ受クルノ權アリ、㊀〔按〕或ハ臨時ニ設置スル法士ノ審理ヲ受ル等ノヿナキヲ云〕
中古日耳曼ニテハ、諸般ノ事ニ於テ、同品位ノ者、互相交關スルヲ貴フノ風アリシカ故ニ〔判定ヲ
受ルノ規律モ、更ニ綿密ニシテ、各人必ス其類伴ノ判定ヲ受クルノ法ヲ立テタリ〔故ニ古時ノ獨乙國
法院(ライヒスゲリヒト、)ニ於テハ(ヒュルスト(〔按〕侯爵ナリ、)ハ、必ス他ノヒュルストノ判定ヲ
受ケ、レーヘン(〔按〕封土ノ如キ者、)ノ事件ニ付テハ、ハーサル(〔按〕封土ヲ受有スル者、)ハ、必ス他
ノハーサルノ判定ヲ受ケ、並ニシェッヘ(〔按〕一種ノ判定者、)ニ隨屬セサル徒ニ至テモ亦、其類伴ノ
判定ヲ受ケタリ〔其他平民ハ、唯其居住スル都市ノ裁判局ニ於テ、判定ヲ受ケ、又侯伯ニ屬セル農民
(ホフヘーリゲル、バウエル、)スラ〔尚通例ハ唯其君家ノ裁判局ニ於テ〔判定ヲ受ケタリキ、○然ル
ニ今時ハ品位ニ由テ、此ノ如キ區別ヲ爲スヿヲ廢止セシカ故ニ、刑法及ヒ私法ニ於テ、萬民ノ權利
〔總テ皆同一トナリ、且ツ皆同一ノ法院ニ於テ〔判定スルヿトナレリ〔凡ソ此ノ如キ變革アリシ
ハ〔全ク萬民皆同一ノ權利ヲ貴重スル者ニシテ、實ニ近今法理ノ大イニ開明セシ所以ナリ、是故ニ
國民ノ品位ヲ論セス、皆同一ノ法院ニ於テ判定スルノ規律ハ〔實ニ常法トシテ、遵守セサル可ラ
ス、但シ今世ハ、唯漫ニ此常法ヲ遵守スルヲ貴テ〔決シテ此常法外ノ規律ノ緊要ナル所以アルヲ知
ラス、凡ソ世間ノ諸事件、諸職業ノ中ニ於テハ、儘尋常一様ノ理ヲ以テ〔論ス可ラサル者アリ、而シ
テ是等ノヿヨリ事ノ生スルヿアルニ至リテ〔其曲直邪正ヲ判定スルハ、亦唯是等ノ事ニ、能練磨セ

ル者ニアラサレハ、決シテ能ハザルナリ、故ニ法院ノ編制ニ就テハ、決シテ此理ヲ忘失ス可ラス、
而シテ近今各國共ニ、能ク此ノ如キ事ニ就テ、判定スル所ノ法院ナカル可ラサル所以ヲ悟リタレ
ハ、必ス宜シク別種ノ法院ヲ設立シテ、此ノ如キ別種ノ事ヲ判定セシム可シ、但シ別種ノ法院ヲ設置
スルカ爲メニ、彼ノ萬民皆同一ノ法院ニ於テ〔判定スルノ常法〔及ヒ萬民皆同一ノ法ヲ以テ〔判定ス
ルノ規律ヲ傷フカ如キ弊害ヲ生ス可ラス、今上文ニ於テ、尋常一様ノ理ヲ以テ論ス可ラサル者ア
リト云ヒシハ〔即チ殊ニ工商諸業ノ關係ヨリ生スル事件等ヲ指スナリ、但シ縱令ヒ是等ノ事件ト雖モ
、決シテ悉皆尋常ノ理ヲ以テ、論ス可ラストハ、爲ス可ラス〕
㊀荷蘭ノ國憲第百五十章ニ云〔何人ニ論ナク、其當然審理ヲ受ヘキ法士ノ審理ヲ受クルヲ〔妨
ケラル、ヿナシ、〕〔按〕一人審理ヲ受クルヿアルニ方リテ〔當然審理スヘキ法士ヲ闕キ、他ノ法士ヲシテ、之ヲ審理セシムルヿナキヲ云、
〔丙〕前章ニ論スルカ如キ理アルカ故ニ〔乃チ非常法院(アウスナームスゲリヒト、〔按〕臨時ニ設置
スル法院ヲ云、)ノ設置ヲ禁スルノ理、茲ニ於テカ生ス、抑非常法院トハ何ソヤ〔即チ預メ司法ノ制
度(コムチッツヘルハッスング、)ニ裁定セスシテ、時ニ臨ミ特ニ設置スル所ノ法院ヲ云フナリ、故ニ
軍隊ノ爲メニ設置スル所ノ尋常ノ軍陣法院、(ゲコーンリヘ、ミリテールゲリヒト、)及ヒミニステ
ル等ノ罪科ヲ裁判スルヲ掌ルヘキ國事法院等ノ如キ者ヲ、指目スルニハアラス〔但シ此等ノ法院モ
亦、唯一種ノ人品ノ爲メニ設ケ、且臨時ニ其用ヲ爲ス者ナルハ、固ヨリ論ナシト雖モ〔必ス預メ法制
ニ於テ確定スル者ナルヲ以テ、其理ハ平常設置スル所ノ法院ト相異ナル所アラサルナリ、○然ル
ニ常立法院ノ外ニ、之ニ代ハル所ノ一種ノ非常法院ヲ設ケ〔以テ常立法院ノ當然掌ルベキ務メヲ
取テ〔此非常法院ニ托スルカ如キハ〔全ク禁止セサル可ラス〕
但シ唯實ニ已ムヲ得サル時ニ於テノミ、此規律ニ戻レル處置ヲ許ス可シ、乃チ已ムヲ得ザル時トハ、
例ヘハ、第一ニハ常立法院大イニ嫌忌ヲ受ケタ、實ニ司法ノ務メヲ盡ス能ハサルニ至レル時、若クハ
常立ノ數法院ニ於テ〔審問セル數事ヲ〔更ニ一法院ニ統合シテ、再ヒ審問スルヿ必要トナル時ヲ云

ヒ、又第二ニハ「國家ニ非常ノ事起リテ、尋常ノ司法ヲ施ス能ハサルニ至リ「加之「嚴猛ノ威ヲ以テ、神速ニ裁判ヲ施スニアラサレハ「決シテ國家全體ノ法制ヲ保護スルニ足ラサル時ヲ云フナリ、〇右第一ノ場合ヒニ於テハ、臨時ニ設置セル非常法院ノ職掌「權利「及ヒ裁判ノ規律共ニ、全ク常立法院ニ同シカル可ク、且ツ非常ト云ヘル稱ハ「唯外貌上ノミニシテ「其實ハ全ク常立法院ニ異ナルコトナク、且ツ非常法院ヲシテ、全ク司法規律ヲ遵守シテ、決シテ嚴猛ノ威力ヲ施サヽラシムルニ足ルヘキ法アルヲ要ス、然ルニ第二ノ場合ヒニ於テハ大ィニ常規律ニ戻レル處置ヲ以テ緊要トナス「凡ソ戰爭、或ハ叛亂アル時ニ於テハ、スタンドレヒト（按）國家危難ノ時ニ於テ用フル「嚴猛ノ裁判法ヲ云フ）ヲ告示シテ之ヲ用フルニアラサレハ、決シテ國家ノ危難ヲ救フニ足ラス、故ニ此ノ如キ時ニ於テハ、故ラニ臨時ニ設置セル軍陣法院、及ヒ其他ノ非常法院ニ「嚴猛ノ威力ヲ附托シテ「平日ハ決シテ罪スルニ抵ラサル所業ト雖モ、其時ニ方テ、妨害トナル可キ者ハ、悉ク之ヲ罪シ、或ハ平常ヨリ更ニ嚴刻ナル刑法ヲ施用セシム可シ、且ツ平常ノ裁判ニ於テハ、大ィニ法士ノ粗漏ヲ防キ「且ツ對手（按）罪犯ヲ告訴セラレタル者ヲ云フ）ヲ保護シテ「之ヲシテ冤罪ヲ受ケサラシメンカ爲メニ設ケタル「數種ノ規律アリト雖モ、此非常法院ニ於テハ、之ヲ廢止シ、而シテ務メテ審問判定ノ迅速ナルヲ要スルモ、決シテ妨ケナシトス「〇但シ此非常法ヲ許スヤ、唯實ニ國家ノ危難アル時「及ヒ其未タ鎮定セサル時ニ限ル可シ、決シテ其他ノ時ニ於テ、之ヲ用フルヲ許サス、且ツ縱令ヒ此ノ如キ時ト雖、是ニ由テ、決シテ國家ノ正義公直ノ本旨ヲ害スルヲ許サス「是故ニ左ニ擧ル所ノ數件ハ、必ス之ヲ確守セサル可ラス、卽チ第一ニハ、將サニ罪セントスル人ヲシテ「敢テ自ラ防護スルヲ得セシムルコト、（按）冤罪ヲ辨解セシムルヲ云フ「第二ニハ「之ヲ判定スルニ判定ノ本意ヲ失ヒ、遂ニ國家ノ意思ヲ述告スルカ如キニ至ラサルコト「卽チ司法ノ規律ヲ確守スルコト（按）判定ハ偏ニ憲法ニ依テ施スヘキ者ニシテ、決シテ國家ノ意思ニ由ル者ニアラス、故ニ此ノ如ク云フナリ、及ヒ第三ニハ、罪ノ疑ハシク、未タ其確證ヲ得サル者ハ、決シテ罪ス可ラサルコト等ナリ「

〔第二〕古時ハ總テ公衆ニ係レル事ヲ公然ニ處分スルコト、今時ニ比スルニ頗ル卓越シタレハ「當時司法ノ務メヲ掌ルコトノ公然ナリシモ「敢テ異シムニ足ラス、既ニ羅馬ノ法士ハ、寬平ナル市街ニ於テ高座ヲ占メ、審理ノ事ヲ掌リ、又獨乙ノ法士ハ菩提樹及ヒ椽樹ノ下ニ露座シテ、獄訟ヲ掌リ、而シテ唯晝間ノミ之ニ從事シタリキ、其他又ピッフンツ國（按）東羅馬帝國ヲ云フ「ノバシリケン（按）法院ノ名稱、モ亦嘗テ其官署ヲ鎖閉スルコトナカリキ「

然ルニ第十五世期「及ヒ第十六世期ノ頃ニ至リ、始メテ法院ノ官署ヲ鎖閉シテ、隱密ニ審理ヲ施スノ風起リ、漸ク各國ニ蔓延セリ、蓋シ此風起ル所ノ因由、數種アリト雖モ、就中第一ニハ敎會ニ於テ、敎旨ヲ信セサル徒ヲ懲戒スル嚴法ニ倣ヒ、査問ノ時ニ方リテ「罪人ノ心思ヲ究鞫スルニ「例ヘハ猛獸ヲ其潛伏セル巖洞ニ索メテ、竊カニ之ヲ捕獲スルカ如キ詐術ヲ用ヒシニ由リ、第二ニハ「羅馬ノ法學ヲ取リショリ「殊ニ私法事務ニ於テハ、專ラ實況ニ著眼スルコトナク、唯書籍上ノ學習ニ勉勵スルヲ、主トスルノ風習ヲ生セシニ由リ、第三ニハ、國民ノ國事ニ關スルノ權、大ィニ衰殘セシニ由リ、第四ニハ、時勢君主專權ノ政「漸ク行ハレシニ由テ、今ノ勢ニ至レリ、

然ルニ輓近ニ至リ、各國皆司法ノ公然ヲ復舊スルコトトナレリ、去レト既ニ古時ノ公然法ヲ視テ、其利弊ノアル所ヲ窮メシカ故ニ、只古時ノ如ク、漫ニ公然ヲ要トムルニアラス、必條理ニ由テ之ヲ索メタリ「〇司法ノ務メハ「實ニ公然法ノ光線ヲ得ルニアラサレハ、決シテ生長スル能ハス、（按）比喩ノ言ヲ以テス）且ツ又決シテ公衆ノ信ヲ取ル能ハス、㊀凡ソ人ノ心思、及ヒ冥々不死ノ精神ヲ究追スルカ如キハ、決シテ國家ノ掌ルヘキ所ニアラス、精神動テ外貌ニ發シ、惡所業トナリ、以テ國家ノ法制ヲ傷害スルニ至リテ、始メテ國家ノ當サニ關スヘキ者トナルナリ、是故ニ國家ハ、敢テ精神ノ秘蘊ヲ究追スルノ權ヲ有セス、人ノ精神ニ就テ審判スル者ハ、獨リ天神ノミ、唯精神動イテ外貌ノ所業トナルニ至リ「始メテ國家憲法ノ區域ニ屬スルナリ、

㊀荷蘭ノ國憲第百五十五章ニ云「法院ノ事務ハ、宜シク公然ナル可シ、但シ若シ公然ニナストキハ、之レ

ニ由テ、公衆ノ秩序禮義ヲ害スルノ恐レアル時ニ於テ、已ムヲ得ス、法院ノ館舍ヲ鎖閉スルカ如キハ、必ス憲法ニ從テ、之ヲ定決ス可シ」ト、

但シ公然ト云フヿニ數意アリ、就中兩造及ヒ罪狀ヲ告訴セラレタル者ニ對シ、司法ノ公然ニシテ、敢テ隱秘スルヿナキハ、殊ニ緊須ナルヿナリ、私法事務ニ於テハ、兩造互ヒニ訴訟ノ情由「其答辭ノ旨趣、及ヒ其證左ノ事由等ヲ、十分ニ究追詳悉シ、而シテ又自己ノ所業ニ於テ、過失ナキノ確證アレハ、則チ公然之ヲ法士ニ對シ、演述スルモ自由ナル可ク、幷ニ其事ニ就テ、法院ノ裁判如何、及ヒ之ヲ裁判スル所以ノ原由如何ヲ「聽取スルヲ得ルノ權利ヲ有ス、又刑法事務ニ於テハ罪狀ヲ告訴セラレタル者ト雖モ、尙此權利ヲ有スルヿ當然ナリ「凡ッ是等ノ公然ヲ障碍スル處分ハ、「即チ人ノ正義公直ヲ掩翳スル所ノ陰影ト云フ可シ、○兩造或ハ罪狀ヲ告訴セラレタル者ハ勿論「其他國民一般ニ、司法ノ公平正直ナル所以ヲ信スルニ至ルハ、殊ニ此ノ公然法ノ在ルアルニ由テナリ「〔按〕本文論スル所、即公然ノ第一意ナリ」又唯法院ノ處分ニ由テ、自ラ其利害ヲ受ル徒、即チ一般ノ民人「〔按〕法院儻ニ一兩罰ノ罪科、或ハ訴訟ト雖モ「之ニ就テ正善ノ處分ヲ為ス時ハ、則チ能ク國家ノ正義公直ヲ保護スルカ故ニ是ニ由テ「一般民人「自ラ利ヲ蒙リ、又若シ邪惡ノ處分ヲ為ス時ハ、即チ正義公直ヲ傷害スルカ故ニ、是ニ由テ一般民人、自ラ害ヲ蒙ルノ理ナリ、故ニ法院ノ處分ハ、悉ク一般民人ノ利害ニ關スルナリ、蓋シ和漢人未タ曾テ此理ヲ悟ラス ニ對シ、司法ノ公然ナルハ、則チ第二意ノ公然ト稱ス可クシテ、第一意ノ公然ニ比スレハ「則チ其緊須ナルヿモ亦更ニ少シ「去レ圧此公然アル時ハ、自ラ第一意ノ公然廢墜スルニ至ルヲ防クニ足リ「且ッ公衆ノ眼目、自ラ司法ノ善惡ヲ注視スルニ足ルノ利アルカ故ニ「此公然ノ法亦、決シテ廢ス可ラス、○刑法事務ニ於テハ、此公然ノ法、最モ利アリト云フ可シ、何者、刑法事務ノ當否ハ、殊ニ公衆ノ利害ニ關係アレハナリ「但シ私法事務ニ於テハ、此公然法ノ利タル、刑法事務ニ於ケルヨリモ更ニ少シ「蓋シ訴訟ノ事ハ、通例只兩造ノ利害ニ關係アリテ、公衆ノ利害ニ關係アルヿ少ナケレハナリ、是故ニ私法事務ニ於テ、公然ノ法、若シ兩造ノ利トナラス、却テ害トナル歟、若クハ此法ヲ用フルカ為メニ、却テ禮儀亂ル、ノ恐レアル時ハ、必ス法外ノ處分ヲ為サル可ラス、「〔按〕即チ公然ノ法ヲ用ヒス、人ヲシテ聽聞スルヲ得サラシムルナリ」加之、刑法事務ニ於テスラ、尙公衆ノ聽聞ヲ許スノ法ヲ以テ「決シテ動カス可ラサル嚴法トハ為ス可ラス、唯容易ニ此法ヲ動カシテ、敢テ公衆ノ聽聞ヲ禁セサルノミ、○公然ノ法ヲ用フルカ為メニ、時アリテハ「罪過ヲ告訴セラレタル者ノ黨與、或ハ妄リニ其罪過有無ノ證左ヲ論シテ、之ヲ抗辨スルニ至ルカ如キ弊害アリ、此事大イニ正義公直ノ旨ヲ傷害シ、判定官ヲ輕蔑シ、及ヒ刑法ノ威權ヲ侮慢スルノ所行ト云フ可シ、去レ圧此弊害ハ、決シテ司法ノ公然法アルヨリシテ、生スルニアラス、法士ノ膽力脆弱ニシテ、且ッ自ラ其職掌權利ノ尊重ナル所以ヲ悟ラサルカ為メニ遂ニ此輕侮ヲ來タスナリ」然ルニ儻又司法ノ商議（ゲリヒツペラーツング）ニ至リテ、毫モ隱秘セサルノ法ヲ立テシ國アレ圧「此法却テ宜シキヲ得ル者ト云フニ足ラス、總テ司法ノ處分〔按〕即チ査問判定ノヿヲ云フ」ナル者ハ、必ス公然明白ナルヲ要スト雖圧、未タ此處分ニ及ハサル以前「施ス處ノ商議ニ至リテハ、決シテ然ラス「凡ソ人ハ悠閑ニ事ヲ商量スル時ハ、其思考モ自在ナルヲ以テ「自ラ亦明案ヲ得易ク、且ッ自己ノ論ヲ未タ公然ト、大衆ニ告諭セサル間ハ、自己ノ謬見ヲ棄テ、、他人ノ卓見ニ從フヿモ、自ラ為シ易キノ理ナリ、

〔第三〕司法公然ノ理ト、密ニ吻合スル者ハ、即チ口述（ミユンドリヒカイト）〔按〕法院ト、兩造若クハ罪狀ヲ告訴セラレタル者トノ間、應對問答等總テ口述ヲ以テスルヲ云、ノ法ナリ「凡口述ノ甚タ良法ナル所以ハ、此法ヲ用フル時ハ、則法院ト兩造若クハ罪狀ヲ告訴セラレタル者トノ間、親近ニシテ、互相ノ情實、如意貫徹スルニ在リ、且ッ之ニ由テ、其情由ヲ穿鑿スルヿモ、自ラ易ク、判定ノ公正ナル所以モ、自ラ一般ノ依信ヲ興スニ足リ、及ヒ司法ノ務メ、益〻民人ノ性情ニ適スルニ至ル可シ、然ルニ口述ノ法ヲ用ヒスシテ、筆述（シリヒト）〔按〕法院ト兩造若クハ罪狀ヲ告訴セラレタル者トノ間、應酬問答、都テ口述スルヿナク唯文書ヲ以テスル、ノ法ナリ、法院ト兩造若クハ罪狀ヲ訴ヘラレタル者ト「直ニ相接セサルカ故ニ「其情實「多クハ文墨ノ間ニ隱晦シテ、殆ト相通セサルニ至ル、是

ニ於テ、兩造若クハ罪狀ヲ告訴セラレタル者、暗ニ想フ、法士實ニ我カ告述セル意ヲ能ク了解シタルヤ、恥ヲ知ラサル狡猾ノ徒、其間ニ在リ、夫カ為メニ法士或ハ欺罔セラル、ヿナキヤ、或ハ實ニ其職掌ヲ盡スヤ否ト〔是ニ於テ、大イニ疑團ヲ生スルヿアリ、法士屢〻公衆ノ信ヲ失フヿアルハ、蓋シ是等ニ由テナリ、〇其他法士動モスレハ、其文書ニ法科ノ言辭ヲ用ヒテ、巧ミニ鄙文辨論シ、以テ其學識ヲ誇ルヿアルカ故ニ、兩造若クハ罪狀ヲ告訴セラレタル者ハ、却テ其事理ヲ了解スル能ハサルノ弊害アリ〔是ニ於テ、法ニ關スルヿヲ會得シテ、能ク之ヲ遵奉スル者ハ、獨リ博識ノ學士ノミナルニ至レリ〔但シ審理ノ歸結、(〔按〕即チ判定ヲ云、)及ヒ費用簿(〔按〕審理ノ為メニ要セル費用ノ簿冊ヲ云フ歟〔)ノ如キハ、記スルニ平常ノ言辭ヲ以テスルカ故ニ〔兩造及ヒ罪狀ヲ告訴セラレタル者モ、通例解シ得可シト雖モ〔其他總テ審理ノ事、及ヒ判定ノ由テ出ル所以ノ理ノ如キニ至リテハ、縱令ヒ詳細ノ文書ヲ與ヘテ、看讀セシムルモ、此輩決シテ辨解スル能ハス、譬ヘハ唯審理ノ歸結、及ヒ費用ノヿノミ、兩造及ヒ罪狀ヲ告訴セラレタル者ノ宜シク知ルヘキ者ニシテ、其他總テ審理ノヿ、及ヒ判定ノ由テ出ル所以ノ理ニ至リテハ、絕ヘテ兩造等ニ關係ナク、空シクアンワルト、(〔按〕兩造等ニ代リテ辨論スル者ヲ云、)及ヒ法士ノ學習上ニ係レルヿノ如シ、勢ヒ此ノ如クナル時ニ至リテハ、總テ法制ニ屬セルヿハ、全ク學者ノ關スル法ニルテ、一般民人ノ為メニハ、無用ノ者タルカ如ク然リ、〇熟〻今古ヲ歷覽スルニ、方今文明開化進ミシ以來、法學ノ術タル〔古時ノ簡易ナル如キ能ハサルカ故ニ〔民人一般之ニ通曉スルヲ得サルヨリ〔自ラ上文ノ如キ形勢ニ至レリ、抑〻方今ノ勢ハ、先ツ積年ノ學習練磨ヲ經ルニ非サレハ、決シテ法學ニ通曉スル能ハス、又實ニ法學ニ通曉セル法士ニ非サレハ、決シテ法學ヲ實地ニ用フル能ハス、故ニ未タ曾テ法學ニ從事セサル者ハ〔絕テ法ヲ論スル能ハサルハ、固ヨリ當サニ然ル可シ、然リト雖モ、斯ク法學ヲ練磨セシ法士タル者ハ〔能ク不學無智ノ徒ニ論シテ〔審理ノ次第、及ヒ判定ノ理等ヲ、詳ニ了解セシムルノ方法ヲ用フルヿ、最モ緊要ナリ、而シテ此方法ヲ撰ハント欲セハ、口述ヲ以テ審理スルノ法ヲ用フルニ如クナシ〔蓋シ口述ノ法ハ、法士ト兩造等トノ際〔相近ウシテ、其情實意ノ如ク貫徹スレハナリ、是故ニ口述ノ法ハ、實ニ審理

ノ良法ト云フ可クシテ、諸種ノ法院ニ通シテ、適應スル所ノ要則ナリ〔去レトモ全ク之ニ偏倚スルハ、甚タ可ナラス、何者、時アリテハ〔筆述ノ法、却テ口述ノ失ヲ補フノ利アレハナリ、凡ソ筆記セルヿハ口述ニ比スレハ、更ニ確實ナルカ故ニ、口述ヲ以テスル時ハ、或ハ粗漏ニ聽過シ、又ハ容易ニ忘失スルヿアルモ、若シ筆記ヲ以テスル時ハ、之ヲ讀ムヿ自ラ丁寧ナルカ故ニ、其事理ヲ確切ニ了悟シ得ヘク、又辨論者モ口述ヲ以テスレハ、其辭氣ノ間、或ハ粗言謬語等アルヲ免レスト雖モ、筆記ヲ以スル時ハ、必ス熟慮シテ敷陳スルカ故ニ、其事理自ラ確切著實トナルノ益アリ、〇方今人世諸般ノ事〔頗ル精密ニ涉レル世ニ在リテハ〔筆述書記ノヿハ、辨駁論說ニ於テ〔實ニ緊要ナル者ナレハ、若シ司法ニ於テ、全ク之ヲ廢セント欲セハ、其害殆ト少ナカラサル可シ、其故ニ時アリ〔筆述ノ法緊要ナル時ニ於テハ、常法外ノ處置ヲ以テ、之ヲ併用セサル可ラス、例ヘハ訴訟及ヒ治罪ノ事ニ於テ〔若シ爭論ノ決シ難キニ遇ヒ、互ヒニ綿密ニ辨論スルヲ要スル時ノ如シ、

〔第四〕又法院判定ヲナスニ方リ、其判定セシ所以ノ理趣ヲモ、兼テ告示スルノ法ハ、近今各國ノ國憲上定ムル所ニシテ、實ニ近今法理頗ル開明セル世ニ適應スル者ト云フ可シ、蓋シ此法ノ利タルヤ、法院ヲシテ、正義公直ノ旨ヲ務ムル所以ヲ、自己ニ對シ、並ニ兩造等ニ對シ、及ヒ一般國民ニ對シテ、明カニ保證セシムルニ足リ、併セテ專恣妄行ヲ為サヽラシムルニ足ルナリ、

第三款　私法事務ノ編制、（オルガニサチオン、デル、チヒールプレーゲ、）〔按〕又訴訟事務ト譯ス、即チ聽訟事務ヲ云フ、

〔第一〕所謂和約ノ司法（フライヰルリゲ、ゲリヒツバールカイト、）〔按〕私人互相ノ合約ヲ保證スル事務ヲ云、ト〔爭訟ノ司法（ストライチゲゲリヒツバールカイト、）〔按〕私人互相ノ爭訟ニ就テ、法院ノ判定スル事務ヲ云、トヲ以テ、方今既ニ全ク離分セル國アリ、或ハ仍全ク相合セル國アリテ、其制一樣ナラス〔凡ソ司法ノ本務ハ〔決シテ私人互相ノ法ヲ制シテ、其權利ヲ定ムル為メニアラス、唯毀損セラレタル權利ヲ追回復舊スルニ在リ〔是故ニ私人相合約シテ互相ノ權利ヲ設定スルカ如キハ〔全ク兩個私人ノ權ニ在リテ〔決シテ法院ノ當然關スヘキ所ニアラス、元來法院ノ事務

ニ屬セサルヿハ、決シテ法院ニ委托セサルヲ良善トス〇但シ例ヘハ土地田園ノ賣買典當(シチイレ)等ニ係レル合約ニ於テ、公ケノ監守、及ヒ保護ヲ要スル歟、若クハ兌換(カワセ)、或ハ約定書類ニ於テ、公ケノ保證ヲ要スルカ如キ、總テ唯外貌上ニ於テ、法院ノ相關スルヿ緊要タル時ハ、法士ヲシテ是等保證ノ事ヲ掌ラシムルヨリハ、寧ロ別ニ是等ノヿヲ專掌スヘキ者ヲ任スルヿ、更ニ良好利便ナリトス、而シテ此職務ヲ托シタル者ハ、決シテ職權ヲ與ヘテ、眞ノ官吏ト爲ス可ラス、唯私人ノ交際上ニ於テ、保證ノヿヲ掌ル者ト爲スヲ要ス、彼ノノタール、及ヒメクレルノ職ノ如キ、即チ是ナリ、但良善ナル法制ノ安全ナランヿヲ欲スルカ爲メニ、是等ノ徒、實ニ能ク其職ヲ盡スヤ否ヲ監視スルハ、全ク法院ノ職掌ニ屬スト雖モ、此事ハ甚タ罕レニアルノミ、〇然ルニ私人互相ノ權利、實ニ其當ヲ得タリヤ否ヲ考察シ、而シテ若シ當ヲ得サルヿアレハ是ニ由テ遂ニ現立ノ法制ニ障害アルヲ以テ、預メ防備シ、及ヒ他日ノ爭端ヲ未萠ニ消スル等ノ事、緊要ナルカ爲メニ、法院アル者、私人互相ノ和約ニ關スル時ニ於テハ、其事務ノ情狀、殆ト爭訟ノ事務ニ相近シ、是ヲ以テ此ノ如キ事務ハ、必ス法院ノ兼掌スル所ト爲スヘシ、蓋シ此ノ如キ事務ハ、全ク權利ヲ確定スルカ爲メニ施ス者ナレハナリ、例ヘハライブツフトノ合約、(按)寡婦其夫ノ所有ノ幾分ヲ得テ、終生間受有スルノ合約、及ヒヒデーコムコスノ定立(按)私人ノ所有物中ニ就テ、子孫相傳シテ、他ニ賣買授與ス可ラサル部分ヲ定立スルヲ云、等ニ就テ、其可否ヲ考察シ、及ヒ許可スルヲ云フナリ、

[第二]私法事務ハ、爭訟ヲ生シタル兩造(按)原告被告ノ二人ヲ云)ノ請願ニ由テ、全ク兩造ノ爲メニ施ス者ナルヲ以テ、私判ノ法(シーヅゲリヒト、(按)法院ニ告訴セス、兩造互ヒニ相識シテ、共ニ一人ヲ撰ヒ、以テ其判定ヲ托スルヲ云)ヲ用ユルモ、固ヨリ當然ニシテ、決シテ妨ケナシトス、國家ナル者ハ、私人ノ際ニ生セル爭論ノ判定ヲ願欲スルノ理ハ絕ヘテアル可ラス、若シ兩造ノ際ニ生シタル爭論、國家ノ判定ヲ俟タスシテ、私ニ止息スルヿアレハ、却テ國家ノ爲メ、利トスル所ナリ、是故ニ法院タル者、私判者、(シーヅリヒテル)ノ判定ヲ妬忌シテ、自ラ此事務ヲ執ラント欲スルノ理モ、亦決シテアル可ラス、加之、法院ハ、私判者ノ判定ヲ幇助スルヲ良好トス、

但シ私判ノ法ニ於テ、曲トナレル者、若シ其判定ニ服セサルヿアルトキハ、官吏ナラサル私判者ハ、強ヒテ曲者ヲシテ、其判定ニ服セシムルノ權ナシ、是故ニ此ノ如キ時ニ於テハ、直ヲ得タル者ハ、必ス常法院ニ、其保護ヲ請願セサル可ラス、何者、眞ニ司法ノ權ヲ有スル者ハ、獨リ常法院ノミナレハナリ、〇但シ縱令ヒ勢ヒ此ノ如クナルトキト雖モ、私判ヲ以テ、全ク無益ト爲ス可ラス、凡ソ兩造ナル者、判定ノ權ヲ以テ、實ニ此私判者ニ委托セシトキニ、私判ノ法宜シキヲ得、其判定ノ體裁明白ニシテ、且ツ其事理決シテ一般ノ信ヲ失フヿナケレハ、常法院ハ、必ス此判者ヲ保護シテ、其判定ヲ遂ケシム可シ、決シテ從前ノ處分ヲ全廢シテ、更ニ改判セシム可ラス、

[第三]私判ヲ許スノ制度ト相類スル者ハ、即チ解勸法(フリーデンスゲリヒト、)ヲ施スノ制度ナリ、解勸法トハ、通例未タ審理ヲ施サヽルニ方リテ、先ツ兩造ノ中間ニ入リテ、其解勸ヲ施スヲ云フナリ、其制度宜シキヲ得ルトキハ、民人ノ爲メニ頗ル仁善ノ功アリ、彼ノ「瘦瘁(ヤセタル)セル解勸(マーゲレル、ヘルゲライセ、)ハ、肥大(コエタル)ナル審理(ヘッテル、プロッツェス、)ニ優レリ」ト云ヘル諺ハ、眞ニ確言ト云フ可シ、凡ソ何人ニ論ナク、其當然ノ權利ハ、縱令ヒ些少ノ部分タリトモ、失墜シテ可ナルノ理ナキハ、固ヨリ辨ヲ俟タス、去レトモ國家タル者、臣民互相ノ爭論ニ就テ、力ノ及フ限リハ、解勸シテ互ヒニ和熟セシメンヿヲ務ムルノ權ヲ握ルモ、亦決メ不可トス可ラス、但シ若シ之ニ由テ或ハ臣民ノ權利ヲ害スルカ如キヿアルハ、甚タ不可ナレハ、宜シク謹テ處置セサル可ラス、〇若シ解勸ニ由テ、幸ニ和熟整フヿアルトキハ、其功績或ハ廣博ナル學識ヲ以テ施セル審理ノ功績ト、全ク相合セサルヿナキニシモアラサレトモ、去レトモ決シテ臣民ノ權利ヲ害スル不條理ノ處分トナルノ恐レアラス、其他兩造若シ眞ノ審理ヲ受ルトキハ、各ト苦慮ヲ生スル少ナカラス、動モスレハ、互ヒニ不快ノ情ヲ含ムニ至リ、且ツ兩造ノ費用ヲ要スル、亦許多ナルニ至ル等ノ弊害ナキ能ハスト雖モ、解勸法ニ於テハ、是等ノ患ヒ自ラ生セス、且ツ兩造相和熟シテ互相ノ權利ヲ回復スルニ至リ、及ヒ法院ノ費用モ、亦甚タ許多ヲ要セサル等ノ利アリ、

若シ解勸ノ處置ヲ以テ常法院ニ委ヌル片ハ、其審理法ニ由テ「兩造相爭フ所以ノ原由、及ヒ其爭論ノ情實ヲ詳ニスルヲ得ルノ利少ナカラス去レ圧此利ハ、決シテ此制度(「按」解勸ノ處置ヲ以テ「常法院ニ委ヌルノ制度ヲ云フ」)ニ固有セル害ニ勝ツ能ハス何者、別ニ專ラ解勸ヲ掌ルヘキ法士ヲ置テ、其事ニ從ハシムル片ハ「前條ニ論シタルカ如キ、數弊害生スルコナシト雖モ、若シ此制度ヲ用フル片ハ「數弊害過半生ス可ケレハナリ、○若シ法院審理ヲ以テ、解勸ノ處分ヲ施ス片ハ、勢自ラ兩造和熟シ難キニ至リ、加之、其審理ノ時間ニ於テ互相ノ忿滋愈々積重シ、且ツ費用愈々增加スルニ隨テ、互ヒニ和熟スルノ心愈々減シ、却テ愈々相爭ハントスルノ情ヲ增スニ至ル、但シ時アリテ審理ノ時日甚タ久シキ片ハ、兩造相抗スルノ氣力倦怠疲老シテ、遂ニ其爭論ヲ止ムルニ至ルコアリ、是レ即チ互相ノ倦怠ニ由テ「其論ヲ止ムル者ニシテ、決シテ之ヲ以テ眞ノ和熟ト爲ス可ラス、○法士ノ本務ハ、決シテ解勸ノ處置ヲ施スニアラス「唯法ノ當否ニ由テ、之ヲ判定スルニ在リ、是故ニ法士若シ務メテ解勸ヲ施サント欲スル片ハ、兩造遂ニ法院ノ實ニ正義公直ノ旨ヲ守ルヤ否ヲ疑フニ至ルハ必然ナリ、是ヲ以テ別ニ解勸法士(フリーデンスリヒテル)ナル者ヲ設置シテ、專ラ解勸ニ從事セシム、而シテ此法士ハ「兩造ノ中ニ立テ、法ニ由テ判定スルコナク「唯專ラ兩造ヲ解勸スルヲ掌ルノミ、凡ソ此法士ハ、「初メ佛國ニ於テ設置シ、其後殊ニ瑞士並ニ獨乙聯國及ヒ葡萄牙ニ於テモ、亦皆此官ヲ設置セリ、去レ圧猶其制度ヲ改革スルコ緊要ナリ「凡ソ今時ノ制ノ如ク、法院ノ下等ニ列シテ「俸祿ヲ受クル官吏ニ、此職掌ヲ與フル片ハ「未タ全ク其務メヲ盡スニ足ラス、是故ニ民間ニ在リテ「能ク人情世態ニ老練スル者「若クハ門閥卓越スルカ爲メニ大イニ一般ノ尊崇信仰ヲ受ケ、而シテ自ラ眞ノ官吏タルヲ欲セス、唯好テ解勸等ノコヲ自任スル徒ニ、此職掌ヲ托スレハ、其功績頗ル大イナル可シ、○方今ノ貴族ト雖モ若シ解勸法士ノ職ヲ托シ「其意見ニ從テ、自由ニ其事ニ從ハシムレハ大イニ民情ニ適應スル處分ヲ爲スニ足ル可シ、」

[第四]私法法士([按]又訴訟法士ト譯ス)ノ編制ハ「各國各世皆相異ナリ「亞細亞各國ノ如キ、君主擅制ノ國デス

ポ・サセル、スタート「ニ於テハ、皆專任法士ノ制アインツェルリヒテル(「按」專ラ一人ノ法士ニ全權ヲ委ヌルヲ云フ)ヲ用フ、而シテ此法士ハ、君主ニ代ハリテ、司法ノ全權ヲ掌握スル者ナリ、凡ソ此制ハ、一人ノ法士全權ヲ掌握スルカ故ニ、能ク神速ニ諸般ノ爭訟ヲ判決スルノ利アリ、去レ圧其權甚タ强大ニ至リ易キカ故ニ、動モスレハ、司法ノ本意ニ戻リ、私意ヲ挿ミ、遂ニ正義公直ノ旨ヲ害スルニ至ルノ恐レ少ナカラス、是ヲ以テ自由ノ權ヲ貴重スル歐羅巴各國ニ於テハ、多クハ此制ヲ廢止セリ「但シ儘之ヲ用フル國アレ圧「甚タ罕レニ用フルヲ許シ、且ツ大イニ其權ヲ限制スルノ規律ヲ立テタリ「

歐羅巴大地各國ニ於テハ「第十五世期以來「專ラ合議法士ノ制(リヒテルコルレギー)行ハレ、數員ノ法士、相共ニ法ヲ施用シ「倂セテ判定ヲ掌ルコトナレリ、但シ其人員ノ多少ハ、各國古今ノ沿革、及ヒ方今ノ情實ニ由テ「相同シカラス、而シテ其授任ニ至リテハ、君主國ニ於テハ、國家元首之ヲ選任シ、民主國ニ於テハ「同僚モ亦之ヲ撰擧ス(「按」民主國ト雖圧「統領等ノ撰任ニ出ル者多シ」)○或ハ獨リ法學者ノミヲ擧テ、法士ト爲ス國アリ、或ハ法學者ノ外ニ、猶未タ嘗テ法學ヲ研究セサル貴族、都人「及ヒ農民ヲモ共ニ「法士ニ撰任スル國アリ、而シテ是等ノ諸法士モ亦、通例與ノ法官ニ列ス、

此合議法士ノ制ヲ以テ「專任法士ノ制ト比較スル片ハ、合議法士ノ制、遠ク專任法士ノ制ニ優ルヲ知ル可シ、何者、合議法士ノ制ヲ用ル片ハ、各員互ヒニ其處分ノ善惡ノ否ヲ監視シ「且ツ互ヒニ自己ノ所見ヲ述告シテ、相補助スルカ故ニ「自ラ其處分ニ私意ヲ挿ムカ如キ患ヒナク、皆偏ニ法ヲ遵守スルニ至リ「是故ニ兩造モ亦全ク其處分ヲ信シテ、決シテ疑ハサルノ大利アレハナリ、其他各員法學ノ研究、幷ニ日常相共ニスル所ノ奉務ニ由テ、互ヒニ相匡翼佐佑セント欲スルノ情、益々深厚ナルハ、敢テ疑フ可ラサル所ナリ、○近今歐羅巴各國ノ法士ハ、皆自ラ法官タル職掌ノ甚タ尊貴ナルヲ知ルカ故ニ「敬テ自重スルノ心アラサルハナシ、是ヲ以テ皆能ク正善ノ道ヲ守リテ、敢テ之ニ

背カント欲スル者殆ト希レナリ、蓋シ此自重ノ心ハ〔從來ノ遺物ナリ、宜シク心ヲ用ヒテ〔永ク之ヲ保全ス可シ、

合議法士ヲ置クノ制ト、專任法士ヲ置クノ制ト〔其優劣此ノ如シト雖モ、合議法士ノ制ニモ亦數弊害ノ加ハルヲ免レス〔故ニ大ニ此制ヲ改革スルニアラサレハ、其弊殆ト除去ス可ラス、凡ソ司法ニ於テ判定ト、眞ノ司法（〔按〕法ノ施用ナリ、）トハ〔素ト相殊ナル職掌ナレハ、宜シク各殊ノ人品アリテ、各個ニ從事ス可キカ如クナルニ、方今ハ此理ニ由ラス、異殊ノ二職掌ヲ把テ、同一ノ人品ニ委托ス、元來眞ノ司法ハ、實ニ國家制馭權ノ一ナルヲ以テ必ス官吏ノ掌ルヿ當然ナリト雖モ〔判定ノヿニ至テハ、決シテ國家ノ權柄ニ屬スル者ニアラサレハ、私人ニ委托スルモ妨ケナシ、然ルヲ尚ホ二個ノ職掌共ニ、必ス一個ノ官司ニ委ヌルカ故ニ、司法者（〔按〕茲ニ司法ト云フハ、右二個ノ職ヲ合指スルナリ、）タル者ハ、必ス皆官吏ノ列ニアラサルハナシ、○若シ唯法學者ノミヲ以テ、此二個ノ職掌ヲ兼攝セル合議法士ヲ設クルトキハ〔法士タル者動モスレハ、唯學問上ノ理ニ泥ミ〔以テ法ヲ論スルカ故ニ〔民人容易ニ之ヲ了解スル能ハス、且法學者流ハ、日々變遷スル所ノ情態世故ノ景況中ニ〔法ノ淵源トナルヘキ質境アルヲ悟リ得サル者多キヲ以テ、其處分、全ク實際ノ景況ト合スル能ハサルノ害アリ、〔按〕法士ハ偏ニ法ヲ遵守シテ〔其職ヲ盡スヘキ者ニシテ、決シテ今日ノ景況ニ應シテ、其職ヲ盡スヘキ者ニアラサルハ、前數卷ニ於テ、屢ゝ論スルカ如シ、去レモ今日ノ景況ヲ洞察スルオ力アラサルトキハ、動モスレハ、大ニ其審理ヲ誤ルノ恐レ少ナカラス〔故ニ本文斯ノ如ク云フ歟、又若シ法士ヲシテ、民人一般ニ辨識シ易キ處分ヲ為サシメント欲シテ、法學者ト、及ヒ未タ曾テ法學ヲ知ラサル者トヲ混合シテ〔合議法士ヲ設クルトキハ、徒ラニ有名無實ニ陷リ、絕ヘテ其功績ヲ見ス、加之、不學ノ法士ハ、自己ノ技能遠ク法學ニ熟達セル法士ニ及ハサルヲ愧ツルカ故、徒ラニ之ヲ摸擬スルノミナラス〔務メテ體裁上ニ於テ〔其右ニ出ンヿヲ求ムルニ至ルノ弊アリ〔總テ此ノ如ク其任ニ適セサル者ヲ擧テ、法士ト爲ストキハ、啻ニ實法ニ益ナキノミナラス、恐クハ之ヲ害スル少ナカラス〔○且ツ此ノ如ク唯官吏ノミヲ合ノ〔合議法士

ヲ設クルトキハ、遂ニ法士ノ辭却レクサチオン、デル、リヒテル〔按〕兩造ノ一人、若シ吾カ判定ヲ受クル法士ニ疑フ所アルトキハ〔其判定ヲ辭却シテ、更ニ他法士ノ判定ヲ請フヲ辭却コトワルノ法ト云、ヲ爲スヿ〔自ラ行レ難ク〔且ツ大ニ限制セラル、勢ニ陷ルナリ、〔按〕判定者皆官吏ナルトキハ〔其威權自ラ盛強ナルカ故ニ、民人縱令ヒ疑フ所アルモ〔之ヲ辭却スル能ハサルニ至ルヲ云フ歟〔且ツ私法事務ノ要則トスル所ハ、素ト兩造ノ信仰ヲ兼得タル者ニアラサレハ、決シテ判定セシム可ラサルノ規律ナルニ、（羅馬國ニテハ、最モ此規律ヲ貴重シタリ、）法士辭却ノ法行ハレ難キトキハ、此規律モ亦〔自ラ全キヲ得サルニ至ル可シ、○其他合議法士ヲ設クルトキハ、官吏ノ人員甚タ許多ヲ要シ〔司法ノ職掌適度ヲ失シ、法士ノ俸給、其品位ニ應シテ十分ヲ與フルヿ難ク〔及ヒ國家ノ費用ハ〔頗ル巨大トナル等ノ數患アリ〔

〔第五〕前條論スルカ如キ理アルヲ以テ〔古時司法ニ就テ、良好ノ制度ヲ設立スルヿニ練熟セシ國ニ於テハ〔右司法ノ職掌ヲ區分セシ（〔按〕判定ト〔眞ノ司法トヲ區分セシヲ云フ、）外ニ、猶之ニ從事スヘキ人品ヲモ、區分シタリキ〔而シテ仍今時ニ於テモ、稍此區分ヲ存スル國アリ、宜シク注意スヘキ所ナリ、

〔甲〕古時羅馬ニ於テハ、審理ヲ二分シ、而シテ其一ハ法ヲ施用スル務メトシテ〔之ヲ國民ノ撰擇セルマギストラート（〔按〕長官ト云フカ如シ、）ニ委ネ、其二ハ判定スル務メトシテ、之ヲマギストラートヨリ判定ノ任ヲ受ケタル判定者ニ托シタリ、但シ此判定者ハ、私人ニシテ官吏ニ列スル者ニハアラサリキ、○マギストラートハ、唯一人ニシテ〔其威權頗ル強大ナリキ、但シ又此威權ヲ限制シテ〔其專恣ニ至ルヲ防止セシ者數個アリ、即チ道義ノ心、從來ノ教令〔在職年限ノ短小、及ヒ審理ノ區分等是レナリ、又判定者モ通例ハ一人ナリシカモ、盛數員ヲ置キシヿアリ、加之〔センツムヒラールゲリ

ヒト（〔按〕百人餘ノ判定者ヲ備ヘシ法院、）ニ於テハ、頗ル許多ノ判定者ヲ置テ、合議セシメタリ、○マギストラートハ、法問レヒツフラーゲ〔按〕某ノ處分ニハ、何ノ法ヲ施用シテ可ナルヘキヤ、ト云フノ問題ヲ云〕ヲ判決スルノ務メヲ負ヒ、又ユデキス〔按〕即チ判定者ヲ云フ歟〕ハ事問タートフラーゲ〔按〕事ノ虚實頗末等、如何ノ問題ヲ云〕ヲ判決スルノ務メヲ負ヘリト云フ說ハ、甚タ當ラス、ユデキスハ、啻ニ審理ニ由テ、事ノ虚實、及頗末等ヲ探索シテ、之ヲ證スルノ務メヲ負フノミニ止マラス、猶且ツ法問ヲモ判定シテ、其當ルヘキ法ヲ示定スルノ務メヲ負フタリキ、○但シマギストラート、及ヒユデキス等モ、殆ト判定スル能ハサル難件アルニ方リテハ、法學者ノ論ヲ聽テ、處分スルコトアリキ、蓋シマギストラート、ユデキス共ニ、必スシモ法學ニ練熟セル者ニアラサルヲ以テナリ、去レトモ法學者ノ論ヲ聽クトキハ、必ス之ニ由テ、處決セサル可ラスト云フノ制度ハ、絶ヘテアラサリキ、但シ又マギストラートハ、預メ教令ヲ以テ、法ヲ施用スル所以ノ原則ヲ公告シ、而シテ判定者現ニ判定ヲ爲ス毎ニ、必ス之ニ適應セル規律、及ヒ判定者ノ權ヲ限定スルニ足ルヘキ規律ヲ諭示シ、以テ之ヲ遵守セシメタリ、

羅馬ニテハ數百年間、プレトール〔按〕即マギストラートナリ、ノ官止タ一人ニテ、萬般ノ審理ヲ總掌スルニ足リシハ、全ク斯ノ如ク、司法ノ事務ヲ、二分セシニ由テナリ、而シテ方今之ニ類スル者ハ、唯英國司法ノ態勢ノミ、蓋シ此國ニ於テハ上等法士十二人ニシテ、全國ノ審理ヲ掌ルニ足レハナリ、

但シ羅馬ノ法ヲ取テ、之ヲ今時ニ用ヒント欲スルモ、決シテ其益アル可ラス、今時ノ如ク法學開明セル世ニ方テハ、法ヲ施用スル所ノマギストラートトナル者ハ、必自ラ法學ニ熟達セサル可ラス、何者、審理ノ事務ヲ開始スル時ニ於テ、自ラ其規律ヲ示スノミヲ以テ足レリトス可ラス、必ス審理終

決ノ時ニ至ル迄、終始之ヲ總管スルヲ緊要トナス、方今ノ世マギストラート及ヒ判定者等、縦令ヒ法學者ニ依賴シテ、親切ナル補助ヲ假ラント欲スルモ、恐ラクハ、益ナカル可シ、

〔乙〕中古日耳曼ニ於テモ、亦法士ト判定者トヲ分チ、而シテ法士ハ司法ノ長官ニシテ、審理ヲ總管スル者トナシ、判定者ハ、唯私人ニシテ、兩造ノ伴侶タル者ニ過キサルヲ以テ、唯專ラ判定ヲ掌リ、及ヒ法士ノ顧問ニ備ハル者トナセリ、○此國ニ於テモ、法問ヲ判定スルノ務メト、事問ヲ判定スル務メトヲ以テ、區分スルコトナク、必ス此兩個ノ事ヲ、共ニ判定スルノ規律ナリキ、故ニ法問ノ判定モ亦、判定者ノ兼掌スル所ナリキ、○法士ノ威權ニ至テハ、羅馬ノマギストラートニ比スレハ、甚タ微弱ナリキ、法士ハ決シテ司法ノ章程規律ヲ示令スルノ權ナク、唯形貌ニ於テ、審理ヲ總管スルト、及ヒ判定者ヲ顧問ニ用フルノ權アルノミ、而メ法士或ハ判定者ニ顧問スルコトアルトキハ、判定者ハ、自己ノ識得ニ由テ、乃チ法ナリト思惟スル所ヲ、自由ニ演述シタリキ、且ツ判定者ノ各員互ヒニ障碍セラルヽヲ防クカ爲メニ、皆、相離レ、自由ニ判定センコトヲ務メ、儘其職掌ノ區域ヲ踰ヘテ進出シ、而シテ遂ニ法士スラ爲シ能ハサルコトヲモ、縱ニ之ヲ爲シタリキ、○但シ此國ニ於テモ亦羅馬ノ制ノ如ク、國民タル者、判定ノ務メヲ以テ、司法ニ關スルハ、國民當然ノ義務ナリキ、去レトモ殊ニ貴族豪富等、此務メヲ負フコト常ニシテ、羅馬ニテハ、貴族ノミ、此義務ヲ負ヒ、日耳曼ニテハ、兩造ト門地同等ナル者、此務ヲ負フヲ貴ヒ（多クハ平民ヲ擧ケテ、之ニ充テタリ、〔按〕蓋シ平民中ノ豪富ナル者歟）

〔丙〕英國ニ於テハ、訴訟ノ審理ニモ、亦誓士ゲシュナル〔按〕先ツ誓約ヲ爲シテ後、其職ヲ奉ス、故ニ誓士ト云、其職掌ハ下文ニ詳ナリ、ヲ用フルノ法アリテ、必ス官吏ナル法士ト、私人ナル誓旨トヲ區分スルコト、羅馬、日耳曼ニ同シ、而シテ北亜米利加ニ於テモ、復偏ク此誓士ヲ用フ、初メ英國誓士ヲ用フルノ法ヲ立ツルヤ、往古日耳曼ノ司法制度ニ倣ヒシカトモ、英國亦自ラ夙ニ此法ヲ完全セリ、○但シ今時ハ止タ審理ヲ總管スルノ務メノミナラ

ス、其他法ヲ明示シ、及ヒ之ヲ守護スル等、即チ眞ニ法學ニ係レルコトハ、全ク法士ノ特掌スル所ナリ、蓋シ此制タルヤ、知識、學業、及ヒ地位ニ於テ、實ニ司法ノ權ヲ掌握スルニ足ルヘキ者ニ、此權ヲ委托スル者ナレハ、實ニ今時ノ開明、及ヒ正義公直ノ本旨ニ適セル者ナリ、

歐洲大地各國ノ法ニ於テハ、審士ヲ以テ、法士ヨリモ更ニ緊要ノ者トナスコト常ナレトモ、英國ニ於テハ然ラス、此國ノ法士ハ、全ク審理ノ權ヲ總持シテ、常ニ審士ヲ管スルカ故ニ、其權力タルヤ、審士ノ審理ニ關スル權力ヨリモ、更ニ强大ナリ、凡ツ法士ノ員數ハ、甚タ僅々ニシテ、且ツ其職高貴ナルヲ以テ、嘗テアーンワルト（〔按〕兩造ニ代ハリテ辨論スル者、）ノ職ニ在リテ、特ニ訴訟ノ術ニ練熟シ、以テ抜衆ノ名ヲ得タル法學者ノミ、獨リ能ク法士ノ官ニ昇ルヲ得可シ、○審士法院（アッシセン〔按〕審士ヲ用フル法院、）ニハ、法士唯一人アリテ、其務メヲ管ス、（但シ全ク審士ノ補助ヲ假ラサルニハアラス〕去レトモ敗法院ノ法士復兼テ登訴法院アッペルラチオンスゲリヒト〔按〕私人下等ノ判定ニ服セサルキ、更ニ告訴スル所ノ法院ヲ云フ、ノ法士タルカ故ニ、皆相結テ全ク離ルヽコトナク、互ヒニ其練磨スル所ヲ傳ヘ、及ヒ其判定セシ所ヲ示スヲ得、是ヲ以テ英ノ全國ニ於テ、司法ノ規律全ク一致シテ、決シテ相矛盾スルノ患ヒアラサルナリ、○英國ノ憲法ニ於テ、各縣（ガラーフシャフト、）ノ法士ハ、其縣ニ生レ、若クハ其縣ニ住スル者ヲ擧テ、之ニ任セス、必ス他縣ノ人ヲ撰任シ、以テ縣內ノ審士法院ヲ管セシムル法則ナリ、斯クテ法士ナル者ハ、時々縣ノ法院ニ趣イテ、其務メニ從事シ、以テ國家ノ正義公直ノ旨ヲ守護スル者ナルヲ以テ、固ヨリ尊嚴ナル國威ヲ帶ヒ、高博ナル知識ヲ備ヘ、且ツ公正ナル心思ヲ存ス、故ニ審士及ヒ兩造共ニ、能ク法士ヲ尊敬信仰シテ、其指令ヲ遵奉スルナリ、

法院ノ長官ナル法士、全ク法學ニ係レル大權力ヲ握ルコト、既ニ前條ニ論スルカ如シ、去レトモ必ス兩造ト門地品等相同シウシテ、且ツ平常衆人ニ依賴セラル、才識アル者ノ議論ヲ聽カサレハ、決シテ兩造ニ係レルコトヲ判定セサルノ法ヲ立ツルカ爲メニ、審士ナル者ヲ設ケ、而シテ時々之ヲ民間ヨリ交換セシメ、以テ判定ノコトヲ掌ラシム、是故ニ縱令ヒ法士ノ權力甚タ强大ナリト云フトモ、之ニ由リ決シテ

弊害ノ生スルコトナシ、但シ又審士ナル者、或ハ偏頗ノ判定ヲ爲スノ恐レ少ナカラサルカ如シト雖トモ、此審士ハ素ト時々民間ヨリ擧任シテ、交換セシムルノ制アルト、及ヒ兩造ニ審士ノ全員、若クハ其中一二人ヲ辭却スルヲ得セシムルノ法、數種アルカ故ニ、其判定ノ公平ナルハ、却テ定任セル合議法士ノ判定ニ於ケルヨリモ、更ニ確切ナリ、○或ハ又審士ノ力、實ニ爭論ノ情實ヲ詳悉シテ、之ヲ判定スルニ堪ヘサルノ恐レナキニシモアラス、去レトモ審士ナル者ハ、能ク世事ニ練磨シ、且ツ法士其上ニ在リテ之ヲ管シテ、全ク審士ニ任セサルカ故ニ、決シテ此ノ如キ恐レアル可ラス、而シテ若シ別個ノ事ニ付テ、能ク通曉諳練セル者ヲ要スルコトアルトキハ、別ニ特選審士（スペチアールチューリ、）ヲ選擧シテ、之ニ其判定ヲ任ス、○英國ノ法學ハ、從來外貌ノ體裁ニ拘泥スルノ弊アルヲ免レスト雖トモ、其司法事務ニ至リテハ、能ク民情ニ適シテ、下民モ亦能ク其理ヲ解スルヲ得ルハ、蓋シ審士アリテ、此事務ニ關スルニ由ルナリ、然ルニ他各國ニ於テ、近今大イニ外貌ノ體裁ヲ減除セシカトモ、此事決シテ審士ヲ用フルノ制ヲ立テシヨリ起リシニハアラス、○英國人ハ、審士ヲ以テ、大イニ英國司法ノ榮譽ヲ示スニ足ルトナシ、且ツ私人ノ自由、及ヒ私法ヲ保守スルカ爲メニ、實ニ堅牢ナル支柱ト爲ス、而シテ此審士ハ、決シテ法士ノ位ニ列スル者ニアラス、又常ニ其任ニ在ル者ニアラス、必ス時ニ臨ミ擧ケラレテ、其任ヲ受クル者ナリ、故ニ平時ハ唯民間ノ一私人ニシテ、私事ヲ營作スルニ過キサルノミ、又其擧任ニ當ル時ト雖トモ、唯事問ヲ判定スルノ職掌アルノミニシテ、法問ヲ判定スルノ職掌ナシ、蓋シ是等ノ制ハ、中古日耳曼ノ審士制度ト、全ク相異ナル所ナリ、

獨乙ニテハ、今尚審士ヲ用フル制度ノ不可ナル所以ヲ論スル者アリ、其論ニ據レハ、嘗テ羅馬及日耳曼ノ法學ヲ研究セシ者ニアラサレハ、決シテ獨乙ノ私法ヲ了解スル能ハサルカ故ニ、私法事務ニ於テ、民間ヨリ擧任セル審士ヲ用フルハ、不可ナリト云ヘリ、但シ縱令ヒ此論ヲ以テ、實ニ理ニ當レリトスルモ、英國ノ法ノ如ク、事問ヲ判定スルノ務メト、法問ヲ判定スルノ務メトヲ以テ、判シテ兩件

トナシ〔法問ハ決シテ哲士ノ判定ニ任セス、必ス法學ニ熟達セル法士ノ判定ニ任スルノ法ヲ用フレハ、決シテ不可ナルヿナカル可シ、〇且ツ英國、及ヒ北亞米利加ニ於テ、法士タル者、其固有ノ法ノ由テ生シタル淵源ヲ究極シ〔且ツ甚タ錯雜紛亂セル現立法ヲ洞貫詳悉セント欲スルハ〔獨乙ニテ尋常ノ羅馬法、獨乙法、及ヒ獨乙各國ノ法ヲ通知セント欲スルヨリモ、更ニ難事ナル可シ、〔按〕英法ハ專ラ慣用ニ出ル者多キカ故ニ、其事理、故ラニ商議載定セル者ノ如ク〔分明ナラス〔故ニ之ヲ講求スル、亦甚タ難シ、然ルニ獨乙ノ法ハ〔專ラ商議載定セシ者多キカ故ニ、其事理自ラ分明ナリ〔故ニ之ヲ講求スル、亦自ラ易キノ理アリ、然ルニ英、亞ノ哲士判定ヲ爲スニ堪ヘサルカ爲メニ、法士司法ノ務メヲ盡ス能ハサリシヿハ、未タ曾テ聞カサル所ナリ〔

〔丁〕獨乙ノ一二國ニ於テハ、別ニ商法院、ハンデルスゲリヒト〔按〕商法ヲ司ル法院ナリ〔但シ俗言〔商業ヲ指ス商法ト云フ、甚誤レリ〔商法ハ〔商業ニ關スル法ナリ、ヲ設立シ〔法學者一人ヲ以テ、其法院ノ主長トシテ〔審理ヲ總管セシメ、而シテ之ニ商買數員ヲ附屬シテ〔共ニ判定ヲ掌ラシムルノ新法ヲ定制シタリ、〇斯法學ニ熟達シテ、國家ノ官吏トナレル法士一員ト、衆中ニ扱カレテ、民官トナレル商買數員ヲ合シテ、共ニ事ヲ掌ラシムルノ法ハ實ニ法學ヲシテ、能ク實際ニ利アラシメ〔且ツ法ト民情ト、能ク相一致セシムルニ足ルト云フ可シ、後世恐ラクハ他ノ審理事務ニ於テモ、亦此ノ如キ制度ヲ用フルニ至ル可シ〔按〕眞ノ法學士ト〔其事ニ老練セル者トヲ合シテ、判定ヲ任スル制度ヲ云フ〔

〔第六〕羅馬ノ古法、及ヒ獨乙ノ古法共ニ、訴訟審理ニ於テ〔覆治ヲ爲スカ爲メニ、數等ノ法院ヲ置クノ法ハ、曾テアラサリキ、然ルニ近今ニ至リテハ〔高等ノ登訴法院ニ於テ、兩造ノ爭論ヲ數回覆治ス

ルノ法ヲ立テ〔之ヲ以テ法院ノ擅判ヲ防クノ良法ト爲ス、既ニ獨乙ニ於テハ三等ノ法院ヲ設ケ〔覆治ヲ許スノ法ヲ撰定セリ、古時獨乙帝國ニ於テ、帝國法院〔ライヒスゲリヒト〕ナル者アリ、又其各小國ニモ、上下二等ノ法院アリテ、合シテ三等ノ法院相關スルノ法アリシヨリ、今時復タ遂ニ三等ノ法院ヲ設置スルヿトナレリ、而シテ彼ノ審理ニ於テ〔筆述ノ法〔〔按〕前ニ出ツ〕ヲ用フルノ制アルトキハ、縱令ヒ三等ノ法院ヲ置クモ、其弊害自ラ亦顯然タルニ至ラサル可シ、去レトモ縱令ヒ筆述ノ法ヲ用ユト云フモ〔決シテ其弊害ヲ全除スル能ハサル可シ、况シテ口述ノ法ヲ用フルニ於テハ、全ク三等法院ヲ置クノ制ヲ改メサル可ラサル、固ヨリ論ヲ俟タス、〔〔按〕本文筆述ノ法云々〔余未タ其理ヲ解スル能ハス、猶再考スヘシ〕

然ルニ上下二等ノ法院ヲ置クノ制度ハ、三等法院ノ制度ニ優ルヿ遠クシテ、實ニ司法事務ノ正善ヲ保存スル、一良制ト稱ス可シ〔凡ソ初等法院〔按〕下等法院ヲ云、初メ下等ニ於テ判定スルカ故ニ之ヲ初等ト云フナリ、ニ於テ〔未タ熟練セサル徒ノ判定セシヿヲ、高等ノ法院ニ於テ、練熟セル徒、更ニ覆治スルノ制アルトキハ〔其判定ノ當ヲ得タル所以、益明亮タルカ故ニ、止兩造ヲシテ、大ニ司法事務ノ正善ナルヲ信セシムルノ益アルノミナラス〔下等法士モ亦判定ヲ爲スニ臨ミ、大ニ敬思ヲ加ヘ、決シテ專横粗暴ノ處分ヲ爲サヽルノ益アリ、然ルニ若シ此制アラサルトキハ、下等法士モ亦司法ノ全權ヲ握ルカ故ニ、動モスレハ不正ノ事ヲ爲スニ陷ルハ必然ナリ、〇但シ國ノ版圖甚タ廣大ナルトキハ、一個ノ上等法院、焉ンソ能ク萬般ノ登訴ヲ總判スルニ堪ユ可ケンヤ、故ニ此ノ如キ國ニ於テハ、必ス別ニカッサチオンスホフ、或ハオーベルホフ〔按〕共ニ登訴ヲ司ル大法院〔ヲ設置シ〔以テ法ノ一致、及ヒ司法規律ノ一致ヲ保護ス〔〔按〕全國ノ法、及ヒ司法規律ヲ悉皆一致セシメテ〔相矛盾スルヿナカラシムルヲ云フ〔カッサチオンスホフナル者ハ、元來佛國ニ於テ〔創メテ設立セシ者ニシ

テ、他法院ニテ判定セシ所ノ法ニ當ラサル所以ヲ登訴スル者アルニ臨ミ特ニ其訟ヲ聽クヲ掌ル者ナリ、故ニ其職掌、大約獨乙ノオーベルホフノ職掌ト相同シ、但シ又相異ナル所アリ、即チカッサチオンスホフハ、他法院ノ審理、若シ其規律ニ背キ、或ハ判定偶々其法ニ背クトキハ、併ニ皆ナ之ヲ廢シ、而シテ同法院ニ命シテ、更ニ覆治ヲ施サシムルヲ掌ルト雖モ、オーベルホフハ否ラス、他法院ノ判定ヲ全廢スルコトナシ、唯々務メテ之ヲ改正スルヲ掌ル者ナリ、

訴訟審理ニ於テモ亦、措士ヲ用フル法ヲ立テシ國ニ於テハ、登訴ヲ爲スノ規律、大ニ限制スル所アリ、就中唯法問ノ判定ニ就テ、登訴ヲ許スノミニシテ、事問ノ判定ニ就テハ、之ヲ許サス、故ニ此法アル國ニ於テハ、僅ニ一ノ上等法院アレハ、諸般ノ登訴ヲ總判スルニ足ル可シ、此事即チ英國ヲ以テ證ト爲ス可シ、

大井潤一　校

國法汎論卷之八上終

國法汎論卷之八下目錄

第四款　刑法事務
第五款　政務法事務
第六款　司法ノ疆域〇政務法ニ屬スル爭訟

國法汎論卷之八下

イ、カ、ブルンチュリ　著
加藤弘之　譯

第四款　刑法事務、ストラフレヒツプレーゲ（按）又治罪事務ト譯ス、即チ斷獄事務ナリ、

（第一）中古ノ世ニハ、羅馬人種及ヒ日耳曼人種ノ各國共ニ、刑法事務ノ施行ヲ三等ニ分チ、各其官司ヲ異ニセリ、蓋シ此制ハ、元來獨乙ノ國土人民ノ分割法ニ由リシ者ナリ、乃チ古時獨乙ニテガウ、フンタリ、及ヒワイレル（按）國土ヲ三等ニ分割セシ名稱ナリ、而シテガウヲ大部トシ、之ヲ數フンタリニ分チ、又フンタリヲ中部トシ、更ニ之ヲ數ワイレルニ分テリ、）ノ分割ハ、軍事制度、及ヒ司法制度ニ應シテ、設ケシ所ノ法ナリ、其後佛國ニ於テモ亦法院ヲ上中下三等ニ區分シ、（按）即チ土地ヲ三等ニ分割シテ之ヲ置ケリ、）復タ獨乙ニテモ高等ホグタイ（按）法院）下等ホグタイト、及ヒ地頭ノ司法局（按）封地ヲ受有セル地頭ノ自ヲ立ツル者ナリ、）若クハ邑（マルク）ノ司法局（按）地頭ノ司法局、及ヒ邑ノ司法局ヲ共ニ第三等トナス、）トニ區分セリ、○且ツ罰スヘキ罪科ヲ其輕重ニ隨テ、三等ニ區分シ、併ニ法院ノ職掌ヲモ三等ニ區分シ、右三等ノ法院ヲシテ、其處決ヲ分掌セシメタリ、凡眞誠ノ傷和罪（フリーデンスブルッフ（按）平和ヲ傷リ騷亂ヲ釀スノ罪ヲ云フ、）ハ、實ニ平和安全ヲ傷害スル者タルヲ以テ、全ク此罪犯人ノ權利ヲ剝奪シテ之ヲ誅戮スルヲ要シ、及ヒヘル、ブレーヘン（按）大罪ヲ云フ、下文ニ於テ解説ス、）ノ如キモ、必ス亦其生命ヲ假サヽルヲ要シタリ、故ニ是等ハ總テ高等法院ニ於テ、判定處刑シタリキ、而シテ此法院ハ、國君ヨリ直ニ人命ヲ褫フノ權ヲ

以テ(投與セラレタル者ナリキ、又フレーヘル(按)故意ヲ以テ犯セル罪)及ヒ偷盜ノ如キモ法制ヲ毀損スル少ナカラスト雖モ、之ヲ罰スルニ決シテ生命ヲ褫フヲ要セス、唯體刑、ケルペルストラフ又ライベスストラフ(按)體軀ニ施ス刑ト云フ義ニシテ即チ笞杖等ノ刑ヲ云、方今文明開化ノ國、多クハ此刑ヲ廢セリ、若クハ金刑ゲルドストラフ(按)即チ罰金ナリ、ニ處シテ足レル者ナルカ故ニ、是等ハ皆中等法院ニ於テ、處刑シタリキ、○古時ノ司法常則ハ、大凡以上論スルカ如クナリキ、但シ唯輕罪過失等ノ如キ大イニ國家ノ法則ニ害ナキ者ハ、皆地頭ノ司法局ニ於テ處刑シ、或ハ地頭ノ管轄ニ歸セスシテ、尚自由ノ權ヲ保有セシ諸邑ニテハ邑ノ司法局ニ於テ處刑シタリキ、

今時モ尚ホ上ニ論スル所ノ罪科區分法ヲ從用ス、唯少シク變革スル所アルノミ、故ニ今時ニ在リテモ、ヘルブレーヘン、(按)大罪ヲ云、故ニ下文又大罪ト譯ス、ヘルゲーヘン(按)尋常ノ罪科ヲ云、故ニ下文又常罪ト譯ス、及ヒポリツァイユーベルトレーツング(按)法院ノ罰刑ヲ受ケス、唯警保官ノ刑罰ヲ受ル小罪ヲ云、故ニ下文又警保罪ト譯ス、ノ三等ヲ分立シ、大罪ハ警士法院ニ於テ判定處刑シ、常罪ハ中等ノ合議法院ニ於テ判定處刑シ、又警保罪ハ下等ノ警保法院(按)眞ノ法院ニアラス、唯警保官ニ附屬スル法院ナリ、ニ於テ、判定處刑ス、但シ故アレハ時トシテ、二三ノ常罪ヲ、或ハ警士法院ノ處分ニ任シ、或ハ警保法院ノ處分ニ任スルヿアリ、即チ此罪科ニ就テ若シ審理判定等ノ事務ヲ務メテ丁寧綿密ナラシメ、且ツ他ノ拘束ヲ受ケス、自由ニ處分セシムルヲ要スルトキニ於テハ、乃チ其處分ヲ警士法院ニ托シ、或ハ此罪科甚タ輕ウシテ、殆ト小罪ニ類似スルカ如キトキニハ、其處分ヲ以テ警保法院ニ托スルナリ、

但シ大罪常罪ノ區別ハ、人學ハスト雖モ、能ク辨別シ得ル者ニシテ、二罪共ニ刑法官ノ本職ニ屬ス、是ヲ以テ刑法事務ノ編制ニ就テハ、能ク此區分ヲ遵守スルヲ要ス、○去レトモ此二ハ共ニ國家ノ法制ヲ毀損傷害スル者ナルヲ以テ、決シテ唯私法ニ背ケル不正ノ所行ト爲ス可ラス、又唯警保官ノ處分ニ屬ス可キ、罪科トモ爲ス可ラス、實ニ國家ノ正義公直ノ旨ヲ毀損スル罪科ト爲ス可キヿ固ヨリ當然ナリ、故ニ此罪科ニ就テハ、訴訟法ニ於ケルカ如ク、唯僅ニ毀損セラレタル權利ヲ回復スルノミヲ以テ足レリト爲ス可ラス、又警保法ノ如ク、國家ノ正義公直ノ旨ヲ守護スル、ヨリハ、殊ニ一般ノ安寧秩序ヲ保護スルノ意ヲ以テ、處分ス可ラス、實ニ一旦毀損ヲ受ケタル國家ノ正義公直ヲ、追回恢復スルノ意ヲ以テ、罪犯人ニ刑罰ヲ加フルヿ緊要ナリ、蓋シ然セサレハ、正義公直ノ旨、決シテ安全ナルヲ得ル能ハサレハナリ、○但シ此二罪相分カルヽ所以ハ、(其景況ノ尋常ト非常ノ別アルニ由ルナリ、(按)常罪ハ尋常ノ罪、大罪ハ非常ノ罪ナルヲ以テ斯云フナリ、)乃チ大罪ハ常罪ノ重大トナリタル者ト云フモ可ナリ即チ左ニ論ス、

(甲)罪犯ノ所行祇國家ノ一部分ヲ害スルニ止マラス、實ニ國家ノ全體ヲ害スル者ハ、重キ罪、即大罪トナル可シ、(例ヘハ逆謀ハ實ニ大罪ト稱ス可シ、去レトモ僅ニ政府上官ニ抗スルノ所行ハ、唯常罪ト稱ス可シ、)(乙)大イニ人ノ危難ヲ生スル所行、及ヒ道義ヲ傷フ所行ノ中ニ就テ、甚タ暴惡ナル者ハ、重キ罪、即チ大罪トナル可シ、(例ヘハ行劫、強盜、及ヒ強姦ハ大罪ナリ、去レトモ尋常ノ竊盜、及ヒ人ヲ侮辱シ、或ハ罵詈スル等、人ニ大害ヲ爲サヽル者、幷ニ人ヲ欺騙スル所行等ハ、通例常罪ト稱ス可ク、其他過失ニ屬スル罪科モ、亦皆常罪ノ内ニ列ス可シ、)(丙)時アリテ損害ヲ生スル甚タ巨大ナルニ至ルトキハ、常罪變シテ遂ニ重キ罪、即チ大罪トナル可シ、譬ヘハ猶水ノ熱ヲ受クル最大ナルニ至ルトキハ、即チ變シテ蒸氣トナルカ如シ、(例ヘハ尋常ノ竊盜ト雖モ、其盜ム所甚タ巨大ナルトキハ、即大罪トナルナリ、)凡ソ大罪常罪ノ相分カルヽ所以ノ理、通例此ノ如シ、去レトモ尚ホ之ヲ綿密ニ區分スルニ至リテハ、各國其法ノ沿革、及ヒ制定ニ由ル者ニシテ、必ス一定ノ法アルニアラス、○大常二罪ノ輕重、大約上ニ論スルカ如シ、故ニ大罪ニハ通例生刑、(レーベンストラフ(按)生命ヲ奪フ刑ト云フ義ニシテ、即チ死刑ヲ云フナリ、)體刑、(ライベスストラフ(按)體軀ニ施ス刑ノ義ニシテ、即チ

笞杖ノ類ヲ云、）鎚刑（ケツテンストラフ〔按〕鎖鎚ヲ以テ手足云ヲ收縛スルノ刑ナリ、）徒塲刑（ツフトハウスストラフ）放逐（デポルタチオン）ノ如キ刑、能ク適當スル者ナリ、故ニ是等諸刑ヲ以テ、決シテ常罪ヲ罰ス可ラス「而シテ通例大罪ハ、誓士法院ニ於テ審理判定シ、常罪ハ「下等法院ニ於テ審理判定ス、

〔第二〕スターツアーンワルトナル公官アリテ、罪犯人ノ追補告訴ヲ掌ルノ法ハ、實ニ刑法施行ノ本旨ニ適スト云フ可シ、凡ツ罪犯ノ所行ハ、決シテ私事ニ關スル者ニアラス「實ニ國家ニ關スル者ナリ、是故ニ罪犯人ニ傷害セラレタル者、若シ罪犯人ノ爲メニ其罪ノ宥恕ヲ乞願スルヿアリテ、且ツ其願意頗ル忠厚ナリト云フモ「國家決シテ之ヲ採用スル能ハス、苟クモ罪犯人アルトキハ「國家ハ必ス公衆ノ爲メ、嚴ニ之ヲ罰シ、以テ其正義公直ノ旨ヲ昭明ニセサル可ラス、○元來治罪審理ハ、決シテ兩個私人ノ相對シ相爭フヲ裁判スルカ爲メニアラス、實ニ國家其公義正直ノ傷害トナル者ヲ除去シ、更ニ之ヲ昭明ニスル所ノ處分ナリ、是故ニスターツアーンワルトハ獨リ罪犯人ノ對手タル者ト思フヿ可ラス、又唯罪狀ノ疑案起ル所以、及ヒ其確證アル所以ヲ推究呈案スルノミヲ以テ足レリト爲ス可ラス、必ス能ク思ヲ運ラシテ「其罪狀ノ無キ所以、及ヒ罪狀ノ減スル所以等ヲモ注思考察セサル可ラス、○此官ノ居心苟クモ偏頗ナキヲ要スルハ實ニ法士ニ同シ、但ゞ此官ハ殊ニ告訴ヲ掌ルヲ以テ「自ラ國家ノ正義公直ノ旨ヲ負荷シ「之ヲ以テ罪犯人ト相對シ相爭ヒ「而シテ罪犯人ノ對手トナルヲ「其主務トナスヘキ者ナルカ故ニ「其地位タルヤ「法士ニ比スレハ自ラ自在ナル所アリ、是故ニ此官ハ、必ス法院ヨリ分派シテ、別種獨立ノ官ト爲スヲ眞トス、然ルニ中古ノ世ニ於テハ、各國專任法士ニ告訴ヲモ兼掌セシメシ者多カリキ「此法甚タ不可ナリ「スターツアーンワルトナル官ヲ設置セシ濫觴ハ、其迹既ニ中古各國ノ諸制度中ニ存ス「則中古獨乙ライヒス、タット〔按〕獨乙帝ニ直隷セシ土地ヲ云、其各國王ニ屬セシ土地ト相異ナリ「ノナーフゲンゲル「及ヒナーフリヒテルノ

如キ官「又瑞典ノコローンヘグトノ如キ官〔此官法士ノ未タ審理ヲ施サヽルニ方リテ、預メ査問ヲ施スヿヲモ掌レリ、〕并ニ佛國ノプロキュール「ヅウ「ロアノ如キ官〔此官ハ、元來羅馬ノアドホカチヒスキノ如シ、王室所有地ノ事ニ就テ、告訴ヲ掌ル者ナリシカ「又他事ニ就テ「私訴ヲ爲ス者アラサルトキニ於テハ「其告訴ヲモ兼掌シタリキ、〕ハ皆スターツアーンワルトノ萌芽ノ如クナル者ナリキ、○去レトモ實ニ此官ノ制ヲ、完全ノ者ト爲シタルノ功ハ、全ク佛國ニ在リ「那破侖第一世「始メテゲチラールプロクラトール〔按〕スターツアーンワルトノ佛語ナリ、〕ト稱スル官ヲ設置シ、之ヲ司法省ト合シテ、告訴ヲ掌ラシメ、且ツ之ニゲチラールアドホカート〔按〕即チゲチラールプロクラトールヲ補助スルノ官ナリ、ナル官吏數員ヲ附屬セリ、爾來他各國ニ於テモ「漸ク佛國ニ倣テ「此官ヲ設置スルニ至レリ、但シ佛國ニテハ、此官ノ權力過大ニシテ「殆ト法院ノ右ニ出ルノ弊ヲ生セシニ「他各國ニ於テハ「却テ能ク「此弊ヲ避クルヲ得タリ、

〔第三〕英國誓士法院（シュウールゲリヒト）ヲ用フルノ制度、漸ク他各國ニ蔓及セシカ、就中刑法事務ニ於テハ、此制ヲ用フルヿ最モ盛ニシテ、遠ク私法事務ニ超ユ「初メ亞米利加此制度ヲ取用シ「次テ佛國及ヒ羅馬人種ノ各國ニ及ヒ、近世ニ至リテハ獨乙及ヒ瑞士等、亦皆之ヲ取用スルニ至レリ、然レトモ此法各國ニ蔓延スルニ隨テ、漸ク數種ノ弊害ヲ生シタリ、蓋シ此制度各國ニ於テ「全ク民性ニ適シ實ニ司法ニ緊要ナル者トナルニ至ル迄ハ、恐ラクハ猶數歲月ヲ費スナル可シ「誓士法院ノ本性ハ、殊ニ下ノ二件ニ在リ、其〔第一件〕ハ、判定ヲ二分スルヿトス、即チ其一ヲ事問（タートプラーゲ、）ノ判定ト爲ス「及ヒ法ニ由テ罪ノ有無ヲ判決スルノ務メモ「亦必ス此判定ニ屬シテ「離ルヽヿナシ、其二ヲ法問（レヒツプラーゲ）ノ判定ト爲ス、即チ刑法ニ據テ、罪科ニ適當スヘ

キ法ヲ決定スルヲ云フナリ又其〔第二件〕ハ司法ノ官司ヲ全ク區分シ、法士ト誓士トヲ設ケ而シテ事問ノ判定ハ、必ス民間ヨリ擧ケタル私人〔〔按〕誓士ナリ、〕〔必スシモ法學ニ練磨セル者ニアラス、〕ニ托シ、法問ノ判定ハ、必ス能ク法學ニ練磨セル定任ノ官吏ナル法士ニ委任スルナリ、但シ事問ノ判定ヲ掌レル私人ハ決シテ中古日耳曼ノシェッヘ〔按〕誓士ナリ、ノ如ク、定任スルニアラス、必ス時ニ臨テ擧任スルカ故ニ、時々交代スル者ナリ、

誓士ヲ用フル制度ノ利害ハ、左ニ論スル所ノ景況ニ由ル、凡ソ法士ト誓士ノ際、絕エテ嫌隙ヲ生スルコトナク、能ク一致シテ共ニ司法事務ヲ掌リ、而シテ常ニ審理ヲ總管スル所ノ法士ハ其事務ヲ掌ルノ卓越ナルニ由テ能ク法學ニ練熟スル所以ヲ表ハスニ足レハ此制度甚タ利アリト云フ可シ、然ルニ若シ誓士法院ノ景況、全ク之ニ反スルトキハ其利害亦相反スル言ヲ俟タス、其他法士タル者、アドホカート〔按〕對手ニ代リテ辨論スル者若クハ兩對手タツアーンワルト〔按〕罪狀ヲ告訴セラレタル者トヲ云フナリ、ノ爲メニ惡弄セラレテ、是等ノ徒ノ縱ニ司法事務ヲ以テ、自ラ相爭ヒ相凌クノ具トナスヲモ制スル能ハサル歟、若クハ法士十分ニ其務メヲ盡サント欲シ、自ラ兩對手ノ爭論ニ關スルコト、實ニ過當ニ涉ル等ノ弊生スルトキハ、誓士ヲ用フルノ制度甚タ害アリ、〇凡ソ誓士ヲ用ヒテ、審理ヲ施スヤ、嘗テ法ヲ學ハサル誓士ノ判定ヲ以テ、却テ法學者ノ判定ニ優レリトスルニアラス、唯諸罪科共ニ、民間ヨリ擧任セル識者ノ自然ノ識得〔按〕法學ノ練磨ヨリ生スル識得ニアラサルヲ云、ヲ以テ、認メテ有罪トナセル惡行ニアラサレハ、決シテ刑セサランコトヲ欲スルカ爲メノミ、〇總テ法ヲ論示シ、併セテ正義公直ノ旨ヲ保護スルカ如キハ、則チ法士ノ職掌ナリ、法士タル者ハ、固ク道義ヲ守リ、以テ審理ノ務メヲ堅固ニセサル可ラス、而シテ法士實ニ此事ヲ盡サント欲セハ、告訴者アーンケレーゲル〔按〕即チ、ターツアーンワルトヲ云、自護者ヘルタイギゲル〔按〕罪犯ヲ告訴セラレタル者ヲ云、ノ際ニ、苟クモ偏頗ノ情ヲ生スルコトナク、唯公平ノ心ヲ以テ審理ヲ施スニアラサレハ、

決シテ能ハサルナリ、

其他誓士ヲ設置スルノ法ニ就テ其利害ヲ論スルコハ、最モ緊要ナルコナリ、

英國ニ於テハ、尋常ノ誓士法院アルゲマイチス、シュウールゲリヒト、ト、別種ノ誓士法院スペチエルレス、シュウールゲリヒト、トヲ以テ、全ク區別セントスルノ機、既ニ現然タリト雖モ、他國ニ於テハ、或ハ此區別ヲ以テ、却テ不可ト爲スノ論アルヘシ、〇凡ソ尋常ノ誓士法院ト稱スル者ハ、其誓士ナル者判定ヲ爲スニ絕ヘテ別種ノ學習練磨ヲ要セサル法院ヲ云フ、尋常ノ審理ハ、大抵此法院ニ於テ掌ル所ナリ、然ルニ別種ノ誓士法院ト稱スル者ハ事問ヲ判定シ、及ヒ罪ノ有無ヲ判決スル等ニ於テ、必ス別種ノ學習練磨ヲ要スル時ノミ、其務メニ從事スル所ノ法院ヲ云フナリ、而シテ尋常ノ誓士法院ニハ、唯尋常ノ才識アル人物ヲ擧任スルノミニシテ足レリ、決シテ別種ノ學習練磨アルヲ要セス故ニ尋常平民ノ中等ニ於テ、其人物ヲ求ムルモ、決シテ得難キニアラス、然ルニ別種ノ誓士法院ニ擧ント欲スル誓士ノ如キハ必ス別種ノ學習練磨ヲ要スルカ故ニ、其人物ヲ選フニハ必ス別種ノ業科ニ練磨セル徒中ニ就テ爲サヽル可ラス、〇例ヘハ出版ノ事件ニ就テ、審理ヲ施ス時ニ於ケルカ如キ、元來其事ニ諳熟スル者甚タ多カラスト雖モ、必ス務メテ練磨セル者ヲ選ヒ、以テ別種誓士ト爲サヽル可ラス、凡ソ盜賊殺傷等ノ告訴アル時ニ於テハ、縱令ヒ嘗テ別種ノ學習練磨ヲ經サル鄙人農民等ト雖モ、唯其事ノ景況、諸種ノ證左、及ヒ被告人ノ擧動等ニ據テ、其罪科ノ虛實ヲ判定スルコ、決シテ難カラスト雖モ法院若シ文章上ノ辨論、或ハ語言上ノ條陳等ニ於テ、才力アル自護者〔〔按〕被告人、〕ノ縱談巧辯ヲ以テ、其罪迹ヲ掩蔽セントスルヲ洞察シ、或ハ一個人アインツェルチン、〔按〕又インザヒヅームト云則チ公衆ニ對シテ一人ヲ指斥スルノ語ナリ、茲ニ一個人ト云フハ、即チ被告人ヲ指ス、ノ論說、縱令ヒ公衆一般ノ所見ト全ク相表裏スルトキト雖モ、亦辨論ノ自由權ヲ敬重シテ、辨論ニ自由セシムルカ如キハ、尋常平易ナル鄙人農民等カ微力ノ決シテ及フ所ニアラス、若シ此ノ如キ時ニ於テモ仍ホ尋常平易ナル鄙人農民等ヲ擧テ、誓士ト爲ストキハ、動モスレハ自護者カ縱談巧辯ノ詭譎ニ陷リ、遂ニ其判定ヲ誤ルヤ必然ナリ、總テ此ノ如キ誓士ハ素

確乎タル學習ナキヲ以テ、其判定ニ於ケル、或ハ甚タ嚴酷ニ過キ、或ハ甚タ寛大ニ失シ、加之、私意ヲ挿サムカ如キ弊害ナキヲ得ス、

誓士ヲ擧任スルニ、拈鬮子（クジヒク）ノ法ヲ用フルノ國最モ多シ、實ニ宜シキヲ得ル法ト云フ可シ、若シ他法ヲ用フル卜キハ、必ス二個ノ相對セル嚴礙ノ危害ヲ避クル能ハサルヘシ、他法二種アリト雖モ、倶ニ誓士制度ノ眞正ヲ障害スル者ナリ、卽チ其第一法ハ、政府專ラ誓士ノ擧任ヲ掌ルノ法ナリ、凡ソ法士ノ如キハ素ト高貴ノ官ニシテ、且ツ其人ハ必ス法學ニ練熟スル者ナルカ故ニ、政府之ヲ擧任スト雖モ、決シテ政府ノ威光ニ眩惑セラルヽカ如キ患ヒナシ、然ルニ誓士ノ如キハ、素ト官吏ニアラス、亦甚ク能ク法學ニ通曉スル者ニアラサルヲ以テ、政府ノ擧任ヲ受クル卜キハ多クハ唯政府ノ意旨ヲノミ奉承シ、動モスレハ其旨ヲ遂クルノ具トナルニ至ルノ弊害アリ、是レ卽チ第一ノ嚴礙ナリ、又其第二法ハ、國民ノ選擇ヲ以テ、誓士ヲ擧任スルノ法ナリ、若シ此法ヲ用フル卜キハ、勢ヒ誓士唯政論黨派

［按］文明開化國ニテハ、政治方法ノ議論ニ就テ、衆民中ニ數黨派分レ、各其是トシ、可ト思フ所ヲ主張シテ、相競ヒ、以テ遂ニ政令ノ方向ヲ變セシムルノ勢力アリ、之ヲ政論黨派ト云フ、

ノ意ヲ奉承シテ、之ニ依靡スルニ至ル、故ニ誓士タル者、殆政論黨派ノ奴僕ノ如クナリ、偏頗不公平ノ判定ヲ以テ遂ニ司法事務ノ純清ヲ汚スノ弊害アリ、是レ卽チ第二ノ嚴礙是ナリ、故ニ此二個ノ嚴礙ヲ避ケント欲セハ、必ス拈鬮子ヲ以テ擧任スルノ法ヲ用ヒサル可ラス、○但シ此法ヲ用フル卜キハ、被告者或ハ自ラ信セサル誓士ノ判定ヲ受クルノ患ヒヲ免レサルカ如シト雖モ、被告者若シ誓士ヲ信セサルコトアラハ、直ニ之ヲ辭却シ得ルノ權利ヲ以テ、之ニ與フルノ法アレハ、此ノ如キ患ヒハ、全ク消滅ニ歸スル、敢テ辨ヲ俟タス、

但シ拈鬮子ヲ以テ擧任スルハ、其事素ト偶然ニ出ル者ナレハ、決シテ人物ノ其任ニ耐ルヲ保ツニ足ラサル者ナリ、故ニ必ス能ク其任ニ耐ユヘキ者ノミヲ以テ、拈鬮子ノ權利ヲ得セシムルコト、甚タ緊要ナリ、誓士タル者、其力若シ獨歩自立シテ、家計ヲ經營スル能ハサレハ、決シテ衆望ヲ得ル能ハス、且ツ通例成人ノ年齡ヲ過キテ、家事產業ニ由リ、世事ニ諳練スル者ニアラサレハ、決シテ其任ニ適スル能ハサルカ故ニ、以上諸件ニ於テ、實ニ間然スヘカラサル者ノミヲ擧任スルノ法ハ、實ニ公正ニシテ且ツ眞實ナル判定ヲ期スルニ甚タ緊要ナリ、㊀○但シ誓士法院モ、必ス亦以テ正義公直ノ旨ヲ保護スヘキ者ナリ、故ニ之ヲシテ決シテ、政令ノ利害得失ニ着意セシメサルコト、甚タ緊要ナリ、

㊀［按］英國ニテハ、一千八百二十五年ノ憲法ヲ以テ、誓士擧任ノ法ヲ確定シテ、年齡二十一ニ至リ、且ツ土田ノ歲入十ポンド（一ポンドハ、大約我カ五圓ニアタル、）ヲ得ル者（若クハ所有物ノ貸賃一年二十ポンドヲ得ル者ニアラサレハ、誓士トナルノ權利ヲ有スル能ハサルコトセリ、

然ルニ儘此理ニ反スル論ヲ立ツル者アリ、其論ニ據ルニ、誓士タル者ハ、法制ノ上ニ在テ、法制ヲ自在ニ取捨行止スルノ全權ヲ握ル者ナリト云フ、實ニ迷誤ノ甚タシキニ非スヤ、凡ソ法院ナル者ハ、唯現立ノ制法ヲ司守シテ偏ニ正義公直ノ旨ヲ奉行スルノ外、他ノ職掌ヲ負フ者ニアラス、誓士ハ必ス誓約ヲ以テ、此義務ヲ其心ニ銘スル者ナリ、然ルニ誓士若シ自ラ其處分ノ法ニ合セサルアルヲ知ルコトアラハ、焉ソ信實ノ法院アリト爲ス可ケンヤ、○又佛國ノ法院ニ於テ、一暴論ヲ採用シテ、誓士ナル者ハ宜シク罪狀ノ證左ヲ取ル可シト云フノ規律ヲ遵守スルヲ要セス、唯其罪狀ノ未タ分明ナラサル所ヲ追究スレハ、足レリトナス、此事實際ニ於テ、殊ニ害アリ、但シ誓士ヲ設置セシ以來、之ヲシテ自由ニ判定セシムルコトナリシヨリ、古昔唯法學者ノミヲ以テ、合議法院（リヒテルコルレギー）ヲ設立セシ世ニ於テ、偏ニ證左ヲ取ルノ法ノミヲ墨守セシ風習、遂ニ全ク消滅セシハ、實ニ誓士ヲ用フルノ利ト云フヘク、且ツ誓士始メテ立チシ以來、罪犯人多クハ其罪ヲ掩フ能ハスシテ、皆其刑ニ服スルコトトナリシハ、各國共ニ實驗ニ由テ知ル所ナリ、然レモ誓士ヲ用フル制度ノ祖國ナル英、及ヒ亞米利加兩國ニ於テ、未タ曾テ證左ヲ取ルノ法（卽チ罪アリト判定セシ所以ノ理ヲ、被告人ニ明白ニ知ラシムルノ法）ヲ以テ、全ク無用ニ屬ストセシ論アルヲ聞カス、加之、此兩國ニ於テ

ハ、證左ヲ探索スルノ術ヲ講求スルニ必ヲ用ユルヲ專旨トナシ、幷ニ陪士ヲシテ「證左ニ注意セシムルヲ以テ、法士ノ務ノト爲ス、○法士ナル者ハ「決シテ自ラ被告者ヲ無罪トシテ、赦免スルヲ得ス、及ヒ之ヲ有罪トシテ、刑罰スルヲモ得ス「必ス陪士タル者ノ尋常平易ノ識見ニ由リ、判シテ有罪ト定メシ者ニアラサレハ、之ヲ刑スル能ハサルハ、即チ陪士法院ノ通則ナリ、去レハ法士タル者、正義公直ノ旨ヲ奉シ「且ッ自ラ學習ノ浸漸ニ由リ、悟得セシ識見ヲ「陪士ニ告諭シ、以テ陪士ヲシテ、之ヲ熟慮セシメ「及ヒ公正ニ判定セシムルハ、全ク其職掌ニシテ「之ヲ以テ不可トスルノ理ハ、決シテアル可ラス、○歐洲大地各國ニ於テハ「法士ノ權常ニ强大ニ過ギ、遂ニ陪士ノ判定ヲ用ヒス「敢テ自ラ恣ニ判定ヲ爲カ如キ弊害アルヲ免レス「是ヲ以テ、往々此弊害ヲ驅除センヿヲ論スル者アリ、實ニ陪士法院ノ制度ニ於テ、有益ノ論ト云フ可シ「去レトモ又審理ニ於テ、法學ニ熟達セシ法士ノ威權ヲ務メテ抑壓シ、而シテ陪士ヲシテ、縱マヽニ判定スルヲ得セシムルヲ以テ、此法院ノ本意タラシメント欲スルカ如キモ、亦司法ノ眞理、及ヒ其尊嚴ナル所以ニ「全ク相戾ルト云フ可シ、

既ニ論シタルカ如ク歐洲大地ノ各國ニ於テ、スターツアーンワルトノ官ヲ設立セシハ「全ク英國ノ制度ニ由ラサル者ナルカ、又陪士法院ノ制度モ亦大地各國ニ傳播セシ以來、二個ノ改正ヲ得タリ「即チ第一ハ「英國ニ用フルアーンカラーゲ、ヂューリ（大ヂューリ〔按〕英國ニハ、大小二種ノ陪士アリ、大ヂューリハ、即チ大陪士ナリ、而シテ大陪士ナル者ハ、預メ罪犯ノ景況ヲ探索シテ「實ニ罪アリト思フトキハ「之ヲ小陪士ニ送致スルヲ掌ル者ナリ「但シ小陪士ハ判定ヲ爲スヲ掌ル者ナリ「）ヲ廢シ、而シテ別ニ法學者ノミヲ擧テ、アーンカラーゲセナートナル者ヲ設立シ、預メ告訴ノ次第ヲ査問スルノ務メヲ以テ、之ニ授托スルノ法ヲ立テ、第二ニハ「英國ニ於テハ、私法ノ意「今仍ホ大イニ司法上ニ存スト雖ヒ「大地各國ニ於テハ、罪犯人ヲ追捕刑罰スル事ハ、漸ク國家ノ掌ル所トナリテ、今世ハ、司法上「絕エテ私法ノ意ノ存スルアルヲ見サルニ至レリ、

第五款　政務法事務、ヘルワルツングスレヒツプレーゲ

〔按〕政務ニ係レル公權利ノ規律ヲ政務法ト云、故ニ此公權利ニ就テ起レル諸爭論ヲ裁斷スルノ事務ヲ、政務法事務ト云、法院司ル所ノ私法、刑法ノ二事務ト相異ナリ、

公權利ニ就テモ亦、爭論ノ生スルヿアリ、而シテ此時ニ於テハ國家其權ヲ以テ、之ヲ裁斷セサル可カラス、但シ今世ノ公法院（エッヘントリヒ、レヒトリヘル、ゲリヒツホフ、〔按〕政務法院ヲ云、）ハ「公法（エッヘントリヘス、レヒト〔按〕又公權利ト譯ス、即チ政務法ヲ云、）中ニ於テ、僅ニ其數部分ヲ司ルノ權アリ「故ニ其過半ハ「方今尚ホ未タ之ヲ司ル所ノ法院、幷ニ制度アラス、就中公法中ノ重要ナル部分ニ至リテハ、最モ然リトス、實ニ公法事件ニ係リテ起レル諸爭論ヲ、悉皆裁斷スヘキ法院ヲ設立スルハ、恐ラクハ後世始メテ能クスヘキノミ、

公法ノ事ニ係リテ起レル爭論ノ部類ハ、大略左ニ擧ルカ如シ「

〔甲〕列國法ニ係レル爭論、　列國ノ權利ニ係リテ、其際ニ起レル爭論ヲ「裁斷スルニ堪ユヘキ法院ハ「今時尚ホ未タ之レアラス、故ニ二國相爭フトキニ於テハ、儲調停裁判（シーヅゲリヒト〔按〕局外中立ノ國、相爭フ兩國ノ依托ヲ受ケ「其中間ニ入テ裁判スルヲ云「）ヲ施スヿアレトモ「必ス兩國縱議シ相ヒ共ニ之ヲ請フニアラサレハ、此事決シテ行ハル可ラス、其他プリセンゲリヒト（〔按〕戰爭ノ際、敵艦ヲ捕擊セルトキ、其邪正曲直ヲ判定裁斷スルヲ云、）ノ如キハ、固ヨリ兩國ノ共議スヘキヿ、當然ナルカ如シト雖モ、必ス獨リ其本國（〔按〕敵艦ヲ捕擊スル者ノ本國ヲ云、）ノミ、之ヲ裁斷スルナリ、

〔乙〕君位繼嗣ニ係レル爭論ノ如キモ、國事法院亦之ヲ裁斷スルノ權ナシ、而シテ列國復之ヲ裁判スルノ權ヲ有セス、國家ノ大事勢獨リ能ク之ヲ裁斷スルナリ、凡ッ權勢事業、兩ツナカラ全ク「擧國若クハ官司等ノ許可服從ヲ得ル者「遂ニ能ク君位ニ登ルヲ得ルハ、即チ勢ヒノ然ラシムル所ナリ、㊀

㊀〔按〕君位繼嗣ノヿヨリ「爭鬪ヲ生スルヿアルトキハ「權勢事業兩ツナカラ全ウシテ、遂ニ全國ノ許可服從ヲ得ル者「自ラ勢ヒニ由テ、君位ニ登ルヲ得、故ニ國家ノ大事勢「獨リ能ク之ヲ裁斷

ストト云フナリ、

〔丙〕國憲可否ノコトヨリ起レル爭論ノ如キモ、亦必ス法院ノ裁斷ヲ用フル能ハス、而シテ或ハ政論黨派ノ分爭(イサカヒ)、能ク之ヲ裁斷スルヲ得〔按〕權ヲ得タル黨ノ欲スル所ニ從テ國憲ヲ確定ス、故ニ分爭之ヲ裁判スルヲ得ト云フナリ、或ハ兩院ト政府ノ商議ヲ以テ、之ヲ裁斷シ、又ハ憲法及ヒ上諭ヲ以テ、之ヲ裁斷スルヲ得ルナリ、獨リ亞米利加合邦ニ於テハ、通例合邦法院(ブンデスゲリヒト〔按〕合邦全國ノ法ヲ司レル法院)能ク此ノ如キ爭論ヲ裁斷スルノ權有リ、去レトモ此國ニ於テモ、國家諸權柄ノ意、互ヒニ相背反シテ、全ク一致和同セサル時ニ於テハ、法院縱令ヒ其裁斷ヲ施シテ、之ヲ行ハント欲スルモ、決シテ能ハサルナリ、蓋シ一千八百六十一年(萬延二年)ヨリ六十五年(慶應元年)ニ至ル五年間、國內ノ大亂爭、及ヒ其後ノ形勢ヲ通觀スレハ、此理自ラ明亮ナル可シ、○去レトモ若シ此ノ如キ爭論アルニ方リ、徒ニ形貌上ノ正眞ナル法ニノミ適テ裁斷スルトキハ、其弊更ニ巨大ニ至ル可シ、蓋シ自然ノ勢ヒニ合シ、且ツ日々進歩スル世態ニ適スル所ノ裁斷ハ、獨リ經綸ノ才識ヲ具フル俊傑ニアラサレハ決シテ為ス能ハサルナリ、

〔丁〕軍務(ミリテールヘルワルツング)、及ヒ〔戊〕警保務(ポリツァイヘルワルツング)ノ區域內ニ於テハ、其官司許多ノ法問ヲ判定裁斷セサル可ラス、而テ此判定裁斷ヲ以テ、更ニ法院ニ告訴スルヲ許サス、殊ニ此種ノ法問ハ、其便宜ニ從テ、武官及ヒ警保官ノ事務ニ屬ス、蓋シ此法問ハ、專ラ事ノ便益ト否トニ緊切スルヲ以テナリ、(〔按〕唯正義公直ノミニ關セサルナリ、)例ヘハ、戰爭ノ時ニ於テ、軍隊假ニ民人ノ交際ヲ阻攔シ、及ヒ其連合ヲ隔斷シ、或ハ大砲ヲ民家ニ發射シ、又ハ禾田ヲ蹂行スル等諸件ノ實ニ緊要ナリヤ否ハ、皆專ラ軍事ニ係レルコトナリ、去レトモ是等諸件モ亦、必ス法ヲ以テ論セサル可ラサルハ、固ヨリ當然ナリ、○又火災起ルニ方リ、家屋ヲ毀壞シ、或ハ傳染病アルニ方リテ、患者ノ他人ト接遇スルヲ禁シ及ヒ病獸ヲ屠殺スル等、必行スヘキヤ否ヤハ、警保官タル者、專ラ公衆ノ安寧ニ注意シテ裁定スル所ナリ、去レトモ是等ノコト、其便益ト否トノミヲ以テ論ス可キニアラス、亦必ス法ヲ以テ論セサル可ラサルハ、固ヨリ當然ナリ、○斯(カク)法ノ區域ニ屬スル裁定ヲ以テ法院ニ托セス、却テ武官或ハ警保官ニ托スルハ、殊ニ怪シム可キカ如シト雖モ、是等諸件ハ、必ス十分嚴猛ノ權力ヲ以テ處分セサル可ラス、故ニ之ヲ單ニ武官若クハ警保官ニ托シテ、決シテ法院ヲシテ、之ニ關セシメサルナリ、若シ法院ヲシテ是等諸件ニ關セシムルノ法ヲ立ルトキハ、兵權警保權共ニ、遂ニ痿痺衰弊スルノ恐レナキ能ハス、

但シ右等ノ處分ニ由テ、武官及ヒ警保官等、若シ私人ニ損害ヲ爲セシカ爲メニ、私人或ハ其償金ヲ乞フコトアレハ、其請願ノ當否曲直如何ヲ判定スルハ、固ヨリ私法院ノ職掌ナル可ク、又右等處分ヲ為スノ時ニ於テ、警保官ノ施シタル警保刑(ポリツァイストラフ〔按〕警保官ノ施スヘキ刑罰ヲ云、)ノ當否ヲ判定スルコト必要ナルトキ、之ヲ判定スルハ、固ヨリ刑法院ノ職掌タルコト辨ヲ俟タス、

〔己〕元來諸官司ノ設立スル所ニシテ、且ツ其管轄ニ屬スル公法モ、亦殊ニ許多アリ、故ニ此公法ヨリ起レル爭論ハ、必ス其諸官司ニ於テ、之ヲ裁斷スルノ權アリ、例ヘハ選擇權利(ワールレヒト)ニ係レル爭論ノ如キハ、或ハ此權利ノ規律ヲ設立セル上官、之ヲ裁斷シ、或ハ選擇セラルヽ徒、(兩院ノ如キ是レナリ、)之ヲ裁斷ス、其他總テ下等諸官吏ノ職掌ニ就テ、爭訟起ルトキハ、乃チ其上官之ヲ判決ス、

佛國ニ於テハ、狹義ノ政務法(ヘルワルツングスレヒト、イム、エンゲルン、シンヲ)ト稱スル者ノ區域ヲ、前條擧ル所ノ公法(〔按〕卽チ〔己〕ノ條ニ擧ル者ヲ云、)ヨリ、復タ區分シテ、別種ノ者トナシ、而シテ此法ニ係レル事務ヲ擧ケテ、全ク別個ノ法院ニ委托セリ、近世各國復タ之ニ倣フ者多シ、○狹義政務法ノ區域ハ、殊ニ宛カモ會社若クハ一個人ノ身上ニ固著セル公權利、及ヒ公義務ヲ含有ス、故ニ此權利ハ、殆ト私權利ノ如クニシテ、殊ニ特別ノ保護ヲ要スルナリ、何者、此權利ニ就テハ、眞誠ノ兩對手、其意思ヲ主張シテ、相爭フコトアリ、故ニ法院ニ於テ、其審理ヲ受クヘキコト、當然ナレハナリ、〔按〕他ノ公權利ニ就テハ、兩私人相對シ、相爭フコトナシト雖モ、此公權利ニ就テハ、兩私人相對シ、相爭フコトアリト云フノ意歟、

ニ非レモ此權利ヲ以テ、決シテ私權利ト認ム可ラス、元來此權利ハ、決シテ全ク一個人ニ屬スル者ニアラス（必ス國家ニ屬スル公權利ナルヲ以テ、國家ノ法制ト密合スルコト當然ナリ、但シ此權利ハ、常ニ一個人ニ固著セル、一種別個ノ權利ノ如クナリテ、一個人自ラ之ヲ護リ得ルカ故ニ、宛カモ其私權利ニ類似ス、○狹義ノ政務法ニ屬スル者ハ、例ヘハ邑民タルノ權利、（ゲマインデビュルゲルレヒト（按）邑事ニ關スルヲ得ルノ權利ナリ、卷ノ十一ニ詳ナリ、）及ヒ國民タルノ權利、（スターツビュルゲルレヒト（按）國事ニ關スルヲ得ルノ權利ナリ、卷ノ二第二款ニ詳ナリ、）納稅ノ義務、邑ノ疆界ヲ分割スルコト、（按）事理解シ難シ、猶再考スヘシ、）公路、（按）公衆ノ往來スヘキ道路ナリ、）ヲ私用ニ充ツルコト、街路ヲ建築修繕スルノ義務、學校及ヒ敎會館ヲ造營スルノ義務、公務職官ヲ奉承スルノ義務（按）公務諸職官中ニ就テ、各人必ス奉承セサル可ラサル者アリ（卷之七第二款ニ詳ナリ、）軍事ニ役事スルノ義務、及ヒ公衆利益ノ爲メニ、私有ヲ放與スル等是レナリ、

狹義政務法ノ區域ハ從來甚タ狹少ナリト雖モ、固ヨリ廣濶ニナシ得可ク、加之、之ヲ廣濶ニスルコト、甚タ緊要ナリ（○但シ從來政務官獨リ狹義ノ政務法ヲ司ルノ全權ヲ有シテ（決シテ法院ノ監察ヲ受クルコトアラサリシカ、此全權近今次第ニ滅絕スルノ時至レリ、

政務法事務ノ良善ナルヲ庶希セハ、必ス之ヲ別種ノ法院ニ委托シ、且ツ別種特別ノ審理規律ヲ設ケ、之ニ由テ審理セシムルヲ最要トス、佛國ノ政務法ハ、頗ル完備シ、且ツ其規則明亮確實ナルコト、大イニ他各國ニ超越ス、蓋シ政務法ヲ司レル法院ノ編制、殊ニ宜シキヲ得ルカ爲メナリ、方今獨乙各國ノ如キハ、政務官直ニ此法ヲ司ルカ故ニ、公權ヲ有スル會社、及ヒ私人ヲ保護スルコト、全ク十分ナラス、且ツ動モスレハ、政務官私意ヲ以テ、處分スル等ノ弊害アリ、○然ルニ、若シ元來私法ノミヲ司レル訴訟法士ヲシテ、兼テ政務法ヲ司ラシムレハ、必ス二個ノ弊害ヲ生スヘシ、何者、此法士ハ、政務法ニ係レル事ノ實ニ公事ナル所以ニ注思セスシテ、動モスレハ、徒ニ私法ノ規律ヲ遵守シ、誤リテ公事ヲ害シ、或ハ此法士、政務法事務ニ於テ、必要ナル自由ノ思慮考按ヲ取テ、遂ニ之ヲ其本務ナル訴訟事務上ニ移シ、以テ訴訟事務ヲ害スルノ患ヒアレハナリ、㊀

㊀（按）訴訟審理ノ如キハ、偏ニ法ヲノミ、遵守スヘキコト當然ナレモ、政務法ニ係レル審理ニ至リテハ、素ト法ヲノミ、遵守スヘキニアラス、必ス其事ノ便益ナルト否トヲモ、併セテ注思セサル可ラス、故ニ此審理ヲ掌レル法士ニハ、必ス自由ニ思慮考按スルヲ許スコト、甚タ緊要ナリ、然ルニ訴訟法士ヲシテ、政務法ニ係レル審理ヲモ兼掌セシムルトキハ、自ラ之ニ習慣シテ、知ラス覺ヘス、訴訟審理上ニモ、亦自由ノ思慮考按ヲ施ノ恐レナキ能ハサルナリ、

政務法院（ヘルワルツングスゲリヒト、）ノ編制ニ就テモ、其法ニ通曉セル官吏ト、及ヒ民間ノ私人トヲ合スルトキハ、大イニ益アリ、殊ニ初等法院（按）下等ナリ、）ニ於テハ、最モ然リトス、佛國ニ於テハ、プレヘクト（按）即チ官吏ナリ、）ナル者、此法院ノ首領ニシテ、民間ノ私人數輩、プレヘクツールラート（按）商議者ナリ、）トナリテ之ニ列ス、又大公爵國、（ゴローススヘルツォグツーム、）ナルバーデンニ於テハ、官吏ナルベチルクサムトマント、民間ノ私人ナルベチルクスラート（按）即チ商議者ナリ、）ト相合シテ、政務法事務ヲ掌ル、○但シ上等法院ノ如キハ、佛國ニ於テハ、議政官（スターツラート（按）卷之七第六款ニ詳ナリ、）ノ分課ヲ以テ、之ニ充テ、又バーテンニ於テハ、別ニ一種ノ政務法院（按）即チ上等ナリ、）ヲ設置ス、

第六款　司法ノ疆域（ギー（グレンツ、デル、ゲリヒツバールカイト、）○政務法ニ引スル爭論、（レヘルワルツングスストライチグカイト、）

近今ニ及ヒテハ、政府ト法院ヲ區分シテ、法院ハ政府ノ管內ニ歸セサルヲ以テ、良制度ト爲シ、且政府自由ニ、其能力ヲ及ホス所ノ區域ト、法院ノ其務メヲ施設スヘキ區域トヲ、嚴ニ分畫スルヲ甚タ切要ナリトスルニ至レリ、然ルニ太古及ヒ中古ニ於テハ、此分畫ヲ立ルコトノ緊要ナル所以ヲ、十分ニ悟得セザリシカ故ニ、太古ニ於テハ、政令ト司法ヲ合併シテ、全ク一個ノ者トナシ、又中古ニ於

テハ、政府ヲ以テ、適ニ法院ト同一ナル者ノ如クナセリ、〇但シ今時ニ於テモ、此ノ如キ分畫ヲ為スコト決シテ容易ナリト謂フ可ラス、蓋シ政府ト法院ノ區域ヲ綿密ニ分畫セント欲スルニ方リテ、政府ニ屬シテ可ナルヤ、將法院ニ屬シテ可ナルヘキヤ、儘決シ難キ部分アリ、是故ニ其區域ノ分線ヲ畫スル、人々皆異ニシテ、甲ハ此處ニ於テシ、乙ハ彼處ニ於テシ、丙ハ又他處ニ於テシ、其他人々學術業務ノ相異ナルニ隨テ、分畫ノ論更ニ大イニ異ナリ、是ヲ以テ法院ノ徒ト、政府ノ徒ト、其論全ク一致スルハ甚タ容易ナラス、〇法院ノ徒ノ所見ハ特ニ一個人（インギヒヅーム、〔按〕即チ各個ノ人ヲ指シ云ナリ、）ノ權利、（〔按〕即チ私法ニ屬スル權利也、）ヲ主要トナスカ故ニ、苟クモ私法ヲ侵犯スル處分、若クハ論説アルヲ知ルトキハ、則チ直ニ私權利ヲ損害スルト視做シ、必ス常ニ之ヲ保護セサル可ラスト為ス、然ルニ政府ノ徒ハ、之ニ反シテ特ニ國家ト、及ヒ國家ノ權利トニ著意シ、實ニ公衆ノ安寧ヲ增益スルノ事ニ至テハ、一モ遺策ナク、悉ク之ヲ遂ケント欲ス、故ニ一個人アリテ、苟クモ其權利ヲ主張シ、政府ノ命令ニ抗スルトキ、及ヒ法院亦此一個人ノ權利ヲ保護セント欲スルトキハ、乃チ直ニ斥シ、以テ國家ノ威嚴ヲ侮瀆シ、其權力ヲ阻擱スルノ所行ト視做シ、常ニ嚴ニ之ヲ禁セント欲ス、〇又法院ノ徒ノ通見ハ、凡ソ法ニ係レル諸爭訟ハ、全ク法院ノ裁斷ニ屬スヘキ者ニシテ、而シテ政務官ノ裁斷ニ屬スヘキ爭訟ハ、罕レニ之レアリト為ス、是ヲ以テ此徒動モスレハ、一個人ノ縱ニ政權ニ抗爭シテ、其施行ヲ阻擱シ、及ヒ此權ノ區域ヲ減縮セント欲スルノ非理ニ屬スル所以ヲ忘失シ、及ヒ政府ノ區域モ、亦法院ノ區域ノ如ク、常ニ確定スル者ニシテ、此區域ハ議論生シテ、而後ニ始メテ生スル者ニアラサル所以ヲモ忘失ス、然ルニ政府ノ徒ハ、之ニ反シテ、常ニ謂ラク、苟モ國家ニ關セルコトハ、政務官獨リ專ラ之ヲ裁斷スヘキコト、固ヨリ當然ニシテ、唯罕レニ之ヲ法院ニ托スルコトアルノミ

〇以上諸論皆非ナリ、凡ソ法院及ヒ政府ノ裁斷共ニ、必ス常ニ確定スル所ノ區域アリテ、各之ヲ確守スヘキ者ナルカ故ニ、互ヒニ他ノ職掌ヲ以テ、唯罕レニ之アリトナスカ如キハ、甚タ不可ナリ、元來政府ト法院ト、相岐分スル所以ノ理勢ニ注意シ、及ヒ其本性ノ全ク相異ナル所以ノ理趣ニ著眼シテ熟思スルトキハ、其區域相分カル、所以ノ理モ、亦當サニ明亮ナルヘシ、佛國ニ於テハ一千七百八

十九年（寛政元年）顚覆起ルニ方リテ、法院ノ掌ルヘキ裁斷ト、政務官ノ掌ルヘキ裁斷トヲ以テ、全ク相分割シタリ、此國ハ從來司法議院（ゲリヒト[illegible]ヘス、パルラメント、）ナル者、政務官ノ掌ルヘキ裁斷ニ參預スルノ制アリシカ、此顚覆ノ際ニ至リ、國家從來ノ制度ヲ全ク破壞シ、更ニ之ヲ一新スルヲ以テ至急ノ務メトナシ、加之、公衆ノ安寧ヲ謀ルヲ以テ至高ノ法トスルノ論、更ニ其間ニ生スルニ隨ヒ、此制ヲ以テ、愈有害ノ者トナスニ至レリ、是ニ於テ顚覆黨ノ暴威ヲ以テ、法院ノ過强權ヲ挫折スルノ勢力非常ニ增加シ、遂ニ一千七百九十年（寛政二年）ニ於テ、左ノ憲法ヲ示令セリ、曰ク「政務ノ處分、縱令ヒ如何ナルモ、法士敢テ之ヲ障碍スルヲ許サス、且ツ政務官吏ノ奉務、縱令ヒ如何ナルモ、決シテ之ヲ法院ニ召スヲ許サス」ト、〇是ニ於テ許多ノ獄訟ヲ舉テ、政務官ノ裁斷ニ歸シ、及ヒ實ニ法院ノ管轄ニ屬スヘキコトヲモ、之ヲ法院ヨリ奪ヒ、以テ政務官ノ裁斷ニ托スルニ至レリ、且ツ那破倫（〔按〕第一世ナリ、）亦法院ヲ以テ、政令ノ大障碍タル者トシ、愈法院ノ權力ヲ減損シ、以テ政務官ノ權力ヲ增大セシカ故ニ、政務官ノ掌ル裁斷ノ區域、遂ニ頗ル寛宏トナレリ、〇然ルニ獨乙ニ於テハ其法學ノ旨、殊ニ私權利ヲ敬重スルヲ主ト為スカ故ニ、憲法ノ制立、及ヒ實地ノ處分共ニ、其為ス所、全ク佛國ト相反セリ、而シテ人民ノ權利、及ヒ其自由ノ權ハ、法院ノ管轄ニ屬セシムルトキハ、大ニ堅確ヲ得ルカ故ニ、愈法院ノ權力ヲ盛大ニ為スニ至レリ、蓋シ良好ノ處置ト云フ可シ、去レトモ此事又甚タシキニ過キ、實ニ國家ノ權ヲ以テ、裁斷セサル可ラサル事件ヲモ、併セテ法院ノ管轄ニ歸シケレハ、遂ニ大イニ政府ノ權ヲ減削スルニ至レリ、是レ即チ法院ノ權ノ微弱トナルヲ矯メント欲シテ、遂ニ又政府ノ權ヲ屈撓セシメシナリ、

凡ソ政府ハ公衆ノ安寧ヲ保持シ、及ヒ之ヲ增長スルヲ以テ、其主務トナシ、法院ハ國內一個人（私人）ノ上ニ在テ、國家ノ正義公直ノ旨ヲ施行スルヲ以テ、其主務ト為ス者ナリ、是故ニ政府ノ議判指令ハ、其旨常ニ國家公衆ノ為メニスルヲ歸ト為シ、法院ハ殊ニ私人ノ私權利ニ屬スル者（私法）ヲ保護シ、及ヒ不正ノ所行ヲ為セル一個人アルニ方リテハ、必ス之ヲ刑シ、以テ國家ノ正義公直ノ旨ヲ著ス（刑法）ヲ以テ本旨ト為ス、故ニ法院ノ職掌ハ、必ス私人ニ對向スル者ナリ、今更ニ他ノ語言ヲ

以テ、政府ノ職掌ト、法院ノ職掌ト相異ナル要旨ヲ述ヘシ、凡ソ國家ノ法ニ係レルコハ、政府宜シク之ヲ掌ル可ク、又私人ノ法ニ係レルコハ、法院宜シク之ヲ掌ル可シ、○國家ノ法ニ係レルコハ、必ス公衆ノ安寧ニ著意スルノ緊要ナル所以ヲ失フ可ラス、從來ノ法ハ、通例唯政令ノ規律限制ナルノミ、故ニ決シテ其政令ノ精神ト稱スルニ足ラス、〔按〕法ハ唯規律限制ナルノミ、故ニ唯法ニ由ルモ、決シテ公衆ノ安寧ヲ謀ルニ足ラスト云フノ意歟、又私人ノ權利ハ、偏ニ正義公直ノ旨ニ由テ、判定スルヲ貴フ、若シ此權利ノ判定ニ就テ、兼テ亦公衆ノ安寧ニ著意スル片ハ、却テ害アリ（〔按〕公衆ノ安寧ニ著意スル片ハ、縱令ヒ決シテ正義公直ヲ傷ハサル所行モ、或ハ有罪ト爲サヽル可ラサルコアリ、故ニ害アリト云フナリ、）是レ即チ眞誠ナル國法（〔按〕謂ク國法ト云フ片ハ、政務法、刑法「亦其中ニ在リ雖モ、眞誠ノ國法ト云フ片ハ、眞誠ナル政務法、及ヒ刑法ヲ除クナリ「）ノ性ト、私法、刑法ノ性ト「全ク相異ナル所以ナリ、○唯眞誠ナル政務法「第五款ヲ參看ス可シ、〔按〕第五款〔己〕符ニ見ユ（即チ狭義ノ政務法ト云フ者ニ同シ）ノ如キハ、私刑兩法ノ中間ニ位シテ、此兩區域ニ關渉スル者ナリ、何者、公法（〔按〕則チ政務法ヲ云フ）ト、及ヒ公衆ノ安寧トニ、兼テ著眼スルコハ、一個人ノ身上ニ在テモ、決シテ矛盾スル所ナク、幷ニ公衆ノ爲メニモ、亦決シテ害ナキカ故ニ「政務法ノ判定ニ就テハ、先ツ規律、憲法（〔按〕私法及ヒ刑法ヲ云フナリ）ニ著意シ、而シテ後公衆ノ安寧ニ著意スルヲ以テ、甚タ緊要トナセハナリ、（〔按〕是レ即チ政務法ノ國法及ヒ私法「刑法ノ中間ニ位スル所以ナリ）

前條論スル所ノ原則ヨリ、左ニ擧クル數件ノ規律ヲ生ス、

〔第一〕國家ノ高尊ナル權利（ホーハイツレヒト）ハ、決シテ法院ノ管内ニ屬スル者ニアラス、故ニ高尊權利ニ係レル爭論ノ如キ、凡ソ其當然ノ區域内ニ屬スル者ハ「必ス政務官之ヲ裁斷スルノ權アリ、例ヘハ警保權、兵權及ヒ其他諸權柄ノ如キ、其當然ノ區域内ニ於テハ、決シテ法院ニ屬スルコナシ「故ニ法院ハ止タ一個人ニ對シテハ、能ク其權ヲ施行スト雖モ、以上諸權柄ニ對シ、決シテ其大權ヲ施行スル能ハサルナリ、○是故ニ政府ハ其政權ヲ施行スルニ於テ、決シテ法院ノ權威ノ爲メニ、

阻擱セラルヽ者ニアラス、政府ノ指令スル事ノ正ト不正ト「及ヒ要ト不要ト「或ハ其處分ノ公ト不公ト「及ヒ當ト不當トニ至テハ「政府自ラ之ヲ裁定スルコト當然ナル可ク、法院モ亦其職掌區域内ノ事ニ於テハ、自ラ之ヲ裁定スルコ「全ク政府ニ異ナラサルヘシ、○國家ノ諸權柄ニ係レル爭論アルニ方リテ「一個人若シ此制度（〔按〕政府決シテ法院ノ管下ニ屬セス、法院亦、政府ノ羈靡スル所タラサル制度ヲ云フ、）ヲ拒ムカ爲メニ、法院遂ニ警保權、及ヒ兵權ノ處分ヲ阻擱スルニ至ルコアル片ハ「政府ハ唯其當然ノ區域内ニ於テスラ、尙ホ法院ノ管下ニ在ルカ如クナリテ、其權力之レカ爲メニ減削セラレ、殆ト其要務ヲ施ス能ハサルニ至ルハ必然ナリ「

〔甲〕然ルニ此常法外ノ事、復緊切トナルコアリ、例ヘハ某爭論ハ法院ノ裁斷スヘキ所ナルヤ、若クハ何レノ法院ノ裁斷ニ任スヘキヤ、之ヲ判決スルハ、全ク國法ニ係レル處分トスヘシ「決シテ私法ニ係レル處分ト爲ス可ラス、何者、此ノ如キ定決ハ「全ク國憲ニ由ルヲ以テナリ「○但シ法院若シ獨立ノ權アラサレハ「國家ノ正義公直ノ旨ヲ司ル、甚タ能クシ難キヲ以テ、獨リ政府ノ手ヲ假ラス、自己ノ職掌區域ヲ確定シ「而シテ此區域内ニ於テハ「十分ニ自己ノ權力ヲ用フルコ、甚タ緊要ナリ、是故ニ此二權柄（〔按〕政府ト法院トヲ云フ）各自己ノ意ニ隨テ「其區域ヲ請定スルノ權力ヲ有ス、是故ニ時アリテハ、政府ト法院ト、其職掌區域ニ就テ、互ヒニ爭フコアリ、今一事起ルニ方リ「政府ハ以爲ヘラク、此事ニ就テ緊要ナル指令ヲ施シ、且ツ此レヨリ起レル爭論ヲ裁斷スルハ「全ク自己ノ本務ナリト、然ルニ法院ハ又以爲ヘラク「此爭論ハ己レ審理ノ規律ヲ以テ、判定ス可キコ當然ナリト、政府法院斯互ヒニ其職掌ニ就テ相爭フコアリ、之ヲ職掌ニ係レル陽爭（ポシチーヘ、コムペテンツコンフリクト）ト云フ、或ハ又一事裁斷スヘキコ起ルニ方リ、政府法院各其裁斷ヲ以テ、當サニ自己ノ掌ルヘキ者ニアラストシ、互ヒニ相推諉スルコアリ、之ヲ職掌ニ係レル陰爭（ネガチーヘ、コムペテンツコンフリクト）ト云フ「

然ルニ政府法院ハ、倶ニ獨立自行スル者ナルカ故ニ、互ヒニ此ノ如キ爭論ヲ裁判スルノ權ナシ、是故ニ國憲ニ隨テ、此爭論ヲ裁判セント欲セハ、必ス別種ノ一大權アリテ、之ニ臨マサル可ラス、而シ

テ此一大權ハ、必ス此二權ノ上ニ位シテ、絶エテ拘制セラレサル者ニアラサレハ決シテ能ハス「今
若シ此一大權ヲ以テ、立法府ニ托スレハ、其ノ益アルカ如シト雖モ、元來此類ノ裁判ハ「後來ノ定則
トナルヘキ者ヲ、設定スルニアラサルカ故ニ「當然立法府ノ掌ルヘキニアラス、何者、通例立法府
ハ、時ニ臨ミ「事ニ應シテ、實際ニ切要ナルヿヲ處分スヘキ者ニアラス、且ツ此ノ如キ爭論ニ至テハ
多クハ事態錯綜セル者ナレハ、能ク其情實ヲ探索シテ、判定ヲ施スカ如キハ、決シテ立法府大會
ノ爲シ得可キ所ニアラサレハナリ、○國家元首ハ、諸國權相聚合會同スル所ノ尖頭ナルヲ以テ、此
ノ如キ裁斷ヲ掌ルヘキヿ、固ヨリ當然ナリト云フ可シ、去レ𪜈若シミニステルヲシテ、之ニ參預セシ
ムル片ハ、ミニステルハ則チ政府ノ長官ナルヲ以テ、現ニ相爭競スル兩權ノ一ナル政府ヲシテ、其
爭論ヲ裁斷セシムルノ理ナリ「而シテ政府ノ權「此ノ如ク偏重トナル片ハ、法院有スル所ノ獨立自行
ノ權、幷ニ決シテ拘制セラレサル者、宜ク裁斷ス可シト云フノ規律、共ニ全ク有名無實ニ歸スル
ニ至ル、○是故ニミニステルヲシテ「國家元首ノ裁斷ニ參預セシムル規律ヲ用ヒス、或ハ議政官「
此官ハ能ク事ニ老練スル者ニシテ、且ツ日常ノ政令ニ關係セサル者ナルカ故ニ「裁斷上ニ於テ、能
ク公正至當ノ處分ヲ爲スニ足ル必然ナリ」ヲシテ、元首ノ裁斷ヲ匡輔セシメ或ハ政官ト法士トヲ
合シテ「一局ヲ設ケ、以テ元首ノ裁斷ヲ匡輔セシムル片ハ、政府ノ權偏重トナリテ、遂ニ法院ノ獨
立自行ヲ妨害スル等ノ患ヒアル可ラス、

「乙」ヒスクス「按國家ノ所有」ノ事ヨリ爭訟起ルニ方リテ、法院之ヲ裁斷スルノ法モ、亦常法外
ニ屬スルカ如シ、「按前「第一」ニ國家ノ高尊ナル權利ハ、決シテ法院ノ
管轄ニ屬セスト云々ノ常法ニ戾レルカ如シト云フノ意」去レ𪜈國家ノ所有ハ、素ト
私法ニ屬セル者ニシテ「絶エテ公法ニ係レル者ニアラサレハ、此法決シテ實ニ常法外ニ屬スト云フ
可ラス、凡ソ國家タリ𪜈、其所有ニ就テ見ル片ハ、全ク一個ノ私人ト相異ナラス「國家果シテ一個ノ私
人タル片ハ、眞ノ私人ト同シク、法院ノ管下ニ屬シテ、其裁斷ヲ受クヘキヿ、固ヨリ當然ニシテ、決
シテ法院ト相並立スルノ權ナシ」
但シ國家所有ニ係レル權利ハ、概シテヒスクスノ法「私法」ヲ以テ、論スヘシト云フニハアラス「國

家其臣民ヨリ取ル所ノ租税ノ如キニ至テハ、實ニ私人ノ所有ヨリ出ル者ニシテ、全ク銭財ニ係ル
カ故ニ、此公權利「按」即チ租税ヲ取ルノ權利」ノ如キハ「通常ノ諸公權利ト異ナル所アルハ、固ヨ
リ辨ヲ俟タス、去レ𪜈國家其臣民ヨリ租税ヲ取ルノ權利ハ債主ノ負債者ニ對セル私權利トハ、全ク
異ニシテ國家實ニ臣民ノ上ニ在テ、施行スル所ノ權柄ナリ、是故ニ租税收取ノヿニ就テハ、國家
ハ全ク上ニ在リテ、十分ニ臣民ヲ馭スルノ權利ヲ握ル「決シテ臣民ト並立シ、其對手トナリテ「法
院ノ裁判ヲ受クルノ理アル可ラス、○是故ニ或ハ租税收取ノ規律公正至當ナリヤ否「或ハ臣民中
其品位宜シク納税ノ義務ヲ負フヘキヤ否、或ハ私人所有ノ中ニ就テ、此種類ニ租税ヲ命スヘキヤ、
將彼種類ニ租税ヲ命スヘキヤ等ノヿ、若シ決定シカタキ片ニ臨ミ、之ヲ裁判スルハ、決シテ私法ノ
事務ニアラス「全ク公法ノ事務ナリ、故ニ政務官宜ク之ヲ裁判スヘキ、固ヨリ當然ト云フ可シ「「政
務法官之ヲ裁判スレハ、更ニ良シトス、」○政府或ハ取税ノ權利ヲ恣行シテ、虐政ヲ施シ遂ニ臣民
ヲ困シムルノ恐レアルヲ以テ「租税ノ規律ヲ設定スルノ初メ、預メギューリ「按」即チ誓士、若クハ
民間ニ於テ、其事ニ練熟セル者ヲ選テ「共ニ之ヲ商議セシムレハ、則チ大イニ善シトス、
但シ又租税ニ係レル爭訟ト雖モ、或ハ又私法事務ニ屬シテ、其官ノ判定ニ從フヘキ者アリ、即チ其
爭訟租税ノ理、及ヒ其收取ノ規律ニ關係ナク、「即チ其爭訟、國家取税ノ權柄上ニ關セス、」唯一私人
ノ所有物上ニ就キ、實ニ租税ヲ命スルニ足ルヤ否ヲ、判決スルヿ緊要ナル片ニ於テハ、訴訟法士之
ヲ掌ルヿ當然ナリ、例ヘハ一私人或ハ自ラ論シテ「吾カ所有品ハ、一ツモ租税ヲ納ムヘキ品種ニア
ラスト云ヒ、或ハ吾レハ貧ウシテ「未タ租税ヲ納ムルニ足ルヘキ所有アラスト云ヒ、以テ納税ノ義
務ヲ免レント欲スル片ノ如キハ「其論私法ノ事ニ係ルヲ以テ、必ス法院ヲシテ之ヲ判決セシメサ
ル可ラサルナリ、○但シ或ハ私人縱ニ自論ヲ主張シ、以テ大ニ國家取税ノ權ヲ侮瀆スルニ至ルノ
恐レナキ能ハサルヲ以テ、必ス別ニ此事ヲ判決スルニ適當セル審理規律ヲ設立シ、以テ國家ノ取税
權ヲ保護スルハ、實ニ緊要ナリト雖モ、此等ノヿヨリ起レル爭訟ヲ判決スルハ、決シテ國法ニ屬
セサルヲ以テ「全ク法院ノ掌ルヘキヿ、固ヨリ當然ナリ、
「丙」又警保官其處分ヲ私法上ニ施シ、以テ私權利ノ自由ヲ限制スルヿアリ、但シ警保官ノ處分ヲ

爲スニ於テ、能ク憲法ニ遵フヤ否、或ハ其規律ヲ守ルヤ否、又ハ其處分ノ事理實ニ緊要ニシテ、且ツ公正ナリヤ否等ノヿハ、全ク國家ノ公權利ニ係レル事ニシテ、私法ニ屬セサルカ故ニ、是等ノヿヨリ起レル爭論ヲ判決スルハ、決シテ、法院ノ掌ル所ニアラスト雖モ、若シ警保官ノ處分スヘキ私事ニ就テ、爭論ノ起ルヿアル片、即チ例ヘハ警保官一個人ニ對シ、「汝ハ家主ナリ、汝宜シク汝カ屋舍內ニ於テ、火災ヲ生シ易キ物ハ、悉ク除去スヘシ、」ト云ヒ、或ハ「水ノ流通ヲ便ニスルヿニ注意スヘシ、」ト警ムルニ方リ、一個人敢テ警保官ノ指令ヲ承諾セサルニハアラサレ𪜈、其身元ト家主ナラサルノ故ヲ以テ、此指令ヲ遵奉セサルカ如キハ、全ク私法ニ屬セル爭論ト云フ可シ、故ニ此判決ハ必ス法院ノ掌カヘキ事件タル、固ヨリ當然ナリ、

〔丁〕私有ヲ收取シテ、國家ノ有トナスヿ（エキスプロプリアチオン、）ヨリ起レル爭論モ、私法上ニ關スル所アリ、

但シ此爭論ニ就テモ、國家ノ權ヲ以テ爲スヘキヿヨリ起レルモノハ、總テ政府ノ處決ニ屬スト雖モ、唯此收取ノ爲メニスル償金ノヿヨリ起レル爭論ハ、必ス法院ノ判決ニ屬スルナリ、（卷之二第二十六款ヲ參看ス可シ、）

〔第二〕國家ノ高尊權利ヲ私人ニ授與シテ、私人ノ權利トナセシヨリ、此權利乃チ純粹ノ公權利タル所以ヲ失ヒ、而シテ私權利ノ一トナレリ、是故ニ此權利ヲ授與セラレタル私人ト、他ノ一私人トノ際ニ、權利ノ爭論生スル片ハ、法院必ス之ヲ裁判スルヿ當然ナリ、○即チレガリテート〔按〕政府造幣、驛遞、證印等、其他諸種ノヿヲ掌ルノ特權ナリ、卷之十第三款ヲ參看スヘシヨリ出テヽ政府ニ其私權利トシテ、授托セラレタル諸種ノ權利、殊ニ此區域ニ屬ス、其他國家時アリ、一個人ニ特權ヲ授與シテ、一種ノ公義務ヲ赦免スルヿアリ、即チイム、ニテート、〔〔按〕兵事ニ役仕シ、或ハ職官ヲ奉務スル等ノ義務ヲ免カル、自由ヲ云〕及ヒ納稅ノ自由〔〔按〕納稅ノ義務ヲ免カル、自由ヲ云〕亦此區域ニ屬ス、中古レーヘンスシステム〔〔按〕封建ノ制ヲ云〕アリシ世ニ於テハ、總テ公權利ト私權利ヲ混淆セ

シカ故ニ、國家ノ高尊權利ヲ以テ、屢〻私人ニ授與スルヿ之レアリキ、然ルニ輓近ハ、大イニ此二權利ヲ分カチ、眞誠ノ私權利ヲ以テ、全ク私人ノ權利ト爲スヲ貴ヒ、而シテ總テ國家ノ高尊權利ニ係レルヿハ、終始國家ノ掌中ニ在リテ、私人ノ手ニ移傳セサルヲ貴フニ至レリ、是故ニ今時ハ此ノ如キ規律〔〔按〕國家ノ權利ヲ、私人ニ授與スルヲ云、〕ヲ用フルノ區域、大ニ減縮セリ、

〔第三〕眞誠國法ノ區域ハ、決シテ私法院ノ管轄ニ屬セサルカ如ク、私法ノ閫域ハ、又決シテ政府ノ管轄ニ屬セス、全ク私法院ノ管轄ニ屬スルナリ、凡ソ私法ノ區域ニ屬セルヿニ就テ、爭論起ルニ方リテハ、全ク正義公直ノ旨ニ由テ、之ヲ裁判ス可シ、決シテ、國家ノ意旨ヲ以テ、之ヲ裁判スルヲ許ス可ラス、何者、私法ノ事ハ、絕エテ國家ニ屬セス、唯私人ニ屬スル者ニシテ、國家ハ唯私人ヲシテ、其權利ヲ保有セシムルノ務メヲ負フノミナレハナリ、

素ト實ニ私法ニ屬スヘキヿ、明亮ナル者ト雖モ、時アリ疑惑ノ生スルヿアリ、宜シク考思セサル可ラス、即チ玆ニ一個人アリ、他人若クハ國家ヨリ償金ヲ取ルノ權利有テ、之ヲ要求スルカ如キハ、全ク、私法ニ屬スヘキコト、其理其事ニ於テ、全ク暸然タリ、敢テ辨ヲ費スヲ要セス、是故ニ之ヲ判定シテ、其曲直ヲ決スルハ、必ス私法院ノ掌ルヘキコト當然ナリ、○私人償金ヲ要求スルノ曲直ハ、判定ヲ施スニ於テ、最モ著意セサル可ラサル所ナリ、去レ𪜈法院此判定ヲ掌ルコト當然ナルヤ、將ハタ政府之ヲ掌リテ當然ナルヤト云ヘルコトニ就テ、議論ノ生スルコトナキニアラス、例ヘハ、政府私人ノ租稅ヲ徵スロ、或ハ權法ノ規律ニ由ラス、又警保官或ハ恣ニ私人ノ工業ヲ障碍シ、之ヲシテ損失ヲ蒙ラシムルヿアルヲ以テ、私人政府ニ要シテ其ヒスクス〔〔按〕政府ノ所有ナリ〕ヨリ償金ヲ取ラント欲スル片、若クハ一個人其身官吏ニ列スルヲ以テ、他ノ一個人ニ對シテ、不正ノ所行ヲナシ、以テ之ニ損害ヲ與フルカ故ニ、乙ノ一個人〔〔按〕損害ヲ受ケタル者〕甲ノ一個人〔〔按〕損害ヲ與ヘタル者、〕ニ對シ、償金ヲ要求スル片ノ如キ兩件アルニ方リテハ、之ヲ法院ノ判定ニ任スル當然ナルヘキヤ、將タ政府ノ判定ニ任スル當然ナルヘキヤ、或ハ此ノ如キ時ニ於テ、若シ法院ノ職域ヲ傷ハサラント欲シテ、專ラ之レカ爲メニ謀ル片ハ、自ラ政府ノ職域ニ害ナキ能ハサルニ非スヤ、或

ハ又此ノ如キ判定ヲ以テ、專ラ政府ノ職掌トナシ、法院ニ托セスシテ、全ク政府ニ托スルトキハ、凡ソ何等ノヿヲ以テ、定メテ法院ノ判定スヘキヿト為スヘキヤ、○凡ソ此ノ如キ諸論起ルトキハ、政府及ヒ法院ノ職域、遂ニ至當ヲ失ハントスルノ恐レアリ、何者、或ハ法士ノ議論ニ由テ、私人ノ為メニ謀リ、務メテ法院ノ職域ヲ寬濶ニナサント欲シ、或ハ憲法ヲ制立シ、或ハ議論ノ可否ヲ裁定シテ、當然法院ニ屬スヘキ職掌ヲモ侵奪スルニ至ルヿアレハナリ、

前條論スル所ノ如キハ、純乎タル私權利ト純乎タル公權利ト交互關係シ、宛カモ原因ト成果トノ如ナルカ故ニ、遂ニ此ノ如キ紛論生スルニ至ルナリ、去レ𪜈私權利ニ屬セルヿハ、法院必ス之ヲ裁判シ、公權利ニ屬セルヿハ、政府必ス之ヲ裁判スヘキヲ以テ當然ノ原則トナスヲ常ニ忘失セスメ、之ニ謹遵スルトキハ此論ヲ決スル、當ニ甚タ難キニアラス、凡私人ヒスクスヨリ償金ヲ取ラントヲ要スルトキハ、ヒスクスハ必ス私法院ノ裁判ヲ受クヘキヿ固ヨリ當然ナリ、（按）ヒスクス、ハ國家ニ屬スル物ト雖モ、唯是レ國家ノ私有ニシテ殆ト私人ノ所有ト相同シケレハナリ、縱令ヒ私人ヒスクスノ為メニ損失ヲ受ケシ時ニアラスト雖モ亦然リトス、其他一私人、他ノ私人ヨリ償金ヲ要求セラルヽトキハ、亦必ス私法院ノ裁判ヲ受クヘキヿ、固ヨリ當然ナリ、縱令ヒ一私人官吏ニ列スルトキト雖モ亦然リ、○但シ私人訴訟ヲ以テ償金ヲ要求セント欲スル時ト雖モ、若シ被告者ノ所行、故サラニ私人ノ私權利ヲ毀損セシニアラス、被告者唯政府ノ官吏ナルヲ以テ、特ニ私人ニ對シテ、其職官當然ノ權柄（（按）職官ニ就テ、授與セラレシ權柄ヲ云フ）ヲ施行セシヿ、審理ノ時ニ於テ、明瞭トナルトキハ、（是等ノヿハ通例容易ニ明瞭トナルナリ、）決シテ原告者ニ償金ヲ與フルノ理ナキヲ以テ、此ノ如キ訴訟ハ、總テ之ヲ黜ク可シ、然ルニ若シ官吏或ハ誤リ、或ハ故ラニ其職權ノ區域ヲ超過シテ、私人ノ私權利ヲ毀損セシヿ、審理ニ於テ明瞭トナルトキハ、私法院務メテ原告者ヲ保護シ、其毀損セラレタル私權利ヲ回復セシメ而シテ原告者ヲシテ、被告者ヨリ相當ノ償金ヲ取ラシムルノ權利ヲ有シ、且ツ其義務ヲ負フナリ、凡ソ此ノ如キトキニ臨ミテハ、法士必ス唯私法ニ就キ、及ヒ私權ニ依テ判定スルナリ、○然ルニ又時トシテ一私人ノ所行ヲ判定シテ、

或ハ私法ニ背戾セル所行ト為ス者アリ、或ハ唯公權利ノ施行（（按）私法ニ背戾セル所行ニアラス、實ニ公權利ノ施行ト為スナリ）トナス者アリテ、其判定二種ニ分カルヽヿナキニアラス、而シテ此ノ如キヿヲ判決スルハ、固ヨリ政府ノ職掌ナレハ、其判決ノ權、宜シク政府ノ掌中ニ有ル可シ、即チ是レ法院ノ職權ハ、必ス法院ノ掌中ニ有ル可キト、全ク同一理ナリ、○此ノ如キ爭論ハ（兩私人ノ間ニ起ラス、却テ政府ト法院トノ間ニ起ル者ナレハ、必ス爭論審理（（按）爭論ノ當否ヲ審理スルヲ云フ）ヲ以テ、之ヲ裁判ス可シ、去レ𪜈此裁判タルヤ、常理ニ於テハ決シテ難キニアラス、凡ソ此ノ如キヿヲ裁判スルハ、必ス政府ノ職掌ナレハ、政務官、若クハ政務法院ヲシテ、之ヲ掌ラシムヘシ、私法院ハ此裁判ニ預ルヲ得サル、固ヨリ當然ナリ、但シ時アリ政務官ノ專恣ヲ預防センカ為メニ、憲法ヲ以テ常法外ノ處分ヲ為スヿアルハ、此限ニアラストス、

〔第四〕國家ニ屬セル權利ハ、國家之ヲ施行スルヲ以テ通則トス、去レ𪜈其中ニ就テ、一個人ニ屬セル公權利、及ヒ一個人ノ意ニ任セテ行止スヘキ公權利（即チ兼テ公義務タラサル者ヲ云フ）ノ如キハ、此通則ヲ以テ概論ス可ラサル者ナリ、故ニ此類ノ公權利ハ、次第ニ公權利ニ近似スル者ト云フ可シ、

例ヘハ第一類ノ公權利（（按）前條一個人ニ屬セル公權利ト云フ者、）トハ、貴族ノ權利（パイルスレヒト）兩院議員ノ權利、兵役ニ奉事スルノ義務、一種ノ職官ヲ奉承スヘキ義務（按）諸職官中ニ就テ、臣民必ス奉セサル可ラサル者アリ、即チ邑宦、或ハ之ニ類スル官等ヲ云フ、ヲ云ヒ、（按）是等ハ皆私人ニ屬スル公權利ナリ、又第二類ノ公權利（按）前條一個人ノ意ニ任セテ行止スヘキ公權利トハ、元選者、ウールエーレル（按）立法府ノ議員ヲ選擇スルニ、兩回選擇ノ法ヲ用フル國アリ、其第一回ノ選擇ヲ掌ル者ヲ、元選者ト云フ、ノ發言權利、スチムレヒト（按）選擇ノ商議ニ發言シテ、其意ヲ述フル權利ナリ、國家ノ官吏ニ選擇セラルヽノ權利、新聞ヲ公布スルノ權利、公事ノ集會ニ列スルノ權利等是レナリ、（按）是等亦公權利ナレ𪜈、兼テ公義務タラサルヲ以テ、其行止本人ノ意ニ任セテ妨ケナシ、○以上諸

權利ハ、純乎タル公權利ノ性ヲ得ルニ從テ、其國權ニ屬スルヿ亦愈〻嚴ナリ、然ルニ此諸權利、若シ私權利ニ近似スル𪜈ハ、法院之ヲ保護スヘキヿ、最モ當然ナルノミナラス、且ツ選擇ノ自由、(按)議員ヲ選擇スルノ自由ト云フ義ニシテ、選擇者タル者、絕エテ政府ノ爲メニ壓制セラルヽヿナク、唯衆議ニ隨テ、自由ニ選擇シ得ルヲ云フ、及ヒ出版ノ自由ヲ保全スルカ如キニ至テハ、必ス法院ノ保護ナカル可ラス、但シ政務法院專ラ此諸權利ヲ保護スルハ、更ニ良法トナス可シ、

(第五)儘又公私相混淆スル制度、及ヒ法アリ、此制度ト法トハ、例ヘハ猶其一足ヲ私法ノ區域ニ留メ他ノ一足ヲ國法ノ區域ニ入ルヽカ如ク相似タリ、是ヲ以テ、此制度及ヒ法タルヤ、政府ノ管轄ニ屬スル部分ト、及ヒ法院ノ管轄ニ屬スル部分トヲ以テ、綿密ニ區別スルヿ、殆ト難シ、今特ニ左ノ諸件ニ擧ル者、即チ是レナリ、

(甲)邑會、(ゲマインデ、)及ヒ公事ノ會社ニ於テ、此ノ如キ制度及ヒ法殊ニ多シ、而シテ公事會社ノ如キハ、古時ハ全ク私法ニ屬スル者ナリシカ、近今ハ大イニ公法ニ係レル者トナレリ、凡ソ邑ノ所有權利、或ハ促償、負債ノヿヨリ、生スル爭論ノ如キハ、私法ニ係レル者ナルカ故ニ、邑亦法院ノ保護ヲ受クル權利ヲ有スルヿ、又他ノ一私人ニ異ナラス、而シテ此ノ如キ爭論、邑ト一個人トノ際ニ起リ、或ヘ邑ト國家トノ際ニ起ルニ論ナク、此理ハ總テ相異ナルヿナシ、○但シ邑ノ所有ハ元來全ク公衆利益ノ爲メニ備フル者ナルカ故ニ、政府其處分ヲ指令スルノ理ニ於テモ、純乎タル私事ヲ指令スルノ理トハ全ク相異ナリ、故ニ政府公衆安寧ニ著意シ其權ヲ以テ、之カ處分ヲ指令ス可ク、且ツ若シ此所有ヨリ爭論ノ起ルアル𪜈ハ儘又其權ヲ以テ之ヲ裁斷スルヿアルヘシ、○二邑若シ自己ノ權力ノ區域、或ハ道路橋梁ヲ修繕スヘキ義務等ニ就テ互ニ爭論ヲ生シタル𪜈ノ如キ、之ヲ審理裁斷スルハ、政務官ノ職掌ナリ、而シテ若シ政務法院ヲシテ之ヲ裁判セシムレハ、更ニ良好トス、但シ道路橋梁修繕ノヿ、專ラ私人ノ掌ル者ニ係レハ、乃チ此例ニアラス、其他一邑內、若クハ一會社內ノ衆員ト寡員ト、事ノ可否ニ就テ、爭論ノ生スルニ方リテハ、其事當然國家ノ管轄ニ屬スル者ナレハ、政務官若クハ政務法院、宜シク之ヲ裁判スヘク、其事當然私法ニ屬スル者ナレハ、私法院宜シク之ヲ裁判ス可シ、○公事會社ノ編制、幷ニ創立、解散等ハ勿論、縱令ヒ純乎タル私會社ノ編制、創立、解散等ト雖モ、其事公衆ノ爲メニ利害アルヲ顧思スルヿ必要ナレハ、則チ必ス政務官若クハ政務法院ノ管轄ニ屬スヘシ、例ヘハ證書會社、(按)卷之六第十八款、臨監ノ章ニ出ツ、ノ如キハ、縱令ヒ私會社ナリト雖モ、必ス其證書ノ實ニ確信ナルト否トヲ顧思スルヿ緊要ニシテ、且ツ又獨リ政務官若クハ政務法官能ク之ヲ顧思スルニ堪ユ可シ、但シ私會社ニ於テ、此ノ如キヿノ緊要トナルハ、甚タ罕レナルノミ、

(乙)身分ノ關係(スタンデスヘルヘルトニス、)モ、亦公私ノ二法ニ分屬ス、例ヘハ出生ノ兒童ニ就テ、爭訟起ルニ方リ、其兒正出(按)公然婚娶セル夫婦ノ間ニ生ルヽヲ云、ナリヤ、將タ私生(按)私通セル男女ノ間ニ生ルヽヲ云、ナリヤヲ審判シ、及ヒ父ノ子ニ於ケル關係、親族互相ノ關係、幷ニ其族黨、(按)例ヘハ父族、母族、伯叔、甥姪等ノ諸類ヲ云、及ヒ其等階(按)例ヘハ本邦五等親ノ如ク、親族中ニ等階ノ區別アリ、等ニ於テ起レル爭訟ノ類ハ、實ニ私法ニ屬スルヿナルヲ以テ、法院ノ掌ルヘキヿ、固ヨリ當然ナリト雖モ、彼ノインヂゲナート、(按)各人出生ノ地ニ於テ得ル權利ヲ云、國民權利(スターツビュルゲルレヒト、(按)國事ニ關スルノ權利ヲ云、)及ヒ邑民權利(ゲマインデビュルゲルレヒト、(按)邑事ニ關スルノ權利ヲ云、)ニ就テ起レル爭訟ノ如キハ、公法ニ屬スル者ナルカ故ニ、必ス政務官若クハ政務法院ヲシテ、之ヲ掌ラシムルヲ良法ト爲ス、但シ此爭訟若シ唯出生ノ正私(按)正出私生ヲ云、ヨリ起レル爭訟ノ餘事ナル𪜈ハ、此例ニアラス、○國民ノ身分、專ラ私法ニ屬スル者ナル𪜈ハ、(中古ノ世ハ殊ニ此ノ如クナリキ、)某私人ハ當ニ此身分ニ屬ス可シト云ヒ、或ハ當サニ彼身分ニ屬ス可シト云フ爭訟ハ、從來ノ制度ニ由テ、必ス法院之ヲ裁判スルヲ掌ル、去レ𪜈身分若シ專ラ國憲ニ關シ、公法ニ屬スル者タル𪜈ハ身分如何ノヿヨリ起レル爭訟ハ、必ス政務官若シクハ政務法院ノ裁判ニ屬スヘキヿ、固ヨリ當然ナリ、例ヘハ、商買ノ身分ハ、私法ニ關シテ法院ノ裁判ニ屬シ、貴族ハ、啻ニ門閥ノ平民ニ超ユルノミナラス、又國家政令ノ事ニモ參預スルヲ得ル國ニ於テハ、身分如何ヨリ起レル爭訟ハ、必ス政務官若クハ政務法院ノ裁判ニ屬スルナリ、

〔丙〕產業ニ係レル權利（ゲヱルベスペフーゲニス、）ハ產業ヲ營ムヨリ得ル者ナルカ故ニ、必ス私法ニ屬スル者ナリ、去レ𪜈儘公衆安寧ノ爲メニ謀リテ、私人ニ此權利ヲ與ヘタルトキニ於テ、若シ此權利ニ就テ裁判ヲ要スルヿアルトキハ、政務官若クハ政務法官之ヲ掌ル可シ、

〔丁〕後見ノ權利（ホールムンドシャフツレヒト、）及ヒ私法ニ屬スト雖モ、後見ノ務メハ、又公義務トナル者ナリ、是故ニ例ヘハ後見ヲ命シ、或ハ免スルヿ、後見人ニ某事務ヲ許可スルヿ、及ヒ保任ノ辨解ヲ爲サシムルヿ、幷ニ法（ハミリーンレヒト、）モ亦、公私二法ニ涉ル者ナリ、此權利ハ、元來親族政務官常規ニ從テ、後見人ヲ管督監察スル等ノ諸事ニ於テハ、决シテ唯正義公直ノ旨ヲ守ルノミヲ以テ、本旨ト爲ス可ラス、必ス又公衆ノ利害ニ著意スルヲ要ス、故ニ苟クモ法ノ區域ヲ超過スルハ許サスト雖モ、必ス倶ニ便益適宜ヲ旨トシテ、處分スルヲ眼目ト爲サヽル可ラス、〇是ヲ以テ近今ニ至リテハ、便益適宜ノ處分ハ、政務官ニ屬スル所ノ後見事務官（ホールムンドシャフツベヘルデ）ニ委托スルヿトナレリ、甚タ頁法ト稱ス可シ、

〔第六〕刑法ト、鑾保官ノ懲戒法ト、相異ナル所以ハ、既ニ上卷（卷之七第九款、）ニ於テ論說セリ、近今各國共ニ刑罰憲法（ズトラフゲセッツ、）ヲ以テ、此二法、（按）尋常ノ刑法ト懲戒法トヲ云、）ノ區別ヲ詳定セリ、

譯者曰、本卷首尾事理殊ニ了解シ易カラス、亹々思ヲ殫スト雖、尙恐ラクハ誤謬頗ル多カラン、他日間隙ヲ以テ、再ヒ訂正ヲ加フ可シ、讀者請フ之ヲ諒セヨ、

大井潤一　校

國法汎論卷之八下終

國法汎論卷之九上目錄

國家ノ敎育事務ニ就テ論ス

第一款　國家ト神道ノ關係

第二款

第一　一個人信仰自由ノ權ヲ保護スルヿ〇奉敎ノ自由

第三款　法ヲ以テ奉敎自由ノ權ヲ限制スルヿ

第四款

第二　國敎

國法汎論卷之九上

瑞士　イ、カ、ブルンチュリ著

加藤弘之譯

國家ノ教育事務ニ就テ論ス（ホン、デル、クルツールプレーゲ、デス、スターテス、）

第一款　國家ト神道ノ關係（ヘルヘルトニス、デス、スターテス、ツールレリギオン、）

レリギオン（〔按〕神道ノ原語、）ト、キルヘ（〔按〕教會ノ原語）ナヽ二語ノ意、或ハ互ヒニ混用スルヿアリト雖ドモ、其義元來全ク相異ナリ、レリギオンナル語ハ、神人合體ノ義ヲ徵シ、キルヘナル語ハ、信者等敬神ノ爲メニ相合同スル一團ヲ徵ス、○神道（〔按〕以下皆レリギオンヲ神道ト譯シ、キルヘヲ教會ト譯ス、）ナル者ハ、人ノ靈魂ヲシテ幽界中ニ於テ天神ト相合契セシメ、而シテ其感格ニ由テ、遂ニ完全具備ノ者タラシムルヲ以テ、其本性トナス、然ルニ教會ナル者ハ、信神ノ道ヲ行ヒ、及ヒ之ヲ清淨ニ爲スカ爲メニ立ル所ノ顯界上ノ會社ナリ、

太古ノ世ニ於テハ、未タ此緊要ナル區別ヲ明悟スルヿ能ハサリキ、太古草昧ノ民ハ、何レノ國ニ論ナク、人世ノ事ハ總テ一神及ヒ數神ノ管理ニ歸スル者ナリト思量セシカ故ニ、國家ノ理、及ヒ其法制等ニ至リ、一ツモ此心根ニ基資セサル者ハアラサリキ、是ヲ以テ草昧ノ世ニ於テハ、國家ノ主タル者ハ神ニシテ、神ニ代リテ、神意ヲ奉行スル者ハ、即チ教士ナリトセリ、之ヲ目シテ神主政體ト云フ、神主政體ハ、即チ太古草昧ノ世ノ初政體ナリ、

然ルニ後世ニ及ヒ國家ノ主タル者ハ、實ニ人ニテ神ニアラサルノ理ヲ悟リ、而シテ政權ヲ以テ、實ニ人主ニ寄托スルヿトナレリ、去レトモ神道ハ依然トシテ仍ホ國教（スターツレリギオン、）ナリキ、〔按〕國家神道ヲ掌ルノ制度ハ、仍ホ依然トシテ存セリト云フノ意、即チ祭政一致ナリ。○此時ニ當テ各國各個ノ神ヲ尊敬スルヿ、猶各個ノ制度憲法ヲ遵用スルカ如ク、而シテ他國ニ於テ尊敬スル所ノ神ニ至テハ、敢テ之ヲ尊敬スルノ意ナカリ

キ、加之、各國共ニ、一定ノ規律アリテ、其國神ヲ尊敬スルヲ以テ臣民ノ義務トナシ、而シテ若シ之ヲ尊敬セサル者アル片ハ、則チ之ヲ國家ノ威權ヲ瀆辱スル大罪人トシテ、刑ニ處シタリキ、○羅馬ノ侵掠ヲ被リタル各國ニ於テハ、其威力ニ强迫セラレ、皆羅馬ノ神ヲ尊敬セサル可ラサルコトナレリ、去レ圧敢テ其國固有ノ神ヲ廢除スルヲ要セス、併テ共ニ之ヲ尊敬スルヲ得シコ（猶羅馬ノ法制ト共ニ「其固有ノ法制ヲ併存スルヲ得レカ如シ、○是故ニ羅馬ノ巨大ナル版圖内ニハ、諸種ノ民種「諸種ノ神道互ヒニ雜居混同シテ「相容忍セリ、去レ圧一個人ノ爲メニハ、敢テ容忍スルコトナク、唯一民種ノ爲メニノミ「容忍シタリ、〔按〕一個人各異教ヲ奉スルハ許サス、唯一民種擧テ一異教ヲ奉スルハ、許シタリト云フノ意、○カピトリニシユ、ユピーテル（〔按〕羅馬ノ第一等ノ神ナリ）ノミ「獨リ諸神ノ上ニ、位ヲ占メタリキ、

基督降世ニ及テ、始メテ全ク此ノ如キ旨意ヲ變革シタリ「抑モ基督ノ傳ヘタリシ神道ハ、嘗テ羅馬、或ハ猶太國（ユーダ）ニ於テ、其政府ヨリ布施セシ神道トハ、全ク異ニシテ、基督ハ決シテ國教ノ道士及ヒ宣士トナラス「且ツ絶エテ國家ノ事ヲ掌リ、及ヒ國家ノ權柄ヲ握ルコアラサリキ、基督常ニ謂ヘリ、「吾レ敢テ自ラ此現世界ニ來リシニアラス、天神吾レヲシテ、特ニ此處ニ來ラシメタリ、吾レハ唯吾カ父（〔按〕天神ヲ云）ノ教フル所ニ從テ論述ス」ト、○基督ハ眞ニ天神ノ己レヲ現世界ニ派遣セシ意ヲ悟リ、及其身天神ト同一體ナルヲ了セリ、故ニ基督ノ神靈ハ實ニ天神ト相異ナル所ナカリキ「此ヲ以テ他ノ預言者（フロヘート〔按〕將來ノ言ヲ前言シテ神意ヲ人民ニ宣告スル人）ノ如ク、絶エテ「上帝曰云々」ノ語ヲ用ヒス、必ス「吾レ實ニ汝ニ語ラン云々」ノ語ヲ用ヒ、且ツ「吾レハ眞ト及ヒ活ナリ」ト安シテ云ヘリ、○基督ニ精神ヲ禀賦セシ神ハ、即チ猶太國太古ノ耶和華（ニホーヘー）（〔按〕一眞神ナリ）ト同ウシテ、決シテ一國ノ神ト稱スヘキ者ニハアラサリキ、基督ハ惟一眞神ヲ推尊シ、之ヲ以テ宇宙萬物ノ造主、世界蒼生ノ父ト爲セリ、

是故ニ基督ノ神道ハ絶エテ國家ノ管轄ヲ受ケス「加之、惟一眞神ノ啓示言（オッヘンバールング〔按〕天神其意ヲ啓示スル所ノ言）ナルヲ以テ、當時國家ノ意思ニ背テ起リシ者ナリ、是ヲ以テ此教當時ニ在テハ、大イニ國家ノ爲メニ侮辱セラレ「遂ニ驅逐セラルヽニ至リシカ圧、夙ニ此教ニ歸依セシ門徒ノ心志ヲ深ク感化シテ、大ニ區域ヲ擴ムルヲ得タリ、○教祖（〔按〕基督ヲ云）ハ猶太國ノ神ヲ誹謗スルノ大罪アリトシテ「遂ニ死刑ニ處セラレタリ「然レ圧其徒弟等ハ、此眞道ヲ廣ク傳播センカ爲メニ心ヲ竭シ力ヲ極メテ、當時ノ國教ヲ排擊シ、靈魂永遠滅セサルノ眞理ニ安シテ、此道ノ爲メニ遂ニ潔ク現世ノ生命ヲ失ヘリ、

基督教起立セシ所以ノ原由、此ノ如クナルカ故ニ、此教ヲ奉スル者、遂ニ左ノ二大原則ヲ悟ルニ至レリ「即チ「第一原則」神道ハ元來國家ノ創立セシ所ニアラサルカ故ニ、教旨ハ決シテ國家ノ管轄ニ屬スヘキ者ニアラス「「第二原則」神道ハ一個人ヲシテ天神ノ心靈ヲ悟ラシメ、而シテ永遠不滅ノ人魂ヲシテ、天神ト合一ナラシムルモノナリ、○是故ニ神道ナル者ハ「絶エテ人世ノ法ニ關係スル者ニアラス、全ク永遠不滅ノ精神界ニ屬スル者ナリ、基督云ヘルアリ「吾カ事ハ此現世界ニ係ルコニアラス」ト、

右第一ノ陰原則（ネガチーヘ「サッツ、〔按〕唯國家ノ管理ヲ拒防スルヲ主トス「故ニ陰原則ト云、）ヲ一般ニ遵奉スルニ至リシハ「第二ノ陽原則（ポシチーヘ、サッツ〔按〕人ヲシテ天神ト合體セシムルヲ主トス「故ニ陽原則ト云フ、）ノ弘通ニ用ヒラレシヨリモ早カリキ、基督教始メテ起リシヨリ、教會タル者、其教旨ノ國家ノ意思及ヒ指令ニ從屬スルニ至ルヲ防カント欲シ、常ニコノ事ニ盡力シ、以テ國家ニ對シテ「自ラ神道ヲ擁護シ、又兼テ自己ノ獨立ノ基礎ヲ保護シタリキ、○但ッ其後ニ至リテモ「仍ホ國教ト稱スル語アリト雖圧「古時稱スル所ノ國教トハ、其義全ク相異ナレリ、新義ノ國教ハ、決シテ、國家ノ神道、若クハ一民種ノ

神道ニアラス、故ニ其敎旨及ヒ其規律タル、曾テ其基ヒヲ國家ノ憲法ヨリ資取セス、唯全ク國家ノ權柄ニ從屬ス可ラサル啓示言（按）前ニ出ツ、）ヨリ資取シテ偏ニ之ニ依賴スル事ヲ務メタリ、○此神道ヲ國敎ト稱スル所以ハ、蓋シ國家ノ爲メニ尊信敬仰セラルヽヲ以テナリ、此神道ハ國家ノ准許ヲ得テ、始メテ立ナシヽニアラス、故ニ敢テ國家ノ制馭ニ就ク者ニアラス、國家却テ此神道ヲ尊信敬仰シテ、全ク其敎旨ニ恭順スル事トナレリ、

第二ノ原則ハ、所謂一個人、天眞是非ノ自由ゲヰッセンスフライハイト（按）人々天賦ノ眞心ヲ以テ、事ヲ是非スルノ自由ヲ云フ、殊ニ吾カ是トスル神道ヲ奉スルノ自由ヲ云フ、）ノ理、因テ生スル所ノ本源ナリ、然ルニ古來ヨリシテ敎會或ハ此原則ヲ遵守セサリシノミナラス、若シ一個人、信神ノ事ニ於テ、世間一般ノ敎論ト相異ナル所見ヲ抱ク事アレハ、則チ敎會直ニ國家ノ兵力及ヒ國家ノ刑法ヲ假テ、之ヲ嚴罰シ、以テ不滅ノ靈魂ヲシテ、妄ニ己カ意ニ從ハシメン事ヲ務メタリ、○去レハ、敎會ノ威權甚タ强盛ニシテ、國家ヲシテ、敢テ神道上ニ其權力ヲ施サシムル事ナク、敎會却テ數百年間國家ヲ使役シ、其力ヲ假リテ、以テ一個人ノ信神心ヲ擅制シタリキ、但シ後世ニ至リ、敎會國家兩ツナカラ此ノ如キ處分ノ甚タ基督敎ノ本旨ニ背戾セルヲ自悟スルヲ得タリシハ、蓋シ全ク數回ノ大事件、及ヒ大戰爭ヲ經過シタルニ由ルナリ、

是故ニ國家敢テ其權柄ヲ神道ノ旨意上ニ施行スルカ如キハ、決シテ許ス可ラサル事ナリ、但シ斯（カク）云フノミニテハ、未タ國家ト敎會トノ關係ヲ明カニ論定スルニ足ラス、之ヲ論定セント欲セハ、必ス左ノ二問ニ對應セサル可ラス、

〔第一〕國家ノ權ト一個人ノ信神心トノ關係如何〔第二〕國家ノ權ト、神道ノ爲メニ結ヘル會社（敎會及ヒ敎黨（セクテ））ノ存在、及ヒ行爲トノ關係如何、

第二款

第一　一個人神道ヲ信仰スル自由權ヲ保護スル事（デル、シエッツ、デル、インヂヒヅエルレン、レリギオンスフライハイト（按）神道トハ、天神ノ道ト云フ義ナリ）

○奉敎ノ自由ベケントニスフライハイト（按）人々是トスル所ノ敎派ニ歸依スルノ自由ナリ、

〔第一〕人ノ天神ヲ信スルノ心ハ、總テ其精神心意ニ係レル諸件ト同一理ニシテ、全ク人世ノ法ニ關セス、及ヒ國家ノ管理ニ屬セサル者ナリ、蓋シ國家ハ其權力ヲ人ノ心思意見上ニ施行ス可キ者ニアラサルノ理ヲ知ル片ハ、信神心ノ國權ニ屬ス可ラサルノ理モ、亦瞭然タル可シ、總テ國權及フ所ノ疆界ハ顯明ナル者ナリ、（按）國權決シテ人ノ精神内ニ及ハサルヲ云フ、）國家立ル所ノ法制ハ、形貌上ニ顯ハルヽ者ナリ、（按）國家ノ法制亦精神上ニ關セサルヲ云フ、）唯一個人其信神心ヲ外貌ニ發表スル片ハ、則チ始メテ人世ノ法ニ屬スル者トナルナリ、○是故ニ神道ヲ信仰スルノ自由、即チ天眞是非ノ自由（按）第一款ニ出ツ、）ハ、決シテ近今法學ノ開明ニ由テ始メテ生シタルニアラス、元來決シテ人世法ノ束縛ヲ受ク可キ者ニアラサルナリ、何トナレハ此自由ノ權ハ、天神ノ直ニ人ノ靈魂ニ賦與スル所ナレハナリ、蓋シ冥々中ニ人ノ靈魂ヲ制馭シ、且ツ之ヲ完全ニナス者ハ、獨リ天神ナリ、天神此事ヲ爲スカ爲メニ、自己ト人ノ靈魂トノ間ニ、冥々ノ通路ヲ開キタリ、○天神、人ノ靈魂ニ天神ヲ信仰スルノ自由權ヲ賦與シ、終ニ此權ヲシテ幽冥ノ權タラシメ、以テ國家ノ暴權ヲ脫セシメタレハ、此權ハ決シテ現世ノ國ニ屬スル者ニアラス、必ス永遠不滅ノ天國ニ屬シテ、全ク天神ノ制馭ヲ受クル者ナリ、是故ニ國家ハ敬神ノ道ニ於テ、此自由ヲ認許シ、且ツ之ヲシテ安全ナラシムルノ義務ヲ負擔セサル可ラス、凡ソ國家ハ此自由權上ニ就テ、此義務ノ外決シテ他ノ權力ヲ用フ可ラサルノ理ヲ知ラサル可ラス、

〔第二〕是故ニ一個人信仰ノ自由ハ、全ク靈魂ニ屬スル者ニシテ、決シテ國家ノ法制ニ出ル者ニアラスト雖モ、彼ノ奉敎ノ自由（按）人々自ラ是トスル所ノ敎派ニ歸依スルノ自由ナリ、）ノ如キハ、既ニ外貌ニ顯ハルヽ事ナルカ故ニ、自ラ人世ノ法ニ屬セサル能ハス、而シテ此自由權ハ殊ニ信仰ノ自由ヨリ生シ來ル者ナルヲ以テ、國家此自由權ヲモ、亦必ス信仰ノ自由ノ如ク容易ニ認許スルヲ要ス、彼ノ「人々自ラ是トスル敎旨ヲ自由ニ道ヒ出タスハ、即其人ノ權利ナリ、何者、此事亦人ノ義務ナレハナリ、」ト云ヘル語ハ、サテー（按）瑞士人、一千七百九十九年ニ生レ、八百四十七年ニ死ス、）カ熱心ニ演述セル者ニシテ、決シテ、

之ヲ抗抵スル所ノ論說アルヿナシ、○去レトモ奉敎ノヿハ、卽チ外貌ニ顯ハル丶ヿナルヲ以テ、必ス國家ノ法制ヲ以テ或ハ之ヲ保護シ、或ハ之ヲ限制セサル可ラス、是故ニ此事ノ自由元來無限ナレトモ、亦法制ノ爲メニ保護限制セラル丶ニ至リテ、遂ニ法制ノ區域ニ屬スル者トナルナリ、

〔第二〕國家縱令ヒ人々自ラ是トスル敎派ヲ奉スルノ自由ヲ保護スルヿアラサルモ、人々信仰ノ自由ニ於テハ、決シテ妨ケナキヿ明カナリト雖モ、其信仰ヲ外貌ニ表シ、言辭ニ發スルヲ得サルノ害アルカ故ニ、必ス國家ノ權ヲ以テ、之ヲ保護スルヿ甚タ必要トナルナリ、是故ニ國家ハ宜シク意ヲ用ヒテ、人々自ラ是トスル敎派ヲ奉スル自由權ノ妨害トナル者ヲ、悉皆驅除セサル可ラス、其方法卽チ左ノ數件ニ擧ルカ如シ、

〔甲〕國家ハ一個人ニ强迫シテ、其信セサル敎派ニ從ハシムルノ權ナシ、

然ルニ中古基督敎漸ク蔓延スルノ時ニ於テハ、未タ曾テ此理ヲ知ラサリシカ故ニ、頻リニ火及ヒ劍ヲ用ヒテ、此神敎ヲ傳播スルヿヲ務メ、〔按〕中古ノ世ニ於テハ基督敎ヲ傳播スルノ方法、甚タ暴戾慘刻ニシテ、若シ服從セサル者アル件ハ、直ニ兵ヲ用ヒ火ヲ放チ之ニ逼リ、强ヒテ此敎ニ從ハシムルヲ常トセリ、故ニ火及ヒ劍ヲ用ヒテ云々ト云フナリ、而メ勝者ハ必ス敗者ヲシテ、己レカ信スル所ノ敎ニ服從セシメタリ、是故ニ其始メハ敗者決シテ基督敎ニ心服セス、唯之ヲ口ニ誦スルノミナリシカトモ、其後ニ至リテハ勝者敢テ暴力ヲ用ヒス、實ニ神道ノ眞理ヲ論シ、敗者ヲシテ之ニ心服セメント欲シ、力ヲ盡セシニ由リ、遂ニ十分其功ヲ奏スルニ至レリ、

去レトモ此ノ如ク强迫シテ神道ヲ傳播スルカ如キハ、全ク基督敎ノ本意ニ背キ、(基督ハ外面ノ權力ヲ用フルヿハ、總テ之ヲナサ丶ルノミナラス、其徒弟ニ至ルマテ、之ヲ禁シテ爲サシメサリキ)且ツ國家眞誠ノ法ト全ク相戾ル者ナリ、是ヲ以テ今時ハ一般ニ眞正ノ原則ヲ認用スルヿトナレリ、㊀

㊀普魯士ノ憲法ニ云、「國內ノ住民ハ各信仰ノ自由、及天眞是非ノ自由權ヲ十分ニ有ス可シ、國家敢テ憲法ヲ以之ヲ障碍スルヲ得ス、凡ツ何人ニ論ナク神道ニ就テ私ニ自已ノ所見ヲ述ルハ、必ス國家ノ規律ニ遵ツヲ要セス」ト、又同國ノ國憲第十二章ニ云、「奉敎ノ自由、神道ニ就テ會社ヲ結フノ自由、及ヒ尋常家內ニ就テ禮拜ヲ爲スノ自由、公然ニ禮拜ヲ爲スノ自由等、悉皆國家之ヲ保護ス可シ、凡ソ民人タルノ權利及ヒ公民タルノ權利、〔按〕民人タルノ權利トハ、國家ノ一民タルノ權利ヲ云ヒ、公民タルノ權利トハ、國家ノ公事ニ關スルヲ得ルノ權利ヲ云、ヲ得ルト否サルトハ、其人奉スル所ノ敎派ニ關係スルヿナシ」ト、○佛國一千八百十四年（文化十一年）ノカルテ（〔按〕國憲ノ條款）ニ云、「各人皆同ク自已ノ敎派ヲ奉スルノ自由權ヲ有シ、且ツ其敬神ノヿニ於テ皆同一ノ保護ヲ受ク可シ」ト、○然ルニ歐洲南方ノ羅馬人種各國ニ於テハ、今仍ホ全ク此自由ヲ與フルニ至ラスシテ、大イニ限制スル所アリ、例ヘハ葡萄牙一千八百廿六年（文政九年）ノ國憲第六章ニ云、「獨リ羅馬加特力敎ハ終始葡國ノ大敎タル可シ、其他ノ敎派ハ唯外國人其家內ノ禮拜ニ於テ奉スルヲ許ス、但シ決シテ、公然タル標牌及ヒ殿堂ヲ建ルヲ許サス」ト、○瑞士合邦ニ於テハ一千八百四十八年（嘉永元年）ノ國憲ニテ仍ホ奉敎ノ自由ヲ全ク許可セサリシハ、世ノ普ク知ル所ナリ、卽チ其六十六章ニ云、「既ニ認許セラレタル基督敎派ニ從テ禮拜ヲ爲スノ自由ハ、合邦中悉ク之ヲ保護ス可シ」ト、然ルニ其二三邦ニ於テハ、既ニ其邦憲中ニ決シテ敎派ヲ論セス、十分ニ認許スルノ法ヲ立テタリ、

國家ハ臣民ヲシテ、必ス某ノ一敎ヲ奉スヘキ旨ヲ指令スルノ權、並ニ必ス禮拜堂ニ詣シテ禮拜ヲ行ヒ、或ハ罪科ヲ懺悔スヘキ旨ヲ指令スルノ權、決シテ有ルヿナシ、去レトモ此自由權ハ、唯此自由權ヲ有スルニ堪フヘキ、成人以上ノ者ニ與フルノミ、是故ニ神道ヲ以テ幼童ヲ敎育スルノヿニ至リテハ、獨リ此理ノミヲ以テ推論ス可ラス、總テ人ノ父母タル者ハ、通例其子ニ代リテ其奉敎ノ自由權ヲ有ス可シ、去レトモ父母若シ其子ノ敎育ニ注意セス、或ハ其敎育ノ方法甚タ不良ナル件ニ於テハ、時宜ニ因リ國家幼童ノ看護ニ心ヲ用ヒテ、父母ノ敎ヘサル子ヲシテ、神道ノ敎育ヲ受ケシムルヿア

ル可シ、(一)

(一)所謂强洗ツソングスタウヘ〔按〕强ヒテ洗禮ヲ行ハシメテ、基督敎ニ入ラシムルヲ云ノヿ亦此理ヲ以テ論ス可シ、猶太人種ノ徒

、其子ヲ基督敎ニ歸依セシムルノ心ナケレハ、國家其子ヲシテ强ヒテ此敎ニ歸依セシムル固

リ當然ナリ、〔按〕方今歐洲ニ猶太人ノ子孫多ク雜居スト雖モ、大抵猶太敎ヲ奉シテ基督敎ニ入ル者甚タ少シ、然ルニ父ハ既ニ基督敎ニ入ト雖モ、

甚タ懶惰ニシテ其子ニ洗禮ヲ行ハシメス、且ツ絕エテ神道ノ敎育ヲウケシメサル片ニ於テハ、國家必

ス之ヲ看護シ强ヒテ敎育ヲ受ケシメ、以テ其子ノ眞ノ自由權ヲ保護スルヲ要ス、○墺地利一千八

百六十八年三月廿五日ノ憲法ニ父母タル者ハ其子ヲシテ敎育ヲ受ケシムヘキ旨ヲ記載シ且ツ

此義務ヲ以テ兼テ權利ト爲スヘキ旨ヲ規定セリ、

〔乙〕敎會ナル者、人々ニ奉敎或ハ敬神ヲ勸誘スルニ就テ暴ニ其權力ヲ施行セント欲スルヿアレ

ハ、國家必ス之ヲ制止スルノ權アリ、但シ敎會自ラ奉敎ノ制ヲ確定シ、及ヒ靈魂精神ニ屬セル諸方法ニ

由テ、神道ノ益〻隆盛ナランヿヲ務ムルノ權ヲ有スルハ、固ヨリ當然トス、是ヲ以テ敎會懲戒法(キ

ルヘンツフト〔按〕敎士及ヒ門徒ヲ懲戒スルノ法ヲ云フ、)ヲ施行スルノ權ハ、必ス敎會ノ掌中ニ在ル

ヘキヿ固ヨリ當然ナリ、故ニ一個人若シ其敎派ヲ信セサルニ方リ、教會之ヲ其徒中ヨリ逐フヿアリ

片、國家敢テ此處分ヲ制止スルヲ得ス、

然リト雖モ、敎會甚タ狹小ナル胆量ヲ以テ、此ノ如キ處分ヲ爲ス片ハ、却テ自己ヲ害スルニ至ル可シ、

凡ソ諸敎派ノ如キハ、皆時勢進步ノ度ニ應スル者ニシテ、一ツモ千古不易ノ敎派ト稱スヘキ者アルヿナ

シ、是故ニ時勢進步ノ度ニ應シテ、上進開明セル敎旨敎制モ、亦必ス認許セサル可ラス、(〔按〕時勢ニ

應セル敎旨敎制起ルヿアレハ、決シテ之ヲ妨ケスシテ許スヲ要スト云フノ意、)波羅特士旦敎派ノ

如キハ、殊ニ時勢相應ノ敎旨ヲ主要トスル者ナリ、○敎會若シ其權ヲ恣ニシテ、國憲ヲ凌キ民權ヲ傷

ヒ、及ヒ騷亂ヲ釀ス等ノヿアル片ハ、國家其權力ヲ以テ、此暴權ヲ拒防スヘキヿ固ヨリ正理ノ當然

ナリ、

〔丙〕ピツァンツ國〔按〕東羅馬ヲ云フ、及ヒ中古ノ各國ニ於テハ、基督敎ニ歸依セスシテ異端ヲ信スル者ハ、

必ス大罪人トナセリ、故ニ異端ヲ信スルヿ甚タシキ者ハ、啻ニ之ヲ其門徒中ヨリ逐フノミニ止マラ

ス、尙ホ其所有ヲ沒收スルノ法アリキ、○然ルニ敎皇(パプスト、)ノ威權最モ盛大ニ至リシ以來ハ

基督敎ヲ奉セスシテ異端ヲ信スル徒ヲ刑スルヿ甚タ慘刻ヲ極メ、通例ハ火刑ヲ以テ之ヲ殺スヿト

ナセリ、是故ニ一個人自ラ眞確ナリトシテ信奉スル所ノ敎旨、若シ公衆一般ニ奉スル所ノ敎旨ニ背

戾スル片ハ實ニ重罪人トナルニ至レリ、而シテ此罪ヲ免カル、ヲ得ル者ハ、獨リ己レカ眞確ナリトセ

ル敎旨ニ從ハス、自ラ欺イテ偏ニ世間ニ媚從スル者ノミナリキ、○敎會改正レホルマチオン〔按〕一千五百年代ニ於テ、ル

テルツサングリ及ヒカルヒン等ノ諸英傑、敎皇ノ處分大ニ基督ノ敎旨ニ背キ、慘刻暴虐ノ事多キヲ

憂ヒ之ニ抗抵シテ波羅特士旦敎派ヲ創開シ、以テ基督ノ正道ヲ興復セリ、之ヲ敎會改正ト云フ、ノ首魁等〔按〕即チルテルツサングリ及ヒカルヒン等ヲ云フ、ハ久シク湮

滅シタル天賦是非ノ自由ヲ更ニ興復シテ、各人ヲシテ自ラ眞確ナリトスル所ノ敎旨ニ、自由ニ、信

從セシメンカ爲メニ、力ヲ極メテ加特力敎ノ暴權ニ抗抵シ、以テ波羅特士旦ノ一新派ヲ開キシ者ナ

レ圧、其後此一新派ノ普ク行ハル、各國ニ於テスラ、猶ホ天賦是非ノ自由ノ理ヲ失誤シテ、更ニ之

ヲ屈害スルニ至レリ、(○ヱストハーレン〔按〕獨乙ノ地名ノ講和〔按〕所謂三十年間ノ戰爭此講和ニテ終レリ、ニテ、加特力及ヒ波

羅特士旦ノ兩派ヲ同一ニ認許スヘキノ和約始メテ立チシカ圧、其後ニ至リテモ、猶ホ此兩派ノ外ニ、

他敎ノ獨乙國ニ入ルヿハ、總テ之ヲ禁シタリ、○路易第十四ルドヰツク佛國王、一千六百三十八年ニ生レ、四十三年ニ即位シ、七百十五年ニ殂ス、

ハ、頗ル學問詩文ノ進步ニ力ヲ盡セシ君ニシテ、且ツ文明開化ノ佛國ニ王タリシカ圧、猶嚴刻ノ處分

ヲ以テ、波羅特士旦敎ヲ驅逐セリ、又自由權ノ最モ盛ナル英國ニ於テスラ、加特力ノ門徒ハ悉ク民

權ヲ奪フテ、賤奴（スカラーフ）トナスニ至レリ、彼ノ一千六百八十九年（元祿二年）ノ容忍令（ツルヅングスアツテ（按）異敎ヲモ拒防セス其ニ之ヲ容忍シテ許可スルヲ云フ、）ニ於テ、波羅特士旦ノ敎旨ヲ信セサル者ト雖モ之ヲ背敎ノ罪ニ處セサルヿトナセシハ、畢竟開明進歩ノ致ス所ト云フ可シ、去レモ加特力敎ヲ奉スルヲ許スヿハ未タアラサリキ、

奉敎ノ自由ヲ與フルヲ以テ、始メテ國家ノ要則トナセシハ、實ニ北亞米利加ノ功ト云フ可シ、カルヒン敎派（按）カルヒンカ加特力敎ニ抗抵シテ創立セシ敎派ヲ云、カルヒンハ、一千五百零九年佛國ノノヨンニ生レ、其六十四年瑞士國ノケンフニ死ス、ノ敎士ニシテ、敬神ノ心最モ深厚ナルロゲル、ヰルリアムスハ、一千六百三十六年寛永十三年英ノ一藩屬地プロヒデンツエニ於テ、自今奉敎ノヿニ就テ、決シテ強威ヲ施スヿアル可ラサル旨ヲ布令セリ、然ルニ其他ノ諸藩屬地ニ於テハ、當時各敎派相惡ムヿ敵讐ノ如クナリシカ故ニ、大イニロゲル、ヰルリアムスカ意表ノ法令ニ驚愕セリ、去レモ英國王ハ能ク此法令ノ善惡可否ヲ思考シテ、遂ニ一千六百四十八年（慶安元年）ニ之ヲ採用シテ眞實ノ法令トナセリ、○加特力敎派ノロルド（按）爵名バールチモールハ、一千六百四十九年（慶安二年）ニ於テヰルリアムスノ處置ニ倣ヒ、メリレンド（按）亞米利加ノ地ニシテ、當時英ノ藩屬地タリ、即今ハ合衆國ノ一邦ナリ、ニ法令ヲ布キ、人々基督敎ヲ奉スレハ可ナリ、決シテ其門派ヲ論ス可ラスト云ヘリ、又タエッケル派（按）ハックスノ創立セシ一敎派ナリ、ヲ奉シタルヰルリアム、ペンハ、一千六百八十二年（天和二年）ニ於テ、ペンシルハロー（按）亞米利加ノ地ナリ、當時英ノ藩屬地ニシテ（今ハ合衆國ノ一邦ナリ、ニ法令ヲ布キ、人々宜シ

ク天地萬物ノ造化主ニシテ、且ツ大君ナル惟一神ヲ信スレハ、則チ可ナリト云ヘリ、

此ノ如キ自由ノ理、更ニ廣博ナル區域ヲ得ルニ至ル迄ハ、猶ホ一百餘年ノ星霜ヲ經タリ、○一千七百四十年（元文五年）以來ハ、性理ノ學漸ク開明セシカハ、世界更ニ一新ノ機會ニ遇テ、次第ニ中古ノ束縛羈絆ヲ脱シ、遂ニ遠ク進歩スルヲ得ルニ至レリ、普魯士國王フリードリヒ、デル、ゴローセハ、此ノ如キ自由ノ理ヲ世ニ告諭シ、及ヒ之ヲ施行セシ嚆矢ナリキ、此王カ「吾カ普魯士國ニ於テハ、各人皆自己ノ式様ニ由テ、靈魂ノ幸福ヲ得可シ、（按）各人自ラ是トスル所ノ道ニ由テ神ヲ敬スレハ、皆靈魂ノ幸福ヲ得可シ、決シテ彼此ノ敎派ニ束縛セラルヽヲ要セスト云フノ意」ト云ヒシハ、眞ニ確言ト云フ可シ、凡ソ此時代ヨリ此自由ノ理、漸ク進歩ノ路ヲ得ルヿトナレリ、去レモ其間更ニ障碍ナキニハアラサリキ、○國家嘗テ神道上ニ關シテ他敎派ヲ制禁セシハ、實ニ暴虐ノ處分ナリシヲ自悟シ、且ツ國家ハ元來各人ノ爲メニ、奉敎ノ自由ヲ保護スルノ義務ヲ負擔スルヿ、當然ナルノ理ヲモ自悟スルニ至レリ、是故ニ爾後ハ人ノ或ハ神道ヲ疑フハ、即チ其靈魂ノ健全ヲ失フ者ナリトナシ、而シテ決シテ之ヲ目シテ、罪犯トナスカ如キヿナキニ至レリ、

〔丁〕一敎會ヲ離去シテ、他ノ一敎會若クハ一敎黨ニ歸就スルカ如キハ、固ヨリ各人ノ自由權ニ任ス可シ、國家敢テ其權ヲ以ケ之ヲ罰スルヲ許サス、却テ國家ハ各人ノ爲メニ天良是非ノ自由ヲ保護シテ、其離去歸就ヲ自由ナラシム可シ、是レ即チ天良是非ノ自由ノ理ヨリ出ル所ノ要務ナリ、但シ今時ト雖モ、離去歸就ノ自由、未タ全ク行ハルト云フ可ラス、何者、國家ノ憲法ハ、方今實ニ此自由ヲ保護スルニ足ルト雖モ、唯一般ノ輿論仍ホ此自由ヲ妨害スレハナリ、蓋シ輿論動モスレハ、各人ノ離去歸就ヲ嫌忌シテ、遂ニ其自由ヲ障碍スルニ至ル、蓋シ國家ノ憲法遠ク民情ニ先行スルノ證ナリ〔○例〕ハ、一人他敎ニ歸就スル者アルニ方リ、甲ハ之ヲ嘉賞シ、乙ハ之ヲ憎惡シ、甲ハ此歸就者ノ大功ヲ希望シ、乙ハ此歸就者ヲ以テ、輕薄無恥ノ徒トナシ、其所行ヲ以テ私利ヲ營ミ、私欲ヲ縱マヽニスルノ處置ト爲スカ如シ、是時ニ方リ、實ニ不偏不黨ノ心ヲ以テ、此歸就者ノ所行ヲ批評判定スル者ハ、僅ニ數人ニ過キサルノミ、○但シ一般ノ輿論更ニ其歩ヲ進メテ、不偏不黨ナル憲法ノ地位ニ著ス

ルノ時至ラハ、隨テ眞確ノヿ自ラ増益スヘク、且ツ輕薄無耻ノ徒、唯私利私欲ノ爲メニ他教ニ歸就スルカ如キ惡行モ、亦自ラ減少スルニ至ルヘシ、一般ノ輿論此ノ如ク進歩シテ各人ノ自ラ是トナセル教派ニ歸就スルヲ平心ニ許シ、決シテ之ヲ常規ニ反シ、輿論ニ背キタル所行ト視做スカ如キヿナキニ至ラハ、必ス離去歸就ノヿヲ以テ、或ハ功勞ト爲シ、或ハ惡行ト爲スヲ得可ラサルナリ、○凡ソ教道教派ノ數、枚擧スルニ遑アラスト雖モ、之ヲ通觀スレハ、畢竟其本旨一ニシテ、其權利モ亦一ノミ、然ルニ人ノ天性ヲ察スルニ、衆人略相同シト雖モ、之ヲ細別スレハ、則チ人々些少ノ差異アルヲ見ル可シ、是ニ於テ元來教ヲ同シウシ志ヲ共ニスル伴侶ニテモ、其人員衆多ナル時ハ、其中ノ數人、自ラ他ノ數千萬人ト異ナル意見ヲ生スル無キヲ得ス、數人ノ意見果シテ他ノ數千萬人ト異ナルニ至ル時ハ、此事遂ニ他ノ數千萬人ノ害トナラサルヲ得サルノ理ナリ、去レトモ僅々數人偶ゝ異ナル意見ヲ主張シテ、此教派ヲ離去シ他ノ教派ニ歸就スルヿアリトモ、未タ曾テ此教派ノ盛衰存亡ニ關スルニ足ラス、若シ實ニ數千萬ノ人悉皆一時ニ他ノ教派ニ歸就シテ、其勢ヒ宛モ水ノ卑キニ就クカ如クナル時ハ、始メテ此教派ノ情勢ヲ變スルニ至ルヘシ、是故ニ教會タル者僅々數人ノ離去歸就ヲ或ハ希望シ、或ハ憂慮スルカ如キハ、決シテ理アリト云フ可カラス、

教會タル者、離去歸就セシ者ノ權利ヲ減少スルノ方法數種アリ、之ヲ民權ノ屈害（ピュルゲルリヘル、ナーフタイル）ト云フ、甚タ不正不善ナルヿナリ、（必ス嚴罰ヲ以テ之ヲ防制セサル可ラス、例ヘハ本人自ラ居地ヲ撰フノ自由ヲ限制シ、或ハ某産業ヲ營ムノ自由ヲ限制スル等ノ如シ、○若シ教派ノ異ナルニ從テ、或ハ民權ヲ異ニシ、或ハ某教派ニハ民權ヲ限制スル等、公然タル國法アル時ハ、此教派ヲ離去シ、彼ノ教派ニ歸就セル者、此派ニテ受得タル權利ヲ決シテ仍ホ保有スルヲ得ス、必ス唯彼ノ教派ニ准許セラレタル權利ノミヲ受ケ得ヘキヿ、固ヨリ當然ナリ、○例ヘハ猶太人種ハ猶太教ヲ奉スルニ因テ、其權利ヲ限制セラル、ト雖モ、若シ基督教ニ歸就スル時ハ、必ス此限制ヲ免カルヘシ、但シ從來基督教ヲ奉スル者、若シ又之ヲ離去シテ猶太教ニ歸就スルヿアレハ、必ス唯猶太教ニ准許セラレタル權利ノミヲ得可シ、加特力教ヲ奉スル夫婦、及ヒ加特力教ノ教士、若シ波羅特士旦教ニ歸就スル時ハ、（則チ波羅特士旦教派ニ准許セラレタル婚姻法及ヒ離婚法ニ從フヘキ者トナルヘシ、（但シ教派ニ從テ、此法ノ差異ヲ立ルノ規律アル間ノミ、此ノ如クナルヘシ、））又波羅特士旦教派ヲ奉スル夫婦若シ加特力教ニ歸就スル時ハ、必ス相離婚スル能ハサル者トナルナリ、（〔按〕加特力派ハ離婚ヲ許サヽルヲ通則ト爲ス、））然ルニ儘專ラ此ノ如キ變化（〔按〕歸就ヨリ（權利及ヒ法ニ於テ變化ノ生スルヲ云フ））ヲ、目的トシテ（歸就ヲ企ツル者ナキニアラス、此事全ク不正不善ノ心思ヨリ生スル者ニシテ、蓋シ精神ニ係レル自由權ノ通弊ナリ、去レトモ此通弊ヲ矯正センカ爲メニ、全ク歸就ヲ禁スルカ如キハ、甚タ精神ノ自由權ヲ限制スル者ト云フ可シ、（若シ政府歸就ヲ許スカ爲メニ、縱令ヒ公然嘲笑ヲ受ルヿアリトモ、決シテ心ニ關ス可ラス、

〔戊〕各人其家內ニ於テ、（敬神禮拜ヲ爲スノ自由權ヲ保護シテ、衆民等カ此自由ヲ妨害スルヲ制止スルハ、即チ國家ノ義務ナリ、而シテ此義務ハ實ニ天眞是非ノ自由ノ理ニ基ツク所ナルカ故ニ、決シテ、之ヲ以テ國家好テ、施ス所ノ仁惠ト視做ス可ラス、但シ天眞是非ノ自由ノ理ヨリ生スル所ハ唯家眷相共ニ家內ニ於テ、家法ニ從ヒ、禮拜ヲ行フノ自由權ノミ、（但シ啻ニ一家ノ父子夫婦等ノミナラス、親友及ヒ婢僕等モ亦相共ニシテ可ナリ、）若シ啻ニ一家眷ノミナラス、衆人相合シテ、奉教ノ爲メニ會社ヲ結フ時ノ如キハ、國家之ヲ私人一家ノ事ト同視ス可ラス、必ス公衆一般ニ係レル事ト視做シテ、宜シク之ニ適切ナル規律ヲ選用ス可シ、

又一個人外國ニ於テ、自己ノ教派ト同一ナル教派ノ禮拜公社ニ加入スルノ自由ニ就テモ、亦宜シク此規律ヲ用フ可シ、（〔按〕公衆一般ニ係レル事ノ規律ヲ用フルヲ云フ）

第三款　法ヲ以テ奉教自由ノ權ヲ限制スルヿ、ギー、レヒトリヘン、シュランケン、アル、ベケントニス、フライハイト、

〔第一〕人或ハ謂フ、奉教ノ自由ヲ許スハ、獨リ神（〔按〕惟一眞神ニ限ルニアラス、）ヲ認メテ、之ヲ畏敬信仰スル諸教門中ニ於テスルノミ、苟モアタイスムス（〔按〕神ヲ疑テ畏敬セサル異端ノ義、）ヲ奉

スルカ如キハ、必ス許ス所ニアラスト、去レハ神ヲ畏敬信仰スル教門ト、實ニ天地萬物ヲ造化セル神ナル者ハ、決シテ之レアラスト爲セル教門トヲ全ク分別シテ、其許スヘキト否トヲ判決スルハ、甚タ不可ナリ、蓋シ其分畫ス可キ境界殆ト判然タラサルヲ以テ、之ヲ分別スルヿ殊ニ容易ナラサレハナリ、○試ミニパンタイスムス（按）天地萬物即チ神ニシテ、此外更ニ神ナル者アラサル旨ヲ主張スル學派ナリ、ヘチシュギーンスト（按）禽獸艸木等ヲ神トシテ拜スル教門及ヒ今時ノ大教ナル基督教ヲ視ヨ、此諸教各畏敬信仰スル所ノ神アリト雖モ、或ハ大ニ神德ヲ畏敬セサルヿモ亦絕エテナキニアラス、然ルニアタイスムス（前ニ出ツ）ノ如キハ、人之ヲ實ニ神ヲ疑フ異端ナリト稱スト雖モ、是レ全ク非理ノ言ト云フ可シ、蓋シ此教門ト雖モ亦自ラ造化ノ能力ヲ認ムル所アリ、果シテ造化ノ能力ヲ認ムル者ナレハ、豈全ク神ノ賞罰ヲ知ラサル者ト云テ可ナランヤ、○但シ以上論スル所ノ當否如何ニ拘ハラス、彼ノ「靈魂ヲ制馭スル者ハ、現世ノ國家ニアラス獨リ天神ナリ」ト云ヘル理、既ニ瞭然疑フ所ナキニ至ラハ、「常ニ光ヲ避ケ暗ニ就カント欲スル靈魂（按）靈魂ハ專ラ現世ノ顯界ニ屬セスシテ、永遠ノ幽界ニ屬スル者ナルカ故ニ斯云フナリ、縱令ヒ迷溺スルヿアルモ、國家敢テ之ヲ罰スルノ權ナキヿ論ヲ俟タス、且ツ靈魂ノ大イニ迷溺ヲ生スルヿアルハ、是レ或ハ其上進シテ明覺ノ地位ニ達スルノ階梯ト云フ可キノミ、凡ソ各人自ラ眞確ナリトスル所ニ必ス背ク可ラス、是故ニ神ヲ信仰スル者ハ勿論、縱令ヒ之ヲ疑フトキト雖モ、敢テ自ラ欺イテ其眞確ナリトスル所ニ背ク可ラス、（按）人若シ迷溺シテ教ヲ疑フノ心アレハ、必ス此心ヲ公然ト發露シテ可ナリ、決シテ輿論ニ媚從シテ、陽ニ信神ノ人トナル可ラス、若シ陽ニ信神ノ人トナルトキハ、自ラ欺キ又人ヲ欺クノ小人ナリト云フノ意歟、猶再考スヘシ、

（第二）是故ニ各人皆自ラ是トスル所ノ教ヲ主張スルノ權ヲ有スト雖モ、教旨ヲ道ヒ出スニ於テ、或ハ國家ノ認許セル教會制度（按）自ラ信セサル教會ノ制度ナリ、ヲ罵辱シ、或ハ其存在ヲ妨害スルカ如キハ「決シテ許ス所ニアラス、蓋シ一個人ノ權利ハ、他ノ權利及ヒ公衆一般ノ權利ノ爲メニ限制セラルヽヿ、固ヨリ當然ナリ、是ニ於テ國家ハ必ス二個ノ義務ヲ相合シテ、之ヲ恪守セサル可ラス、二個ノ義務ヲ相合ストハ何ソヤ、即チ一個人奉教自由ノ權ヲ保護スルト、及ヒ教會幷ニ其權利ヲ保護シテ、共ニ安全ヲ得セシムルヲ云フナリ、○例ヘハ猶太人ハ基督ヲ以テ、實ニ天神ヨリ差遣セル救世主ト爲サスト雖モ「國家敢テ之ヲ罪スルヲ得ス、スクプチケル（按）萬事先ツ疑ヲ生シ、而後ニ其理ヲ探討考窮スルヲ貴フ學派ナリ、ハ縱令ヒ史傳ノ啓示言ヒストリシュオッヘンバールンク（按）約書ノ史傳ニ、天神ノ自ラ啓示セル教旨ヲ載ス、之ヲ啓示言ト云フ、ヲ疑フト雖モ、國家敢テ之ヲ罪スルヲ得ス又パンタイスムス（前ニ出ツ、）ノ學者ハ、人ヲ以テ天神ノ造化セル所ト爲サス、却テ天神ノ現出セル者トナスト雖モ「國家敢テ之ヲ罪スルヲ得サルナリ、○但基督教ノ行ハルヽ國ニ於テ、若シ猶太人公然ト基督ヲ罵辱シ「或ハスケプチケル基督ノ祭日ニ於テ啓示言ヲ罵詈シ、以テ公然欺詐詭譎ヨリ出ル者トナシ、暗愚昏迷ニ屬スル者ト爲シテ、其門徒ノ信神心ヲ損害シ「又パンタイスムスノ學者「教會ノ天神造化ヲ說クノ故ヲ以テ、教士ヲ罵詈シテ、或ハ暗愚人ヲ以テ目シ、或ハ妄語人ヲ以テ目スル等ノ如キハ、即チ一個人公然教會ノ權利ヲ屈害スル者ト云フ可シ、故ニ此時ニ於テハ、國家其權ヲ以テ此屈害ノ所行ヲ罰スルヲ當然トス、

但シ教旨ヲ辨駁誹謗スルノ諸方法中ニ於テ、許スヘキ者ト罰スヘキ者トノ分界ヲ立ルヿ、儘容易ナラサルヿアレトモ、凡ソ教旨ヲ妨害シ、又ハ教會ノ權利及ヒ其體面ヲ毀損スル等ノヿハ、必ス外面ノ確證アラサルハナシ、故ニ是時ニ方リテハ、國家ハ必ス司法ノ大權ヲ以テ之ヲ罰シテ能ク教會ヲ保護スルノ義務ニ適スヘシ、其他若シ辨駁誹謗ノ宜シク許スヘキ者ナルヤ、將タ之ヲ罰スヘキ者ナルヤ、甚タ分別シ難キトキト雖モ、大抵審理ヲ施スニ方リテ、辨駁誹謗ノ情勢ヲ探索スレハ、其分別自ラ容易

ナルヲ得可シ、○書籍上ニ於テ、教旨ノ是非善惡ヲ辨論スルコトアリト雖モ、敢テ教會ノ體面ヲ毀損スルヲ主旨トセス、或ハ少シク教會ヲ誹謗スルノ語アルモ、其語辨論ニ就テ甚タ緊要ナルトキノ如キハ國家敢テ之ヲ罪スルノ權ナシ、但シ辨論ノ意專ラ條理ヲ主トセス、故ラニ教會ノ體面ヲ毀損スルヲ旨トスルトキハ、國家必ス之ヲ罪セサル可ラス、

〔第三〕奉教宜シク其人ノ自由ナルヘキコト、既ニ論説セシカ如シト雖モ、若シ公衆ノ安寧ヲ損害スルノ處置ヲ施ス者アルトキハ、必ス之ヲ許可セサル可ク、且ツ其情勢ニ由リテハ、或ハ之ヲ罰セサル可ラス、國家ハ、必ス先ツ公衆ノ安寧ヲ保護シ損害ヲ受ケサラシムルヲ以テ其主務トナシ、一個人ノ自由權ヲシテ、決シテ公衆ノ安寧ヲ妨害スルニ至ラサラシム可シ、國家若シ此權力ヲ施用セサルコトアレハ、則チ自ラ主務ヲ放擲スト云フ可シ、○但シ事ノ公衆安寧ニ害アルト否トヲ決定スルノ權力及ヒ權利ハ、即チ國家ノ掌中ニ在リテ、固ヨリ一個人ノ掌中ニアラス、縱令ヒアタイスムスノ性理學士其辨論ヲ以テ、天神ノ能力ヲ非ナリト爲スコトアリト雖モ、國家之ヲ許シテ保護スヘキコト當然ナリ、去レトモ、此學士若シ此ノ如キ論ヲ以テ、衆民ヲ聚集煽動スルカ如キハ、國家敢テ之ヲ許ス可ラス、又宣教者（プレジゲル）及ヒ新聞述作者（ヨウルナリスト）等、道義ノ原理〔國家ノ法制モ亦由テ出ル所ノ原理〕ヲ公然誹謗シテ、衆民ノ心志ヲ迷亂シ、以テ其暴惡ナル情欲ヲ發動セシムルトキノ如キハ、國家敢テ之ヲ許ス可ラス、

第四款

第二　國教（スターツレリギオン）〔按〕國家專ラ信仰スル教道ヲ云フ、

太古ヨリ近世ニ至迄、人皆神道ヲ以テ、曾國家法制ノ爲メニ最要ノ基礎タル者ト爲スノミナラス、國家ハ決シテ神道ヲ離ルヽ能ハサル者ト爲セリ、故ニ羅馬國太古偶像教ハイデンツーム〔按〕眞神ヲ信セスシテ偶像ヲ拜スル教ヲ云フ、即チ猶太教基督教及ヒ馬哈默教ヲ除クノ外ハ皆偶像教ト稱ス、馬哈默教一ニ回々教ト云フ者是レナリ、ヲ奉シタル時ニ方リ、緊要ノ政務ハ必ス先ツ神意ヲ覩ヒ、其准許ヲ願フノ後ニアラサレハ、決シテ之ヲ施行スルコアラサリキ、○且ツ後世歐羅巴ニ於テモ、國家必ス自ラ基督教ヲ奉セサル可ラスト規定スルノ理ハ、宛モ歐洲ノ仇敵ナル馬哈默國ムハメダニヒル、スタート〔按〕馬哈默教ヲ奉スル各國ヲ云フ、即チ土耳其及ヒ其近隣ノ各國ヲ指スナリ、ニ於テ、必ス馬哈默ノ神道ヲ奉セサル可ラサルノ理ト全ク相同シカル可シト云フノ論頗ル蔓延セシカ、之ヲ非トスル者ハ絶エテアラサリキ、

然ルニ近世始メテ、政教ノ一致ヲ全ク破壞セント欲スルノ論起リテヨリ、國家ハ敢テ自ラ神道ヲ奉ス、神道ヲ勸ムルヲ要セスト云フノ論、盛ニ生スルニ至レリ、初メ此論ヲ立テシ者ハ、大抵素ト自己ニ神道ヲ好マサル者ノミナリシカ、遂ニハ決シテ自己ノ好惡愛憎ヲ用ヒス、專ラ理ノ當否ニ由リ、奉教自由ノ名ヲ以テ、此論ヲ主張スル者漸々增加スルニ至レリ、○此論ハ元來國家ノ活動〔按〕首卷第一款ヲ參考スヘシ、ニ關シテ、專ラ國家ノ法制ニ關スルニ非ス、故ニ其得失可否ヲ決定スルハ、專ラ國政（ポリチック）〔按〕國政ト國法トノ別ハ首卷第一款ニ出ツ、ノ處分ニ在ルヘキナリ、但シ國家或ハ偏ニ某一教ヲ以テ國教トナシ、或ハ偏ニ某一教ニ因テ國家ノ法制ヲ設立スル等ノコトアルトキハ、政教一致ヲ破壞セント欲スル議論ノ得失可否ヲ決定スルコ、啻ニ國政上ノミナラス、又國法上ニ關係スル固ヨリ論ヲ俟タス、

國教（スターツレリギオン）ト國教會（スターツキルヘ）トハ、其旨全ク相殊ナリ、決シテ混同ス可ラス、國家ハ某一教ニ歸依シ及ヒ之ヲ信奉スルヲ得可シ、例ヘハ基督教ニ歸依シ之ヲ信奉スルカ如シ、去レトモ此一教内ニ於テ專ラ某一派某一教會ヲ國家ノ教派教會ト爲スハ固ヨリ不可ナリ、基督教ノ諸派各其教旨及ヒ其式禮ヲ異ニスル所アリト雖モ、是等ノコハ決シテ國家ノ利害ニ關スルニアラス、縱令ヒ國家ニ利害ヲ生スルコアルモ甚タ僅々ノミ、○基督教分レテ數派トナルト雖モ、神道ノ眞確ナル原理ニ至リテハ、數派皆同一ナリ、決シテ彼此ノ派ヲ取捨スルヲ要セス、是故ニ國家ハ能ク基督教ヲ以テ自己ノ教道ト爲ス可シ、特ニ其末派ナル加特力若クハ波羅特士且ヲ取テ自己ノ教派教會ト爲スヲ得ス、

古時ハ各國必ス專ラ某一敎派ヲ信奉シ、之ヲ以テ國家ノ主派ト爲シタリシヿ、歷史上ニ瞭然タリ、是故ニ基督敎始メテ世ニ行ハルヽニ至リシ頃ニハ、或ハ加特力ノ國ト稱スル者アリ「或ハアリアニスムス〔按〕紀元四百年代ニ於テアリウスノ創立セシ、基督敎ノ一派ナリ、此ノ敎派ニテハ基督ヲ以テ天神ノ子ト爲サス、唯一個ノ人トナセリ「ノ國ト稱スル者アリ、又其後ニ至リテハ、或ハ希臘加特力派ギリーヒス、カトリシユ〔按〕加特力ノ一派ナリ、ノ國アリ、或ハ羅馬加特力派レーミシユカトリシ〔按〕亦加特力ノ一派ナリ、ノ國アリキ、其後中古ノ時代ニハ、遂ニ各國皆專ラ信奉スル所ノ一敎派アラサルナキニ至レリ、又敎會改正（前ニ出ツ）ノ後ニ至リテモ「猶各國多クハ加特力派或ハ波羅特士且派ヲ主トナシ、而シテ專ラ其主トスル所ノ敎派ニ信從シタリキ、〇獨リ瑞士盟邦及ヒ獨乙帝國ニ於テハ「二派（「按〕加特力波羅特士且ノ二派ヲ云フ、）ヲ合併セント欲スレ𪜈能ハス、又二派ノ一ヲ主派トセント欲スレ𪜈能ハサリシカ故ニ「遂ニ二派若クハ三派ヲ共ニ認許シテ、之ヲ同等ノ者ト〆相並立セシムルヿトナセリ、㊀去レ𪜈其初メハ已ムヲ得サルニ出タル處置ナルヲ以テ、其制度甚タ完全ナラサリキ、然ルニ北亞米利加始メテ國ヲ建ツルニ及テ、國家一敎派ヲ主トシテ「專ラ之ヲ信奉スルノ制度ヲ全ク取用セサルヿト定メシヨリ、方今開明セル各國此制度ニ倣テ主派ヲ立ツルヿヲ廢シタリ、（一千七百九十一年（寬政三年）ノ國憲ニ於テ此法ヲ定メタリ、（「按〕蓋シ亞米利加敎國憲ナリ、））〇方今開明セル各國斯ク主派ヲ立ルノ制ヲ廢セシカ𪜈、未タ曾テ主敎ヲ廢シ信神ノ道ヲ廢スルニ至ラス「加之歐羅巴及亞米利加ニ於テハ、今猶必ス基督敎ヲ以テ其開明ノ大基礎タル者トナシ「且ツ信神ノ道ヲ定メ道義ヲ勸ムル大活動力トナシテ、大ニ之ヲ尊信ス、㊁〇獨リ自己ノ敎旨ヲ固執シ、及ヒ自己ノ規制法則ヲ墨守スル基督敎ノ如キハ專ラ主派ヲ立テサル國ノ爲メニ甚害アリト雖モ、實ニ活用ニ適セル基督敎ノ如キハ決メ否ラス「是故ニ基督敎ヲ以テ國家ノ主敎ト爲スハ可也、加特力又ハ

波羅特士且ヲ以テ、主派ト爲スカ如キハ、甚タ不可ナリ「必ス此二派ヲ同等ノ者トナスヲ緊要ト爲ス、

㊀瑞士ニテハ一千五百二十九年（享祿二年）ニ於テ「諸派ヲ同等ノ者ト爲スノ制度ヲ立テ、又獨乙帝國ニテハ甲利第五世在位〔按〕一千五百十九年ヨリ其五十八年ニ至ルノ時ニ於テ「諸派ヲ同等ノ者ト爲スヿ、既ニ胚胎セシカ𪜈、其制度ノ確定シタルハ、一千六百四十八年（慶安元年）ニストハーレンノ講和ニ由レリ、

㊁ランゲノ著書ニ云「基督敎ハ漸ク行ハルヽニ從テ「各國ノ富强隆盛ノ基礎ヲ開キシカ𪜈、其門派ヲ主張スル處分ノ如キハ、各國共ニ其國家ノ患害ヲ生セサルハ無カリキ」ト、ブッヘンドルフ獨乙人、一千六百三十二年ニ生レ「其九十四年ニ死ス、及ヒルウサウ佛人、一千七百十二年ニ生レ、其七十八年ニ死ス、一個ノ學派ヲ創立セシヨリ以來ハ、國敎ト云ヘル語ニ一種ノ新義ヲ生シタリ、〇凡ソ國家ハ元來諸權利ヲ保護スルカ爲メニ結ヒタル會社ナレハ「基督敎ト他敎トノ差別ナク「總テ保護ノ術ヲ盡スヘキヿ當然ナリ、故ニ、其法制ニ於テ「天理神道ナツールリヘ「レリギオン「〔按〕惟一眞神ヲ畏敬スルハ猶太基督諸派ノ如シト雖モ「此諸敎ノ啓示言（天神ノ啓示セル言ノ義）ヲ取ラス、專ラ天理人性ニ從テ神道ヲ說クヲ云フ、即チブッヘンドルフ及ヒルウサウ等ガ始メテ唱フル所ナリ、但シ此神道別ニ一種ノ敎門トナリシニハアラス、ヲ以テ啓示言ヲ用フル諸敎ノ根本タルヘキ者トシテ「專ラ之ヲ取ルハ可ナリ、〔按〕啓示言ヲ用フル諸敎ノ一ニ偏セスシテ諸敎ノ根本タルヘキ天理神道ヲ專取スルハ可ナリト云フノ意ナリ、去レ𪜈ルウサウノ論ノ如ク、國家其憲法ヲ以テ、自ラ此天理神道ノ原則ヲ確定スルヲ好シト爲スハ、大ナル謬見ナリ、國家若シ此ノ如キ處分アラハ、遂ニ自ラ患害ヲ招クニ至ル必然ナリ、國家縱合ヒ此ノ如キヿヲ爲スモ、畢竟衆民ヲ敎化スルニ足ラス、且ツ敎ト法トハ元來相合シ難ク、又幽界ニ於テ天神ト人ノ靈魂ト相交關スルノ理モ、亦顯界ノ國家法制トハ全ク相合ヒ難キ

者ナルニ、强ヒテ之ヲ相合併セシメント欲スルハ、謬見ノ甚シキ者ト云フ可キノミ、○是故ニ國家基督敎ニ偏セス、專ラ天理神道ヲ取ル可シト云ヘル語ノ義ヲ以テ、國家ハ宜シク基督敎ニ偏セス、專ラ天理人性ノ當然ニ從ヒ〔各人ヲシテ其是トスル所ノ敎道ヲ、自由ニ奉セシム可シト云ヘル義ト視做スヲ要ス、此ノ如クナレハ則チ國家其臣民ヲ待ツニ、基督敎ヲ奉スルト否トニ由テ、區別ヲ爲サス、全ク兆民ヲ同視スルノ正理ニ合スルナリ〔而シテ國家若シ其政令ニ於テ、敎道ノ規制ヲ取用スルヲ要スルコトアラハ、何敎ノ規制ニ論ナク〔其政令ノ目的ニ最モ適合セル者ヲ擇ヒ取用スヘキナリ、例ヘハ其規制基督敎猶太敎馬哈默敎若クハ佛敎等ニ屬スルモ、決シテ妨ケナシトス〔○右論スル所ノ如クナルトキハ〔國家其國內ノ諸敎及ヒ諸敎論ニ對シテ、全ク不羈獨立ノ地位ヲ占ムルヲ得、(〔按〕一敎ヲ偏取セサルカ故ナリ、)且ツ決シテ敎門ノ朋黨或ハ仇敵トナルノ患害ナク、唯專ラ諸權利ヲ保護スルカ爲ニ結ヘル會社タルヲ得ルナリ、故ニ國家タル者ハ其法制ヲ以テ、啻ニ神道ノ開明上進ヲ保護スルノミナラス、之ニ由テ遂ニ自己ノ開明上進ヲモ增益スルヲ得ヘシ、○國家敎道ニ關スルノ方法此ノ如クナル者ヲ稱シテ、國家關敎ノ自由ト云フ、スタートリヘ、レリヂオンスフライハイト、〔按〕國家專ラ一敎ニ從フヲ要セサルノ法ナルカ故ニ自由ト云フナリ、

然ルニ各國古今ノ沿革ニ由テ、敎道ニ關スルノ方法相異ナリ、既ニ漸ク開明セル者アリ〔或ハ未タ開明セサル者アリ、其別即チ左ニ擧ルカ如シ、

〔第一〕歐洲各國ノ中ニ就テ、猶ホ專ラ某一敎派ヲ奉スル者數國アリ〔例ヘハ峨羅斯及ヒ希臘ノ二國ハ專ラ希臘加特力敎ヲ奉シ、西班牙及ヒ葡萄牙ノ二國ハ專ラ羅馬加特力派ヲ奉シ、以太利各國モ亦輓近ニ至ル迄專ラ之ヲ奉シ、又瑞典及那威ノ二國ハルテル派〔按〕ルテル創立スル所ノ波羅特士旦ノ一派ナリ、ヲ奉シ英國ノ如キモ、仍ホ專ラホーフキルヘ派〔按〕波羅特士旦ノ一ナリ、ヲ奉ス、但シ此國ハ王國以太利ト同シク〔輓近新法ヲ創立シテ、基督諸派ヲ同等ノ者ト爲スノ制度、即チ關敎自由ノ制度ヲ次第ニ全備セント欲ス〕㊀

㊀希臘ノ國憲ニ云、「希臘國ノ敎道ノ主派ハ希臘加特力敎ナリ、但シ其ノ他ノ敎派モ亦之ヲ容忍シテ其敎育ヲ保護ス可シ、○那威國ノ國憲ニ云、ルテル派ハ本邦ノ公敎ナリ、此敎派ニ歸依スル住民ハ〔其子ヲシテ必ス此敎派ノ敎育ヲ受ケシメサル可ラス、エースイテンオルデン及ヒメンフオルデン(〔按〕加特力派中一種ノ敎社、)ハ國內ニ在ルヲ許サス、幷ニ猶太敎徒ハ國內ニ入ルヲ許サス」ト、

〔第二〕基督諸派ヲ同視スル(殆ト同等ノ者トナス)制度ハ北亞米利加ハ勿論、其他獨乙各國及ヒ墺地利、普魯士(但シ墺地利ニテハ殊ニ加特力ヲ重シ、普魯士ニテハ殊ニ波羅特士旦ヲ重ス、)佛國(比耳時、瑞士合邦等ニ於テ殊ニ之ヲ用フ、㊀

㊀獨乙同盟法ニ云、「獨乙同盟各國ニ於テハ基督敎ノ諸派ニ由テ、民權及ヒ公權ニ差別ヲ立ツルコトナカル可シ」ト、

〔第三〕佛國ニ於テハ、初メ民主政體ヲ立ルニ方リテ、顚覆病ノ激熱熾ニ發セシカハ〔(〔按〕譬喩ノ語ナリ、)遂ニ一時全ク諸敎ヲ廢止シテ、畏敬ス可キ神ナル者ハ絕エテ之レアラストナセリ、去レトロベスピエール佛人、一千七百五十七年ニ生レ、其九十四年ニ殺サル、顚覆黨ノ巨魁ノ一人ナリ、スラ、尙必ス至高至尊ノ一物ヲ畏敬スルノ緊要ナルヲ悟リケレハ、遂ニ天理神道ヲ立テサル可ラスト爲セリ、

〔第四〕近今開明進步セル各國ニテハ、國家其法制ニ於テ獨リ天理神道ニ遵從シ、而シテ實ニ諸敎ヲ同等ノ者トナスノ制度ヲ全備セント欲スル多少ノ志情アリト雖圧、亞米利加ヲ除クノ外ハ、未タ曾テ此理ヲ國憲上ニ明記セシ者之レアラス、㊀

㊀亞米利加合衆國一千七百九十一年（寛政三年）ノ國憲ニ云、「コングレス（〔按〕立法府ナリ、）ハ敢テ國敎ヲ立ルノ憲法ヲ設クル能ハス、或ハ奉敎自由ノ妨害トナル可キ憲法ヲ設クル能ハス」ト、

國家躬ラ神道（殊ニ基督敎）ニ從事スルノ方法ハ、左ニ示スカ如シ、〔按〕蓋シ各國皆左ノ數方法ヲ用フト云フニアラス、或ハ之ヲ悉皆用フル國アリ、或ハ僅ニ其二三ヲ用フル國アリ、各一樣ナラス、

〔第一〕將ニ大政令ヲ創始シ或ハ之ヲ施行シ、及ヒ新制度ヲ設立セントスルニ方リテハ、必ス先祭典ヲ行ヒ之ヲ天神ニ告ク、例ヘハ立法府ノ會議ヲ開ク時、嗣君即位スル時、或ハ新國憲ヲ創立スル時ニ於テ祭典ヲ行ヒ、又戰爭若クハ天下一般ノ災害起ルニ方リテハ、公然祈禱ノ禮ヲ行ヒ、又國內一般ノ爲メニ悔悟祭、謝恩祭、及回想祭〔按〕例ヘハ往古始メテ國ヲ建テシ盛業ヲ回想シ、或ハ外寇ヲ攘擯シテ、國家ヲ泰山ノ安キニ置キシ大功ヲ回想スルカ爲メニ施行スル、祭典ノ類ヲ云フ、ヲ行フノ類ヲ云フナリ、○凡ッ國家自ラ道德ヲ重スル所以ヲ明示セント欲シ、且ッ自ラ仁義ノ治ヲ爲サント欲セハ、必ス先ッ自ラ祭典ヲ行ヒ、自ラ天神ヲ敬拜スルニ如クハナシ、

〔第二〕基督敎ノ眼目要旨ニ從テ憲法ヲ立ッ、

〔第三〕基督敎ヲ保護勸誘及ヒ播布センカ爲メニ、國家自ラ其諸般ノ制度ヲ設ケ且ッ其事ニ關ス、

〔第四〕基督敎若クハ他敎ノ敬神禮拜ヲ妨害シ、或ハ衆民ノ信仰ヲ公然罵辱スル者アルニ方リテハ、國家之ヲ懲罰ス、

〔第五〕國家一個人奉敎ノ誓約アイド、〔按〕堅ク敎旨ヲ遵奉スヘキ由ヲ述告スル誓約、ヲ爲スノ方法ヲ設立ス、但シ縱令ヒ基督敎ヲ奉セサル者ト雖モ自己ノ敎門ノ制度ニ從テ誓約ヲ爲シテ、其敎道ノ要旨ヲ遵奉スルトキハ、國家之ヲ許可保護セサル可ラス、

〔第六〕許多ノ國ニ於テハ、基督敎ヲ奉スル者ニアラサレハ、政府若クハ法院ノ官ニ登用シテ政務司法等ノ權ヲ掌ラシメサルノ制度ヲ立ッ、㊀○但シ縱令ヒ基督敎ノ國ト雖モ、此制度ハ必ス緊要ナリト云フ可ラス、若シ民人過半基督敎ヲ奉セスシテ、他敎ニ歸依スルコトアルニ方リ、此徒ヲシテ政務及ヒ司法ノ官ニ任スルヲ得サラシムルコトアラハ、是レ則チ不正非理ノ制度ト云フテ可ナリ、何者、基督敎ヲ奉セサル者ハ必ス良善ノ政令、公正ノ裁判ヲ爲ス能ハサル者トスルハ、甚タ非ナレハナリ、

○北亞米利加ニ於テ職官授任ノコトニ就テハ、決シテ本人奉スル所ノ敎門如何ヲ論ス可ラスト爲スノ制度ハ、元來主派ヲ立テサル國〔按〕基督敎ヲ以テ國家ノ主敎ト爲スト雖モ、其分派ナル加特力若クハ波羅特士旦ヲ國家ノ主派トナサヽル國ヲ云フ、ヨリモ一層進歩シタル者ナリ、〔按〕亞米利加國ハ、專ラ天理神道ニ從フヲ旨トスルカ故ニ斯云フナリ、但シ縱令ヒ此國ト雖モ天理神道ヲモ信セスシテ神ヲ疑フ者ハ、決シテ官吏トナルヲ得可ラス、何者、官吏ノ國憲誓約文ホールシリヒハッスンジスアイデス、〔按〕職官ヲ奉承スルニ方リテ必ス國憲ヲ遵守スヘキ旨ヲ述告スル誓約文ヲ云、ト、デス、ヘルハ元來天神ニ誓フ者ナルニ公然神ヲ信仰セサル徒ノ、此誓約ヲ爲スヘキ理絶エテアラサレハナリ、

㊀卷之二第二十二欵ヲ參看ス可シ、○北亞米利加ノ制度ハ全ク之ニ反セリ、曰ク「國家ノ諸職官ヲ授任スルニ、決シテ本人奉スル所ノ敎道如何ヲ問フヲ要セス」ト、

長川新吾　校

國法汎論卷之九上終

國法汎論卷之九中目錄

第五欵
第三　國家ト敎會トノ關涉
第六欵　方今國家ノ敎會ニ相對シテ有スル權利
第七欵　監督ノ權利

國法汎論卷之九中目錄
第五款 國家ト教會ノ關係
第六款 古代諸國ニ於ケル國家ト教會トノ關係
第一 猶太族ノ教會ノ關係
第七款

國法汎論卷之九中

第五款

第三 國家ト教會ノ關渉（ヘルヘルトニス、デス、スターテス、ツール、キルヘ）

瑞士 イ、カ、ブルンチュリ 著
加藤弘之 譯

國家ト教會トヲ以テ相分別シ、全ク獨立シタル二個ノ會社（按）即チ政教ヲ二途トナス者ナリ、）トスルハ、凡ソ基督教ヲ奉セル各國ノ通制ナリ、唯二三ノ國ニ於テ、民情偶安全ヲ失ヒ、暴動ヲ生セシ時ニ方リ、或ハ政教ヲ二途トナスノ眞理ヲ、却テ非ナリト爲セシコアリ、其他ハ獨リ神道ニ惑溺セル信者（若クハ空理ニ心酔セル學者ニアラサレハ、決シテ此眞理ヲ以テ非トスル者ナシ、實ニ方今開化ノ大ニ進歩セシト、自由權ノ隆盛ナルトヲ得シハ、殊ニ此眞理ノ實地ニ行ハレシニ由ルナリ、然ルニ國家ト教會トノ關渉ヲ定ムル制度ノ如キハ、古今各國皆相異ニシテ、今時ト雖モ未タ全ク一定スルニ至ラス、依テ古今ノ沿革ニ從テ生シタル、諸制度ノ顯著ナル者ヲ左ニ擧ク、

（第一）基督教漸ク歐洲ニ行ハルヽニ至リシ頃ニハ、頻リニ驅逐ニ遇ヒ羈縛ニ困ミシカ、其後羅馬希臘帝國（レーミシュギリーヒシュ）（按）即チ東羅馬、一稱ビツァンツ帝國ト云フ者）ニ於テ始テ、國家ノ准許ヲ得テ遂ニ國教トナリタリ（去レトモ此國ノ如キモ猶未タ太古ノ陋見ヲ脱セサリシカ故ニ、神道ヲ以テ國事ノ一端トナシ、而シテ國家必ス政務ト共ニ神道ヲモ制馭スルノ全權ヲ握レリ、故ニ國家ノ專權ヲ掌レル帝ハ、必ス其大權ヲ教會上ニ施行シタリキ、○帝ハ教會ヲ保護シテ之ヲ盛大ニナスカ爲メ、緊要ナル憲法ヲ制定シ、教會ノ遵守スヘキ大憲及ヒ教育ノ方法ヲ設定シ、又ハ教道ノ儀規ヲ撰ヒ、且ツ異端ニ陷ル者ヲ處置シ或ハ之ヲ懲罰スル等ノ規律ヲ定ムル等ノ權ヲ掌握シ、加之、帝自ラビショフ（按）大教長）等ヲ徴シテ會議セシメ、自ラ自己ノ代理者ヲ命シテ、此會議ヲ管理定決セシメ、以テ眞實ノ法ヲ設定スルノ權ヲ握レリ、是故ニ帝ハ啻ニ國家ノ元首タルノミナラス、兼テ教會ノ主長タリキ、

帝敎會ノ主長タリシト雖モ、是レ唯其外部上ニ關スルノミナリキ、（按）敎會ヲ制馭スルノ權ノミニシテ、敎道敎旨ヲ管督制馭スルノ權ハ、絕エテアラサリナシ）帝固ヨリ基督敎ノ門徒ナルカ故ニ、其敎道ヲ以テ自己ノ權勢ヨリ出ル者ト爲ス能ハス、必ス基督ノ高尊ナル權勢ヨリ出ル者トシテ認メサルヲ得ス、故ニ帝モ亦聖徒（アポステル（按）基督ノ徒弟ヲ云フ）ノ道統ヲ承繼セルビショフヲ以テ、基督敎ノ敎頭ト認識シテ、之ヲ尊敬セサル可ラサルノ法ナリ、但シ帝ノビショフヲ尊敬スルヤ、帝自カラビショフノ敎道ヲ好ミセシカ故ニアラス、唯帝ビショフヲ以テ眞實ノ基督敎徒ト認識セシカ故ナリ、○基督敎軀逐ニ遇ヒシ頃ヨリ、既ニ敎會ノ爲メニ別種ノ職官ヲ立ルノ基ヒ開ケタリ、而メ此職官國家ノ職官トハ全ク相離レタル者ナリキ、

初メクレルス（按）敎徒ノ身分ト云フ義（即チ僧徒ト云フカ如シ）ノ身分立チシカ、此身分ハ國家官吏ノ如ク、其職掌ヲ帝ヨリ受領スル者ニハアラサリキ、而シテ此身分凡ソ精神靈魂ニ係レル事ニ就テハ（全ク國家制馭ヲ受ケス、唯自ラ信從スル所ノ基督ヲ主長トシテ其旨意ニ恭順セシカ如ク、外面ニ顯ハルヽ事業ニ就テモ、亦國家元首ノ制馭ヲ脫シテ（別ニ國家ニ從屬セサル一會社トナランコトヲ企望セリ、當時シノーデ（按）敎徒ノ會議院ナリ）ノ制度ヲ立テシハ、即チクレルス國家ニ從屬セサル一會社トナランカ爲メニスル所以ナリ、去レトモ衆相會スルコトハ甚タ稀ナリキ、○聖徒ノ代者タルパトリアルク（按）希臘加特力敎ノ大敎長）及ヒ聖徒ペトルスノ繼道者ナルビショフ（基督敎行ハルヽ各國ノ首府トスル羅馬ニ於テ、帝宮ヨリ遠隔セル宮殿ニ居住セシビショフ）敎會ノ父ト云ヘル尊號ヲ得テ、其主長トナリ、而シテ帝ト相對セル高位ニ在リテ、敎會ノ獨立自主ヲ保護スルヲ以テ自ラ任シタリキ、

是ニ於テ政治法制ノ爲メニ結ヘル會社（按）即チ國家ナリ）及ヒ敎道ノ爲メニ結ヘル會社（按）即チ敎會ナリ）ナル二個ノ會社並ヒ立テ（各存在ノ理、職官ノ制、及ヒ業務ノ方法等ヲ異ニシ、以テ互ニ獨立自主ノ權ヲ掌握セリ、○但シ此二個ノ會社唯外部上ニ於テノミ、相共ニ基督敎ノ信者ナル帝ヲ主長トシテ其管下ニ屬シタリ、是故ニ外部上ニ於テハ、國家其權ヲ以テ敎會ヲ制馭シ、而シテ之ヲ國家ノ敎會トナシタリ、去レトモ國家ハ遂ニ衰運ニ赴キシカ故ニ、外貌ニ於テハ（頗ル大權ヲ握ルカ如クナリシカトモ（其實ハ全ク孱弱トナレリ（然ルニ敎會ハ猶强壯ニシテ其氣力甚タ盛ナリシカ故ニ、外部上ニ於テハ國家ノ管下ニ屬セシカトモ、敎道ニ係レル實權ニ至リテハ、遠ク國家ノ右ニ出テタリ、是ヲ以テ自ラ能ク其獨立自主ヲ保護スルヲ得タリ、

此ノ如ク國家ノ元首兼テ敎會ノ主長トナルノ制度、今時猶行ハルヽ國アリ、方今峨羅斯帝ノ如キハ、ビツァンツ國（按）前ニ羅馬希臘國ト云フナリ、又一ニ東羅馬ト稱ス）者是ノ如ク兼テ其國敎會（按）峨羅斯ノ國敎會ハ、希臘加特力敎會ナリ、）ノ主長ナリ、但シ峨羅斯國ハ頗ル强壯ニシテ、猶次第ニ隆盛ニ赴クノ勢ヒアルカ故ニ、帝自ラ强大ノ威力ヲ以テ敎會ノ權ヲ施行スルコト（遙カニビツァンツ國ニ優レリ、

英國ノ如キモ顯理第八世（ハイシリヒ）一千四百九十一年ニ生レ、五百零九年ニ即位シ、其四十七年ニ殂ス、在位ノ時ニ於テハ、國君エングリシエキルヘ（按）英國波羅特士旦ノ一派ナリ、）ノ主長トナリテ、全ク敎會ヲ制馭スルノ權ヲ握ルコト、宛モ羅馬敎皇ニ異ナラサリキ、去レトモ此ノ如キ强權ハ僅ニ一時ニシテ磨滅シ、其後ニ至リテハ（國君唯敎會ヲ管スルニ過キサルコトトナレリ、

甲ノ制度（按）峨羅斯ノ如ク國君强大ノ威力ヲ以テ、敎會ノ權ヲ施行スルノ制度ヲ云フ、ハ、方今ノ世論ニ合セサルコト勿論ナリト雖モ、或ハ之ヲ眞制トナス者ナキニアラス（去レトモ條理及ヒ實際上ニ於テ倂ニ大弊害アルコト、敢テ辨ヲ俟タスシテ明カナリ（凡ソ國家ト敎會トハ、各自ニ內外ノ二權ヲ有スヘキコト（固ヨリ當然ナリ、故ニ必ス各

相分テ獨立自主ノ者ト爲スヘキ「亦當然ナルニ、全ク此理ニ背キ獨リ國家ノ一君主「此二會社ヲ統治スル𪜈ハ、其景狀宛モ一頭二身ノ不具人ニ相似タリ、〇國家ノ元首ハ素ト唯國家ノ政令ヲ掌ルノ主務アリテ」且ツ唯能ク此職掌ヲ負擔スルニ堪フヘキ者ナルニ、又兼テ教會ヲ制馭セント欲スルハ「是即チ元首其當然ノ權域ヲ超ル者ト云フヘキノミナラス、決シテ此兩會社ヲ統治スルニ堪ヘサルヤ必然ナリ」、

此ノ如ク獨リ國家ノ元首「國家及ヒ教會ノ二會社ヲ統治スルノ權ヲ掌握スルノ制タルヤ」或ハ君主擅制（デスポチスムス）ノ政ニ趨リ、或ハ却テ此政ノ原因トナル者ナリ「凡ソ各種ノ自由權ヲ壓抑シ、及ヒ世道ノ開明上進ヲ障碍スルヿ、獨リ此政ヨリ甚タシキハナシ、〇兆民及ヒ一個人若シ國家ノ爲メニ苛虐セラルヽヿアル𪜈ハ」則チ惠憐ヲ教會ニ乞ヒ「或ハ教會ノ爲ニ驅逐セラルヽヿアル𪜈ハ」則チ保護ヲ國家ニ求ムヘキヿ當然ナリ、然ルニ兆民及ヒ一個人斯ル望ヲ失フニ至ル𪜈ハ、遂ニ自己ノ災害ヲ免カルヽニ道ナシ、國家若シ兆民及ヒ一個人ヲ奴視シテ、自己ノ威權ヲ弄スルヿアル𪜈ハ、則チ教會ハ神道ヲ以テ兆民及ヒ一個人ノ靈魂ヲ救育シ、又教會若シ兆民及ヒ一個人ノ知識ヲ壓屈セント欲スルヿアレハ、則チ國家其權ヲ以テ此災害ヲ脱免セシムルハ「共ニ甚タ緊要ノヿナリ、〇方今西洋各國ノ文明開化、遙カニ東洋諸州ニ卓越スルヲ得タルハ「其原因一ナラスト雖モ」西洋各國夙ニ國家ト教會トヲ相分テ、二個ノ獨立會社トナセシ、大事業ヲ以テ、殊ニ其尤ナル者ト云フヘシ「又東洋諸州ニ於テ「今時猶擅制ノ政ヲ存スルヲ得ル所以ノ理亦一ナラスト雖モ、一君常ニ政教ノ二種ヲ統一スルノ制ヲ以テ、殊ニ其尤ナル者ト云フ可シ、蓋シ馬哈默各國「按」土耳其及ヒ其近隣ヲ云フ」ノ遠ク基督各國「一按」歐洲各國ヲ云フ」ニ企テ及ハサルヤ、職トシテ之ニ是由ルナリ」

「第二」中古佛朗哥國隆盛ナル時代ノ如キハ、太古羅馬希臘國ノ制度ヲ承繼シテ、更ニ中古ノ新制度ヲ創始セシ時ナレハ「殊ニ當時預定セル巴力門ノ制度ノ如キハ、數百年ノ後ニ至リテ、始テ實際ニ用ヒラレタリ」國家ト教會トヲ全ク相分別スルノ制度未タ曾テ全カラサリシカ𪜈、其後ニ至リテハ、此二會社相離レ、全ク獨立自主ノ者トナリ、各個ノ主長之ヲ統治シ、而シテ各會社其權ヲ基督教ノ行ハル、全土ニ施サント欲スル志ヲ抱ケリ、乃チ國家ニ主タル者ハ帝「按」即チ獨乙帝ナリ」ニシテ、教會ニ主タル者ハ教皇ナリキ、㊀

㊀「按」夙ニ國家ト教會ト相分レテ、獨立自主ノ者トナリシヿ、前「第一」ニ論スルカ如シト雖モ、其初メニ在リテハ、國家ノ元首タル帝、猶外部上ニ於テ教會ヲ兼管スルノ制アリシカ、其後ニ至リテハ、國家教會ノ二會社、各主長ヲ異ニシテ、「眞ニ二個ノ獨立會社トナリシナリ、國家及ヒ教會ノ二會社全ク相分レテ「實ニ獨立自主ノ者トナルヲ非トスルノ論ハ、當時全ク廢絶シタリキ「從來帝ハ教會ヲ以テ國家ニ從屬シテ、其指令ヲ仰クヘキ者トナシ「教皇モ亦國家ヲ以テ教會ノ管下ニ屬ス可キ者トナシテ、互ニ輕蔑スルノ風習アリシカ𪜈、當時既ニ此弊全ク消滅シタリキ、〇天神二個ノ劍ヲ二員ノ主長ニ賜ヒ、以テ二個ノ大權ノ標記トナセリ「一ハ國權ノ標記トシテ帝ニ賜ヒ、一ハ教權ノ標記トシテ教皇ニ賜ヘリ」ト云ツノ說ハ、曾テギベルリネン「一按」帝ニ左袒セシ黨」及ヒギュエルレン「按」帝ノ仇敵トナレル黨」カ俱ニ信スル所ナリキ、「卷之一第四款ヲ參看スヘシ、」

國家及ヒ教會ノ二會社相密接シ「且ツ時アリテハ、全ク相混和シ、而メ二會社相共合シテ各國ヲ統治シタリ」是故ニ國家ノ法院、公衆ノ平和ヲ損害セル民人ヲ罰メ其權利ヲ奪ヒ、決シテ赦宥セサル𪜈ハ、教會亦キルヘンバン「一按」教會施ス所ノ刑罰ヲ云、又教罰ト譯ス」ヲ以テ「此者ヲ門徒ヨリ放逐スルヲ常法トナセリ、故ニ國家ニ於テ權利ヲ失フ者ハ、天上ノ安樂ヲ受ルノ望ヲモ共ニ失フニ至レリ、〇又教會教道ヲ信セサル門徒ヲ、教會ヨリ放逐シ、決シテ赦宥セサル𪜈ハ、國家亦之ヲ罰スルノ法アリキ、故ニ教會ニ於テ天上ノ罰ヲ受ケタル者ハ、必ス國家ニ於テ地上ノ罰ヲモ免カルヽヿ能ハサリキ、〇國家教會此ノ如ク相結テ施行セル權力ハ「實ニ恐怖ス可クシテ、決シテ限量アラ

サル可シト見エタリキ、何者生キテハ、地上ノ刑ヲ免カルヽ能ハス、死シテハ天上ノ罰ヲ免カルヽ能ハサリケレハナリ、

然ルニ其後ニ至リ、教國二權(〔按〕教會ノ權ト國家ノ權トヲ云フ)ノ關係ニ就テ、大爭鬪起レリ、蓋シ帝ノ權力ハ、元來教會ノ權力ニ超過セシカドモ、帝ハ自ラ此强大ナル權力ヲ减縮シテ、教會ノ權力ト平均センヿヲ嫌ハサリシニ、教皇ハ却テ自己ノ權力ヲ擴張メ、帝ノ權力ヲ壓抑セントセシカ故ニ、遂ニ爭鬪ヲ生スルニ至リタリ、○中古ニ於テハ、羅馬教會實ニ基督教ヲ奉スル西方各國ヲ統管スルヲ得カシ故ニ、其威力大イニ日耳曼帝國ノ威力ニ超過セリ、然ルニ帝ハ其位爵各國ノ王公侯伯ニ超ユルト雖ドモ、其實權ニ至リテハ、決シテ西方各國ヲ統治スルニ足ラサルヲ以テ、各國皆獨立不羈ニシテ、殆ト帝ノ制馭ヲ受ルヿナカリキ、○教會ハ啻ニ神道ニ係レル權ヲ掌握スルノミニ止マラス、猶且ツ學問ヲ勸メ、及ヒ古方ノ教育ヲ施ス全權ヲ掌握シタリ、而シテ當時理ヲ國家ノ用ヲ爲シ、及ヒ家スノ理ヲ明カニスルニ足ルヘキ學問アラサリシカ故ニ、教會專ラ理論ヲ以テ其威權ヲ張リ、其勢力ヲ求ムルヿヲ得タリ、○教會常ニ云ヘリ、「吾カ教會ハ宜シク靈魂界ナル可ク、國家ハ宜シク體軀界ナル可シ」ト、若シ教會ト國家ト相交關スルノ理ヲ以テ、靈魂體軀ノ相關渉スル理ト、全ク相同シト爲セハ、教會ハ啻ニ國家ノ上ニ立ツノミナラス、實ニ之ヲ制馭スルノ權ヲ握ルヨリ好キハナシト云フ可シ、威力强大ナリシ教皇ハ、其權ヲ以テ實ニ國家ヲ制馭センヿヲ謀リテ、國家ヲ教會區域ノ一部ト爲サント欲シ、且ツ國家ノ權ヲ施行スル所ノ帝ハ、宜シク教會ノ封侯ノ如クナル可シト云フノ論ヲ主張シタリキ、○グレゴール第七世(羅馬教皇、一千零二十年印度ニ生レ、其七十三年教皇ノ位ニ陞リ、八十五年ニ殂ス、)ハ、獨乙帝顯理第三世(一千零十七年ニ生レ、其三十九年ニ即位シ、五十六年ニ殂ス、)(此帝强大ナル權力ヲ以テ、能ク教皇ヲ廢立シタリ)ノ殂セシ後ニ至リテ、始テ靈魂體軀二界ノ兩權ヲ教會ニ統一シ、而シテ帝ニハ唯全ク教會ノ監督ヲ受ケテ國權ヲ施行スルヿヲ許シタリ、幷ニインノケンツ第二世(教皇、一千一百六十一年羅馬ニ生レ、其九十八年教皇位ニ陞リ、一千二百十六年ニ殂ス、)モ、亦同シク右ノ兩權ヲ教會ニ統一スルヲ得タリキ、○教會其權ヲ以テ國家ヲ管理スルトキハ、殊ニ左ニ擧ル所ノ數事件隨テ生ス可シ、

〔一〕教道ニ於テ、信神ノ爲メ及ヒ教會制度ニ就テ緊要ナル法、則チカノニセス、レヒト(〔按〕教會ノ法ヲ云フ)ヲ以テ第一等ノ法ト爲ス、

〔二〕教徒ヲ以テ俗人ヨリ尊貴ナル者トナシ、而メ國家ヨリ教徒ニ特權ヲ授與ス、(〔按〕租税ヲ赦免シ、其他俗人ニ准許セサル特權ヲ授與スルヲ云フ、)

〔三〕實ニ教會ノ罪ヲ受ケタル者ハ、選擧セラレテ王位ニ昇ルヲ得ス、且ツ帝若シ教道ヲ疑フヿアルトキハ、則チ直ニ教罰ヲ受ク、○帝若シ教會ニ恭順セサルヿアルトキハ、則チ直ニ位ヲ黜ケラレ國ヲ奪ハレ、且ツ其臣僚ヲシテ敢テ帝ニ恭順スルヲ得サラシム、

〔四〕基督教ノ正道ヲ傳播シ、而メ火及ヒ劍ヲ以テ異端邪説ヲ驅逐スルノ處置(國家ノ義務トナル、)

中古ノ教會ハ、其知識ノ國家ニ優ルヲ以テ、實ニ國家ノ上ニ位スルヲ得シカドモ、遂ニ全ク國家ヲ制馭スルヲ得ルニハ至ラサリキ、

國家ノ法院儘教會示ス所ノ規律ニ容喙スルヿアリキ、勇膽アル貴人エーケ、ホン、レプロウ(獨乙人、一千二百年代ノ人、)ナル者ハ、其編作セルサクセンスピーゲル(〔按〕中古獨乙ノ法書、)ノ中ニ、勇壯ナル語ヲ記セリ、曰ク「縱令ヒ教會ト雖モ、敢テ吾邦ノ常法若クハ籍土法ヲ、損害スル所ノ法ヲ設置スルヲ得ス」ト、又佛國ノ英主路易第九世(一千二百十五年ニ生レ、其二十六年ニ即位シ、其七十年ニ殂ス、)ハ教會ヨリ教罰ヲ受クル者アル毎ニ其者實ニ教罰ヲ受ク可キ罪アリヤ否ヲ、自己ノ法院ヲシテ預メ探索セシメタリキ、○國家ノ法院ハ、教會法院ノ恣ニ威權ヲ振フヲ惡ミ、力ヲ極メテ之ヲ防拒シ、且國王若シ教罰ヲ蒙ルヿアリドモ、決シ柔順ニ之ヲ奉スルヿヲ爲サス、又其臣僚若シ教罰ヲ蒙ルヿアリドモ、敢テ之ニ屈セスシテ、猶其君ノ爲メニ忠節ヲ存セシ者少カラサリキ、○又時アリテハ、教罰ヲ受ケタル王公及都人等、教會ノ專權ヲ

怒ミ、大ニ憤怒シテ復讐ヲ謀リ、而メ赦罪ヲ肯セサリシ教士ヲ驅逐シタリキ、其他又時アリテハ教士ヨリ租税ヲ收取シ、及ヒ罪犯アル教士ハ國家ノ法院ニ於テ之ヲ罪セシヿモアリキ、○去レト其大勢ヲ觀レハ、教會ノ勢力頗ル强大ニシテ、常ニ國家ノ右ニ出テタリ、蓋シ國家ノ知識ハ猶淺ウシテ、自ラ教會ノ學ニ抗抵スルノ術如何ヲ知ル能ハサリシニ由テナリ、教會ハ常ニ自ラ國家ノ上ニ位セント欲シテ專ラ勉勵シ、而シテ教會ハ天神ノ立ル所ナレハ、宜シク人ノ立テシ國家ノ上ニ位スヘキヿ、固ヨリ天理ノ當然ナリト自ラ誇稱セリ、然ルニ國家ハ僅ニ世事ニ係レル自由權（按）精神靈魂ニ係レル自由權ト相異ナリ、）ヲ增益シ、及ヒ天神直ニ賜フ所ノ二劍（一ハ教皇ニ賜ヒ、一ハ帝ニ賜フ、）ヲ、殆ト同等ノ者トナスヲ以テ足レリト爲シタリキ、（按）蓋シ國家ハ教會ノ上ニ位セント欲スルノ念慮、絶エテアラサリシヲ云フナリ、○其後ホーヘンスタウヘン氏（按）獨乙帝ノ位ヲ得タル一氏族ノ名ナリ、此氏族一千一百卅八年ニ興リ、二百五十四年ニ亡ヒタリ、滅亡セシヨリ、世偏ク教會ヲ以テ國家ノ上ニ位スル者トシテ認ムルニ至レリ、但シ國權敢テ教會ノ制馭ヲ仰ク可カラサル旨ヲ、主張スル者ハ、儘之レアリキ、即チ佛王非立第四世一千二百六十七年ニ生レ、三百十四年ニ殂ス、一千三百零四年乾元元年ニ當リ、教皇ホニハッツ在位ノ時間、一千二百九十四年ヨリ三百三年ニ至ル、ニ抗抵シテ此論ヲ主張シ、并ニ獨乙帝路ド易一千二百八十六年ニ生レ、三百十四年ニ即位シ、其四十七年ニ殂ス、及ヒ獨乙國會相俱ニ、一千三百三十八年延元三年佛朗佛ノ會議ニ於テ、此論ヲ主張シタリキ、

去レト國家ト教會トノ關涉、遂ニ右論スルカ如キ景況ニ止マリシニハアラス、既ニ第十四世期ヨリ國家次第ニ外權（按）外面ニ對抗スル權力ヲ云フ、）ヲ復興シテ、教會ノ制馭ヲ脱セン丁ヲ謀ルニ至レリ、蓋シ國家專ラ太古羅馬國ノ政令ニ則リ、且ツ勉メテ羅馬ノ法ヲ取リシカ故ニ、自己ノ甚タ高尚ニシテ、決シテ教會ノ制馭ヲ受クル者ニアラサル所以ヲ悟リシニ由テナリ、○學問モ亦教會ノ用ヲ濟ス者ト、國家ノ用ヲ濟ス者ト相分レ、加之從來全ク教會ノ看護ヲ受ケシ學問、次第ニ此看護ヲ脱メ、自ラ國家ニ屬スル者ト也、隨テ羅馬ノ法學ヲ講求スル所ノ學士盛ニ輩出シ、教會ノ法學ヲ講求スル學士ニ對敵スルヲ得ルヿトナレリ、是ニ於テ國家ハ嘗テ教會ノ恣ニ自己ヲ以テ靈魂トナシ國家ヲ以テ體軀トナセシ比較論（例ヘハ自己ヲ以テ晝間ニ光ヲ放テル太陽ニ比シ、國家ヲ以テ夜間ニ光ヲ放テル太陰ニ比スルカ如シ、）ヲ非ナリトシテ取ラサルニ至レリ、○然ルニ教會ハ自ラ盛大ノ威力ニ由テ全ク國家ヲ制馭スルヲ得タリト思惟シ、遂ニ其權ヲ國事上ニ施行セン丁ヲ謀リ、愈〻此事ニ勉勵シタリキ、去レト教會此事ノ爲メニ、決シテ自己ノ外權ヲ加ヘ、自己ノ榮光ヲ增ス能ハサリシノミナラス、却テ神道ノ純清ヲ汚シ、及ヒ其能力ヲ減シ、加之教會ノ精力次第ニ衰弱セシカ故ニ、日々ニ强盛ニ赴ケル國家ニ對抗スル能ハサルニ至レリ、○既ニ第十五世期ニ至テハ、以太利ノヘチヂクノ如キ小國ノ貴族政府（アリストカラチー、（按）貴族政權ヲ執レル者、）ト雖モ、其近地ニ在ル所ノ教皇ニ對抗シテ其侮ヲ禦キ、以テ自己ノ威權ヲ全ウスルヲ得タリ、蓋シ當時ヲ去ル二百年前ニ在テハ、帝ノ權力ト雖モ、決シテ此ノ如キヿヲ爲シ能ハサリキ、僅ニ二百年ニシテ教皇ノ威權斯ク變化セシハ、眞ニ驚クニ堪ヘタリ、是ニ於テ教會ノ其地位ヲ國家ノ上ニ占ムルハ、實ニ天理ニ反シ、正道ニ背ケル所以ノ理、及ヒ此事啻ニ國家ニ害アルノミナラス、教會ニモ亦甚タ害アル所以ノ理、自ラ明瞭トナルニ至レリ、

第十六世期以來エースイテンオルデン（按）加特力教會ニ於テ、一種ノ傳教會社ナリ、）等、教皇インノケンツ第三世（前ニ出ツ、）ノ論旨ヲ繼テ、更ニ教皇ノ威權ヲ以テ國家ヲ制馭セン丁ヲ謀レリ、但シ當時ニ在テハ教皇ノ威權、決シテ往昔ノ如ク無限ノ大權ヲ掌握スルニ堪ヘサルヲ悟リシカ故ニ、敢テ無限ノ大權ヲ庶希セス、唯教會ノ威權ヲ維持センカ爲メニノミ、教皇ヲシテ國家ノ事ニ其權力ヲ施行セシムルヿ、甚タ緊要ナリト云フノ論ヲ立テ、以テ大イニ人心ヲ得ント欲シタリ、蓋シ此論ハ自ラ教會ノ威權ヲ減削スルニ似タリト雖モ、頗ル時勢ヲ知レル者ト云フ可シ、然ルニ其初メニ於

テハ、敎皇シキスツス第五世（一千五百二十一年ニ生レ、其八十五年ニ敎皇ノ位ニ即キ、九十年ニ殂ス）モ亦此論ヲ以テ頗ル弊害アル謬見ト爲シテ擯斥セシカド、其後ニ至リテハ、敎皇政府此論ノ至當切要ナル所以ヲ悟リ、遂ニ之ヲ認許スルニ至レリ、○是故ニ其後ニ至リテハ、敎皇政府此ノ如キ處分ヲ以テ、各國王ニ信ヲ取リ、之ヲシテ敎會ノ事ニ服從セシムルヿヲ得タリ、就中歐洲南方羅馬人種ノ各國ニ於テハ、殊ニ此ノ如クナリキ、去レド其大勢ニ就テ觀レハ、此ノ如キ處分、決シテ永ク其功ヲ奏スルニ足ラサリキ、何者、今時猶二三ノ國ニ於テハ、公事ニ就キ僞敎會政府ノ指揮ニ從フヲ以テ、國ノ爲メニ大ニ便益ナリトスルヿナキニシモアラスト雖モ、（按、蓋シ衆民猶敎會ノ政ニ悅服スル情アレハ也）去レド各國全ク敎會ノ制馭ヲ受ケシト欲スルノ心絕エテアラサレハナリ、是故ニ今時ハ敎會政府モ亦勢ヒ自ラ各國ヲ制馭スル能ハサルヲ知ルト雖モ、猶尊大ヲ主トシテ、自ラ各國政府ノ上ニ位スルノ權利ヲ握ルト誇稱ス、

（第三）第十六世期ニ於テ。敎會改正アリショリ、國家ト敎會ト相關涉スル景狀一變シテ、更ニ進步ヲ加ヘタリ、但シ此進步ノ端緒ヲ開キタル者ハ、國家ノ英傑ニアラスシテ、敎會ノ改正ヲ謀リシ人傑ナリキ、即チ獨乙國波羅特士旦派ノ始祖タルルテルハ、特ニ神道ノ旨意上ニ心ヲ用ヒ、偏ニ其正善ヲ復興スルヲ以テ敎會ノ主務トナシ、而シテ敎會ノ自ラ國家ヲ制馭セント欲スル心情ヲ以テ、甚タ邪惡ナル者トナシ、大ニ之ヲ賤メリ、○是ニ於テ波羅特士旦派ハ、偏ニ敎會ノ改正ヲ遂ケンカ爲メニ、唯質直ナル處女ノ如クナリテ、國家ノ補助擁護ヲ求メ、而シテ決シテ、自ラ國君ノ如キ威嚴榮光ヲ得シト欲セス、總テ世事ニ就テハ、好テ國家ノ指令ニ從フヲ旨トシ、獨リ神道ノ旨意ニ就テハ、十分ノ自由權ヲ保有シテ、決シテ國家ノ爲メニ妨碍セラレサランヿヲ願フタリ、是ヲ以テ此敎派ハ、自ラ務メテ神意ヲ奉シテ、自己ノ靈魂及ヒ國家ノ靈魂ヲ神意ニ合セント欲セリ、蓋シ波羅特士旦派ハ、國家ノ成立モ亦元來神意ニ出ルノ理ヲ悟リ、而シテ基督敎ヲ奉スル各國ノ如キハ、最モ此理ニ從

テ神ヲ畏敬セサル可ラスト爲シ、且ツ縱令ヒ僞像敎ヲ奉スル各國ト雖モ、決シテ此理ヲ蔑如スル能ハスト爲セリ、

但シ爾來敎國二會社相關涉スルノ景狀、各國自ラ相異ナレリ、二三ノ國ニ於テハ、（二會社關涉ノ景狀、古時ビツァンツ國ノ景狀ニ復シテ、敎會ハ國家ノ下ニ在テ、其制馭ヲ仰ク者ノ如キ勢ヒトナリ、且ツ時アリテハ、國家ノ域內ニ屬スル一會社ノ如クナルニ至レリ、但シ基督敎ノ旨意ハ、絕エテ國家ノ制馭ヲ受クルヿアラサリキ、○是故ニ當時ノ各國ニ於テモ、猶今時開明セル各國ニ於ケルカ如ク、羅馬人ノ精神ヲ繼テ、專ラ政ト法トニ係レルヿヲ主ト爲セシナリ、故ニ當時國家ノ權ト敎會ノ權ト相關涉スル景狀、宛モ羅馬ノ國權ト其敎權ト相關涉スル景狀ノ如クナリキ、但シ國權ハ殊ニ國內ニ限リ、敎權ハ各國ニ通達スル者ナリキ、然ルニ各國ノ權力次第ニ強盛ナルニ隨テ、遂ニ「國家ヲ治ムル者、宜シク兼テ敎會ヲ治ム可シ」ト云ヘル論說起レリ、而メ加特力派ニ信從セル君主等モ、亦此說ヲ以テ加特力派ヲ挽回スルニ緊要ナル者ト爲セリ、

去レド當時ノ世態及ヒ輿論ハ大イニビツァンツ國ノ古昔ト相異ナリケレハ、敎國二會社ノ關涉モ、亦自ラ相異ナラサルヲ得サリキ、當時ノ國家ハビツァンツ國ノ如ク、專治ノ權ヲ握ル能ハサリキ、故ニ國家ハ、實ニ敎會ノ上ニ地位ヲ占メタリト雖モ、其本意タル、決シテ之ヲ制馭スルニアラス、唯之ヲ監督看護スルノミナリキ、

波羅特士旦派ノ如キハ、加特力派ノ如ク一主長ノ統治ヲ受クルヿ、絕エテアラサリキ、（按、加特力敎會ハ、敎皇其主長トナリテ、之ヲ統治シタリ、）但シ此新敎派（按、即チ波羅特士旦敎派ヲ云フ、）ト雖モ其敎旨ニ係レルヿニ就テハ、各國ノ敎會互ニ相通シ相結ヒシカド、其敎會大憲（キルヘンヘル

ハッスンゲ、)ニ至リテハ、各國全ク別個ニ之ヲ設立シタリ、○是ニ於テ、邦土敎會ランデスキルヘ、〔按〕國家特別ニ保護スル所ノ敎會ヲ云フ、但シ國家自ラ之ヲ信奉スルニアラス、故ニ國敎會ト稱スル者ト相異ナリ、混スル勿レ、ノ名義始メテ生シ而ノコンシストリウム及ヒシノーデ(〔按〕共ニ高貴ナル敎官、)ノ如キ官ハ、各國別個ニ之ヲ置ケリ、故ニ各國ノ同官全ク別個ニ存在セシヿ、古時各國ノ加特力敎官別個ニ存在セシノ比ニアラサリキ、蓋シ各國ノ敎會ヲ統一スル主長アラサルニ由テナリ、○各國共ニ國君自ラ敎會主長ノ如クナリテ、其外面ニ顯ハル事ノ權ヲ掌握シタリキ、(〔按〕即チ敎會ヲ制馭スルノ權力ヲ云フ、敎旨ニ係レル權ニアラス、)

〔第四〕又專ラ加特力派ヲ奉セル國ニ於テモ、敎國二會社相關涉スルノ景狀變化スルニ至レリ、佛國人民及ヒ其君主等、羅馬敎會ノ擅ニ佛國ヲ制馭スルヲ惡ミ、夙ニ之ヲ免レンヿヲ謀リシカ、其勢力他各國ヨリモ更ニ强ク、加之ガルリカニシユ、キルヘ(〔按〕佛國ノ加特力敎會ヲ云、)モ、亦佛國ノ敎會トナリテ其自立ノ權ヲ保有セント欲シケレハ、此敎會ノビショフハ、自己ヲ以テ先ツ佛人タル者ト認メナシ、而シテ第二ニ羅馬敎會ノ貴官タル者ト認メナシタリ、幷ニ此國ノ法士(〔按〕裁判官ナリ、)及ヒ巴力門ハ、勇敢ト英才トヲ以テ、能クグレルス(〔按〕敎徒ヲ云、)ノ暴慢ヲ防阻シテ、民法及ヒ敎法ヲ維持スルヲ得タリ、○佛王路易十四世(ルドヰク)一千六百三十八年ニ生レ、其四十三年ニ即位シ、七百十五年ニ殂ス、ハ、實ニ全ク加特力派ノ旨ニ從テ、其政令ヲ施行セシカモ、敢テ自ラ敎皇政府ニ諛遜セント欲スルノ意絕エテナク、且ツ佛國ニ於テ自己ノ權力ヲ、逾ヽニ敎皇ノ權力ヨリ强大ニナスヿヲ得タリ、故ニガルリカニシユ、キルヘ(前ニ出ツ)モ、

亦全ク路易十四世ニ服從シタリキ、○第十八世期ニ至リテハ、獨乙及ヒ墺地利ニ於テモ、亦國家實ニ敎會ノ制馭ヲ脫シテ、自立セント欲スルノ志情盛ニ生シタリ、獨乙女帝マリア、テレッシア一千七百十七年ニ生レ、其四十年ニ即位シ、八十年ニ殂ス、ハ、其ミニステルカウニッツ〔按〕一千七百十一年ニ於テ、墺地利ノ維也納ニ生レ、其九十四年ニ死ス、ト共ニ、國家ハ必ス敎會ノ上ニ立テ之ヲ管督スヘキノ論ヲ銳意ニ主張シ、且ツヨーセッフ第二世マリア、テレッシアノ子ニシテ、其嗣君ナリ、一千七百四十一年ニ生レ、其六十五年ニ即位シ、九十年ニ殂ス、モ、亦粗暴敢テ顧ミルナキノ性ヲ以テ此ノ論ヲ繼キ、全ク之ヲ遂クルヲ得タリ、又一千七百八十九年(寬政元年)獨乙敎會ノ高官等亦エムス(獨乙ノ地名)ニ相會シテ、獨乙ノ加特力敎會ハ、自今羅馬敎會ノ專權ヲ脫シテ自立センヿヲ商議シタリ、○當時性理學漸ク開明シ、且ツ民智モ亦漸ク增長セシカハ、之ニ由テ國家遂ニ敎會ノ管督ヲ免カルヽヲ得テ、全ク自己ノ威權ヲ伸ルヿトナレリ、去レトモ之カ爲メニ中古ノ如ク、國家ト敎會トノ間ニ一時爭鬪ヲ生セシカ、此爭鬪ハ大イニ國家ノ爲メニ幸福トナレリ、○是ニ於テ、國家ハ全ク敎會ノ管督束縛ヲ免レテ法制ニ係ル全權ヲ掌ル者トナレリ、而シテ此事遂ニ全ク方今ノ通則トナレリ、是故ニ方今ノ國家ハ諸敎會ニ相對シテ獨立不羈ノ者ニシテ、實ニ敎會ノ外ニ其地位ヲ占ムル者ナリ、

〔第五〕但シ以上擧ル所各國ノ如キハ、皆國敎會(スターツキルヘ)或ハ邦土敎會(ランデスキルヘ、〔按〕國敎會ト邦土敎會トノ相異ナル所以ハ、前〔第三〕ノ註解ニ詳也、)ト密ニ相聚合シタル者ノミ、然ルニ獨リ北亞米利加ノ如キハ否ラス、夙ニ國家ト敎會トノ聚合ヲ解テ、全ク相離分スルヲ旨トナシ、而シテ縱令ヒコングレス(〔按〕立法府ナリ、)ト雖モ、敢テ一敎門ヲ以テ、天下ノ公敎ト爲スノ憲法及ヒ臣民ノ自由ニ他敎ニ歸依スルヲ禁スルノ憲法ヲ立ル能ハサル旨ヲ、國憲ニ裁定シ、以テ確乎不拔ノ制度ト爲セリ、○但シ北亞米利加ノ此制度ヲ立ルノ本意タルヤ、決シテ基督教ヲ度外ニ措テ

、敢テ省ミサラント欲スルカ為メニアラス、又馬哈默教、猶太教若クハアタイスムス（按）神ヲ信セサル學派）ヲ、勸メント欲スルカ為メニアラス、唯古來各國ニ於テ、教門ノ為メニ屢〻起リタル爭鬪ノ覆轍ヲ蹈マンヿヲ恐レ、且ツ宗國（按）英國ヲ云フ、英國ハ亞米利加人ノ本國ナレハナリ）ニ於テ、曾テ其君主ノ信セサル教派ニ歸依セシ者ヲ、恣ニ驅逐セシ暴政ニ傚ハンヿヲ恐レシカ故ニ、偏ニ基督派ノ爭鬪ヲ制止シテ、特ニ其一派ノ遂ニ國教會トナルヲ、防阻セント欲スルカ為メナリ、〇或ハ國家已ムヲ得サルニアラスシテ、教會ノ事ニ關シ、或ハ教會恣ニ國事ニ容喙スルカ如キハ、實ニ弊害ヲ生スル少カラサルヲ以テ、寧ロ全ク此二會社（按）教會ト國家トヲ云フ）ヲ離分シテ、從來繫合ヲ解クヲ優レリト為シ、且諸教派ヲ悉皆容忍スルヲ以テ、實ニ眞理ニ合スルヿト為セシカ故ニ、一皆同一ニ認許シ、而シテ各教ノ事ハ各派ニ任シ、國家ハ敢テ此事ニ苦心セサラント欲シタリ、

但シ此制度ハ、全ク亞米利加人ノ素志ヨリモ進歩シタル者ナリ、元來亞米利加人及ヒ其諸邦共ニ、基督教ヲ度外ニ措テ、敢テ省ミサラント欲スルノ念慮ハ絶エテアラザリキ、然ルニ其制度ヲ立ルニ及テハ、遂ニ教國二會社ヲ、全ク離分シ、而シテ國家ハ教會ヲ以テ、唯教道ノ為メニ結ヘル會社ト視傚シ、全ク之ヲ度外ニ措クヿト為セリ、是レ蓋シ國人ノ素志ニハ合セサリシヿナリ、

但シ教會ヲ度外ニ措テ敢テ省ミストハ、唯國家自ラ教會トノ關渉ヲ止メ、而シテ如何ナル教派ト雖モ、其意ニ隨テ自由ニ存在スルヲ許ス（容忍スル）ヲ云フ也、然ルニ此他猶交關ヲ止ムルノ一方法アリ、而シテ此方法ハ甚タ激烈ナル者ナリ、即チ基督教ヲ憎惡シテ、之ヲ驅逐スルヲ云フナリ、彼佛國顛覆ノ時ニ方リ、國家暴ニ教會ヲ毀チ、基督教ノ教育ヲ禁シ、教徒ヲ殺シ、天神ヲ瀆ニシ、及ヒ道義ヲ傷ヒシカ如キ、皆是レナリ、〇是故ニ諸教會ヲ容忍スルト、暴ニ之ヲ驅逐スルトハ、其方法相異ナリト雖モ、國家ト教會トヲ離分スルノ意ニ至リテハ、全ク相同シ、國家自ラ教會トノ關渉ヲ止メント欲スルノ心ハ、例ヘハ右二方法（按）容忍スルト、驅逐スルトヲ云フ）ヲ生メル母ノ如シ、然ルニ教會ヲ度外ニ措クノ心ハ、例ヘハ第一方（按）容忍ヲ云フ）ノ父ノ如ク、又之ヲ憎惡スルノ心ハ、例ヘハ第二方（按）驅逐ヲ云フ）ノ父ノ如ク然リ、（按）二方法ナル兄弟、父ヲ異ニシ、母ヲ同シウス、）容忍ハ度外ニ措クノ心ヨリ生シ、驅逐ハ憎惡スルノ心ヨリ生ス、

〔第八〕歐羅巴各國輓近北亞米利加ノ教國離分（トレンヌング、ホン、キルヘ、ウンド、スタート、）ノ制度ニ傚ヒ、之ヲ取捨シテ教國分畫（ソンデルンング、ホン、キルヘ、ウンド、スタート、）ノ制度ヲ設ケタリ、

〇凡ソ教國二會社ノ區域ヲ分畫スルトキハ、國家ノ權力ハ實ニ全ウシテ決シテ妨碍セラルヽ所ナキヲ得、教會モ亦全ク獨立不羈ノ權ヲ保ツヲ得可ク、且ツ之ヲ以テ二會社此關渉スルノ景狀、全ク此二會社ノ威風及ヒ體面ニ適シテ、毫モ此二者ヲ害スルヿナシ、

〇（按）北亞米利加ハ前款及ヒ本款ニ於テ論スルカ如ク、專ラ天理神道ニ從フヿヲ旨トシテ決シテ、專ラ某一教派ヲ國教會ト為スヿナク、且ツ教會ヲ度外ニ措テ、殆ト之ヲ省ミルヿナシ、是レ蓋シ教國二會社ヲ離分スル者ト云フ可シ、然ルニ歐洲各國ノ如キハ、因襲ノ久シキ、勢自ラ米國ノ制度ヲ全取スル能ハス、是ヲ以テ眞ニ教國ノ二會社ヲ離分シ、國家自ラ教會ヲ度外ニ措テ、敢テ之ヲ省ミサルノ制度ヲ立ル能ハス、唯此二會社ノ區域ヲ分畫スルニ過キサルノミ、故ニ離分ノ制度ト云ハスシテ、分畫ノ制度ト云フナリ、

第十八世期ノ頃ハ、各國共ニ國家其醫保眷顧ノ權ヲ以テ、教會ヲ制馭セント欲セシカトモ、既ニ文明開化ノ第十九世期（按）一千八百零一年ヨリ以後ヲ云フ）ニ至リテハ、此事決シテ良善適切ナリト云フ可ラス、方今開明ノ世ニ在テハ、國家及ヒ私人共ニ自由ノ權ヲ有スルヿ最モ緊要ナレハ、教會ニモ亦ヲ事ニ就テハ、必ス自由權ヲ與ヘ、且ツ自由ニ教會事務ヲ掌ルノ權ヲ執ラシムルノ緊要ナルヿ、固ヨリ辨ヲ俟タス、カホウル（以太利人、一千八百十年ニ生レ、六十一年ニ死ス、）カ「自由ナル國家ニ於テ、自由ナル教會アル可シ」ト云ヒシハ、全ク方今明世ノ至當論ト云フ可シ、但シウルトラモンターン（按）教皇ノ專權ヲ主長スル徒、）カ希望セシ如ク、教會若シ其自由權ヲ恣ニシテ、遂ニ國家ヲ制馭セント欲スル

ニ方リテハ、國家宜シク力ヲ極メテ之ヲ防制セサル可ラス（○國家ハ自己ノ事ニ於テハ、必ス自己ノ靈魂ヲ用ヒ（及ヒ自己ノ體軀（國憲）ヲ役スルコト當然ナレハ（敎會ニモ亦敎會ノ事ニ就テハ、自己ノ靈魂ヲ用ヒ、及ヒ自己ノ體軀（敎會大憲、キルヘンヘルハッスング〔一〕）ヲ役スルヲ許スコト、固ヨリ當然ナル可シ、中古ノ世ニ於テハ、基督ノ神道ヲ以テ、敎ト政トヲ統合セル者トナシ、又敎會ヲ以テ靈魂ニ比シ、國家ヲ以テ體軀ニ比シ、而シテ此靈體魂軀相合シテ、始メテ唯一ノ基督神道ヲ爲ス者ト看ヘシカモ、是全ク迷誤ノ甚タシキ者ト云フ可シ、故ニ近世ニ至リ、始メテ國家ト敎會トノ全ク二物ナルヲ悟リ、且ツ二物各靈魂ト體軀トヲ兼具スルノ理ヲ知ルニ至レリ、○但シ國家ハ自由ナル男魂ヲ以テ自ラ脩ムルノ權アリ、然ルニ敎會ハ專ラ天神ノ啓示言ニ依賴シ、殊ニ之ニ從テ道義ヲ行ヒ以テ自己ノ事ヲ修ムル者ナリ、凡ッ人類男女ノ二性ハ、元來其權ヲ異ニシ其務ヲ殊ニスト雖モ、相合シテ始メテ完全ノ者トナルカ如ク、國家ト敎會モ亦造化ニ於テ相反スル者ナルカ故ニ、實ニ相分ル、コト當然ナレモ、又必相須テ始メテ完全ノ者トナルナリ、乃チ國家ハ專ラ自己ノ意ヲ以テ、自己ノ事ヲ脩ムル會社（人民會社）ナレハ、宛モ男子ノ如シ、敎會ハ專ラ天神ノ意ニ從テ、道義ヲ行フ會社（信者會社）ナレハ、宛モ女子ノ如シ、

方今敎國二會社ヲ、分畫スルノ制度ヲ立テシヨリ自ラ左ノ數條ノ理、國家ノ爲メニ生スルヲ知ル可シ、

（甲）國家ハ敎會ノ域內ニアラスシテ、全ク其域外ニ在ルカ故ニ、決メ敎會ノ管轄ニ屬スルコトナシ、是ヲ以テ國家其憲法ヲ制立スルニ方リ、敢テ敎會ノ遵奉セル啓示言ノ旨ニ從フヲ要セス、又敢テ猶太敎ノ憲法、及ヒ中古ノカノニーシエ、レヒト（〔按〕敎會ノ憲法、）ヲ敬守スルヲ要セス、加之縱令ヒ基督敎ノ道義ノ旨ト雖モ、必ス取リテ國家ノ憲法トナサヽル可ラスト云フノ理ハ、決シテアルコトナシ、國家其憲法ヲ制立スルニ方リテハ、唯偏ニ正直且ツ便益ノ事ヲ撰取スルノ權、全ク自己ノ掌中ニ在リ、國家特ニ某一派ヲ主派トシテ奉スルノ制度、（〔按〕卽チ國敎會ヲ立ルヲ云、）猶未タ亡ヒサル間ハ、其憲法ヲ制立スルニ於テ、敢テ敎會ノ權ニ依賴セス、全ク自己ノ意見ヲ以テ、偏ニ正直及ヒ便益ヲ撰

ハント欲スルコト容易ナラス、去レモ加特力派ヲ主派ト爲セル國ニ於テスラ、倘婚嫌ノ憲法等ヲ立ルニ方リテ、儘トリーデンチニシエス、コンチル〔按〕一千五百四十五年、以太利ノトリーントト云ヘル地ニ於テ、加特力敎會ノ開キシ會議ヲ云、ニ於テ、議定セシ規律ニ從ハサルヲ緊要トシタリシカ、全ク之ニ反セル制度ヲ立テシコトアリキ、○但シ特ニルテル派或ハ其他改正派（〔按〕ツヰンクリ及ヒカルヒンノ創立セシ派ヲ云フ、）ヲ主派トナセル國ニ於テハ、國家元首躬ラ敎會ニ入ルカ故ニ、國家ノ憲法ヲ制立スルニ方リテ、縱令ヒ敎會ノ權ニ依賴セサルモ、決シテ患害ヲ受クルコトナシ、㊀又希臘加特力派ヲ主派トシテ奉スル所ノ峨羅斯國ノ如キモ、國君兼テ敎會ノ主長タルカ故ニ、其憲法制立ニ於テ、敢テ敎會ノ權ヲ畏憚スルヲ要セス、去レモ國君特ニ此派ニ親附スルカ故ニ、他ノ敎派ヲ信奉スル臣民ノ爲メニハ甚タ害ナキ能ハス、

㊀波羅特士旦敎會ハ、今時仍ホ國君ニ教長ノ權柄ヲ歸ス、但シ國君ノ此權柄ヲ掌握スルヤ、決シテ國憲ヲ掌握スルノ理ヨリ生シ來ルニアラス、唯古來國君教會ノ權柄ヲ兼掌セシ風習ノ遺レル者ナルハ、衆人ノ敢テ疑ハサル所ナリ、

（乙）國家ノ官吏或ハ公民（スターツビュルゲル、〔按〕國家ノ公權利ヲ有スル臣民ヲ云フ、）等、唯自己ノ有セル公權利ヲ施行スルニ就テハ、決シテ教會ノ撿査（〔按〕人物行狀ノ撿査ヲ云フ歟、）ヲ受クルヲ要セス、凡ソ教會ナル者ハ、自ラ道義ヲ勸誘シ、國家ヲ奬勵シテ治安ニ盡力セシムルコト、甚タ緊要ナリト雖モ、教會自己ノ權力ヲ以テ、國家ヲ指揮セント欲スルカ如キハ、決シテ許ス可ラス、是故ニ教會ナル者、國家ノ代者（ヘルトレーテル、〔按〕官吏及ヒ立法府議員ヲ云、）ヲ撿査可否スルカ如キハ、全ク自己ノ權力ヲ恣大ニシテ、國家ノ權柄及ヒ國家ノ自由權ヲ毀損スルノ所行ト云フ可シ、

（丙）國家ハ諸國權ヲ自己ニ收攬ス、故ニ外面ニ發顯スル强權ハ、悉皆國家ノ掌握スル所ナリ、凡ソ立法、施政、及ヒ司法ノ權柄ハ、當サニ國家ノ掌中ニ在ルヘキ者ナリ、故ニ國家ハ、教會ノ恣ニ是等

諸權柄ヲ施行セシト欲スルヲ、禁スルノ權利アリ、但シ國家縱令ヒ是等諸權柄ノ幾分ヲ施行スルノ權利ヲ以テ（一時敎會ニ准許スルヿアリモ、更ニ此權利ヲ追奪スルハ、固ヨリ國家ノ自由ニスル所ナリ、○但シ敎會ナル者、道義ノ敎育ニ就テ懲戒ヲ施スカ如キハ、全ク其主任ナレハ、決シテ權外ノ處分ト爲ス可ラス、去レモ敎會若シ國家ノ准許ヲ受ケスシテ恣ニ人民ヲ罰シ或ハ强ヒテ租稅ヲ取ルカ如キハ、實ニ國家ノ權ヲ犯スノ所行ト云フ可シ、總テ敎會ノ權域ヲ定限スルノ權ハ、全ク國家ノ掌中ニ在リ、

〔丁〕國家ハ敎會ヲシテ國事ニ預ラシメ、且ツ殊ニ敎育事務ニ於テハ、自己ト共ニ從事セシムルノ權アリ、去レトモ國權ハ必ス常ニ自己ノ掌中ニ保持シテ、決シテ之ヲ分割ス可ラス、且ツ決シテ敎會ノ恣ニ國權ヲ弄スルヲ許ス可ラス、若シ敎會ノ權、此ノ如ク强大ナルニ至ルトキハ、法制遂ニ二途ニ分レ、（且ツ並立セル二大權（一（按）國家ト敎會トヲ云フ、）ノ爭鬪遂ニ息ム時ナカル可シ、

第六款　方今國家ノ敎會ニ相對シテ有スル權利、ギー、レヒテ、デス、モデルチン、スターテス、ミット、ベツーグ、アウフ、ギー、キルヘ、

〔第一〕方今國家ノ情勢ニ隨ヒ、敎會ニ相對シテ施行スル所ノ權利及ヒ義務ヲ稱シテ、キルヘンホーハイト（一（按）敎會ニ對シテ施行スヘキ〔高尊權利ノ義〕ト云フ、但シ國家唯世事ヲ治メ動義ヲ守ルノ主務（一（按）即チ國家ノ主任ナリ、）ヲ以テ、施行スル所ノ權利ヲ云フノミ、故ニ國家其權ヲ直ニ敎會ノ政令（一キルヘンレギメント〔按〕敎會ノ事ニ就テ、敎會ノ施行スル政令ヲ云フ、）上ニ施行スルカ如キハ〔敢テキルヘンレホーハイトノ語ヲ以目ス可ラス、是ヲ以テ此キルヘンホーハイトナル權利ハ、縱令ヒ基督敎ヲ奉セサル國ニ於テモ、之ヲ行ヒ得可ク、且ツ如何ナル敎門如何ナル敎派ニ相對シテ之ヲ行ヒ得可シ、

但シ此權利ノ區域ハ、殊ニ國家ト敎會トノ相關涉スル方法ヲ、考定スル意見ノ同シカラサルニ隨テ、其廣狹ヲ異ニス、故ニ各國此意見ノ同シカラサルニ隨ヒ、或ハ此權利ノ區域ヲ廣大ニナシ、或ハ之ヲ狹小ニナセリ、

〔甲〕北亞米利加ノ制度ハ、敎會ヲ度外ニ於テ、悉ク之ヲ容忍シ、而シテ國家ト敎會ヲ全ク離分スルヲ主トスルカ故ニ、國家ノ敎會ヲ視ルヤ宛モ學問會社（一（按）學問ノ勸導獎勵ヲ旨トスル會社ヲ云フ、即チ學校等ノ如シ、）或ハ仁善會社（一（按）仁善ノ施行ヲ旨トスル會社ヲ云フ、即チ病院貧院等ノ如シ、）ヲ視ルニ異ナルナク、（又國家ノ敎會ニ對シテ施行スル權利ハ、宛モ右二會社ニ對シテ施行セル權利ニ異ナルヿナキノ理ナリ、（按）米國ニテハ歐洲各國ノ如ク、敎會ヲ以テ特別尊貴ノ者ト爲サス、殆ト諸會社ト同等ノ者ト爲スカ如シト云フ意ナリ、）是ヲ以テ此國ニ於テハ、キルヘンホーハイトナル權利ノ意變シテ、尋常ノ諸會社ニ對シテ施行スル權利（即チ國家諸會社ヲ警保眷顧スル權利ト、全ク同一ノ者トナレルカ如シ、故ニ此國ニテハ、敎會ノ敎會タル所以ハ全ク廢滅シテ、國家ヨリ之ヲ視レハ、唯敎道ノ爲メニ相結ヘル一會社ノ如ク然リ、

〔乙〕然ルニ歐洲波羅特士旦派ノ各國ニ於テハ、一種ノ說起リテ、國家當然有スル所ノキルヘンホーハイトナル權利ノ外ニ、國家猶其權ヲ、直チニ敎會ノ政令上ニ施行スルヲ頁好ト爲サント欲スル者アリ、此說ニ從フトキハ、國家ハ啻ニ敎會ヲ監視シテ其政令（一（按）敎會中ノ政令ナリ、）ノ國家安寧及國家法制ニ妨害障碍アルヤ否ヲ觀察シ、且之ヲ防制スルノミヲ以テ足レリト爲ス可ラス、必及其政令實ニ神道ノ本旨ニ協ヒ、敎會ノ法ニ合スルヤ否ヲモ、併ニ斷定スルヲ要スルナリ、

〔丙〕加特力敎會ハ、今時猶國家當然有スル所ノキルヘンホーハイトナル權利ヲ認許シテ全ク國家ノ監督ヲ受クルヲ好マスト雖モ、許多ノ加特力國（一（按）專ラ加特力派ヲ奉スル國、）ニ於テハ、敎會近世來タ曾テ國家ノキルヘンホーハイトニ抗抵セシヿアラス、故ニ國家常ニ此權利ヲ施行スルニ於テ、決シテ妨害ヲ受ケシヿ之レアラス、○去レモ國家若シ實ニ敎會ノ區域ヲ犯シテ其權ヲ施行セント欲スルヿアルニ方リテハ、加特力敎會必自己ノ自由權及ヒ高尊權利ヲ以テ、嚴ニ之ヲ拒防セ

ント欲スルハ固ヨリ疑フヘキニアラス、去レトモ方今ノ國家ハ或ハ絶エテ自ラ教道ヲ奉セサルヲ本意トシ、（〔按〕米國ノ如キヲ云フ）或ハ自ラ教道ヲ奉スルモ、敢テ基督教ノ一派ヲ專奉セスシテ、其諸派ヲ共ニ信奉スルヲ本意トスレバ、（實ニ教會ノ當然施行ス可キ政令上ニ、容喙スルノ權利アラサルカ故ニ、決シテ教會ノ權域ヲ犯スヲ得サルノ理ナリ、

〔丁〕但シ國家當然有スル所ノキルヘンホーハイトノ權利ハ、實ニ方今普ク行ハル、者ナリ、而シテ近今各國種々ノ盡力勉勵ニ由タ、始テ能ク之ヲ創立シ及ヒ改革スルヲ得タリ、是故ニ儘此權利ヲ用ヒサル國アルカ如シト雖モ、其實ハ殆ト然ルニアラス、例ヘハ國家教會ニ相對スルニ、唯學問或ハ仁善ノ會社ニ對シテ、施行スヘキ權利ヲ以テスルカ如ク見ユルアルモ、詳ニ其實ヲ探レハ殆ト然ルニアラス、（必ス亦國家當然有スル所ノキルヘンホーハイトヲ以テ、教會ニ相對スルヿ固ヨリ明ナリ、何者國家若シ教道ヲ度外ニ措ク能ハサルノ勢アル片ハ、又決シテ實ニ教會ヲ度外ニ措ク能ハサル、（固ヨリ辨ヲ俟タサレハナリ、○國民過半專ラ某教會ニ信從スル片ハ此事遂ニ國家ノ政令及ヒ國ノ存在ニ、大交感ヲ兆スヿ必然ニシテ、此時ニ至リテハ、縱令ヒ國家自ラ教會トノ關渉ヲ好マスト云フトモ、遂ニ已ムヲ得ス、之ト相關渉繫合セサルヲ得サル可ク、且ツ若シ教道ヲ信仰スル黨與等ノ情欲、熾ニ發動スル片ハ、之ニ由テ强盛ノ勢力ヲ得テ、遂ニ國家ヲシテ教會ノ事ニ關渉セサルヲ得サラシムルニ至ルカ故ニ、縱令ヒ國家之ヲ欲セスト云フトモ、（勢ヒ又之レヲ避クル能ハサルニ至ル、是レ蓋シ國家眞ニ教會ヲ度外ニ措ク能ハサル所以ナリ、㊀○然ラハ則チ國家ノ教會ニ對シテ、其權利ヲ施行スルハ、全ク教會政令ノ一部分ヲ行フナルヤ、曰ク決シテ然ラス、必唯國家ノ當然有スルキルヘンホーハイトヲ施行スルノミ、何者、若シ國家ヲシテ教會ノ政令ニ關セシメント欲スル片ハ、（此二會社ヲ分畫（離分ト相異ナリ）シテ各會社ヲシテ全ク獨立自主ノ者トナラシムルヿ決シテ能フ可ラス、且ツ國家自ラ某一教會ニ歸依シテ其一部トナル能ハス、若シ其一部トナラント欲スル片ハ、遂ニ他ノ諸教會ニ相對シテ敵讐ノ如クナルニ至レハナリ、（○且ツ國家若シ此ノ如ク其權ヲ教會ノ區域ニ施サント欲スル片ハ、（必加特力教會ノ中ニ於テ、（大爭鬪ノ起ル必然ナリ、（〔按〕加特力教會ノ中ニ於テ、（羅馬教皇ノ黨ト國家ノ黨ト、（大爭鬪ヲ生スルナリ、）

㊀歐洲ニ於テハ今時仍ホ教會ノ事ニ就テ、大擾亂ヲ生スル少ナカラス、而シテ其擾亂ノ起始スルニ方リテハ、國家絶エテ之ニ關係スルヿアラサルモ、結局必ス之ニ關セサルヲ得サルニ至ルヿ常ナリ、加之北亞米利加ノ如キモ（教會ニ就テ事ノ起ルヿ、絶エテナキニハアラス、故ニ時アリテハ國家必ス教會ノ事ニ關シテ、大ニ盡力セサル可ラサルヿアリ、此國教會ヲ度外ニ措クノ制度アリト雖モ、之ヲ熟考スレハ、此制度決シテ堅固ナリト云フニ足ラス、蓋シ政府モルモーチン（〔按〕亞米利加ニ於テ、（晩近起立シタル教會ニシテ、甚タ陋惡ナル者ナリ、）ノ黨ヲ其故土ヨリ驅逐セシハ、即其明證ナリ、㊀

㊀〔按〕此教會ノ開祖スミットナル者、一千八百四十年ミッシッシッピ河ノ傍ニ於テ、此教會ヲ創立セシカ、甚陋惡ナル教會ナルヲ以テ、政府人民共ニ之ヲ惡ミテ、遂ニ之ヲ其故土ヨリ驅逐シタリケレハ、其後サルツセート云ヘル海ノ側ナル荒漠ノ地ニ遷移セリ、（去レトモ爾來歸依者漸ク增加シテ、今ハ既ニ數萬人ニ及ヘリト云フ、

〔第二〕國家基督諸教派ノ中ニ於テ、（某派ヲ邦土教會（前款ニ出ツ）ト爲シ、以テ其他ノ諸派及ヒ、外教（〔按〕基督教ニ非ル者ヲ云フ、）ト相特別スルハ殊ニ國家當然有スル所ノキルヘンホーハイトヲ施行スル者ト云フ可シ、

基督教行ハル、國ニテハ、（國家必ス先ツ其教會ノ存在、沿革ノ景况、及ヒ其教化ノ得失ヲ觀察シ、且ツ其教會當ニ容忍スルニ足ルノミナラス、必ス十分ニ准許シテ、邦土教會ト爲スニ足ルヤ否ヲ思考シ、（而シテ是等諸件ニ於テ、聊カ間然スル所ナキ者ハ必ス拔テ邦土教會ト爲スヲ要ス、○但シ又邦土教會ト異旨教會（ヂッシデンツキルヘ〔按〕邦土教會ト教旨ヲ異ニスル教會ノ義、）トノ別アリ、

而シテ今其別アル所以ヲ論センニ、諸教會ノ中ニ於テ、教化ノ方法能ク基督ノ神道ヲ傳播シテ、民人ノ開明ヲ增益スルノ故ヲ以テ、國家其法ヲ以テ之ヲ擁護スルニ足リ、並ニ國家ト共ニ教育ノ事ニ從事セシムルニ足ルヿ明カナル者ハ、之ニ高大ノ權利及ヒ榮光ヲ與ヘテ、以テ邦土教會ノ名ヲ命ス、然ルニ教化ノ方法ニ於テハ、聊カ間然スヘキ所ナキモ、國内ニ行ハル、未タ甚タ久シカラス、且ツ人民ノ信スル者モ未タ甚タ多カラスシテ、未タ高大ノ權利及ヒ榮光ヲ授クルニ足ラサル者ハ、之ヲ異旨教會ト爲シテ、以テ邦土教會ト相異ニス、故ニ異旨教會ニモ亦教育ノ自由權ヲ許スハ、固ヨリ可ナリト雖モ、之ヲ邦土教會ト相匹敵スル者トシテ或ハ其費ヲ償フニ國財ヲ以テシ、或ハ教育ノ事ニ就テ、國家此教會ノ議ヲ取ルヲ要スル等ノ理ハ、決シテアル可ラス、○例ヘハ獨乙各國ニ於テ加特力教會、ルテル教會、及ヒ改正教會(〔按〕カルヒン派ツヰングリ派ヲ云フナリ、)ノ三教會(或ハルテル派ト改正派トヲ相合セル教會)ヲ以テ、俱ニ邦土教會ト定ム、然ルニ其他ノ數國ニ於テハ、或ハ獨リ加特力教會ヲ以テ邦土教會ト定メ、波羅特士旦教會ヲ以テ異旨教會ト爲シ、或ハ波羅特士旦教會ヲ以テ邦土教會ト定メ、加特力教會ヲ以テ異旨教會ト爲ス、○國家國内ノ景況ニ隨テ、此事ヲ裁定スルハ、全ク其自由ニスル所ナリ、而シテ家國若シ許多ノ教會ヲ以テ、俱ニ邦土教會ト定ムル片ハ(國家ノ此諸教會ニ對セル權利タルヤ、宛カモ中古ノ世ニ於テ、加特力教會ノ各國ニ對シ、及各政體ニ對シテ常ニ施行シ、且ツ今時現ニ施行スル權利ト全ク相同シ、(〔按〕左ノ一條即チ此旨ヲ說明ス、)

教會ハ云フ、「吾レハ敢テ獨リ君主國ヲ善シトセス、又獨リ民主國ヲ善シトセス、國家唯吾カ教會ノ事ヲ認許スレハ、吾ハ好テ之レト相親睦ス可シ、決シテ其政體如何ヲ問フヲ要セス、又基督教ヲ信仰シ、教會ニ忠信アル人民ハ、縱令ヒ其者君主政體ニ左袒スルモ、貴族政體ニ左袒スルモ、若クハ民人政體ニ左袒スルモ、吾カ教會ヨリ之ヲ視レハ、皆同一ノ信者ナリ、」ト、然ルニ國家モ亦云フ、「吾レハ

敢テ獨リ加特力教會ヲ善シトセス、又獨リ波羅特士旦教會ヲ善シトセス、吾レハ唯吾カ國家ノ法ヲ遵守スル者ヲ保護ス可シ、(決シテ教派如何ヲ論スルヲ要セス、吾カ國事ノ眼目ハ特ニ政務ノミ、決シテ神道ニアラス)、又偏ニ國家ニ忠厚ナル臣民ハ、其者縱令ヒ加特力派ヲ信スルモ、若クハ波羅特士旦派ヲ信スルモ、吾ヨリ之ヲ視レハ、皆同一ノ臣民ナリ、是故ニ教會若シ國政ヲ妨害スルヿアラサレハ、吾レハ敢テ其門派ヲ論セス、好テ之レト親睦ス可シ」ト、

是故ニ邦土教會ノ義ハ、國教會ノ義ト相異ナリ、(〔按〕本卷第四款及ヒ第五款ヲ參看スヘシ、)邦土教會ナル者ハ、國家ト教會トヲ分畫セル國ニ於テ存在シ、又國教會ナル者ハ、教會ヲ國家ニ從屬セシムル國ニ於テ存在ス、故ニ邦土教會ノ存在セル國ニ於テハ、決シテ國會自ラ某一派ヲ信奉スルヲ緊要ト爲サスト雖モ、國教會ノ存在セル國ニ於テハ、國家必ス某一教會ヲ信奉スルヲ緊要ノヿトナス、

教道ノ爲メニ結ハル一會社(若シ教化ノ實効ヲ奏スヘキヤ否ノヿ、未タ全ク明カナラス、或ハ其規律未タ全ク整ハサルノ故ヲ以テ、與ニ獨立教會トナスニ足ラサル片ハ、國家敢テ之ヲ邦土教會ト爲シ、若クハ異旨教會トナシテ認ムルヲ要セス、去レ圧此會社絶エテ國家ニ害ナキヿ明カナレハ、則之ヲ教黨(セクテ)ト視做シテ、其存在ヲ認許スルヲ善シトス、是レ即チ國家其臣民ノ奉教自由ノ權ヲ保護スルカ爲メニ、此會社ヲモ俱ニ容忍スル所以ナリ、(但シ此容忍ノ限界ハ國家先ツ自己ノ利害ニ着眼シ、之ヲ確定スルヲ得可シ、○縱令ヒ國家大ニ之ヲ容忍スルモ、之レカ爲メニ弊害アルヿハ甚タ罕レナリ、然ルニ他教他派ヲ驅逐セントスル徒ハ、多クハ十分ニ容忍スル能ハス、)去レ圧此教黨若シ道義ニ背キ、及ヒ法制ヲ害スルヿ明カナル片ニ於テハ、國家之ヲ毀壞シ、以テ其結合ヲ防遏スルノ權利(必スナカル可カラス、)

國民ノ一部信奉スル所ノ外教(〔按〕基督教ニアラサル者ヲ云フ、)ヲ、認許容忍スルノ規律モ、亦教黨ヲ容忍スルト、同シカルヘシ、外教能ク道義ヲ存シ、及ヒ國家ノ正理ニ背カサルヿ愈確實ナル片ハ、其容忍モ亦愈博大ナル可クシテ、愈基督教ノ容忍ニ類似スルニ至ル可シ、○去レ圧專ラ基

督敎ノ行ハル、歐洲各國ニシテ、外敎ヲ愛慕スル、全ク基督敎ヲ愛慕スルト同シカラシメント欲スルハ「甚タ條理ニ戾レルコニシテ、彼ノ敎會ヲ全ク度外ニ措テ、敢テ省ミサラント欲スルノ制度ト合スル者ナレハ、決シテ實際ニ行ハル可キコニアラス、〔按〕前ノ〔丁〕ヲ參看スヘシ、」

〔第三〕國家ノ邦土敎會ヲ保護スルノ方術ハ、異旨敎會及敎黨ヲ保護スルノ方術ヨリモ、更ニ細密ニ涉ル、蓋シ國家ハ邦土敎會ノ守護者ナリ、

國家ハ邦土敎會ヲ以テ、公會社（エッヘントリヘ「コルポラチオン、」）ト爲シテ認ム、故ニ之ニ國家ノ公權利ヲ授與スル國アリ、例ヘハ其代議者ヲ兩院ニ派出スル公權利ヲ授與シ、或ハ一二ノ官司ニ加入スルノ權利ヲ授與スル等是レナリ、其他又敎會ノ爵位職官ヲ受領セル者ニ、更ニ國家ノ爵位職官ニ附屬スル等階及ヒ權利ヲ加授スルコアリ、然ルニ異旨敎會及ヒ敎黨ノ如キニ至リテハ、之ヲ公會社トシテ「國家ノ公權利ヲ授與スルヲ要セス、故ニ通例ハ唯之ヲ諸種ノ私會社ト同シク視做シテ、特ニ私權利ヲ握ラシムルノミナリ、

禮拜ノコニ就テモ亦同シ、邦土敎會公然ノ禮拜ヲ行フニ方リテハ、國家必ス十分ニ之ヲ保護スルコ「固ヨリ當然ナリ、凡ソ邦土敎會ノ禮拜ニ於テハ「國家啻ニ其障碍防害トナル者ヲ防拒スルノミヲ以テ足レリト爲ス可ラス、故ニ其祭日ニ方リテハ「縱令ヒ私人ニ屬スル事ト雖モ、十分ニ着意眷顧スルヲ當然トナス、例ヘハ齋戒祭（ヘストハイエル）ヲ行フノ日ニ方リテ、聒噪群鬧ヲ戒メ、歌舞宴飮ヲ停メ、「貿易賣買ヲ禁シ、及ヒ衢衕酒舖麥酒店ヲ嚴ニ鎖閉セシムル等ノコハ、即チ國家其邦土敎會ヲ特別ニ保護セン爲メニ施ス所ノ事務ナリ、

然ルニ異旨敎會ノ如キニ至リテハ、唯其禮拜堂ニ於テ公然ノ禮拜ヲ行フヲ許シ、而シテ此禮拜ヲ妨碍スル者アル片ハ、國家之ヲ防制ス、去レ圧他ノ敎會ニ屬スル人民ト相對セル權利ニ至リテハ、國家大ニ限制ヲ用フルヲ當然トス、例ヘハ異旨敎會ニハ打鐘ヲ許サス、又其寺觀外ニ於テ巡行誦經ヲ爲スヲ許サヽル等ノ如シ、〇在昔ハ褊小狹窄ノ心ヨリ、他敎他派ヲ敵視スルコト甚タシカリシカ故ニ、此ノ如キ限制ヲ用フルヲ貴ヒシカトモ、今世ノ如キハ文明開化ノ時ナレハ、民人ノ妨害トナルコトノ外ハ、異旨敎會ニモ亦自由權ヲ與ヘテ、敎化ヲ施サシムルヲ善シトス、

然ルニ又國家外敎（〔按〕基督敎ニアラサル者ヲ云フ、）及ヒ敎黨ヲ保護スルニ方リテハ、限制ヲ用フル更ニ大イナリ、凡ソ人々天眞是非ノ自由（ゲヰッセンスフライハイト、）ヲ具有スルハ、既ニ前ニ論スルカ如シト雖モ「又衆人相結テ敎道ニ從事スルノ自由ハ、決シテ直ニ此自由權ヨリ生シ來ルニアラス、故ニ諸家眷諸親族相結テ一會社トナリ、以テ一敎道ヲ奉スルハ「固ヨリ其自由ニ任ス可シト雖トモ、國家全ク之ニ着意眷顧セスシテ可ナルノ理ハ、決シテ之アル可ラス、凡ソ國家ハ世事ヲ總管スルノ大權ヲ有スルモノナレハ、常ニ此ノ如キ會社ニ注目シテ「其爲ス所公衆ノ爲メニ利害如何ヲ探索考思スルノ權利ヲ握ルコト亦固ヨリ當然ナリ、〇國家之レヲ探索考思スルモ、未タ曾テ其利害如何ヲ知ル能ハサレハ、姑ク此會社奉敎ノ自由權ヲ認許セサル可ラス「然ルニ若シ此會社殆ト現時ノ政令ニ妨害アラサルモ、遂ニ國家ノ存在及ヒ治安ニ妨害アルコ明瞭トナルトキニ至リテハ「國家ハ或ハ會社ヲ禁止シテ解散セシメ、或ハ其景況ニ隨テハ、全ク之ヲ禁止セサルモ、特ニ嚴密ニ其爲ス所ヲ監督シ、及ヒ大イニ此會社ノ權利ヲ限制スルコト、固ヨリ其當然ノ權ト云フ可シ、〇傳敎ヲ全ク禁止スルト、自由ニ之ヲ認許スルトノ中間ニ數階級アリ、例ヘハ家眷親戚唯其家內ニ於テ、敬神禮拜ヲ行フヲ許スコ「及ヒ會社ヲ結テ禮拜ヲ爲スヲ許スモ、唯寂靜ニ之ヲ行ハシメ、及ヒ他敎他派ヲ奉スル者ノ共ニ其處ニ到ルヲ禁スルコ、及ヒ公然ノ敬神禮拜ヲ許スモ、敢テ洗禮盟禮等ノ如キ敎會ノ處分ヲ施スヲ許サス、或ハ其他民事ニ係レル處分（〔按〕禮拜堂ニ於テ婚姻ノ禮ヲ行フ等ヲ云フ歟、）ヲ施スヲ許サヽル等ノ如シ、

一二ノ國ニ於テハ、輓近ニ至リテ公然ノ禮拜ヲ許スヲ一般ノ通則ト爲シ「而シテ外敎會及ヒ敎黨ニモ亦之ヲ許スコトナシタリ「蓋シ此大イナル自由權ヲ許スハ、實ニ基督國方今ノ開明ニ適スル者ト云フ可シ、但シ縱令ヒ國家此自由權ヲ許スモ、唯其欲スル所ニ任シテ全ク監督檢査セス、且ツ外敎會及ヒ敎黨ヲ以テ、邦土敎會ト絕エテ差等ナキ者トスルハ、甚不可ナリ」

〔第四〕國家邦土敎會ノ爲メニ盡力從事スル所ノ諸件、左ニ擧クルカ如シ、

〔甲〕邦土敎會國家ノ救助ヲ要スル事ニ就テハ、國家其財ヲ以テ敎會ノ費用ヲ償フ、即寺觀堂宇ヲ

造營シ、及ヒ之ヲ粧飾シ、教會ノ職官ヲ設置シ、教會ノ學校ニ要スル費用ヲ償ヒ、及ヒ傳教師ヲ救濟ス、但シ國家ハ他ノ教會ヲモ同シク補助救濟スルノ權ナキニハアラサレヒ、此教會ハ敢テ之ヲ請求スルノ權ナシ、○基督國ニ於テハ、方今必ス外教ノ存在ヲ認許スト雖ヒ國家ノ最モ好テ心ヲ用フルハ、實ニ人民ノ爲メニ偉功ヲ奏シタル基督教ニ限ルノミ、

(乙)國家自ラ教會ヲ尊敬シテ之ニ榮光ヲ與フ、即チ國家教會ノ頭領ヲ尊敬シ、且ツ國家自己ノ法制ヲ設ケ、及ヒ大政令ヲ施行スルニ方リテ、教會ノ祭典ヲ請願スルヿ等ヲ云フナリ、○教國二會社ヲ兼濟セル國ニ於テハ、國家敢テ教會ニ祭典ヲ命スル能ハス、唯之ヲ教會ニ請願スルヲ得可ク、而シテ教會ハ自己ノ意ヲ以テ其請願ニ應スルヲ許可シ、蓋シ教會ノ自己ノ意ヲ以テ、甘シテ行ヘル祭典ニアラサレハ、決シテ眞ノ祭典ト稱スルニ足ラス、

(丙)公衆ニ係レル事件ニ於テ、教會ノ共議補助ヲ請求ス、例ヘハ學校ノ制度或ハ公衆ノ風儀行狀ニ係レル規律ヲ商議スルニ方リテ、先ツ教會官吏ノ議ヲ聽ク等是レナリ、

(丁)邦土教會ノ權利及ヒ利益ヲ保護スルカ爲メニ、此教會ヲシテ國家ノ立法權ニ參預セシム、殊ニ其代議者ヲ立法府ニ派出セシムルカ如キ是レナリ、

第七款　監督ノ權利、(アウフシヒツレヒト)(按)教會ヲ監督スルノ權利ナリ、)

國家ト教會トハ、二個ノ眞ニ獨立セル會社ナリ、是故ニ國家若シ自ラ教會ノ政令ヲ施行スルカ如キハ、即チ其當然ノ權域ヲ超過スル者ト云フ可シ、往昔波羅特士旦派ヲ主派トナセシ國ニ於テハ、國家盛ニ此ノ如キ權ヲ施行シタリキ、但シ國家唯教會ノ政令ヲ監督スルカ如キハ、即チ其當然ノキルヘンホーハイトナル權利ノ樞要部分ヲ施行スル者ナレハ、全ク其權域内ノ處分ト云フ可シ、○但シ國家ハ敢テ教會ノ幽冥事(按)即チ精神靈魂ニ係レル事ヲ云フ、)ニ關係スルノ權ナケレハ、亦決シテ此事ヲ監督スルヲ得ス、唯其顯明事(按)教會ノ法制政令等、總テ外貌ニ顯ハルヽヲ云フ、)ヲ監督スルヲ得ルノミ、凡ソ外貌ニ發スル顯明事ノ如キハ、教會ニ於テハ一大要事ト稱スルニ足ラス、(但シ決シテ缺ク可ラサルハ、固ヨリ論ヲ俟タス、)ト雖モ、此事殊ニ國事ニ關係ヲ生スル少

ナカラサレハ、國家ハ、此事ノ得失利害ニ充分着意シテ、嚴ニ之ヲ監督スルノ權ヲ握ルヲ要ス、○但シ此事ニ就テモ、教國二會社ノ權ヲ適宜ニ分割スルヿ甚タ緊要ナリ、蓋シ然(シカ)セサレハ、各會社ノ當然ニ具有スヘキ自由及ヒ權利、共ニ全キヲ得難ケレハナリ、

(第二)心靈ニ屬スルヿ及ヒ信仰ニ係ルヿハ、實ニ教會ノ掌ル可キ所ニシテ、國家ハ決メ之ニ關係スルノ權ナケレハ、敢テ此事ニ容喙ス可ラス、是故ニ國家恣ニ教會ノ教旨ニ係レル爭論ヲ、裁判セント欲スルカ如キハ、決メ許ス可ラス、但シ教會若シ教事ニ就テ、新ニ憲法規律ヲ示令スル片、若クハ教務ノ決議ニ就テ嚴法ヲ設クルヲ要スル片等ニ於テハ、國家必ス教會ヲシテ是等ノ處分ヲ報知セシメ、而シテ是等ノ處分若シ國家法制ノ妨害トナルヲ知ラハ、則チ之ヲ防阻スルノ權アリ、○國家此防阻ヲ施スノ權利ニプラセー(按)准許スルト否トノ權利、)ノ名ヲ命シテ、之ヲ國法ニ屬スル權利ノ部ニ加入シ、而シテ動モスレハ國家此權利ヲ非常ニ擴張シタリ、但シ此權利ニプラセーノ名ヲ命スルハ甚タ誤レリ、蓋シ此誤謬タルヤ宛モ君主ノサンクチオンノ權利(按)立法府ノ議定ヲ或ハ准許シ或ハ准許セサルノ權ヲ云フ、)ヲ誤認シテ、唯ヘトノ權利(按)立法府ノ議定ヲ禁止スルノ權利ヲ云フ、)ト視做ス者ト、全ク相表裡セル誤謬ナリ、何者國家タル者、教會ノ處分ヲ防阻スルノ權利ハ、教會ノ議定ヲ或ハ准許シ、或ハ准許セサルノ權利ニハアラス、唯教會ノ處分ノ國家ニ妨害アル者ヲ防阻スルノミノ權利ナレハナリ、是故ニ國家此防阻ノ權利ヲ施行スルハ、必ス憎惡ノ情ヨリ出ル者ナリ、○教會ト雖モ亦同シク人ナレハ、自ラ神聖ノ如ク十全完備ヲ得ル能ハス、且ツ動モスレハ私欲發動シテ遂ニ教權ヲ弄シ、以テ大イニ國家ノ治安及ヒ私人ノ權利ヲ妨害スルニ足ル可キ處分ヲ施スノ恐レアリ、加特力教會ノ首長ナル教皇ハ、他教官ノ如ク國家ノ臣民タル者ニアラス、其國家ノ司法權ニ制セラルヽ者ニアラサルカ故ニ、動モスレハ其大權ヲ恃ミテ專恣ノ事ヲ爲スノ恐レナキヿ能ハサルヲ以テ、在昔歐洲ノ數國ニ於テ、國內ノ教徒等ト教皇ノ官屬ト

ノ公事ノ交際ハ、國家必ス自ラ監督警視スルヲ常法トナセリ、然ルニ近世ニ及ヒテ、多クハ此法ヲ全ク廢止スルニ至レリ、

近世ニ及ヒ國内ノ敎徒ト敎皇ノ屬官ト、自由ニ公事ノ交際ヲ爲サシムルニ至リシハ、前條論スルカ如シト雖モ、國家タル者敢テ敎會ノ憲法及ヒ議定ヲ、聽知監督セスシテ可ナリト云フノ理ハ、決シテアル可ラス、國家必ス之ヲ聽知監督セサル可ラサルハ、固ヨリ論ヲ俟タス、去レハ其法自ラ古時ノ法ト相異ナル所アリ、蓋シ古時ハ敎會其憲法ヲ議定セント欲スルヿアルニ方リテハ、國家先ツ預メ其得失利害ヲ監督シテ、而後ニ之ヲ准許スルノ法アリシカト、今時ノ法ニテハ全ク敎會ニ屬スヘキ事件ハ、敎會ノ意見ヲ以テ直ニ之ヲ議定スルノ自由ヲ敎會ニ任シテ、國家ハ關セス唯敎會若シ其權ヲ弄シテ不正ノ事ヲ爲スキハ、國家必ス手ヲ下シテ之ヲ防阻スルノ權アリト爲ス、是故ニ古時ハ預防法ヲ用ヒシニ今時ハ之ヲ變シテ禁遏法ヲ用フルヿトナセシナリ、㊀○古時ノ預防法ハ、國家ノ制馭ヲ受ケサル敎皇政府トノ釁隙ヲ生シ易キ法ナリシカ故ニ、今時ハ此法ヲ廢シテ、禁遏法ト爲セシカト、此法ヲ用フルキハ、動モスレハ國家ノ患害ヲ生スルノ恐レナキ能ハサルヲ以テ此法ヲ用フルニ就テハ、必ス敎會ノ弄權ヲ制ス可キ綿密ノ規律ヲ設ケ、而シテ敎會若シ此規律ニ背クキハ啻ニ之ヲ赦宥セサルノミナラス、或ハ之ヲ罰スルヿモナカル可ラス、例ヘハ古時ノ檢書法（ツェンスール）〔按〕書籍ヲ公布セント欲スル者アルキハ、政府必ス先ツ之ヲ檢査シテ、可トスレハ其公布ヲ許シ、不可トスレハ許サヽルヲ得ルノ法ナリ、ヲ廢シテ、出版ノ自由ヲ准許スルニ就テ、出版憲法（プレスゲセッツ）ヲ制定スルヿ甚タ緊要トナリシト、其理全ク相同シ、○凡ソ國家ノ敎會ニ准許セル自由權愈ヽ大ナレハ、敎會ノ弄權ニ係レル罪犯ヲ治ムル憲法愈ヽ緊要トナルヿ、決シテ疑フ可ラス、然ルニ或ハ此罪犯ヲ治ムルニ就テモ、近今ノ尋常憲法ヲ以テスレハ、則チ足レリト云フ論アレトモ、是レ甚タ誤レル者ト云フ可シ、凡ソ敎會ト國家トノ關渉、及敎道ト民事トノ交感ハ、實ニ大ニシテ且ツ全ク他事ト旨趣ヲ異ニスルヿ、眞ニ人意ノ表ニ出ツ、是故ニ唯一個人及ヒ公衆ノ權利並ニ自由確定限制スル所ノ尋常一條ノ憲法ヲ以テ、全ク此關渉交感ヲ制セント欲スルモ、決シテ能クスヘキニアラス、○近今ノ國家ハ、既ニ敎道ノ門派ヲ拘執スルヲ貴シトセサルニ至レリ、然ルニ方今ノ敎會多クハ未タ曾テ、其門派ヲ拘執スルノ心ヲ去ル能ハス、是故ニ國家ハ、先ツ諸敎會ノ互ヒニ其門派ヲ拘執シ及ヒ其敎旨ヲ主張シテ、相是非スルノ自由權ヲ認許セサル能ハスト雖モ決シテ全ク其自由權ニ任ス可ラス、動モスレハ各敎會ノ爭論ヨリ遂ニ國家ノ安寧ヲ害シ、及ヒ國家ノ保護ニ由テ得タル敎會ノ體面ヲ汚スニ至ルヿアルカ故ニ、國家常ニ諸敎會ヲ警視シテ互ヒニ爭論ヲ生スル甚タシキニ至ラサラシム可シ、是レ即チ國家ノ權利ナリ及ヒ義務ナリ、例ヘハ敎義問答書等ニ於テモ、亦各敎會互ヒニ自己ノ敎義ヲ是トシ、他ノ敎義ヲ非トスルカ如キヿアリ、國家宜シク之ヲ警視ス可シ、何者一箇人其著書ニ於テ、專ラ一門派ヲ拘執シテ其是ヲ主張シ、而シテ他ノ門派ヲ譏謗スルカ如キハ、大害アラスト雖モ、敎會自ラ暴權ヲ以テ大イニ他ノ敎會ヲ憎惡スルノ所爲ヲ施シ、或ハ敎旨ヲ以テ民人ヲ煽動シ、以テ國家ノ命令ニ抗衡セント欲スルカ如キ〔方今比耳時バーテン及ヒ墺地利ニ於テ此ノ如キヿアリ〕ハ、其害甚タ大ナレハナリ、總テ此ノ如キ所爲、公衆ノ平和及ヒ安寧ヲ妨害スル愈ヽ大ナレハ、國家ノ之ヲ防制スルモ、亦宜シク愈ヽ速ニ且ツ愈ヽ嚴ナル可シ、

㊀〔按〕古時ハ敎會ノ未タ憲法ヲ議定セサルニ方リ、國家預メ其得失利害ヲ論シテ其許ス可キト否ラサルトヲ定ムルノ法アリシカ故ニ、之ヲ預防法ト稱セシカ、今時ハ國家預メ利害得失ヲ論スルヿナク、唯敎會ノ議定セシ後ニ至リテ、不正ノ事アレハ、之ヲ禁遏スルノ權ヲ有ス、故ニ禁遏法ト云フナリ、

〔第二〕敬神禮拜ニ係レル事件ヲ處置スルモ、亦全ク敎會ノ權ニ在ルヘキヿ、固ヨリ當然ナリ、或ハ宜シク敎國二會社相合併シテ、此事件ヲ處置ス可シト云フノ論アレトモ、甚タ非ナリ、但シ此事件ハ生平外貌ニ顯ハルヽヿアルヲ以テ、殆ト國務ニ類似シ、且ツ國務ト相近接スルヤ、彼ノ心靈ニ屬スル事、及ヒ信仰ニ係レル事ヨリモ更ニ大イナリ、

敬神禮拜ニ係レル事件ハ、必ス先ツ教會ノ處分ニ任ス可シ、國家ハ殆ト此事ノ規律ニ關ス可ラス、但シ教會ノ此事ヲ處置スルノ得失ニ由テ、國家ノ爲メニ大ニ利害ヲ生スルコアルカ故ニ、國家ハ最モ嚴ニ此處分ヲ監督セサル可ラス、其監督ノ方法ハ、即チ左ノ數件ニ擧クルカ如シ、

〔甲〕教會祭典ヲ行フニ方リテ、民人ノ職業ヲ停止シ、市賈ヲ禁制スル等、民人ニ係レル事ヲ指令スルト否トハ、全ク國家ノ權ニ在リ、

〔乙〕敬神禮拜ノ爲メニ會社議會ヲ結ヒ、及ヒ傳教師ヲ派出スル等ノコハ、國家大抵之ヲ教會ノ權ニ委ヲテ自ラ關スルコナシ、但シ國家ハ教會ヨリ此等ノコヲ報知セシムルノ權ヲ握ルハ、固ヨリ當然ナル可シ、加之此ノ如キ會社等、若シ國家或ハ臣民ノ體面及ヒ權利ヲ妨害シ、並ニ公衆ノ平和及ヒ風儀ヲ毀傷セント欲スルコアル件ハ、則チ此會社ノ權利ヲ限制シ、或ハ時アリテハ其結合ヲ禁止スルノ權、全ク國家ニ在ル可シ、

〔丙〕寺觀ヲ築造シ、及ヒ教道ノオルデン（〔按〕會社ナリ、）ヲ建立スルコ、並ニ此寺觀及ヒオルデンニ於テ制定スル所ノ規律ヲ准許シ、及ヒ總テ其所爲ヲ監視スルコ等ハ、必ス先教會ノ權ニ在リ、然ルニ近世ニ至リテハ歐洲各國ノ政府動モスレハ恣ニ是等ノ事ニ關係シ、而メ却テ暴ニ寺觀及ヒオルデンノ所有ヲ劫奪スルコヲ謀リタリ、但シ國家此事ニ關係シテ、大ニ諸弊害ヲ除去セシ功モ亦少ナカラス、蓋シ國家古今ノ事蹟ヲ視テ、寺觀及ヒオルデンノ弊害ヲ察セシカ故ニ、專ラ之ニ著目注意シテ、其弊害ヲ防阻セサル可ラサルノ義務ヲ悟リ、專ラ之ニ從事セリ、蓋シ從來民人禮拜祈禱ノ式ヲ遵守シ、及ヒ教會ノ規律ヲ敬守セサル可ラサルカ爲メニ、大ニ其一個ノ自由權ヲ妨害セラレシニ、國家特ニ意ヲ用ヒテ此弊害ヲ除去シ、又從來寺觀及ヒオルデン等其近隣ニ於テ巨大ノ土田ヲ併セテ之ヲ所有ト爲シ、以テ其遊食ノ財本ニ充ツルコアリシニ、（〔按〕教會暴ニ巨大ノ土田ヲ奪フニハアラサレヒ、陰ニ信者ノ心ヲ得テ之ヲ奪ラナリ、）國家嚴ニ之ヲ禁止シ、并ニ右ノ會社等從來國家ノ法制ニ背キ、其權ヲ恣ニセント欲スルコアリシニ、復タ全ク此恣行ヲ壓制スルコニ勉勵シタリキ、○國家ノ法制ニ背キ其權ヲ恣ニセント欲スル會社、今時仍全ク亡ヒス、例ヘハエースイテンオルデン（〔按〕加特力教會ノ一會社ナリ、）ノ如キ是レナリ、此會社ノ如キハ、其教學及ヒ勉力ヲ以テ、中古ノ如ク全ク國家ヲ抑制セント欲シ、且ツ專ラ自己ノ門派ヲ張リ、他ノ門派ヲ壓セント欲シテ、大ニ諸派ノ平和ヲ傷害スルニ至ル、但シ國家自己ノ氣力ノ剛壯ナルヲ知ラハ、此ノ如キ會社ノ權勢ヲ恐怖スルコ、絶ヘテ無カル可シ、例ヘハフリードリヒ、デル、ゴローセ（〔按〕普魯士ノ英主、）ノ如キハ、敢テエースイテンオルデンノ權勢ニ畏縮セサリキ、然ルニ國家ノ氣力微弱ニシテエースイテンオルデンヲ恐怖スルコ甚シキニ至ル件ハ、動モスレハ自己ノ權利ヲ忘失シテ、遂ニ自己ノ勢力ヲ以テ、全クエースイテンオルデンノ權力ニ抗衡スル能ハサル者ト爲スニ至ルナリ、○但シ若シエースイテンオルデンノ權勢完全整備シ、且ツ其材能高博及ヒ財本富實ニシテ、能ク陰ニ民衆ノ心ヲ得ル件ハ、遂ニ能ク國家ノ患害ヲ釀シ、其文明ヲ害スルカ故ニ、國家ハ必ス預メエースイテンオルデンニ著目注意シテ、若シ此ノ如キ景況現ハルヽヲ見ル件ハ、嚴ニ之ヲ防阻スルコ、宛モ狡猾ナル蛇ヲ防クカ如ク爲ス可シ、凡ソ國家ハ自己ノ安寧及ヒ自己ノ權利ヲ障害スル會社アルヲ知ラハ、斷然之ヲ毀壞崩解スルノ權利ヲ握ル、固ヨリ疑フ可ヤニアラス、㊀エースイテンオルデンノ如キハ、教會ノ爲メニハ實ニ身命ヲ抛テル忠臣ナリ、故ニ教會ハ專ラ之ヲ愛慕スト雖モ國教會ヲ設立セサル國ノ爲メニハ、動モスレハ實ニ憎惡スヘキ仇敵ノ如クナルコアリ、凡ソ國家ハ自ラ此ノ如キ會社ノ制度規律ヲ設定スルノ權、若クハ是等ノコニ就テ、教會ノ商議ニ預カルノ權ヲ握ルコナシト雖モ、會社若教會ノ爲メニスルノ名義ヲ以テ、國家ノ權利ヲ毀害損傷スルコアルニ方リテハ、嚴ニ之ヲ拒防スル

固ヨリ當然ナリト云フ可シ、

一 瑞士合邦大憲第五十八章ニ云、「エースイテンオルデン及ヒ之ト相結ヘル會社ハ、瑞士合邦ノ內何レノ地ニ於テモ存在スルヲ許サス」ト、

〔第三〕教會ノ大憲ヲ確定スルノ權モ、亦元來教會ノ自ラ掌握スル所ナリ故ニ國教會ヲ廢セシ國ニ於テハ、既ニ此ノ如キ權ヲ以テ、國家ノ掌握ス可ラサル者ト爲シ定メタリ、但シ若シ此大憲國家ノ認許ヲ得サルキハ、決シテ實地ニ行ハル可ラサルヲ以テ必ス國家ノ權ヲ假ラサル可ラス、蓋シ國家自ラ此大憲改革ノ議ヲ檢查シテ、若シ之ヲ禁止セサルキハ始メテ眞實ノ大憲トナルナリ、〔但シ國家敢テ此大憲ノ教旨ニ合スルヤ否ヲ檢查スルノ權ナシ、唯或ハ現行ノ國法ニ抵觸シ、或ハ公衆ノ安寧ヲ妨害スルコナキヤ否ヲ視テ、若シ此等ノ患害アレハ、其制定ヲ禁止スルノ權アルノミ、〕〇從來國家此教會大憲上ニモ、彼プラセー(前ノ〔第一〕ニ註ス)ノ强權ヲ施シ、加之此强權ヲ施スニ就テハ、陰ニ教會政令ノ一分ニモ預カリシカ、近今漸ク此强權ヲ棄テ、之ニ代フルニ唯教會大憲ノ制立改革ヲ預メ檢查スルノ權ヲ以テシ、而メ其大憲若シ國家ノ爲メニ不可ナル者アル時ノミ之ヲ禁止スルコトナリシハ、蓋シ教國二會ノ關涉ニ最モ適當セル者ナラン、

〔第四〕教會ノ官吏臣僚(〔按〕即チ教官ナリ、)ヲ任用スルノ權利モ、亦教會ノ掌中ニ在ルヘキコ、固ヨリ疑フヘキニアラス、蓋シ是等ノ徒ハ皆教會ニ屬シテ、其用ニ役事スル者ナレハ、必ス教會ニ必要ナル精神ヲ具有シテ「全ク他會(〔按〕蓋シ國家ヲ云フ、)ニ屬スル者ト相異ナル所ナカル可ラス、〇教徒ニ教官ノ爵位ヲ與フルニ就テハ「必ス其力ニ由テ其可否ヲ定ムルノ規則アリト雖モ、唯此規則ノミニテハ未タ足レリト爲ス可ラス「殊ニ教會ノ用ニ適スヘキ人物ノ中ニ於テ「其所長ニ從テ其職務ヲ授クルハ「固ヨリ教會ノ權中ニアリ、〇但シ教會ノ事ト國家ノ事トハ、密ニ相繫合スルコ多ク、且ツ邦土教會等ノ官吏ハ、兼テ國家官吏ノ權利及ヒ等階ヲ受領シテ、國家ノ優待ヲ得ルコ多キカ故ニ、教會ハ苟モ國家ノ好ミセサル徒ヲ擧ケテ、其官吏ト爲サヽルヲ良好ト爲ス可ク、且ツ國家ハ教會ヲシテ、未タ實ニ其官吏ヲ授任セサルニ方リテ、先ツ其氏名ヲ告示セシメ、以テ之カ許可スルノ權アリ、〇但シ歐州各國古今ノ因襲ニ隨テ「此條理ニ反セル規律數種アリ、例ヘハ或ハ國家教會官吏ヲ撰任スルノ全權ヲ握リテ、教會ニハ僅ニ其撰任ノ當否ヲ檢查シ、及ヒ教官タルノ爵位ヲ授クルノミノ權ヲ與フル權アリ、或ハ教會敢テ國家ノ檢查ヲ受ケスシテ、專ラ自由ニ其官吏ヲ授任スルノ國アリ、(〔按〕二種ノ規律ハ、共ニ條理ニ反スル者ナリ)而メ殊ニ甲ノ制度(〔按〕國家專ラ教會官吏ヲ撰任スルノ制度ナリ、)ノ如キハ仍ホ國家自ラ教會ノ政令ニ關スルヲ證スルニ足ル者ト云フ可シ、但シ將來教國二會相分レテ、互ヒニ自己ノ自由及ヒ權利ヲ握ルニ至ラハ、此ノ如キ制度ハ、必廢止セサル可ラス

〔第五〕現世國ニ於テ正義公直ヲ守護スヘキ劍及ヒ鞭ト稱スヘキ眞誠ノ司法權ハ、全ク國家ニ屬スヘキコ固ヨリ當然ナリ、故ニ獨リ國家之ヲ掌管ス可シ、但シ教道ノ旨ニ出ツル懲戒ノ法「及ヒ唯教會ノ制度ヲ保護スルカ爲ニ施ス可キ懲戒法ノ如キハ、當然教會ノ掌ルヘキ者ト云フ可キノミ「故ニ教會是等ノコニ於テ、若シ司法權ヲ施スコアルモ、國家ハ此權ヲ制定シ「且ツ之ヲ改革シ之ヲ限制シ「或ハ全ク停止スルノ特權ヲ握ルナリ、但シ教會ノ司法權ヲ施スヤ、或ハ唯互相和約ノ事(〔按〕八卷第三款(第一)ニ出ツ、)ニ關スルニ過キス、或ハ私判ノ法(〔按〕八卷第三款(第二)ニ出ツ、)ヲ用フルニ過キサレハ此例ニアラス、〇既ニ今時ハ各國此特權ヲ用ヒテ屢ハ之ヲ施行セリ、蓋シ教會ノ施刑權ヲ限制シ、且教會ノ司法權ヲ以テ、之ヲ國家ノ司法權ニ屬スル者ト定メシヨリ以來ハ教會純一ニ神道ノミヲ掌ル者トナリテ「眞ニ教會ノ教會タル所以ニ協フ者トナリタリ、

加特力教會ニテ「悔罪ノ法(ペニテンツ)ト稱スル者ハ「其始ハ全ク懲戒法ニ類セル者ニシテ、決シテ罪犯ノ刑法ニハアラサリキ、蓋シ此法ハ自己ノ過失ヲ悔悟セル者、之ヲ贖フカ爲メニ自ラ好テ喫苦スル者ナリキ「(〔按〕幾日間某食物ヲ禁斷スル等ノ法ヲ云フ、)幷ニキルヘンバン(〔按〕教罰ノ義)モ亦其始ハ、蓋シ基督教ノ懲戒法ナリシカ、國家全ク教會ノ管下ニ屬スルカ如クナリシヨリ、始テ刑罰法トナリタリ、〇凡ソ教旨ニ背ケル者アル時、教會唯其者ノ爲メニ天上ノ幸福ヲ祈願スルヲ拒

ミ、或ハ唯之ヲ其門徒ヨリ放逐スルカ如キハ、教會ノ當然施スヘキキルヘンバンニシテ、決シテ國家ノ正義公直ヲ守護スルノ務(〔按〕國家ノ刑罰ヲ施スハ、即チ正義公直ヲ守護スルノ務ヲ行フナリ、)ト云フ可ラス、蓋シ教會ハ其門徒ノ實ニ教旨ヲ遵奉スルト否トヲ監視シテ、某ハ實ニ教旨ヲ遵奉スレハ、宜ク爲メニ天上ノ幸福ヲ祈願スヘク、某ハ實ニ教旨ニ背反スレハ、宜シク爲ニ之ヲ祈願セサル可シト考定シ、且ツ某ハ教會ノ道ヲ毀傷シタレハ、宜シク之ヲ其門徒ヨリ放逐スヘシト決定スルノ權ヲ握ル、固ヨリ當然ナレハナリ、○但シ教旨ニ背テキルヘンバンヲ被ル者アル片ハ、遂ニ國家其者ヲシテ終身其私權利ヲ失ハサラシメンカ爲メニ、必ス之ヲ看護セサル可ラス、且教會當然此罰金ヲ握ルト雖モ、若シ一時瑣末ノ罪ニモ妄ニ此罰ヲ加フル片ハ、遂ニ民人ノ權利ヲ傷害スルニ至ル必然ナレハ、決シテ趣ク施行スルヲ得サルハ、固ヨリ論ヲ俟タス、去レ𪜈實ニ教國二會ヲ分畫スルノ制度アル片ハ、此罰ヲ施スノ權ハ必ス先ツ教會ノ掌中ニ在ルヘキコト、亦固ヨリ辨ヲ俟タス、○并ニ教會モ亦諸官司等ト同シク、自己ノ官吏臣僚ヲ懲戒スルノ權アリ、官吏臣僚若シ其職務ヲ怠リ勤勉セサル時ハ、教會必ス之ヲ退黜シ、他人ヲ選擧シテ之ニ代ハラシメサル可ラス、但シ教會或ハ黜陟ヲ恣ニシテ、一個人ノ權利ヲ壓抑損害スルノ恐レナキ能ハス、故ニ國家ハ宜シク常ニ教會ヲ監督スルノ權ヲ握ル可シ、而シテ其監督ノ方法一ナラス、例ヘハ或ハ教會教務ノ關係ニ由テ、其官吏ヲ退黜セント欲スルコトアル毎ニ、國家必ス教會ヲシテ之ヲ已レニ報知セシメ、以テ自ラ其可否ヲ述告スルアリ、或ハ既ニ退黜セラレタル官吏ニ、寃ヲ國家ニ告訴シテ、其保護ヲ願フノ權利ヲ授與スルアリ、

(第六)國家ハ邦土教會ノ爲メニ自ラ學校ヲ建造シ、或ハ其費用ヲ給與シテ以テ教徒ノ學習ヲ勸誘ス、但シ教徒學習ノ爲メニ設クル所ノ學校、縱令ヒ國家ノ建造ニ係ルモ、實ニ此學校ヲ獨リ教會ノ用ニ適スヘキ者トナスノ權、並ニ教會ノ官吏タルニ堪フヘキ人物ノミヲ擢テ、此學校ノ神道教師ト爲スノ權ハ、固ヨリ教會ノ掌中ニ在ル可シ、○但シ教會自ラ教徒學習ノ爲メニ、學校(所謂教徒學校(プリーステルセミナール))ヲ建造スル片ニ於テハ、國家ハ必ス教會ノ教育ニ著意シテ、其方法實ニ少年生徒ノ心志ヲシテ、全ク國家ノ法制ニ背カサラシムルニ足ルヤ否ヤ、且ツ其教育啻ニ神道上ノミニ止マラス、併ニ現世國ノ用ニ適スヘキ學科上ニモ及ホシテ、實ニ生徒ヲシテ啻ニ賢明ノ教士トナラシムルニ足ルノミナラス、必ス兼テ善良ノ國民トナラシムルニ足ルヤ否ヲ監督シ、而シテ國家若シ是等ノヿニ於テ不可アルヲ知ラハ、必ス之ヲ改革セシムルノ權アリ、○方今加特力教派ノビショップ(〔按〕高官)カ爲ス如ク、單ニ神道ノミヲ以テ、少年ノ教徒ヲ教育スル片ハ、遂ニ成人ノ齒ニ屆ルト雖モ、殆ト世事ヲ解スル能ハサル者トナリ、且ツ其精神才智遂ニ穎敏ノ力ヲ失ヒ、全ク魯鈍ノ者トナルニ至ル可シ、但シビショップ斯ク神道ノミヲ以テ少年ノ教徒ヲ教育スルトキハ、此徒ノ敬神ノ志ハ益〻深厚トナル可シト雖モ、之レカ爲メニ遂ニ世事ヲ解セサル魯鈍物トナルカ故ニ、自ラ民人ノ信仰ヲ失テ、殆ト教化ノ務メヲ盡ス能ハサルニ至ル可シ、是レ即チ得失共ニ存スト雖モ、蓋シ得決シテ失ヲ償フニ足ラサルナリ、是ニ於テ教徒學校ヲ評スルニ適切ナル語アリ、曰ク「汝ハ風ヲ播種シタリ、必ス暴風ヲ收獲スルニ至ル可シ(〔按〕ビショップノ教育ハ微風ノ如シト雖モ、生徒ノ所業ハ、遂ニ暴風ノ如クナル可シト云フ意〕)ト、

(第七)教會ノ所有ハ教會ノ用ニ充ツルカ爲メ教會ニ授與セラレタル者ナレハ、全ク教會ニ屬シテ、決シテ國家ニ屬セス、是故ニ國家ハ此所有ヲ以テ敢テ自己ノ所有ト爲スノ權ナク、且ツ敢テ之ヲ自己ノ用ニ充ツルノ權ナキハ、固ヨリ當然ナリ、去レ𪜈此所有ノ管理ヲ以テ全ク教會ニ任スヘキヤ將國家自ラ教會ヲ看護シ、之ニ代ハリテ其所有ヲ管理スヘキヤノ議論ニ至リテハ、古來未タ曾テ一定ノ說アラス、○加特力教會ノ如キハ、古來自ラ其所有ヲ管理スルヲ緊要ノヿト爲セシト雖モ(輓近ニ至リテハ、國家自ラ教會所有ノ事務ニ關スルヲ緊要トシテ、大ニ教會ノ權ヲ限制シ、以テ教會所有ヲ監督スルヿトナリシカ故ニ、教會此事ニ於テハ、已ムヲ得ス國家ノ指令ヲ受クルニ至

レリ、然ルニ波羅特士旦敎會ノ如キハ、自己ノ現世ニ於テ得タル所有（〔按〕永遠不滅ノ天國ニ於テ得ル所有ニ對シテ云フナリ、「天國ノ所有トハ、即チ、天上ノ安樂幸福ヲ云フナリ、）ヲ管理スルノ權ハ、古來全ク國家ニ委託シ、而シテ偏ニ國家ニ依頼シテ其所有ノ看護ヲ請願シタリ、去レハ今時ニ在リテハ敎會ノ所有ハ必ス先ツ敎會ノ管理處分ニ任シテ「國家ハ唯其管理ノ方法、及ヒ其增產ノ景況ヲ監視シ、而シテ敎會若シ他事（〔按〕敎務ニ屬セサル事ヲ云フ、）ニ於テ浪費ヲ爲スヿアルトキハ、必ス之ヲ禁止スルノ權ヲ握ルノ法ヲ立ツルヿ最モ緊要ナル可シ、

〔第八〕凡ソ學校ニ於テ、幼童ヲ敎導スルコト、或ハ成人年齒ニ屆レル男女ノ婚嫁ヲ爲スヿ等ハ、敎國二會ノ倶ニ最モ關係スヘキ者ナリ、是故ニ國家ハ宜シク此等ノ事ヲ監督スヘク、敎會ハ宜シク此等ノ事ヲ眷顧ス可シ、但シ是等ノ事件上ニ於テ、國家ノ權ト敎會ノ權トヲ分別スルハ實ニ難シ、若シ此二權ヲ全ク離分セントスルトキハ、恐ラクハ甚ク害アル可シ、蓋シ敎國二會相結ヒ相謀リテ從事スルニアラサレハ、決シテ奏功アル可ラサレハナリ、○學校敎導ノヿニ就テハ、殊ニ下欵ニ於テ論ス可シ、婚嫁ノヿハ既ニ論說セリ、（卷ノ二第十九款ヲ參看スヘシ、）○凡ソ是等ノ事ニ係レル法ヲ示令シ、及ヒ之ヲ保護スル等ノヿハ、國家殊ニ之ヲ掌ルヘク、又是等ノ事ヲシテ倫理ニ協ヒ、神道ニ合セシムル等ノヿハ、敎會殊ニ之ヲ掌ルヘシ、

〔第九〕所謂國家ノ改正權利（〔按〕國家自己ノ權ヲ以テ敎會ノ改正ヲ謀ル權利ヲ云フ、）ナル者アリ、而シテ之ヲ或ハ國家ノ監督權利ト相合スヘシト云ヒ、或ハ相分ツヘシト云フノ說アリ、「此語ハ元來第十六世期敎會改正ノ時ニ始メテ起リ、而シテ殊ニ波羅特士旦ノ黨派國家ノ爲メニ謀リテ、國家ニ敎會改正ノ大權ヲ委タリ、「蓋シ波羅特士旦派國家ノ權力ヲ假リテ、當派（〔按〕加特力派ヲ云フ、）ニ抗抵シ、以テ敎會改正ヲ遂ケント欲シタレハナリ、「加之當時加特力派ニ拘泥セル各國ト雖モ、亦此ノ如キ權利（〔按〕改正權利ヲ云フ、）ヲ握リタリ、但シ波羅特士旦國ノ權利ニ比スレハ、大ニ限制

セラルヽ所アリキ、○加特力國及ヒ波羅特士旦國、共ニ唯敎會自己ノ暴行ヲ放棄セス、自ラ改正ヲ謀ラサル時ニ於テノミ、國家敎會ニ代ハリテ、改正ノ權利ヲ施行スルヲ以テ當然ト爲シタリ、後世國家ノ專權ヲ貴フノ論盛ナルニ至ルニ及ヒ、國家ノ非常權ナル此改正權利ヲ以テ、遂ニ國家ノ當然施行スヘキ常權ノ如クナシ、而シテ國家ハ必ス此大權ヲ以テ、敎會ヲ制馭スヘキ者ト爲サント欲スルニ至レリ、

眞誠ノ改正權利ハ、元來敎會ノ掌握スヘキ者ナリ、故ニ敎會ノ改正ニ就テハ、敎會ノ權國家ノ權ヨリ更ニ強大ナルヘキヿ、固ヨリ當然ナリ、「凡ソ眞誠ノ改正權利ト稱スル者ニ二種アリ、其一ヲ改正ノ陰權利及ヒ陰義務トス、即チ時勢ノ變遷ニ由テ生シタル敎會ノ弊害、或ハ其暴戾ナル處分等ヲ改正スルヲ云フ、其二ヲ改正ノ陽權利トス、即チ時勢開明上進ノ度ニ隨テ、更ニ敎會ノ完全具備ヲ求ムルヲ云フナリ、（〔按〕蓋シ二種共ニ必ス先ツ敎會ノ自ラ掌ルヘキ所ナリ、）○然ルニ國家ハ唯此改正ヲ擁護幇助スルノ權アルノミ、蓋シ國家ノ之ヲ擁護幇助スルヤ、決シテ自ラ帮士敎會ノ門徒トナリテ之ヲ爲スニアラス、若シ敎會ノ風俗良善ヲ失フヿアルトキハ、遂ニ國家風俗モ亦敗壞スルニ至ランヿヲ恐ルヽト、及ヒ國家ハ諸會社若シ暴戾ノ處分アルトキハ、則チ固ヨリ之ヲ防制スルノ權ヲ握レハナリ、「凡ソ敎會若シ熟眠スレハ、國家ハ必ス之ヲ醒起シ、敎會若シ沈沒スレハ、國家ハ必ス之ヲ扶起セサル可ラス、「國家敢テ敎會ヲ逐フテ其地位ヲ奪フカ如キハ、決シテ許ス所ニアラスト雖モ、其力ノ及フヘキ限リハ、「專ラ正義公直ノ權柄ヲ以テ敎會ヲ匡救スルヲ要ス、

長川新吾　校

國法汎論卷之九中終

國法汎論卷之九下目錄

第八款　國家ト學術トノ關涉

第九款　國家ト人民學校トノ關涉

第十款　職業學校、工藝學校、及ヒ學者學校

第十一款　大學校

第十二款　集賢館

國法汎論卷之九下

瑞士　イ、カ、ブルンチュリ　著
加藤弘之　譯

第八款　國教ト學術トノ關渉、デル、スタート、イム、ヘルヘルトニス、ツール、ヰッセンシャフト、ウンド、クンスト、

〔第一〕國家ト學問トノ關渉ハ、神道トノ關渉ヨリモ、更ニ、親密ナリト雖モ、國家ハ學問ノ旨意上ニモ、亦敢テ關スルノ權ナシ、然ルニ國家學問ノ旨意上ニ關スルヲ以テ其本務トナシ、且ツ學問ヲ以テ、國家ノ特別ニ掌ルヘキ者ト爲セル國往々之レアリ、支那ノ如キ最モ然リトス、中央ノ天國、（ヒムメルシエス、ライヒ、デル、ミッテ（按）中國ノ天下ト云フノ義歟）ニテハ其皇帝ヲ以テ、兼テ學問ノ大權ヲ握レル大主トナシ之ヲ尊敬シ、且ツ國家碩學鴻儒等ヲ擧ケテマンダリント稱シ、而シテ其階級ヲ分段シテ、尊卑ヲ定ムルノ權、他諸官吏ヲ任スルノ權ト全ク相同シ、○此國臣民ノ學問ヲ爲スヤ、政府確定スル所ノ方法規矩ヲ固守セサル可ラサルノ法アリ、故ニ苟モ此法ニ背ク者アル片ハ、則チ國法ニ背ケル罪犯トナルナリ、但シ斯ク學問ヲ束縛スルハ、元來國家ノ權ニ在ル可キヿニアラスシテ、大ニ學問ノ學問タル所以ノ理ヲ損害スル者ト云フ可シ、是ニ於テ學問ハ遂ニ淺近ニ止マリ、輕薄ニ陷リテ、決シテ性理ノ蘊奧ヲ詳密ニ探討シ、及ヒ古今ノ沿革ヲ自在ニ觀察スルノ用ヲ爲スニ足ラス、○凡ソ人ノ精神ハ、益ゝ眞確ノ理ヲ究メント欲スル者ナレハ、必ス人々ニ一身ノ自由權ヲ許シテ、其精神ヲ自由ニ發動セシムルヿ甚緊要ナリ、蓋シ一身ノ自由權ハ、決シテ國家ノ授クル所ニアラス、又命スル所ニアラス、實ニ天神ノ人性ニ賦與スル所ナリ、學問モ亦神道ノ如ク、決シテ國家ノ造爲啓發ニ出ルニアラス、獨リ永遠不滅ノ人魂、常ニ天神ノ眞理ヲ渴望シ、之ヲ要求セント欲シテ、勉力勵精スルヨリ獲ル所ノ果實ナルノミ、是故ニ國家ハ敢テ學問ヲ制馭スルノ權ナキヿ、猶敎道ヲ制馭スルノ權ナキカ如ク然リ、國家ハ敢テ學問ノ旨意ヲ制定スルノ權柄、及ヒ權利ヲ握ル能ハス、又人々眞理ヲ要求セント欲スル心志ヲ防制スルノ權利ヲ握

ル能ハス、人々學問ノ自由權ハ、實ニ天神ノ設立スル所ナリ、故ニ國家ハ必ス此權ヲ敬重スルノ義務ヲ負擔セサル可ラス、㊀

㊀スピノサ（蘭人、一千六百三十二年ニ生レ七十七年ニ死ス、）カ著セル政治學ノ書ニ云フ、「人或ハ賞酬ヲ以テ勸誘セラレ、或ハ懲罰ヲ以テ驚嚇セラルト云フモ、決シテ爲シ能ハサル所行アリ、而シテ此所行ハ、總テ政府ノ權利ヲ以テ制シ得可キ者ニアラス、蓋シ人タル者ハ、決シテ其思考ノ力ヲ放擲スル能ハサル者ナリ、例ヘハ或ハ賞酬ヲ以テシ、或ハ懲罰ヲ以テシテ、人ヲシテ「全部ハ局部ヨリ大ナラサル可シ」ト、思考セシメント欲スルモ、豈得ヘキノ理アランヤ」ト、○普魯士ノ國憲第二十章ニ云、「學問ノ事ハ人ノ自由ニ任ス」ト、墺地利ノ國憲ニ載スル所モ亦同シ、

〔第二〕然ルニ又國家ハ、學問ヲ全ク度外ニ措クヲ良好トシテ、其制度ヲ立テント欲スルノ國儘之レアリト雖モ、是又決シテ取ルヘキノ論ニアラス、蓋シ國家ノ眞理、近世始メテ明確トナリ、及ヒ其權柄始メテ整備セシハ、殊ニ中古ノ世ニ束縛セラレシ學問、近今ニ至リ漸ク羈縻ヲ脱シテ、自由ニ其力ヲ伸フルヲ得シニ由ルナリ、○方今國民ノ過半ハ殆ト學問ニ從事セス、且ツ學問ノ功益ヲ悟ラサルカ如シト雖モ、殊ニ國事ニ關係アル民人（〔按〕立法府議員ノ選擇ニ預ルヲ得ル民人ヲ云フ、即チ中等以上ノ民人ナリ）ノ如キハ、直ニ學習ノ菓實ヲ獲テ、開化ノ人トナルコト、敢テ辨ヲ俟タス、加之、下等貧賤ノ民衆スラ、尚自ラ學問ノ庇蔭ヲ蒙リ、且ツ隨テ學問ノ今日ニ功益アル所以ヲモ知ルニ至ルコト、亦敢テ疑フ可ラス、○學問ノ國家及ヒ民人ニ緊要ナルヤ、此ノ如ク其大ナリ、然ルニ國家ハ學問ヲ度外ニ措テ、敢テ其勸導ニ勉勵スルヲ要セスト云フテ可ナランヤ、

〔第三〕是故ニ國家ハ必ス學問ニ心ヲ用ヒテ、其上進ヲ帮助セサル可ラス、中古ノ世ニハ、教會專ラ學問勸導ノコトニ從事シ、學校書院ヲ建造シテ之ヲ管轄シ、及ヒ書籍ヲ公布スル等ノコトヲ掌リタリキ、是故ニ中古ノ世ニ於テハ、教徒ノ學問勸導ニ功勞アリシコト、實ニ少カラスト雖モ、教徒ハ獨リ神道ノ褊少ナル區域内ニ於テ、人智ノ開明ヲ謀ラント欲シ、而シテ若シ神道ノ旨意ニ依ラス、他方ヲ以テ眞理ヲ探求セント欲スル者アルトキハ、大ニ之ヲ惡テ妨碍セシカ故ニ、實ニ學問ノ自由權ナル者ハ、絶テ之レアラサリキ、

然ルニ第十六世期（一千五百年代ヲ云フ）ニ於テ、教會ノ改正アリシヨリ、學問ノ景況全ク一變セリ、蓋シ改正派專ラ精神ノ自由ヲ主張シテ、神道ノ宿弊ヲ矯正セシヨリ、學問ノコモ亦必ス自由ナラサル可ラサルノ論、及ヒ勸學ノ事務ハ國家宜シク之ヲ掌ル可シト云フノ論、盛ニ發生シ、遂ニ全ク實際ニ行ハルヽニ至リタリ、但シ學問ノ景況一變セシハ、特ニ教會ノ改正ノミニ由リテ然ルニアラス、既ニ其以前ニ於テモ、神道ノ教導ヲ旨トセス、專ラ他學科ノ教導ヲ旨トセル學校全クナカリシニハアラス、且ツ教會改正ノ後ニ至リテハ、絶エテ改正ニ關係セサル加特力國ニ於テモ、亦同ク學問ノ景況變化スルニ至リタリ、○是故ニ往昔ハ教會專ラ主トナリテ、勸學ノ事務ヲ掌リ、國家ハ僅ニ之ヲ補助スルニ過キサリシカ、景況變化セシ以來ハ、國家專ラ主トナリテ、勸學ノ事務ヲ掌リ、教會ハ却テ之ヲ補助スルニ過キサル者トナレリ、即チ教會學問ヲ制馭スルノ權廢滅シテ、國家學問ヲ監督スルノ權起立シタルナリ、而シテ此監督ノ權ハ學問ヲ制馭スル權ト「全ク學問ヲ度外ニ措テ關セサル制」トノ正中間ニ位スル者ナリ、○然ルニ二三ノ經綸者（スタート・マン〔按〕經綸ノ材能アル人ヲ云フ）ノ論ニ、國家ハ鋭意ニ勸學ニ心ヲ用フル（學校ノ外ニモ亦〔按〕學者ヲ奬勵シテ、專ラ眞確公正ノ道理ヲ照明ニナスノ書ヲ著述スルコニ、勉力セシムル等ノ類ヲ云フ歟）ノ權ヲ有スルコ、甚タ緊要ナリト云ヘリ、㊀去レトモ此權ヲ以テ「國家當然ノ權利トナスニ至ルハ、蓋シ後世ニ在ラン、

㊀ペルツ（獨乙人、一千七百九十五年ニ生ル）カ著セル、普國ニテステルスタイン（一千七百五十七年ニ生レ、八百三十一年ニ死ス）ノ傳ニハ、スタインノ論説ヲ擧ケテ日ク「方今ノ世ハ萬事暴權ト

壓抑トニ由ラサル者ナシト雖モ、（按）當時獨乙國全ク佛國ノ制馭ヲ受ケタレハナリ、此事自ラ廢絶シテ眞ニ自由權ノ行ハルヽ世〔再ヒ來ルヲ渴望セサル可ラス、是故ニ人君タル者ハ、文學ヲ勸メ、教育ヲ勉メテ、以テ天下ノ公論ヲシテ〔純淸活潑ナラシムルヿ、最緊要ナリ、○獨乙國ノ如キハ、人々學問ヲ嗜ムル心甚タ深ク、且ッ公學校ノ教育ヲ受クル人〔甚タ多キカ故ニ、著述者ノ邦國ニ利害アル、他邦ヨリモ更ニ大ナリ、蓋シ獨乙人學問ヲ嗜ムノ深キハ、元來其性情靜穩ニシテ、且ッ思慮深密ナルト、及ヒ國憲ノ善良ナルトニ由ルナリ、且ッ獨乙ニテハ、學校書院ノ數許多ニシテ、學者ノ事業ヲ要スルヿ多キカ故ニ、著述者ノ員數、他邦ヨリ更ニ多シ、是故ニ人君タル者ハ、著述者等ヲ奬勵シテ、專ラ眞確公正ノ道理ヲ世ニ昭明ニナスヿニ從事セシメ、以テ方今ノ梟權壓抑ヲ可トナセル暴惡說ヲ防制セシムルヲ要ス」ト、

〔第四〕國家學問ノ事務ヲ掌ルノ方法數種アリ、而シテ或ハ陽ノ方向ヲ以テ勸導ヲ旨トスル方法〔ポレチーヘ、ヘルデルン、デル、リヒツング、〕アリ、或ハ陰ノ方向ヲ以テ、限制ヲ旨トスル方法〔テガチーヘ、シュレンケンデ、リヒツング、〕アリ、

〔甲〕國家學事ニ功績アル者ニ榮譽ヲ授與スル片ハ、其益甚タ少カラス、國家此政ヲ施行スル片ハ、先自己ヲ尊敬シ、及ヒ自己ノ品行ヲ貫ウスルニ足リ、且ッ實ニ本人ノ功績ヲ賞酬シ、併セテ他人ヲ奬勵スルニ足ル、○普魯士國ノ將サニ獨乙全國ノ首領タラントスルノ勢ヲ得シハ、殊ニ學問ヲ尊重シ、及ヒ國內ニ徧ク學校ヲ興立シテ、以テ專ラ學問ノ勸導、奬勵ニ心ヲ用ヒシカ故ナリ、然ルニ墺地利ハ輓近獨乙ノ學問ヲ勸ムルヿニ心ヲ用ヒス、且ッ東方諸國（按）歐洲東方ヲ云フ、ヲ敎化スルヿヲ怠リシカ故ニ、悲シイ哉遂ニ獨乙第一等ノ開明國タル聲譽ヲ隕スニ至レリ、○凡ッ人ノ精神ハ本人能ク之ヲ用ヰルノ術ヲ知レハ、卽チ自己ノ利トナリ、本人若シ能ク之ヲ用ヰルヿヲ知ラサレハ、卽チ自己ノ害トナル者ナリ、學問モ亦然リ、國家能ク之ヲ用ヰルノ術ヲ知レハ、宛モ忠勇果敢ノ强兵ニ異ナラスト雖モ、國家若シ之ヲ蔑視シテ用ヰサル片ハ、宛モ强大當ル可ラサル敵軍ノ如クナルヘシ、但シ國家學事ニ功績アル者賞譽スルニ就テハ、必ス先宜シク其眞僞ヲ辨別ス可シ、國家ハ唯公衆ノ安寧ヲ增進シ、及ヒ眞確ノ理ヲ博ク傳播シタル者ヲ賞ス可シ、凡ッ學事ノ功績愈盛ニ愈大ニシテ、國家及ヒ民人ノ爲メニ愈有益ナルニ隨ヒ、國家ハ愈高大ノ賞譽ヲ與ヘサル可ラス、○一個人精神ノ自由ヲ敬重スル國ニ於テハ、人動モスレハ、他人ヲ欺騙スル巧言ヲ吐キ、他人ニ疑惑ヲ生セシムル虛說ヲ唱ヘ、或ハ妄ニ他人ヲ譏謗非議スル等ノヿナキ能ハサルヲ以テ、國家ハ能ク意ヲ用ヰテ之ヲ辨識ス可シ、而シテ縱令ヒ衆人是等ノ惡所行ヲ以テ、是トスルヿアリ圧、國家ハ決シテ之ヲ賞譽ス可ラス、國家ハ敢テ是等ノ所行ヲ賞譽セサルヲ以テ、其義務ト爲サヽル可ラサルノ理ハ、宛モ上ニ舉ケタル眞誠ノ功績ヲ賞譽スルヲ以テ、其義務ト爲サヽル可ラサルノ理ト相同シ、

〔乙〕凡ッ學問ヲ勸導セント欲セハ、之レカ爲メニ數種ノ材料ナカル可ラス、是故ニ國家ハ其力ニ應シテ、學習ノ用ニ供スヘキ諸器械諸物品等ヲ備ヘテ、自由ニ之ヲ使用セシメ、或ハ學問上經驗試習セシリヲ、世ニ公布セント欲スル者アリテ、國家ノ補助ヲ要スルヿアレハ、國家公財ヲ捐ラヽ、其業ヲ補助スルヲ良好ト爲ス、

〔丙〕國家大學校ヲ建立シ、及ヒ其費用ヲ給シテ、大ニ知識ヲ開明スルノ處ト爲ス、但シ事ニ就テハ、末款（按）卽チ第十二款ナリ、ニ於テ詳論ス可シ、○敎部ニスタル（按）敎道及ヒ學術ノ事務ヲ掌ル、ハ、學問講求ノ方法如何ニ拘ハラス、常ニ能ク之ヲ注視シ、及ヒ國內ニ於テ、學事ニ就テ、緊要ノ事生スレハ、悉ク之ヲ報知セシメ、而シテ其事ノ次第景狀ニ著眼シ、及ヒ其事ノ國家民人ニ如何ナル關係ヲ生スヘキヤヲ探索スルヲ以テ、其職掌ト爲ス可シ、是レ卽チ啻ニ是等ノヿヲ、自己ノ帳簿ニ記載スルカ爲メノミナラス、倘適宜ニ自己ノ事務ヲ施サンカ爲メナリ、

〔丁〕國家ハ唯功益アル學問ノミヲ勸導スヘキヿ、固ヨリ論ヲ俟タス、去レ圧縱令ヒ功益ナク、或ハ眞確ナラサル可ク見ユル學問ト雖モ、亦必ス之ヲ保護セサル可ラス、○國家ハ各人奉スル所ノ神道ヲ

保護セサル可ラサルカ如ク、（但獨リ基督教ヲ愛敬ス）學問ニ就テモ亦其人ノ自由權ニ保護シテ、非議者、或ハ賤民等ノ爲メニ妨害ヲ受ルヿナカラシムルヲ要ス（縱令ヒ其學問理ニ合セサルヿアリモ亦然リ、○彼ノ人タル者ハ、自ラ眞確ナリトセル事ヲ自由ニ道ヒ出スノ權利アリ、何者、人タル者ハ斯ク爲スヘキ義務ヲ負擔スレハナリ」ト云ヘル語（（按）本卷第二款（第二）ニ出テタル者ナリ）ト語文聊少シク異ナレモ、恐ラクハ此語ヲ引キシナルヘシ、）ハ此事ニモ正サニ適合ス、

（戊）去レモ國家若シ陋惡鄙劣ナル學問ノ、公衆ノ爲メニ妨害アルヲ知ルモハ、彼限制ヲ旨トスル方法ヲ以テ、之ヲ防阻セサル可ラス（但シ唯實ニ國家ノ健全安寧、及ヒ民人ノ風俗行狀ノ爲メニ、大害アルヿ明瞭ニシテ、且ツ其害決シテ自然ノ勢ヒニ由テ、壓制セラレサル時ニアラサレハ、國家敢テ自ラ手ヲ下シテ此ノ如キ學問ヲ停止セサルヲ要ス、何者、國家學問上ニ手ヲ下スノ方法、若シ眞善ナラサルヿアル時ハ、啻ニ學問ノ弊害ヲ除去スル能ハサルノミナラス、却テ妨害スルヿ多ケレハナリ、○但シ若シ一個人、或ハ會社ノ學業、實ニ公衆ノ爲メニ妨害アルヿ明瞭トナルニ至リテハ、國家速ニ從來ノ保護勸導ヲ止ムルハ、固ヨリ國家ノ全權ニ在リ、若シ此ノ如キ學業ヲシテ、愈盛ニ國家ノ法制ヲ毀損シ、公衆ノ安寧ヲ妨害セシメンカ爲メニ國家ヲシテ己レカ讐敵ニ均シキ學業ノ勸導ニ、公財ヲ給セシメント欲スルノ說アレハ、是レ大ナル謬見ナリ、

（第五）國家ト技藝（クンスト（按）通常建築、雕像、圖畫、音樂、詩歌等ヲ云フ、）トノ關係モ、亦學問トノ關係ニ相同シ、故ニ國家ハ、敢テ技藝ノ旨意上ニ關スルヲ得ス、唯技藝ニ係レル事務ヲ掌ルヲ得ルノミ、凡ソ技藝ノ世事上ニ利害アルハ、學問ニ比スレハ、更ニ少シト雖モ、其功用ノ輙ク人情ヲ感動シ、及ヒ其體裁ノ美麗ニメ、遂ニ人心ヲ娛マシムルハ、遙ニ學問ニ優ル、○建築雕刻ニ係ル物ハ、敬神禮拜ニ於テハ、天神ヲ畏敬信仰スル亦心ヲ表スルニ足リ、國事及ヒ世事ニ於テモ亦甚タ佳麗ナル裝飾トナリ、及ヒ人心ヲ感激セシムルニ足ル（○國家ハ先ツ自己ノ形貌ヲ佳麗ニセサル可ラス、故ニ技藝ヲ以テ緊要トナスハ、固ヨリ當然ノ理ナリ、（（按）蓋シ王居、政堂、城郭、堡寨等皆佳麗ナラサレハ、儼然タル國威ヲ輝カスニ足ラサルヲ以テ斯云フ歟、）「神道ノ技藝（レリギエーセ、クンスト（按）神道ノ祭典等アルニ方リテ催ス所ノ音樂演戲ノ類ヲ云フ歟、猶再考スヘシ、）既ニ數百年前ニ於テ、大ニ進步シテ、極盛ノ地位ニ至リタリ、然ルニ國家ノ技藝（スターツリヘ、クンスト（按）國家盛典等アルニ方リテ、催ス所ノ音樂演戲ノ類ヲ云フ歟、猶再考スヘシ、）モ、亦太古希臘及ヒ羅馬ニ於テハ、神道ノ技藝ト同シク、之ヲ敬重シテ、其進步ニ心ヲ用ヒシカモ、其後ニ至テハ、大ニ衰廢セリ、然ルニ近今再ヒ之ヲ興復セント欲スルニ至リ、且ツ國家及ヒ技藝者、次第ニ此技藝ノ華麗ナラサル可ラサル所以ヲ悟ルニ至レリ、

往古雅典（（按）希臘ノ一邦、）ノ演戲ハ、政教ヲ裨補スルヲ旨トシテ催シタル者ナリキ、然ルニ近今ノ演戲ハ、殆ト唯私人ノ歡樂ニ供スルヲ旨ト爲スニ過キス、是故ニ方今邦國演戲ト稱スル所ノ演戲アリト雖モ、其實ハ決シテ然ラス、唯稀レニ國事ニ益アルノミ、○方今邦國ノ大祭アルニ方リテハ、野鄙猥雜ナル音樂演戲甚タ盛ニシテ、眞正ノ音樂演戲ハ、殆ト之ニ壓倒セラレル勢ヒナリ、

衆民ヲシテ偉功盛業ヲ追想セシメント欲セハ、之レカ爲ニ旌績標（モヌメント（一））ヲ建立シ、或ハ巨大佳麗ノ造營ヲ爲スニ如クハナシ、去レモ偉功盛業ヲ不朽ニ傳ヘンカ爲メニハ、國家必ス旌績標ヲ建立シ、或ハ巨大佳麗ノ造營ヲ爲スヿ、實ニ緊要ナリト云フノ理ニ至リテハ、今時猶未タ文明世界ニ偏ク明瞭トナルニ至ラス、（一）（（按）文明國ノ人民ト雖モ、未タ悉ク此理ヲ悟ルニ至ラスト云フノ意ナリ、）

（一）ヤーン（獨乙人、一千七百七十八年ニ生レ、八百五十二年ニ死ス、）ノ著書ニ云「各種ノ旌績標ハ大業及ヒ其賞譽ノ表率ナリ、」ト、

第九款　國家ト人民學校トノ關涉（デル、スタート、ウント、ホルクスシューレ、）

（第一）幼童ハ、天然ニ其父母若クハ其親戚ノ管轄ニ屬スル者ナレハ、是等ノ徒、宜シク最初ノ教育ニ心ヲ用井可キヿ、固ヨリ當然ニシテ、國家ハ敢テ最初ノ教育ニ心ヲ用井ルノ責ヲ負荷セス、（但シ貧

窮ナル孤兒ノ如キハ、國家若クハ邑ニ於テ、之ヲ教育スルヿニ心ヲ用井サル可ラスト雖モ、實ニ父母親戚ノ教育ニ摸倣スルハ、最モ難クシテ、遠ク之ニ及フ能ハス、唯國家若クハ邑ニ於テ、實ニ綿密ニ意ヲ用井、深切ニ教育スルヰハ、稍父母親戚ノ教育ニ類似スルヲ庶幾ス可シト雖モ、實ニ全ク之ヲ摸倣スルハ、決シテ能クス可キニアラス○蓋シ父子相愛シ、血肉相慕ヒ、親戚相親ムノ志情ハ、實ニ特殊ニシテ、國家ノ制度ト雖モ、決シテ之ニ摸倣ス可ラサル者ナリ、往古斯巴爾達（スパルタ）（（按）希臘ノ一國、）ニ於テハ、幼童七歲ニ屆レハ、必ス父母ノ手ヲ離レテ、官府ノ教育ヲ受クル制度ナリシカ、蓋シ當時斯巴爾達國ノ政權、頗ル衰頽セシカハ、民人ヲシテ強ヒテ身命ヲ國事ニ抛タシムルニアラサレハ、政權復ヒ盛強トナル能ハサルヲ慮リテ、此ノ如キ制度ヲ立テシナリ、而シテプラトン（（按）希臘ノ碩學、紀元前四百二十九年ニ生レ、三百四十八年ニ死ス、）モ亦大ニ之ヲ稱譽セシト雖モ、決シテ良善ノ制度ト云フ可ラス、○佛國一千七百九十三年（寛政五年）ニ立チシ議會ニ於テ、ミシェル、レペルチー（一千七百六十年ニ生レ、九十三年ニ殺サル、佛國顛覆黨巨魁ノ一人ナリ、）モ亦是ニ類セル制度ヲ立テ、國家其權ヲ以テ、國內ノ幼童ヲ教育スヘキノ議ヲ起セリ、是ニ於テ、ロベスピエールモ亦大ニ之ヲ讚美シテ、ミシェル、レペルチーノ此ノ如キ議ヲ起セシハ、蓋シ人ノ聖靈ノ致ス所ナリト云ヘリ、（（按）佛國顛覆ノ時ニ於テハ、神道ヲ廢滅シ、眞神ヲ蔑如シテ、人ノ聖靈ヲ以テ神ト爲セリ、故ニ此ノ如ク云ヒシナリ、）凡ソ此議ニ從ヘハ、滿十二歲ニ屆レル男子、滿十一歲ニ屆レル女子ハ、悉皆公有ノ教育館ニ入ラシメ、公費ヲ以テ、之ヲ同式ニ育成スルヲ最モ緊要ト爲セリ、蓋シ親戚ヲ以テ彼ノ同一（グライヒハイト）（（按）佛國顛覆黨ハ、特ニ萬民同一ト云ヘルヿヲ主張シテ、萬民ノ身分、權利財產等ヲ悉皆同一トナシテ、絕エテ差異ナカラシメント欲シタリ、）ノ神ノ犧牲ト爲スヲ緊要ト爲セシナリ、（（按）天下兆民ヲ悉皆同一ナラシメ、之ヲシテ專ラ公共ノ事ニ盡力セシムルヲ旨トシテ、各人、各親戚ヲシテ敢テ各種ノ私事ヲ爲

サシメサラント欲シタリト云フノ意歟、）然レモ、議會遂ニ亡滅スルニ至リテ、此議モ亦共ニ亡滅シタリ、一身ノ自由權及ヒ父子親戚共ニ私事ヲ營ムノ權利ハ、全ク天神賜フ所ノ權利ナレハ、國家ノ之ヲ保護スルハ、其當然ノ義務ナルニ、國家却テ自ラ此權利上ニ手ヲ下シテ、之ヲ制セント欲スルハ、大ニ國法ノ理ニ背戾スル者ニシテ、其弊害モ亦少カラス、唯時アリ、父母親戚、其幼童ノ教育ニ從事スル能ハサルヿアル歟、若クハ之ニ從事スルヿヲ怠ル時等ニ於テハ、國家自ラ是等幼童ノ教育ニ心ヲ用井ルヿ甚タ緊要ナルカ故ニ、此事ニ於テ、當然ノ權利ヲ有スト云フ可シ、

〔第二〕但シ近世ニ至リテハ、國家公衆利益ノ爲メニ、教育ノ一端ヲ掌ルヿトナリキ、凡ソ中古ノ世ニ於テハ、學校ハ全ク教會ノ管轄セル者ナリシカ、次第ニ國家ノ管轄ニ歸シ、加之、挽近國家漸ク勸學ニ心ヲ用井、力ヲ盡シヽカ故ニ、遂ニ學問上ノ大權力ヲ握ルニ至リシカモ、教會ハ遂ニ之ヲ防拒スルヿ能ハサリキ、蓋シ挽近ニ至リテハ、教會甚タ勸學ノ務メヲ怠リ、且ツ學校ヲ以テ獨リ神道ノ用ニ供スヘキ者ト爲シタレハナリ、而メ此事ニ於テハ、波羅特士旦教會ノ罪モ、亦決シテ、加特力教會ニ讓ラサリキ、○教會教育ノ事ヲ掌リシ間ハ、全ク人民學校ノ教育ヲ怠レリ、故ニ挽近國家此事ヲ掌ルニ及ヒテ、始メテ此學校ノ教育ニ心ヲ用井ルヿトナレリ、（但シ學者學校（ゲレールテシューレ）ノ教育ノ如キハ、教會既ニ自ラ心ヲ用井シト雖モ、實ニ神道ヲ以テ、大ニ之ヲ束縛限制シタリキ、）

人民學校ノ旨トスル所ハ、幼童ヲ教育シテ、實ニ人タルニ恥チサル者トナシ、邦國人タル者トナシ、及ヒ敬神人タル者ト爲スヲ要ス、（但シ當然父母親戚ノ教諭ニ屬スルヿ、及ヒ特ニ某一職分ニノミ關係スルヿハ、決シテ人民學校ノ管掌スル所ニアラス、）人民學校ハ唯國民一般互相ノ爲メニ必要ナルヿノミヲ教諭ス可キナリ、○方今開明ノ世ニ在リテハ、諸般ノ事頗ル精密ニ渉ルカ故ニ、各人必ス其國語ヲ誦讀シ、書記シ、及ヒ日常平易ノ算計ヲ爲シ得ルヿ、甚タ緊要トナリ而メ各人是等ノ事ヲ爲スヤ、必ス容易輕快ナラザレハ、決シテ今日ノ用ヲ濟スニ足ラス、蓋シ是等ノ事ハ、即チ人民學校諸學科ノ基礎トナリ、及ヒ後來諸大學科ニ於テ、人智ヲ琢磨スルカ爲メニ、最要ナル預科トナルヘキ者ナリ、是故ニ國家若クハ邑ハ、人民學校ニ於テ、幼童ヲ同一ニ教育シ、而メ至賤ノ者ト雖モ共ニ教育

ヲ施シテ、遂ニ其才智ヲ育成スルノ暇ヲ放擲スルヲ得ス「○國家ハ此ノ如キ事務ヲ以テ「決シテ再ヒ教會ニ委托スルヲ許サス、何者、上ニ擧クル所ノ誦讀「書記、算計等ノ如キハ固ヨリ神道ニ係レルヿニアラスシテ「全ク世事ニ屬スルヿ、實ニ明瞭ナレハナリ「往昔教會ニテ、專ラ教育ノ權ヲ握リシ頃ニハ、幼童ノ才智ヲ育成スルヲ旨トセスシテ、特ニ幼童ヲシテ、專ラ教會ノ事ニ練習セシムルヲ旨トシ、或ハ之ヲ教會ノ用ニ役セシムルヲ旨トシテ、教育セシカ故ニ、幼童ノ才智、大ニ發達スルヲ得ザリシニ、輓近國家專ラ人民學校ノ教育ニ、心ヲ用ヰルニ至リショリ以來ハ誦讀、書記、算計ノ初科、偏ク開明シテ、幼童ノ才智、大ニ發達スルヲ得ルニ至レリ、是レ蓋シ是等ノ初科、決シテ神道ニ係ルヿニアラスシテ、全ク世事ニ屬スルヿナレハナリ、○但シ人民學校ニ於テ、幼童ニ誦讀書記ヲ教授セシコハ、唯衆民ニ有用ナル淺近平易ノ事理ヲ以テス可シ、凡ソ幼童ノ心志ヲ快活優美ナラシムルニ足ルヘキ事、幼童ヲシテ正善ノ德ヲ愛慕シ父母ノ國ヲ親愛セシムルニ足ルヘキ事、日常平素ノ事ヲ辨識セシムルニ足ルヘキ事、及ヒ事ノ虛實ヲ識別スルノ眼力ヲ得セシムルニ足ルヘキ事ノ如キハ、皆人民學校ノ教育ニ於テ、主旨トスル所ナリ、但シ大學科ノ一部分ニ屬シテ「幼童ノ了解シ難キ事、及ヒ徒ニ幼童ヲシテ尊大ノ心ヲ生セシムル事等ハ、決シテ教授ス可ラス、地理學、數學、及ヒ格物學等ノ一部分ニ屬シテ、專ラ議論ニ涉レル事等ハ、決シテ教授スヘカラス、人民學校ハ、尋常一樣ノ實事ヲ教授スルヲ以テ主旨ト爲ス可シ、決シテ學者ノ議論考究ニ屬スル事ヲ「教授ス可ラス、○獨乙及ヒ瑞士ノ如キハ、人民學校ニ心ヲ用ヰル、實ニ他各國ニ超ユト雖モ、惜イ哉從來ノ教授、適度ニ過キテ、漫ニ高尚ヲ貴ムカ故ニ、人民學校ニ於テ、教育ヲ受ケシ生徒等ノ心自ラ驕慢ヲ生シ、動モスレハ、工人或ハ製造人トナリテ、生計ヲ營ムヲ嫌ヒ、或ハ大ニ之ヲ恥ルニ至リ、又ハ貴キ(縱令ヒ野鄙ナルカ如シト雖モ)農業ヲ避ケテ、寧ロ貧賤ナル書吏タルヲ甘ンスルノ弊害ヲ生シタリ、○昔時ハ、幼童ノ教導甚タ不及ナルヲ歎セシヿアリシニ「今時數國ニテ施ス所ノ教導ハ、全ク相反シテ、甚タ過度ナルノ弊ヲ生シ、大ニ幼童ノ育成ヲ害スルニ至レリ、例ヘハ猶幼童ヲ養フニ健康ノ爲メ益アル淡薄ノ常食ニ代フルニ、高價ナル美食ノ零碎ヲ以テシ、遂ニ幼童ノ脾胃

ヲ損敗スルカ如ク然リ、

但シ學校ノ教育ハ、啻ニ才智ノ育成ヲ以足レリト爲ス可ラス、必ス又心志ヲ優美正善ニ遷スヲ要ス、人民學校ノ教育ハ啻ニ人智勝レタル人物ヲ造出スルヲ以テ足レリト爲ス可ラス、必又幼童ノ心志ニ信神ノ種子ヲ播植シ、及神道ヲ尊敬シ、正德ヲ愛慕スルノ情意ヲ起スヲ要ス、○才智ヲ育成スルハ、國家ノ專ラ心ヲ用ヰヘキ所ニシテ、心志ヲ正善ニ遷スハ教會ノ專ラ心ヲ用ヰヘキ所ナリ、而シテ此事ハ、獨リ教會ノ最モ長スル所ナリ「父ト母ト家內ニ於テ、相倶ニ子女ノ教育ニ從事スルカ如ク、國家ト教會ト、相倶ニ偏ク幼童ノ教育ニ從事スルヿ固ヨリ當然ナリ、蓋シ教國二會相協同シテ、教育ニ從事スルトキハ「實ニ良好ナル教育ヲ施スニ足ルト云フ可シ、然ルニ若シ全ク教國二會ノ協同ヲ止ムルヿアルトキハ「遂ニ當然相合セルヿヲ壞裂スルノ恐レナキ能ハス、其害タルヤ、家內ニ於テ父母相協同シテ、子女ヲ教育セサルノ害ト、全ク相同シカル可シ、○教會ノ專ラ人民學校ヲ管轄スルノ權ヲ奪ハント欲スルノ論、輓近盛ニ起リシハ、殊ニ教會從來人民學校ヲ制馭シテ、自己ノ利ノ爲メニ大ニ學問ヲ束縛限制セシニ基ク所ナレハ、決シテ理ナシトハ云フ可ラス「然レトモ教會ノ教育ニ關スル權力ヲ全ク奪フトキハ「遂ニ神道ノ教育ヲ缺クニ至ルカ故ニ「決シテ良好ノヿト云フ可ラス、但教會若シ漫ニ神道ニ惑溺シテ「學校ノ教育ヲ限制壓抑スルカ如キ弊ナキヤ否ヲ監督シテ、之ヲ防制スルハ、固ヨリ國家ノ主任ナリト雖モ、若シ教會ノ正善ナル方法ヲ以テ、盡力スルヲモ、共ニ防制セント欲スルハ甚タ不可ナリ、○是故ニ國家學制ヲ總管スルノ權力ヲ握ルハ、固ヨリ當然ナリト雖モ、就中神道ノ事ニ就テハ「教會ヲシテ、正善ナル方法ヲ以テ盡力セシムルヿ、最モ緊要ナリ、

人民學校ハ殊ニ幼童ヲ教育シテ、之ヲ眞誠ノ人タラシムルヲ以テ、主旨ト爲ス可シ、去レトモ幼童徒ニ眞誠ノ人トナリ得ルト雖モ、若シ其邦國人タルノ道ニ背クトキハ、甚タ可ナラサルヲ以テ「幼童ヲシテ「必ス其邦國人タルニ堪ル者トナラシムル方法ヲ以テ「教育ス可シ、幼童ヲシテ國家ノ爲メニ有用ナル人トナラシム可シ、但シ此目的ヲ達スルハ「實ニ容易ナルヿニアラスト雖モ、凡ソ國俗ノ良否、及ヒ國勢ノ盛衰等ハ、殊ニ其民人ノ幼時ニ於テ、發起セル愛國ノ志情ニ根サス者ナレハ「國家ハ「務メ

テ此目的ヲ達スルヲ以テ最モ急務ト爲スヲ要ス、○又基督教ヲ奉スル各國ニ於テハ、幼童ニ基督教ノ道德ヲ示スヲ以テ、神道教育ノ基本ト爲シ、而ノ常ニ此事ニ心ヲ用ヰルヲ要ス、去レドモ教會ナル者ハ、此教育ヲ施スニ就テ、必ス自派ノ旨意ヲ專一ニ主張スル者ナリ、是故ニ或ハ教派ノ異ナルニ從テ、人民學校ヲ分テル國アリ、或ハ唯一學校ニ於テ、神道ノ教導ヲ宗派ニ從テ、分ヲル國アリ、而シテ是等ノコハ、各國教育方法ノ便宜ト、其他種々ノ景況トニ關係スル者ナリ、但シ此二樣ノ制度ニ就テ、可否ヲ定決スルハ、全ク國家ノ權ニ在ルヘキコ、固ヨリ論ナク、且國家ハ何ノ制度ニ拘ハラス、常ニ心ヲ用ヰテ、教會ノ互ヒニ其宗派ヲ主張シ、遂ニ相敵視スルニ至ルヲ防制スルノ權アリ、

人民學校教師ノ員數、近年ニ至リテハ、大ニ增加セリ、是レ實ニ好徵ト云フ可シ、蓋シ許多ノ生徒アリテ教師足ヲサル片ハ、教導決メ十分ナル能ハサレハナリ、且ツ國內ノ幼童ヲシテ、悉皆下等小學ノ教導ヲ受ケシメント欲セハ、必ス許多ノ學校ヲ立テ、及ヒ許多ノ教師ヲ置カスンハアル可ラス、獨乙及ヒ瑞士ニ於テハ、方今專ラ下等小學ノ教導ニ心ヲ用ヰ、又佛國、英國、及ヒ其他ノ各國ニ於テモ、漸ク此事ニ心ヲ用ヰルニ至レリ、○人民學校教師ノ員數增加セシハ教育ノ爲メニ大ニ利アリト雖モ、此利ト共ニ又一弊害生シタリ、蓋シ近今師範學校（セミナール）ノ教導ニ於テ、動モスレハ、人民學校ニ不用ナルノミナラス、兼テ用ヰ可ラサル高尙ノ學科ヲ以テセシカハ、人民學校ノ教師トナルヘキ生徒、多クハ此猛烈ナル飲料ニ堪ユル能ハスシテ醉倒シ、頻ニ慢心ヲ生シ、隨テ愈人民學校ノ緊要ナラサル大學科ヲ、講求セントスルノ志情ヲ起スコトナレリ、是ニ於テ、人民學校ハ其必要ナル簡單ト、及ヒ健全トヲ失テ、遂ニ過當ノ者トナルニ至レリ、○教師等多クハ其職務ノ卑ウシテ、且ツ限制セラル、所アリ（其實ハ緊要ニシテ、且ツ貴重スヘキ者ナリト雖モ）ヲ嫌ヒ、且ツ己カ學識ト其受クル所ノ俸金ト、甚タ懸隔スル所アルヲ歎スルニ至リ、加之、教師等動モスレハ自負ノ心ヲ生シ、而シテ教育ノ新方法ヲ創始シ、天下ノ形勢ヲ一新スルハ、特ニ我輩ノ任スル所ナリト云ニ至レリ、實ニ二三ノ國ニ於テハ、人民學校ノ教師、專ラ騷擾ノ基ヲ開キ、加之、時アリテハ頗覆一新ノ基ヒヲモ開キシコ、亦絕エテナキニアラス、去レドモ人民學校ノ教師、高尙ナル學科ヲ講求スルカ爲メニ、時アリテ非分ノ事ヲ謀ルカ如キコアリト雖モ、其弊害ハ尙少ウシテ、輓近教師ノ員數增加セシカ爲メニ人民學校ノ面目ヲ一新シ、下等民人ニ至ル迄、之ニ由テ頗ル開明ニ赴キタル功益ハ更ニ大ナリ、然ルニ世論或ハ大ニ此弊害ヲ憂ヒテ、學校ノ事ハ、寧ロ昔時ノ如ク教徒ノ全權ニ任シテ、束縛限制ノ法ヲ用ヰシムルニ如カストナスト雖モ、恐クハ大ナル謬見ト云フ可シ、凡ツ開明進步ノ事ハ、其氣勢頗ル盛強ナレハ、其間亦自ヲ弊害ノ生スルヲ免ル、能ハスト雖モ、多クハ自然ノ勢ニ鎭壓セラレテ、遂ニ消滅スル者ナリ、○但シ國家ハ實ニ人民學校教師ノ請願中ニ於テ、理ニ當レル者ハ、宜シク許容シテ、之ヲ准ス可シト雖モ、若シ理ニ當ラサル者アレハ、之ヲ拒絕スルハ、固ヨリ當然ナリトス、（一）

（一）普魯士國ハ人口一千五百萬アリテ、學校教師三萬人アリ、即チ人口五百人ニ一人ノ比例ナリ、瑞士ノ一二邦ニ於テハ、教師ノ比例尙更ニ多シ、

（第四）國家ハ幼童ノ父母ニ强ヒテ、幼童ヲ學校ニ送ラシムルノ權アリ、蓋シ天下ノ衆童悉皆人タル者ノ知ルヘキ事、國民タル者ノ解スヘキ事、及ヒ神道ニ屬スル事ヲ學習シテ、賢良ノ臣民トナルハ、國家ノ爲メニ甚タ必要ナルヲ以テナリ、但シ國家ノ此權ヲ握ルヤ、唯此理ニ由ル者ナレハ、決シテ此外ニ其權ヲ施ス可ラス、即チ國家ノ此權ヲ稱シテ、强テ使レ就レ學ノ權（シュールツワング、）ト云フ、但シ國家ノ權ヨリ言ヲ立テスシテ、臣民ノ義務ヨリ言ヲ立テ、之ヲ就レ學義務（シュールプリヒト）ト稱スレハ、更ニ大ニ勝シ、○父母若シ既ニ其子女ノ教育ニ心ヲ用ヰテ、之ヲ私學ノ教師ニ托スレハ、國家決シテ此事ニ心ヲ用ヰルヲ要セサルカ故ニ、敢テ强テ使レ就レ學ノ權ヲ施行ス可ラス、但シ父母若シ懶惰ニシテ、絕エテ其子女ニ小學ノ教育ヲ受ケシメサル片ニ於テハ、國家必ス强テ使レ就レ學ノ權ヲ施シ、父母ヲシテ、强ヒテ其子女ヲ人民學校ニ送ラシメ、以テ子女ノ受教ノ權利ヲ保全スルコ、固ヨリ

當然ナリ、㊀○臣民悉皆就レ學ノ義務ヲ負フハ、悉皆護國ノ義務エールプリヒト（按）臣民タル者、國家危亂ノ時ニ方リテハ、必ス護國軍ニ入テ、國土ノ防護ニ從事スルノ義務ヲ云フ、護國軍ノ事ハ、卷之七第七款ニ詳ナリ、ヲ負フノ理、及ヒ悉皆公事自由ノ權（ホルクスフライハイト（按）公事ニ參預スルノ自由權、）（臣民此自由ヲ得ルヤ、其國既ニ全ク文明開化ナラサル可ラス、）ヲ有スルノ理ト、全ク相合ス、

㊀普魯士ノ國憲第二十一章ニ云、「父母及ヒ其代人ハ、其子女、或ハ托セラレタル孤子ヲシテ、必ス人民學校ノ規則ニ遵テ、教導ヲ受ケシメサル可ラス」ト、○北亞米利加ニ於テ始メテ强テ使レ就レ學ノ權ヲ緊要ナル者トナセリ、千尼底吉コンネクチックト（按）亞米利加合衆國ノ一部ナリ、）ニ於テ、一千六百五十年（慶安三年）ニ制定スル所ノ憲法ニ云、「父母タル者ハ、必ス其子女ヲ學校ニ送ラサル可ラサルノ義務アリ、而シテ父母若シ此義務ノ施行ヲ怠ルトキハ、則チ罰金ヲ命ス可シ、但シ父母猶悛メス此義務ヲ施行セサルトキハ、政府强ヒテ其子女ヲシテ、學ニ就カシムルノ權アリ」ト、但シ馬沙諸些メッセッチュセッツ（按）亦合衆國ノ一部）ニテハ、既ニ一千六百四十八年（慶安元年）ノ憲法ニ、强テ使レ就レ學ノ權ヲ裁定シタリ、○然ルニ英國ニ於テハ、此權利ヲ用ヰルコトナシ、且ツ佛國ニ於テモ、教部ミニステルギヅウ（一千七百八十七年ニ生ル、）ハ、國家ノ此權利ヲ握ルヲ以テ、不可ト爲セリ、○獨乙及ヒ瑞士ニ於テハ、必ス此權利ヲ用ヰ、蓋シ此兩國ニ於テ、教育ノ偏ク衆民ニ及フハ、國家殊ニ此權利ヲ握ルカ故ナリ、

近今人民學校ノ教育ニ於テ、生徒ニ學費ヲ償フヲ免ルスノ法ヲ立テタル國、儘之レアリト雖モ、此法決シテ緊要ト爲ス可ラス、加之、人民學校ノ爲メニ却テ害アリトス、凡ソ父母タル者其子女ノ爲メ

ニ學費ヲ償フハ、固ヨリ當然ノ理ナリ、但シ第二ニハ國家及ヒ邑モ亦、學費ヲ償フノ義務ヲ負ハサル可ラス、蓋シ天下幼童悉皆教育ヲ受クルハ、國家ノ爲メニ甚タ緊要ナルヲ以テ、國家及ヒ邑箕、公費ヲ以テ學校ヲ建テ、其需要ヲ給シ、幷ニ教師ニ與フル俸金ノ數分ヲ公金ヨリ出シ、以テ父母ノ費用ヲ減スルヲ要ス、○但シ父母ヲシテ其子女ノ爲メニ學費ヲ償ヘシムルトキハ、學校ノ爲メニ大利アリ、蓋シ此ノ如クナルトキハ、啻ニ當然ノ理ニ合スルノミナラス、猶且ツ父母タル者自ラ學校ノ隆盛ヲ欲スルニ至ルノ益アリ、何者、人多クハ、自己ノ金ヲ費サヽル事ニハ、心ヲ用ヰスト雖モ、自己ノ金ヲ費セル事ハ、厚ク心ヲ用ヰテ、其事ノ成全ヲ願フハ、人ノ常情ナレハナリ、○但シ父母若シ貧窮ニシテ、學費ヲ償フノ力アラサレハ、國家若クハ邑ニ於テ、之ヲ償ハサル可ラスト雖モ、其力アル父母ニモ、猶此義務ヲ免ルスカ如キハ、決シテ正理善道ニ合スト云フ可ラス、

私立ノ人民學校ト雖モ、國家必ス之ヲ庇護ス可シ、決シテ之ヲ障碍ス可ラス、何者、私立學校モ亦、國家ノ教育ヲ裨ケ、及ヒ其教育費用ヲ補フノ功アレハナリ、㊀但シ國家ハ必ス嚴ニ私立學校ノ情勢ヲ監視シ、此學校ノ會社ヲシテ、決シテ幼童ノ心志ヲ損敗セシメ、及ヒ公衆ノ妨害ヲ生セシム可ラス、而シテ此會社若シ是等ノ所行ニ由テ、國家ニ敵スルノ機現ハルレハ、國家ハ直ニ其利刃ヲ以テ、此ノ如キ暴惡ノ根株ヲ裁斷シ、以テ之ヲシテ増長スルヲ得サラシム可シ、○エースイテッ（按）加特力教ノ一會社、）ノ學校ハ、殊ニ此ノ如キ暴惡ヲ以テ、國家ニ敵スルノ禍心ヲ萌生スルコトアリ、是故ニ此學校會社、若シ故ラニ眞理ニ背キ、幼童ヲ勸誘シテ、暴惡ヲ謀ラント欲スルコトアラハ、決シテ之ヲ宥恕セサルヲ要ス、

㊀普魯士ノ國憲第二十三章ニ云、「教授ニ從事シ、及ヒ學校ヲ創立スルハ、各人ノ自由ニ任ス、但シ其人自己ニ行狀、及ヒ學術共、人ノ師表タルニ足ル可キ所以ヲ、預メ其關係ノ官司ニ證セサル可ラス」ト、

〔第五〕人民學校ノ下級ニ於テハ、未タ學問ノ自由ヲ與フ可ラス、凡ソ下級ニ於テ學習ス可キ事ハ、天

下萬民皆ノ知ラサル可ラサル要件ノミナリ、故ニ其敎師タル者、全權ヲ以テ敎授ス可シ、敢テ生徒ヲシテ其可否ヲ論セシム可ラス、加之、敎師ト雖モ、决シテ各自ノ見ヲ以テ敎授スルヲ許サス、必ス各敎師相共ニ國家ノ指令ニ從テ敎授スヘキヿ固ヨリ當然ナリ、○是故ニ下級ノ敎授ニ就テハ、必ス預定セル學規アリテ、必ス之ヲ遵守セサル可ラス、决シテ各敎師自ラ敎授ノ規則ヲ定ムルヲ許サス、凡ソ下級ニ於テハ、威權、定規、及ヒ先例等ヲ以テ、殊ニ專要ノ者トナス、

第十款　職業學校、(ベルーフス、シューレ、)工藝學校、(テクニセ、シューレ、)及ヒ學者學校、(ゲレールテ、シューレ、)

〔第一〕人民學校ハ天下ノ幼童ヲ、悉皆同一ニ敎育スルノ用ヲ爲スト雖モ、上等ノ教育ニ至リテハ、人人ノ職業ニ隨ヒ、及ヒ人々ノ智識開明ヲ要スル度ニ隨テ、其方法ヲ異ニス、是ヲ以テ某若干學校ハ、唯某若干職業ノ爲メニ設クルノミナリ、故ニ人々是等ノ學校ニ入ルト否ラサルトハ、决シテ就學義務ノ理ヲ以テ、推論ス可ラス、○國家ハ天下ノ幼童ヲ敎育シテ、眞誠ノ人トナラシメ、及ヒ眞誠ノ邦國人トナラシムルヿ、甚タ緊要ナルヲ以テ、之ヲシテ、強ヒテ人民學校ノ敎育ヲ受ケシムルノ權アリ、去レド各種ノ職業ニ至リテハ、多クハ學校ノ敎授ヲ要セス、唯父母親戚ノ敎育ニ任セテ可ナリ、唯官吏ヲ任用スルニ就キ、特別ノ職業ニ熟練スル者、若クハ特別ノ學識アル者ヲ撰ハサル可ラサル時ノ如キハ、國家必ス本人ニ命シテ、本人ノ嘗テ學校ニ於テ、其業其學ニ練達セシ確證ヲ取ルノ權アリ、故ニ本人若シ曾テ其業其學ヲ敎授スル所ノ公共學校(〔按〕公共ノ爲メニ開ケル學校ヲ云フ、)ニ於テ、敎育ヲ受ケシコトナケレハ、必ス之ヲ選任セサルコト、固ヨリ當然ナリ、其他縱令ヒ民人ノ私業ト雖モ、唯其業ニ練熟セシ者ノミニ、其施行ヲ許スヿ、公衆利益ノ爲メニ緊要ナレハ、國家ハ必ス本人ノ其業ニ練熟セル確證ヲ取ルノ權アリ、但シ是等ノ時ト雖モ、亦規律外ノ處置ヲ爲スヿ、全ク之レナキニハアラス、何者、人々其業ニ練熟スルハ、决シテ唯學校敎授ノ一方法ニ由ルニ止マラス、或ハ他ノ方法ニ由ルヿモ亦、之レアル者ニシテ、縱令ヒ其方法ハ如何ナルモ、唯其業ノ練熟ヲ求ムルヿ緊要ナレハナリ、

〔第二〕上等及ヒ中等ノ學校ハ、分テ三種トナス、

〔甲〕各殊ノ職業學校、(ベソンデレ、ベルーフス、シューレ、)即チ農人ノ敎育ヲ旨トスル所ノ農業學校、及ヒ工人ノ敎育ヲ旨トスル所ノ手工學校ノ如キ是レナリ、而メ是等ノ學校ハ、殊ニ第四等身分ノ徒、(ヒールテル、スタンド〔按〕殊ニ農民幷ニ工商ニ從事スル小民ヲ云フ、)ノ爲ニ設立スル所ナリ、故ニ其他ノ徒ハ、唯其學科ノ大旨ヲ講習スレハ、足レリトス、但シ縱令ヒ第四等身分ノ徒ト雖モ、多クハ此學校ニ入ルヲ要セス、唯人民學校ニ於テ、尋常一樣ノ教育ヲ受クレハ可ナリ、

〔乙〕高等工藝學校(ヘーヘレ、テクニシエ、シューレ、)即チ縱令ヒ眞誠ノ學者トナルヲ要セサルモ、猶高尚ナル工藝ノ學ニ練達セント欲スル徒ヲ、敎育スル所ノ學校ナリ、故ニ殊ニ第三等身分ノ徒、即チ大匠、建築大工、製造大工、及ヒ其他術藝者等ノ爲メニ設置スル所ナリ、

〔丙〕學者學校、(ゲレールテ、シューレ〔按〕又ギムナシウムト云フ、)此學校ハ或ハ大學校(ウニヘルシテート)ノ豫科學校トナリ、或ハ縱令ヒ學問ヲ以テ、職業ト爲ルヿヲ欲セサルモ、實ニ今日ノ表則タル古代正雅ノ學ニ通セント欲スル徒ヲ敎育スル者ナリ、

〔第三〕眞誠ノ職業學校ハ、高等工藝學校、及ヒ學者學校ト、大ニ相異ナル所アリ、何者職業學校ニ於テ、施ス所ノ敎育ノ如キハ、决シテ學問上、蘊奧ノ理ヲ研究スルヲ旨トセス、唯其大旨ヲ知ルヲ以テ足レリトナシ、而メ常ニ專ラ實業ヲ研究スルヲ旨ト爲セハナリ、○是故ニ職業學校ニ於テハ、人民學校ニ於ケルカ如ク、專ラ敎授ノ簡約ナルヲ貴フ、蓋シ職業學校ヲ以テ、或ハ唯人民學校ノ始メテ實際ニ涉レル者ト視做スヿアレハナリ、但シ此學校ハ、農業、或ハ手工等、專ラ一種ノ職業ヲ敎授スルヲ旨トスルカ故ニ、實ニ人民學校ノ上ニ位スル者ナリ、○此學校ヲ以テ、唯高等工藝學校ニ進入スルノ階梯トナセル生徒ニハ、外國語ヲ敎授スルヿ緊要ナリト雖モ、其他ノ生徒ニハ、唯本國語、數學及物體理學ヲ敎授スレハ乃チ足レリ、而シテ是等諸科ト雖モ、唯農業手工等ノ用ヲ辨スルニ足ルヘキ淺近平易ノ事ヲ以テスレハ可ナリ、且ツ諸生徒ヲ齊一ニ練熟セシメンカ爲メニ、必ス敎則ヲ嚴守シテ敎導スルヲ要ス、此學校ニ於テハ、必ス嚴則ナカル可ラス、故ニ學習ノ自由(レルンフライハイト〔按〕生徒ノ欲スル科ノ敎導ヲ受クルノ自由ヲ云フ、)ハ、唯罕レニ之ヲ許ス可シ、且ツ敎授ノ自由(レー

ルヿライハイト〔按〕教師自己ノ意見ヲ以テ教授スルノ自由ヲ云フ、〕モ亦、實ニ預定セル教授物件〔〔按〕書籍器械等ヲ云フ、〕及ビ教導ノ目的ニ由テ、限制セラル、〔〔按〕規則ヲ以テ、預メ教授ノ書籍器械等、幷ニ教授ノ目的ヲ一定スルカ故ニ、「教師トイヘﾄﾓ、全ク自己ノ意ヲ以テ、教授スル能ハサルナリ、〕〇蓋シ此學校ハ、二個ノ功益ヲ顯ス、即チ一ハ初歩農人ノ實驗ト〔及ビ徒弟ノ習練〔其師ノ工場ニ於テ〕ヲ補益シ、一ハ農人及ビ徒弟等ヲシテ〔學習ニ由テ、遂ニ自己ノ力ヲ以テ大ニ實業ニ長セシム、是故ニ國家此職業學校ヲ創立シテ、自由ニ入學ヲ許スﾄｷハ、許多下等人民ノ開明進歩ヲ補益スルヿ、實ニ少カラス、

〔第四〕工藝學校ト稱スル者ハ、殊ニ學實學校〔〔レアールギムナシウム〕〔按〕專ラ學問上ノ學習ヲ旨トセル學校ト、專ラ實驗上ノ學習ヲ旨トセル學校ヲ合併セル者ナリ、故ニ學實學校ト云フ、〕衆藝學校、〔ポリテクニシェーレ、〕及ビ術藝學校〔キュンストレルアカデミー、〕等ニシテ、更ニ高尚ノ學術ヲ教授スル所ナリ、

學實學校、及ビ衆藝學校ニ於テハ、「生徒ヲシテ、專ラ工作製造ノ實際ニ功益アル、學問ノ深理ヲ研究セシム、即チ數學、測量學、及ビ物體理學是レナリ、而シ是等ノ學科ヲ、器械學、及ビ化學ニ適用スルハ、即チ此學校學問上ノ學習ニ於テ、遂ニ達ス可キ目的ト爲ス可ク、又工藝沿革ノ歷史ヲ習讀スルハ、「實驗上學習ノ基本トナル可キ者ニシテ、圖畫ノ術ハ、即チ此學校ノ要科ナリ、加之、此學校ノ生徒ヲシテ、今時ノ語學ニ習熟セシム可シ、但シ古語學ニ習熟セシムルヲ要セス、〇此學校ノ教導ニ於テハ、實ニ實際ヲ以テ、目的トスルヿハ、忘ル可ラサルヿ固ヨリ論ナシ、去レﾄﾓ學問上ノ教導ハ、最モ緊要ナルヲ以テ〔此教導ニ施スニ就テ、決シテ遺漏ナカル可ク、〔且ツ此教導ヲ施スニハ、之ヲ直ニ實際ニ試驗スヘキ、方法ヲ以テス可ラス、實ニ學問上ノ方法ヲ以テ、生徒ヲシテ高等工藝學ヲ自在ニ活用スヘキ才識ヲ得セシムヘキノミ、故ニ其後ニ至リ、生徒各實際ニ從事スルニ及ヒテ、始メテ各其業ヲ異ニスルナリ、

此學校ノ上級ニ至リテハ〔殆ト大學ト相類似スル所アリ、既ニ成長セル生徒ハ〔自己ノ意見ニ從テ、學習セント欲スル志情盛ナルカ爲メニ、此生徒ニハ、下級ノ生徒ニ許サヽル自由權ヲ授與ス、但シ下級生徒ニ至リテハ、必ス其教師ヲシテ、嚴ニ之ヲ管制セシメ、妄ニ學習ノ自由權ヲ與ヘシム可ラス、且ツ縱令ヒ上級生徒ニ授與スヘキ自由權トイヘﾄﾓ、決シテ工藝學校當然ノ目的ヲ超ユルヲ許サス、殊ニ數學ノ教導ニ至リテハ〔嚴ニ其科目ノ順序ニ循ハシムルヿ、實ニ緊要ナリ、〇且ツ教師ノ生徒ヲ教導スルヤ、徒ニ講義ノミヲ用ヒ、絶エテ生徒ノ其事理ヲ了解セシヤ否ヲ試ミサルﾄｷハ、教導ノ爲ニ、甚タ不可ナルヲ以テ、教師ト生徒トノ間ハ、必ス親シク交ラシムルヲ善シトス、幷ニ教導ノ事、學問上ノ研究ニ屬スル愈々多ケレハ、教師ヲシテ、其意見ニ從テ〔自由ニ教導ヲ施サシムルヿ〔愈〻緊要ナリ、是故ニ上級ニ於テハ、下級ノ如ク命ヲ下シテ、教授物件ヲ限定シ、或ハ教則ヲ設立ス可ラス、

術藝學校〔キュンストレルアカデミー〔〔按〕彫像、圖畫等ヲ教授スル學校ヲ云フ〕〕ノ如キモ亦其地位、右ノ二學校ニ相同シ、但シ此學校ニ於テハ、先ツ實驗上ノ學習ヲ主トシテ〔學問上ノ學習ハ之ニ次シ者トス、〇或ハ此學校ヲ以テ、既ニ衆藝學校ノ業ヲ卒ヘシ年長生徒ノ〔更ニ練熟スヘキ學校ト爲スヿアリ、即チ巴里(パリス)ノエコール、デ、ボーザール〔〔按〕學校ノ名、即チ美術學校ノ義、〕ノ如キ是レナリ、

〔第五〕學者學校ハ、先ツ第一ニ拉丁語、次テ希臘(ギリシヤ)語、及ビ歷史等、凡ソ古代ノ學ヲ以テ、教育スルヲ基本ト爲ス、故ニ此學校ニ於テハ、高尚ナル學問ヲ以テ〔生徒ニ今時文明ノ因テ起レル根原ヲ知ラシメ、而シテ太古始メテ文化ヲ宣播セシ英雄豪傑ノ大志勇膽ニ倣ハント欲スル志ヲ振起セシムルヿ緊要ナリ、且ツ此學校ニ於テ、生徒ヲシテ往古以降數百千年ノ變遷沿革ニ通曉セシムルハ、徒ラニ生徒ノ知識ヲ導テ〔往古數百千年前ノ地位ニ止マラシメント欲スルニアラス、此變遷沿革ニ由テ「古今知識ノ開明ヲ悟ラシメ、而シテ不羈自由ノ眼力ヲ以テ、更ニ開明進歩ヲ營マシメント欲スルカ爲メナリ、〇凡ソ今時知識ノ大ニ開明進歩セシハ、其本源〔全ク希臘羅馬ニ出ルヿ明カニシテ、宛カモ神道教育ノ上進、全ク基督教ノ傳播ニ由レルカ如ク然リ、是故ニ今日ノ表則トナレル古代正

雅ノ學ヲ研究スルノ徒ハ、自ラ古今世道ノ變遷沿革ニ著眼シ、希臘羅馬ノ世ニ出テシ、英雄豪傑ノ大志ヲ繼テ、更ニ世道ノ開明進歩ヲ裨益セサル可ラス、但シ曾テ希臘羅馬ノ學ニ由ラス、全ク他ノ方法ニ由テ學習セル徒ト雖モ「或ハ其功益ヲ奏スル「ナキニシモアラスト雖モ「此ノ如キ徒ノ學識ハ決シテ完全ナル者ニアラス、故ニ眞誠ノ學識アル人ヨリ之ヲ視レハ、大ニ缺乏スル所アリ「○凡ソ希臘羅馬ノ學ノ如キハ、自ラ優美正大ナル所アル者ナレハ、知識ヲ開達セシムルニハ、實ニ缺ク可ラサル者ナリ「蓋シ此學ハ少年ノ精神ヲシテ、其年齒ニ隨テ發揚セシメ、其心志ヲ振起シテ、優美壯大ナラシメ、及ヒ其發揚力ヲ強大ニナサシムル者ナリ、

然ルニ曩昔ハ學者學校ニ於テ、唯古代正雅ノ語學ノミヲ專一トシテ、其他ノ學ニ心ヲ用ヰサルノ弊アリキ、則是レ生徒ニ古代ノ華麗ナル財寶ヲ與フヘキ學校ニ於テ、却テ之ヲ奪フ者ト云フ可シ、故ヲ以テ、或ハ古學ヲシテ、絶エテ今日開明進歩ノ用ヲ辨スニ足ラサル虚學トナラシムルニ至レリ、然ルニ近世ニ至リテハ、各國皆此種ノ學校ニ於テ、古代正雅ナル語學ノ外、猶各其國語ヲ精密ニ研究セシメ、及ヒ文學ヲモ共ニ學習セシムル「トナリ、加之、時アリテハ其他數學、物體理學ノ如キ、實物學、并太古、中古、及ヒ新世ノ歴史ヲモ共ニ教授スル「トナリキ、是故ニ今時ニ至リテハ、此種ノ學校ニ於テ、諸學科ヲ以テ、少年ノ知識ヲ育成スルヤ、備レリト云フ可シ、蓋シ今時ノ制度ノ大ニ昔日ニ優ル所以ナリ、且ツ學識ハ全ク整備スル「甚タ緊要ナルヲ以テ、此種ノ學校ニ於テ、基督神道ノ理ヲモ、兼テ亦研究セシメサル可ラス「○但シ近世ニ至リテハ、或ハ教授ノ學科頗ル剩多ニシテ、小年輩、遂ニ之ヲ學習スルニ堪ヘサルノ弊ヲ生シタリ、是レ眞ニ憂フヘシ、今時少年ノ軀體、動モスレハ軟弱トナリ、精神、動モスレハ疲勞放曠ニ至ルハ、蓋シ學習甚タ過度ナルニ由ルナリ「生徒ノ年齒、及ヒ其階級ニ應シテ、學習ノ規律ヲ規定シ、而シテ教師ヲシテ、常ニ其勤惰ヲ監督セシメ、敢テ此規律ニ背ク能ハサラシムルヲ要ス、決シテ自由ニ學習スルヲ許ス可ラス、必ス學校ノ嚴則ヲ設ケ、生徒ヲシテ、實ニ自重敢勉ノ心ヲ振起セシムルヲ要ス、決シテ放恣懶惰ナラシム可

ラス、○學科ハ必ス綿密ニ定立シ、而シテ殊ニ本科(殊ニ拉丁語學ノ研究、及ヒ歴史ノ學習ヲ主トス、但シ希臘語學ノ研究ハ或ハ輟ルヲ許ス「アリ、)ハ、必ス學習セサル可ラストシテ、決シテ生徒ノ自由ニ任スル「ナカル可シ、此學校ノ教師及ヒ生徒等、若シ大學校(ウニヘルシテート)ニ於テ、用ヰル學習ノ方法「及ヒ自由ヲ以テ「此學校ニ轉用セント欲スルカ如キハ、自己ノ爲メニ害アリ、蓋シ此學校ハ「素ト少年ノ氣力ヲ增大強盛ニナスヲ目的ト爲ス者ナルニ、若シ徒ニ大學校ノ學習方法、及ヒ自由ヲ用ヰルトキハ、決シテ此目的ニ達スル能ハサルハ必然ニシテ、加之、其學業未熟ナルカ爲メニ精神遂ニ不健ヲ生スルニ至ル、故ヲ以テ他日縱令ヒ大學ノ教育ヲ受クルモ、其學業決シテ眞ニ熟達スルヲ得サルヤ、必然ナリ「

第十一款　大學科(ウニヘルシテート)

〔第一〕大學校ハ其初メ唯以太利ニ於テ「僅ニ一二學科ノ爲メニ、創立セシ者ナリシカ、近今ニ至リテハ、諸學科ヲ以テ、人材ヲ教育スル所ノ盛大全備ノ學校トナレリ「而シテ獨乙國ニ於テハ、殊ニ然リトス、是故ニ其初メニ在リテハ「唯法ヲ結合セル學社タルニ過キサリシカ、近今ニ至リテハ、眞ニ學問研究ノ大學校トナレリ「

凡ソ學問ノ蘊奧ヲ能ク研究スルニ堪ユル者ハ、既ニ學者學校ノ業ヲ卒ヘテ、強壯ナル精神力ヲ得タル、弱年生徒ニ過キサルノミ、故ニ此生徒ノミ獨リ大學校ニ入リテ、大學生(スツデント)トナルヲ許ス可シ、是ヲ以テ大學校ニ於テハ、生徒始メテ入學セント欲スルニ當リ、必ス其業ヲ考試シテ其優劣ヲ判シ、而メ未タ大學生タルノ學力ヲ備ヘサル者ハ、必ス落第セシメ、入學ヲ許サヽル「甚タ緊要ニシテ、且ツ又大學校ノ品價ヲ全ウスルニ足ルト云フ可シ、○但シ弱年生徒若シ眞ノ大學生タルヲ願ハス、唯此學ニ於テ、一二ノ講義ヲ聽聞シ、而メ其渴望セル大學ノ菓實ヲ獲ン「ヲ請願スル「アラハ、其學力ノ優劣ヲ考試スルヲ要セス、之ヲ許スモ妨ケナシトス「去レモ此種ノ生徒ニハ、決シテ大學生ノ稱ヲ與フ可ラス、凡ソ大學生タル者ハ、徒ニ一二ノ講義ヲ聽クニ堪ユル學力アル

チ以テ足レリト爲ス可ラス、必ス大學諸生徒ノ列ニ加ハリテ實ニ大學ノ規則ヲ踏ミ、其業ニ從事スルノ學力アラスンハ不可ナリトス、〇巴里(パリス)ノコルレーヂ、デ、フランセート云ヘル自由高等學校(フライエ、ホーフシューレ)〔按〕尋常ノ學規ヲ用ヰサルカ故ニ自由學校ト云フナリ〕ノ如キハ元來弱年生徒學習ノ爲メニ設立セル諸科學校ニシテ、實ニ高等學校タルノ品質ヲ備ヘ、且ツ漸ク盛大ニ赴クノ勢アリ、去レトモ此學校ハ實ニ學問ニ由テ、職業ニ熟達セント欲スル徒ヲモ共ニ敎導スル所ノ大學校トハ全ク相異ナリ、

〔第二〕高等ノ學ヲ修ムルニ至テハ、精神ノ自由權ヲ、十分ニ備フルヿ、甚タ緊要ナルヲ以テ、大學校ニ於テハ、必ス學問上ノ獨立權ヲ與ヘサル可ラス、而メ學問上ノ獨立權ヲ與ヘンニハ、必ス先ツ學校ニ、學問會社タルノ獨立權ヲ與フルヲ要ス、然ルニ此事ニ就テハ、中古ト新世ト、其制度互ヒニ相異ナリ、蓋シ中古ノ如キハ學校ニ學問會社タル獨立權ヲ與フルヿ、甚タシキニ過キテ、學校ヲシテ遂ニ全ク不羈獨立ノ者トシ認メ、而メ之ヲ保護セリ、去レトモ此ノ如キ制度ハ、今世國家ノ理ニハ、全ク相反スル者ナリ、何者、今世國家ノ權ハ全ク合一ニシテ、諸公會社ヲ擧ケテ盡ク其部下トナスヿ緊要ナレハ、縱令ヒ高等ノ學校ト雖モ、國家嚴ニ之ヲ監督眷顧セサル可ラサレハナリ、英國ニテハ、中古以降近世ニ至ル迄、大學校ニ大ナル自由權ヲ與ヘタリシカ、此國ニ於テスラ、近今ニ及ヒテハ、國家自ラ學校ノ大權ヲ收メテ、專ラ之ヲ自己ノ掌中ニ握ルノ緊要ナルヲ知ルニ至レリ、但シ大地各國ニ於テハ、國家夙ニ學校ヲ全ク其部下トナスノ制度ヲ用ヰルヿトナレリ、〇中古ニ於テハ、敎會專ラ學校ヲ管制スルノ權ヲ握リシカトモ、近今ニ至リテハ、全ク此權ヲ國家ニ推讓セサル可ラサル勢トナレリ、但シ諸學科中、獨リ神學科ノ如キハ特ニ敎士ヲ敎育スルノ科ニシテ、專ラ敎會ニ關係アルカ故ニ、時アリテハ國家ノ權ヲ以テ、敎會ヲシテ此科ノ事ニ關シテ、共ニ監視ノ權ヲ握ラシメ、或ハ敎會ヨリ此等ノ事ヲ國家ニ請願スルヿアリトス、去レトモ中古ノ世ニ於テハ、敎會縱ニ學問ノ自由ヲ限制セシカ故ニ、方今ニ至リテハ、國家學問上ノ事ニ於テハ、甚タ敎會ノ議ヲ聽クヲ欲セサルニ至レリ、

大學校ノ實ニ學問會社タル獨立ノ權今仍存スル者、及ヒ日後モ宜シク保存スヘキ者ハ、左ノ數條ニ擧クルカ如シ、

〔甲〕大學校ハ、自ラ其私有物ヲ所持シ、及ヒ之ヲ掌理ス、但シ國家ニ於テ必ス之ヲ監督ス、凡ソ學校ハ斯(カク)自己ノ私有ヲ掌理スルノ權アルカ故ニ、時アリテ國家ノ財用窮乏スルコトアリトモ、是ニ由テ決シテ其災害ノ學校ニ及フヿナク、加之、决シテ國家ノ救助ヲ仰カスシテ、自由ニ存在スルヲ得ルナリ、

〔乙〕大學校ハ、自ラ司法ノ權ヲ握ル、但シ方今ノ世ハ中古ト異ニシテ、國家ノ權、盛大ナルヿヲ要スルカ故ニ、學校ノ司法權モ、亦必ス十分ニ國家ノ管內ニ屬シ、及ヒ其限制ヲ受ケサル可ラス、是故ニ此權モ唯形貌上ニ存シ、其實ハ懲戒ノ權タルニ過キサルノミ、

〔丙〕大學校ハ、國家ヨリ尊敬ヲ受クルヿヲ望ムノ權、(外部ニ權力ヲ施行スル能ハス、唯學問上ノ大權ヲ握ルカ故ニ、國家ヨリ尊敬ヲ受クルヲ得ルナリ)及ヒ自己ヨリ學士ニ榮譽ヲ與フルノ權アリ、而シテ此二事共ニ、必スシモ其當ヲ得ル能ハス、或ハ大ニ誤レルヿアリキ、既ニ大學校ニ於テ學者ノ諸品階ハ勿論大學士(ドクトール)ノ稱號スラ、猶之ヲ濫リニ學識陋劣ナル徒ニ授與セルヿ儘之レアリ、然ルニ國家ハ宜シク大學校ノ此ノ如キ濫賞ヲ、制止スヘキヿ當然ナルニ、敢テ亦之ヲ施爲セスシテ、却テ大學校ヨリ品階ヲ授與セシ學者ヲ卑ミ、尊敬ヲ致スヲ欲セサルニ至レリ、是ニ於テ義ト智トヲ貴ヒ、不義ト無智トヲ賤ムノ基本、遂ニ壞ルヽニ至レリ、〇各國ニ於テ大學校ノ位次ヲ定メ、其學士敎官ノ品階ヲ立ツル方法ノ如何ヲ察スルトキハ、其國ノ學問智識ヲ貴フノ道、實ニ當ヲ得ルヤ否ヲ窺フヲ得可シ、

〔丁〕大學校自ラ其代者ヲ國民會議ニ列セシメ、其學識ヲ以テ、世道開明ノ事ヲ論セシメ、及ヒ憲法ノ利害得失ヲ議セシム、

〔第三〕大學校ノ學科ヲ四大類ニ區分スルハ、卽チ當然ノ理勢ニ出ル者ナリ、〇智學科(ヒロソヒシユ、ハクルテート〔按〕卽チ四大類ノ第一科ナリ、)ハ、猶數小科ニ區分ス、卽チ第一小科ヲ心性理學(ピヒ

リヒー〔按〕茲ニ智學ト譯スル者、及ヒ心性理學ト稱スル者、共ニ原語ハ皆ヒロソヒート云フ、然レ𪜈其字義廣狹ノ差ヒアルヲ以テ、其義ニ由テ譯字ヲ異ニス、ト云フ、）而メ此學科ハ當テ學者學校ニ於テ教授スルヿナク、此大學校ニ於テ、始メテ教授スル者ニシテ、實ニ各種ノ大學科ニ入ルノ門戸ト云フヘキ者ナリ、又第二小科ハ博文學（ヒロヽギー〔按〕即チ第二小科ナリ、）ト稱スル者ニシテ、博ク文學ヲ研究スル所ノ學科ナリ、又第三ノ小科ハ、史學（ゲシヒテ、）ニシテ、博ク古今萬國ノ變遷沿革ヲ通論シ、及ヒ各國ノ興敗存亡ヲ詳論スル學ナリ、幷ニ第四小科ヲ數學、（マテマチック、）第五小科ヲ物體理學（ナツールサッセンシャフト）ト云フ、但シ大學生徒ノ中、多數ハ是等ノ學ヲ以テ、他ノ學科ニ入ルヘキ豫科トナシ、唯少數ノ生徒ノミ、此學ヲ以テ、實ニ其本科トシテ、專心ニ學習スルナリ、○智學ノ外、更ニ高尚ナル職業ノ爲メニスル學科尚三類アリ、（〔按〕前ノ智學ト相合シ四類トナルナリ、）而メ此三大學科ハ、智學ノ上ニ位スル者ナリ、即チ此三大學科ノ第一（〔按〕前ニ出セル智學ヨリ算スルトキハ、即チ第二科ナリ、）ハ神學科（テオロギシエ、ハクルテート、）ニシテ、教會ノ爲メニ設ク、而メ方今開明ノ世ニ在リテ、教士ノ爲メニ緊要ナル高等神學ヲ教授シ、以テ教士ヲシテ、能ク宣道教化ノ師タルニ堪フル學識ヲ得セシムル者ナリ、○第二（〔按〕即チ第三科ナリ、）ハ往昔ハ法學科（ユリスチシエ、ハクルテート）ト稱シケレ𪜈、近今ハ國家ノ事ニ關スル學問ノ範圍甚タ廣博トナリシ以來、時アリテ法學科ト、狹義ノ國家學科（スターツサッセンシャフトリヘ、ハクルテート、イム、エンゲルン、シン〔按〕博ク國家學ト云フトキハ、法學ヲモ共ニ含有ス、）トヲ分カチテ、二類トナセリ、何ト雖モ、茲ニハ、法學ヲ除クカ故ニ、狹義ノ國家學ト云フナリ、

者、法ノ學習ト政治（ポリツァイサルトシャフト）及ヒ經濟（スターツサルトシャフト、）ノ學習トヲ、區分スルヿトナリケレハナリ、蓋シ此區分ハ、實際上、司法ト政令トノ分畫アルニ由ル者ナレ𪜈、其方法全ク至當ヲ得ズシテ、或ハ所謂經濟學科ヲ、嚴ニ法學科ト離分シ、或ハ經濟學科ヲ眞ニ國家學中ノ一科タルニ足ラサル者トシテ、殆ト一技術ノ如ク視做スニ至レリ、是故ニ大學生ノ中、多數ハ法學科ニ從事シテ、經濟學科ヲ學習スル者ハ實ニ僅々少數ナルニ至レリ、○然ルニ法學ト國家學（〔按〕政治經濟ノ學ヲ云フ、）トハ、元來全ク合一ナルヘキ者ナリ、是故ニ先ツ此二科ノ全ク合一ナル

ヘキ所以ノ理ヲ知リテ、實ニ之ヲ合一ナル者トナシ、然後ニ元來法ト政ト、及ヒ司法ト政令ト相分カル、所以ノ理ニ基ツキ、始メテ其學習ノ方法ヲ立ルヲ緊要トナス、但シ昔時未タ此二科ヲ區分セサルトキニ於テハ、人々專ラ政學ヲ研究スルヲ務メ、法學ハ殆ト研究セサルノ弊害ナカリシニハアラサリキ、去レ𪜈素ト合一ナルヘキ法ト政ノ學科ヲ、故ラニ區分セサルモ、此弊害ヲ除去スルニ於テ、決シテ難カラサル可シ、○第三（〔按〕即チ第四科ナリ、）ヲ醫學科（メヂチニシエ、ハクルテート）ト云フ、即チ疾病ノ理ヲ究メ、及ヒ其醫療ノ術ヲ求ムル學科ナリ、○大學校ニ於テハ、此四大學ヲ教授スルカ故ニ、其教授ヲ受ケテ、有用ノ人トナル者ハ、即チ神學士、法士、有司、醫士、及ヒ教師（〔按〕智學科ヲ研究セシ者殊ニ教師トナルナリ、）ナリ、

〔第四〕國家自ラ學問ニ關係スルノ事務ハ、博士（プロヘッソル〔按〕大學校ノ教師ナリ、）ヲ遷任スルヲ以テ、最先トス、而シテ國家ハ實ニ博士タルニ堪フヘキ人物ヲ舉ケテ、之ニ眞誠ノ學習ヲ誘導スヘキ大任ヲ委托スルヲ要ス、○新ニ一名ノ博士ヲ舉ケント欲スルニ方リテハ、必ス在任ノ博士等ニ、其人ヲ選擇スルノ權利、及ヒ政府ノ選舉セント欲スル人物ノ可否スルノ權利ヲ與フ可シ、何者、現今學問ノ景況、及ヒ其要務ヲ詳悉シテ、此景況ト要務トニ適應セル人物ヲ求ムルハ、此博士等ノ最モ長スル所ナレハナリ、○去レ𪜈政府必ス此博士等ノ選フ所ニ從ハサル可ラスト云フノ制度ヲ立ツルハ、甚タ不可ナリ、何者、此博士等、或ハ粗漏輕卒ニ撰擇シ、或ハ親疎愛憎等ノ私情ニ掩ハレテ、遂ニ撰擇ヲ誤ルノ恐レアレハナリ、是故ニ政府ハ必ス博士等ノ撰擇ヲ自由ニ考試シテ、取捨スルヲ要ス、蓋シ學校ノ盛衰ハ、到底教導ヲ掌ル人物ノ善惡當否ニ由ル者ニシテ、其選舉若シ誤ルトキハ、學校ノ大害之レヨリ生シテ、遂ニ除去ス可ラサルニ至ル必然ナレハナリ、

然ルニ大學非職教師（プリハートドツェント、）ノ如キハ、教導ノ官吏タルニアラス、唯教導ニ從事スルノ許可ヲ受ケシ者ナルカ故ニ、其地位官吏タル博士トハ全ク相異ナリ、是故ニ非職教師タル者、總テ緊要ナル學科ノ教導ヲ掌ルニ就テハ、博士常ニ之ヲ眷顧シ、及ヒ四大科ノ教導ヲ掌ルニ就テハ、本任博士、オルデントリヘル、プロヘッソル〔按〕四大科ノ如キハ、本任博士ヲ置クト雖モ、他ノ緊要ナル學科ニハ、假任博士ヲ置ク、例ヘハ、歐洲各國ニテ日本語支那語等ヲ教授

スル教師ハ、皆本任教師ニアラス、唯假任教師ナリ、常ニ之ヲ眷顧スルヲ要ス、○博士弱年ナル學者ノ學力ヲ考試シテ、實ニ大學校ノ教師タルニ堪フル者ト認許スル時ハ、之ニ大學校ノ教導ニ從事スルヿヲ許可スルモ、決シテ害アラストス、是故ニ非職教師ノ教導ニ從事スルヲ許可スルハ、總テ博士等カ任スル所ナリ、「凡ッ獨乙ニテハ選擧ヲ受ケテ、博士トナルヘキ人材陸續羅出シテ、絶ユルヿナシ、蓋シ獨乙大學校ノ頗ル他國ニ優リテ、大ニ人材ノ教育ニ利アル所以ナリ」○但非職教師ヲシテ、大學校ノ事ニ係レル會議ニ加ハリテ博士ト共ニ商議セシムルハ、甚タ不可ナル制度ト云フ可シ、必ス博士ヲシテ非職教師ヲ管督セシムルヲ善シトス、若シ此制度アラサル時ハ、大ニ害アリ、

〔第五〕教師（按）博士及ヒ非職博士ヲ云フ、）教導ヲ施スニ、如何ナル方法ヲ以テ講義スルモ、必ス本人ノ意ニ任スヘキヿ當然ナリ、若シ國家ノ權ヲ以テ、其方法ノ規矩ヲ設立スルハ、甚タ不可ナリ、故ニ大學校ニ於テハ、必ス教導自由ノ制ナカル可ラス、○サヰニー（獨乙人、一千七百七十九年ニ生レ、八百六十一年ニ死ス、）カ「凡ッ現今開明セル學問ヲ、書籍上ニ托セス、實ニ之ヲ教師ノ精神トナシテ、生徒ヲ誘導シ、而メ生徒ノ精神亦自テ其誘導ニ感應スルヲ視テ、之ヲシテ愈其力ヲ振興セシメ、以テ遂ニ自ラ奮發セシムルヿ、甚タ緊要タリ」ト云ヒシハ、實ニ確切ナル論ニシテ、是等ノ事ハ、徒ニ書籍ニ依頼セル教導ニテハ、決シテ爲シ得ヘキヿニアラス、是故ニ大學校ノ教導ニ於テハ、必ス教師ヲシテ、自己ノ意見ヲ以テ、生徒ニ學問ノ蘊奥ヲ示シテ、之ヲ誘導セシムルヿ、甚タ緊要ナリ、若シ國家ノ權ヲ以テ、教導ノ嚴規ヲ設ケ、教師ヲシテ自ラ信セサル方法ヲ以テ、教導ヲ掌ラシメントスレハ、甚タ理ニ戻リテ、其功益ナキヤ必然ナリ、○蓋シ大學校ニ於テ、學問習得ノヿ、及ヒ教導ノヿハ、總テ人々精神ノ自由ニヨリテ成ルヲ得ヘキノミ、是故ニ或ハ大學教授ノ書籍ヲ定メ、或ハ其方法ヲ立ルカ如キハ、決シテ許ス可ラサルヿナリ、去レハ教導ノ自由權モ、亦他ノ自由權ノ如ク、必ス限制スル所ナカル可ラス、是故ニ學校ノ目的ニ從ヒ、其自由ノ規律ヲ立テ、及ヒ之ヲ限制スルヲ要ス、〔甲〕大學校ニ於テ、當然設立遵守スヘキ教導制規ト云フハ、殊ニ教師自由ニ口授ヲ以テ講義スル

ノ制ナリ、然ルニ若シ師弟ノ間、尋常一樣ノ講讀筆記ヲ以テ、教授學習スル時ハ、之ニ由リテ、大學校ノ大學校タル所以ハ、全ク泯滅シ、唯精神ナキ機械上ノ學習ニ陷リ、遂ニ生徒ヲシテ奮發勉力スルヿ能ハサラシムルニ至ル、殊ニ近今出版ノ術開クシヨリ、機械上ノ學習更ニ盛ナルニ至レリ、○是故ニ毎事教師ノ自由權ヲ妨害スルヿノ不可ナルハ、固ヨリ、論ヲ俟タスト雖モ、教導ノ方法ハ、自由ナル口授法ヲ用ヰ、決シテ尋常ノ講讀筆記法ヲ用ヰサルヲ常規ト爲シ定ムルヲ要ス、是故ニ非職教師、若シ肯テ自由ナル口授法ヲ信用セサレハ、決シテ自ラ博士ニ選任セラルヽノ望ヲ與ス可ラス、

是故ニ自由ニ口授スルノ法ハ、實ニ大學校教導ノ本則ナリト雖モ、此法モ亦未タ完全ノ者トスルニ足ラサル所アリ、何者、縦令ヒ此法ヲ用ヰサルト雖モ師弟ノ間、意ノ如ク言語ヲ接スルヿナキカ故ニ、師弟共ニ全ク其意ヲ盡ス能ハス、教師ハ唯聽講者（按）即チ生徒ヲ云フ、）ノ眼色及ヒ面貌等ニ由テ、他實ニ吾カ講義ヲ了解セルヤ否ヲ測リ知ルノミニシテ、絶エテ聽講者ノ疑問ヲ聽カサルヲ以テ、教授學習ノ事、常ニ隔靴ノ憾ヲ免ル、ヿ能ハサレハナリ、○是故ニ若シ教師自ラ生徒ヲ補助シテ、教授セシ事ヲ丁寧ニ復習セシメ、以テ誤解スルヿナカラシムルノ制アレハ甚タ、可ナリ、然ルニ獨乙ノ大學校ニハ、此ノ如キ制アラサルヲ以テ、前條ノ如キ弊害最モ著明ナリ、故ヲ以テ教師動モスレハ、自己ノ教授スル處、實ニ許多生徒ノ力ニ應セサル高尚ノ事ナリヤ、將タ許多生徒ノ既ニ熟知セル淺近ノ事ナルヤヲ、曉得セサルニ至リ、且ッ許多生徒モ亦徒ニ講義ヲ聽クヲ以テ足レリトシテ、敢テ復習研究セント欲スルニ至ラス、○此弊ヲ矯メント欲セハ、講義席ノ外ニ、猶又復習席ヲ設ケ、而メ此席ニ於テ生徒ヲシテ教師ノ補助ヲ受ケテ、復習セシメ、而メ師弟ヲシテ親シク言語ヲ以テ、問答應對セシムルヲ良好トス、獨乙ノ大學校ニ於テハ、此ノ如キ復習席ヲ設ケ、此ノ如キ學習ノ方法ヲ設クルヿ實ニ至要ト云フ可シ、而メ國家亦是等ノ事ニ心ヲ用ヒ力ヲ盡スヲ要ス、但シ景況ニ隨テ、其施行ノ方法ヲ異ニスルハ、決シテ難カラス、

〔乙〕教導スヘキ事理モ亦、決シテ國家ノ指揮スヘキヿニアラス、國家ハ唯常ニ教導ニ注意シテ、決シテ緊要ナル學科ノ教導ヲ怠ラリラシムルノ權アリ、且ツ教師ニ教導ノ自由權アリト雖モ、之ヲ以テ決シテ教導セサルノ自由ト爲ス可ラス、○但シ各科ノ博士ハ、自ラ欲スル所ノ事ヲ講義スルノ權アリ、而シテ縱令ヒ殆ト他科ニ屬スヘキ事ヲ教授スルヿアリトモ、之ヲ禁止セサルヲ以テ通則トナス、獨乙ノ大學校ニ於テハ、非職教師モ亦、通常此ノ如キ自由權ヲ受ク、去レトモ非職教師若シ一種ノ事(按)一科中ノ一種ノ事ナリ)ノミニ熟達セシヿ明瞭ナル時ニ方リテハ、本科博士ノ權ヲ以テ、非職教師ノ教權ヲ限制シテ、唯其一種ノ事ノ教授ノミニ從事セシムルヿ當然ナリ、

〔丙〕教師若シ教導自由ノ權ヲ恣行シテ、大ニ學問ノ妨害ヲ生スルニ方リ、大學校ノ創立者、及ヒ其掌務者ナル國家、之ニ容喙シテ、其恣行ヲ防制センニハ、如何ナル時機ニ於テシ、及ヒ如何ナル方法ヲ以テスルヲ、當然ト爲スヤト云ヘル疑問起ルヿアリ、而シテ論理上ニ於テ之ニ答フルハ、甚タ難カラスト雖モ、實際上ニ於テ、此ノ如キ時機、及ヒ此ノ如キ方法ヲ定決セント欲セハ、必ス先ツ綿密ニ其事情ヲ考思シ、及ヒ能ク自由ノ道理ニ着眼セサル可ラサルカ故ニ、頗ル難事ト云フ可シ、○教師專ラ眞理ヲ究メテ、教育ヲ施スト云フモ、其中或ハ眞理ニ背ケル謬見ナキ能ハス、然ルニ謬見アルニ方リ、國家直ニ其說ニ容喙シテ之ヲ禁止セント欲スルカ如キハ、最モ正理ニ反ストス、蓋シ謬見ハ、學問研究ノ嚮導トナル者ニシテ、必ス學習ノ事ト相離レ難キ者ナリ、凡ソ教師若シ謬誤ヲ吐露スルニ方リテ、決シテ學問上ノ大權ヲ握ル能ハサル國家、其不可ヲ督シテ、之ヲ禁止セント欲スルモ、豈之ヲ正理ニ合フト爲ス可ケンヤ、但シ若シ教師ノ學識甚タ淺陋ナル可ク見ユルトキニ於テハ、國家別ニ眞正ノ學識アル教師ヲ選任シテ、教授ヲ掌ラシメ、以テ眞僞ノ二教師ヲシテ、自由ニ相競ハシムル可シ、○心性理學ニ於テ、諸派教師ノ議論全ク相別ルヽヿ多シ、但シ國家ノ權トイヘトモ、人ノ謬見ヲ禁止スルヿハ、決シテ能ハサル所ナリ、

然レトモ大學校ノ教導若シ公然ト、國家法制ノ基本ニ妨害アルトキ(例ヘハ教師其教導ニ於テ、顚覆(レホルチオン)ヲ謀ルヲ以テ國家治安ノ眞正ナル原則ナリトシテ論說シ、或ハコムムニスムス(按)

私有財產等ヲ始メ、人世萬緖ノ事ヲ、務メテ均一ニナスノ制度、)ヲ以テ、眞正ノ私法トシテ講論スルカ如シ)或ハ其教導全ク學校ノ要旨ト相反スルトキ、(例ヘハ神學ノ教導ニ於テ(基督教ヲ毀壞スル論ヲ發スルカ如シ)又ハ教師ノ講義不正ニシテ、遂ニ世間ノ風俗ニ傷害アルトキ等ニ於テハ、國家ハ啻ニ正論ヲ以テ、此暴惡論ヲ制壓スルノミナラス、必ス又權力ヲ以テ之ヲ禁止スルノ權利ヲ施行スヘキヿ、固ヨリ當然ナリ、是故ニ教導ノ方法、若シ國家及ヒ學校ノ妨害トナルトキニ於テハ、教導自由ノ權利モ全ク其用ヲ爲サヽルニ至ルナリ、○凡ソ博士ノ教導ヲ掌ルヤ實ニ公衆ノ爲メニスル所ナレハ、公衆ノ秩序、及 安寧ヲ保全センカ爲メニ、此自由權ヲ限制スルハ、固ヨリ、已ムヲ得サルノ理ト云フ可シ、蓋シ國家他日ノ盛衰存亡ハ、實ニ今日少年輩ノ知識開明如何ニ由ル者ナレハ、國家ハ必ス良教師ヲ選用スルヿニ、最モ意ヲ用ヰサル可ラス、然ルニ此用意或ハ粗漏ニシテ、不良ノ教師ニ教導ヲ委ヌルトキハ、其教導遂ニ不正ニ流レテ、却テ少年輩ノ才德ヲ毀損スルニ至ルハ必然ナリ、而シテ此事決シテ少年ノ罪ニアラス、實ニ國家自ラ犯ス所ノ罪ナリ、豈敬マサル可ケンヤ、○但シ縱令ヒ實ニ已ムヲ得サルヿアリテ、教導自由ノ權ヲ限制スルトモ、眞正ニシテ且緊要ナル教導自由ハ、必ス意ヲ用ヰテ限制セサルヲ要ス、蓋シ此自由權ヲ限制スル害タルヤ、教師自ラ教導自由ノ權ヲ恣行スルノ害ヨリモ、更ニ甚シキニ至ル可シ、其他國家ハ決シテ瑣小ノ事故ヲ以テ、其自由權ヲ限制ス可ラス、唯此自由權ノ弊害、實ニ巨大トナリテ、容易ニ除去ス可ラサルトキニ於テノミ、已ムヲ得ス限制ヲ用ヰ可シ、但シ著述者ノ自由權ハ、決シテ教導自由ノ權ト同シク限制ス可ラス、著述者ニハ必ス更ニ大イナル自由權ヲ與フルヲ要ス、○但シ教導ノ自由權ヲ限制ス可キト否トヲ決スルハ、條理上ニ於テハ、甚タ難カラスト雖モ、實際ニ涉リ、其是非ヲ審判スルニ至リテハ、大ニ難事ナキ能ハス、蓋シ此自由權ニ就テ、若シ爭論起ルヿアルニ方リテハ、不羈ニシテ、且ツ學識アル鑑士(ケシュヲルテ、)ノ判定ニ任スルヲ好シトス、然ルトキハ決シテ政府ニ向テ、當理ノ不平ヲ唱ル者アルヿナシ、

〔第六〕生徒受教ノ自由ハ、其理宛カモ教師教導ノ自由ト相同シ、是故ニ受教ノ自由モ亦宜シク學

校ノ目的ニ從テ限制ッ可ク、且ッ此自由ヲ以テ決シテ教授ヲ受ケサルヿノ自由ト視做ス可ラス、○凡ソ弱年ニシテ、學問ノ蘊奥ヲ究メント欲スル大學生ハ、必ス自由權ヲ保有セサル可ラス、蓋シ此自由權ハ、學事勉勵ノ爲メニ、勇氣ト歡樂ヲ増益シ、及ヒ淺學ノ徒ヲシテ未タ曾テ窺ハシメサル、寶庫ヲ開クノ爲メノ管鑰ヲ與フル者ナリ、是故ニ生徒如何ナル教師ノ教授ヲ受クヘキヤ、或ハ如何ナル學科ヲ研究スヘキヤ等ノヿヲ撰定スルハ、全ク自己ノ所見ニ隨テ可ナリ、且ッ大學校ニ於テハ、決シテ聽講ノ規則ヲ立ッ可ラス、下等學校ノ如キハ、此規則アルヿ、學習ノ爲メニ大益アリト雖ドモ、大學校ニ於テハ却テ害アリ、○但シ教師等自己ノ意見ヲ以テ、生徒ノ學習ス可キ事ノ前後緩急等ヲ示教スルハ當然ノヿト云フ可ク、加之實ニ未タ事ニ慣レサル生徒ヲ補助シテ、之ヲシテ學習ノ事ニ就テ、其弊害ヲ免レシメント欲スレハ、此事誠ニ緊要ナリ、蓋シ榮譽ト自由トハ、大ニ學習練磨ノ事ヲ奬勵スルノ具ナリ、故ニ此二者ハ、固ヨリ放縱ナラシム可ラスト雖モ、又妄ニ之ヲ輕視シ、或ハ之ヲ認許セサルカ如キハ、大ニ不可ナリ、

第十二款、集賢館（アカデミー、）

（第一）國家、人材教育ノ爲ニ設置スル所ノ最上等ノ學校ハ、即チ大學校（ウニヘルシテート、）ニシテ、又學事ノ爲メニ設クル最上等ノ處ハ、即チ集賢館ナリ、但シ其實ニ至リテハ、或ハ茲ニ説クカ如クナラサレモ、素ト此二個ノ學院ヲ建ツルノ旨意ハ、當ニ此ノ如クナル可シ、佛國ニ於テハ、リシェリウ（一千五百八十五年ニ生レ、六百四十六年ニ死ス、）及ヒ路易第十四（ルドヰグ）（千六百三十八年ニ生レ、四十三年ニ即位シ、七百十五年ニ殂ス、）夙ニ力ヲ斯ニ盡シテ、盛大高尚ナル集賢館ヲ設ケシカモ、他各國ノ集賢館ハ、未タ曾テ佛國ノ如ク盛大ナルニハ至ラサリキ、獨リ獨乙ニテハ、ライブニッツ（一千六百四十六年ニ生レ、七百十六年ニ死ス、）專ラ辛苦艱難ヲ侵シテ、新ニ集賢館ノ創立ヲ企テシカモ、能ク其志ヲ繼テ、之ヲ全ウスル者アラサリキ、佛國ノ集賢館スラ猶且ッ其事業創立ノ時ニ方リテ、考定セシ旨意ニハ、遠ク及ハサリキ、

況ンヤ、獨乙、英國、以太利、峨羅斯等ニ於テハ、其遠ク之ニ及ハサルハ固ヨリナリ、○集賢館ノ始メテ起リタル、猶斯ノ如ク遲ウシテ、實ニ今日ノ勢漸ク之ヲ盛大ニナスヘキノ時ナリ、故ニ此志ヲ遂セント欲セハ、全ク改革ヲ施スヿ恐ラクハ緊要ナラン、今日若シ力ヲ盡メ大改革ヲ謀ルトキハ、蓋シ大功ヲ奏スルヿ、至難ト云フ可ラス、但シ今日ヨリ其奏功ノ景況ヲ測定セント欲スルハ、決シテ能ハサル所ナリ、世人或ハ集賢館從來ノ事業ヲ論シテ、絶エテ觀ルニ足ル者アラスト云フト雖モ、是レ甚タ失當ノ論ト云フ可シ、但シ學者ノ各個ニ爲セル事業、及ヒ學者數名相結ヘル義會ニテ施セル事業ノ如キハ、或ハ大ニ功益ヲ興スヿアリト雖モ、此學者輩侶ニ集賢館ノ事業ヲ施スニ至リテハ、其功益觀ルニ足ル者多カラスシテ、却テ私ニ施セル事業ノ功益ニ及ハサルノ弊アルヲ免レス、國家ハ特ニ集賢館ヲ以テ、諸學院ノ最上等ト爲スト雖モ、其奏功ニ至ッテハ、決シテ其地位ニ適セサルノ弊實ニ之レアリ、○斯（カク）高尚ノ地位ヲ占メ、榮譽ヲ帶ヒタル集賢館ニシテ、其事業ノ功益獨リ甚タ大ナラサルハ何ソヤ、蓋シ集賢館ハ、實ニ何物タルヤノ理、未タ明カナラサルカ爲メ歟、抑モ未タ實ニ集賢館ノ趣旨ニ適スヘキ制度アラサルカ爲メ歟、

人多クハ集賢館ヲ以テ、唯賢儒碩學ノ輩、自ラ好テ會社ヲ結ヒ、而シテ互ニ學事ヲ討論琢磨シ、及ヒ世人ノ儀表トナリテ、世ノ開明ヲ勸誘スル者トナシ、而シテ其事業タルヤ、學校ニ於テ、專ラ生徒ノ教導ヲ掌ル者トハ全ク相異ニシテ、唯名儒碩學輩、自己ノ意ニ從テ、互ヒニ其發揮スル所ヲ受授シ、學業ヲ奬勵シ、及ヒ裨益シ、以テ學問ノ區域ヲ増大スルヲ旨トスヘキ者ト爲セリ、

去レモ此ノ如キ所見ハ未タ其眞理ヲ盡セリトナス可ラス、凡ッ學問ニ係レルヿハ實ニ一個人ノ精神ニ屬スル者ニシテ、獨リ一個人ノ精神、能ク之ヲシテ發生セシメ、及ヒ能ク之ヲシテ進歩セシムルノミ、未タ曾テ會社ノ合力、能ク學問上ニ新發明ヲ爲セシヿアルヲ聞カス、唯一個人其私業ノ勉勵ニ由テノミ、能ク學問ノ寶貨ヲ増殖シ、且ッ能ク學問ノ開明ヲ裨益シタルノミ、○是故ニ集賢館ニ於テ、賢儒碩學ノ會同ニ由テ、新發明ヲ爲シ、及ヒ學問ノ寶貨ヲ増殖セシヿハ、未タ曾テ之レアラス、唯集賢館學士ハ、或ハ草莽學者ヲ裨助シ、博集院（抜）學術ニ要スル書籍器械、及ヒ物品等ヲ集貯

スル處ヲ云フ、）ヲ建立セシメ、或ハ草莽學士ヲ集賢館建ツル所ノ國集院ニ就テ、學術ノ研究ヲ爲スヲ許シ、或ハ公費ヲ以テ、草莽學者ノ學業上ニ要スル費用ヲ補償シ、或ハ公費ヲ以テ、私人著述スル所ノ書ヲ出版スル等、以上總テ大ニ草莽學者ノ學業ヲ稗益スルノ功アリ、去レ𪜈之ヲ要スルニ、是等ノヿハ、皆以テ集賢館ノ本務ト云フニ足ラスシテ、或ハ私人ノ力ト雖モ、亦能ク之ヲ辨スヘキノミ、是故ニ集賢館、縱令ヒ僅ニ是等ノヿニ力ヲ盡スモ、未タ曾テ直ニ學問ノ進步ニ力ヲ盡セリト云フニ足ラス、實ニ直ニ學問ノ進步ニ力ヲ盡スヿハ、全ク一個人ニ任スルヲ要ス、決シテ集賢館ノ主掌ト爲ス可ラス、○是故ニ若シ學問ノ區域ヲ增大スルヿヲ以テ、眞ニ集賢館ノ主掌ト認定スル𬼀ハ、其事業ノ功益、實ニ觀ルニ足ルヘキ者ナク、決シテ一個人ノ私業ニ優ル所アラサルヲ以テ、恐ラクハ集賢館ノ聲價ヲ以テ、殆ト賤小卑低ナル者ト爲スニ至ル可シ、

是故ニ吾輩ハ、必ス他ノ事業ヲ以テ、集賢館頑學會社ノ聲價ニ適セル職掌ト爲サント欲ス、凡ソ學問ノ事、輓近始メテ教會ノ看護ヲ脫セシ以來、未タ能ク學林ノ中央ニ位シテ、學問ヲ統括スル者アルヲ見ス、若シ學林ノ中央ニ位シテ、學問ヲ統括スル者アリテ、且ツ其制、實ニ貞正ヲ得レハ、絕エテ學問ノ自由ヲ妨害セスシテ、却テ天下學事互相ノ連絡ヲ通察シ、且ツ學事ト公私諸事トノ關涉ヲ詳密ニ探索シ、及ヒ之ヲ尊重スルヲ得可ク、並ニ國家ノ權域ニ屬スヘキ學事監督、及ヒ其眷顧ヲ補助シ、此般ノ事ヲシテ、正理ニ合スルコトヲ得セシムルハ、甚タ難キヿアラサルナリ、○右論スル所ノ諸件ノ如キハ、實ニ今日ニ在テ、國家人民ノ文化開明ヲ增益スルカ爲メニ、頗ル緊要ナルヿト云ツ可シ、然ルニ今時ノ如キハ、上件ノ諸事ヲ掌ルヘキ者、未タ嘗アラサルカ故ニ、諸學事互相ノ連絡、及ヒ學事ト公私諸事トノ關涉等全ク消滅シテ、互ヒニ隔絕シ、互ニ分離スルニ至レリ、蓋シ精神靈魂ハ、人每ニ自ラ相異ナル所少カラスト雖モ、必ス又互ニ一致合同スル所アル者ナリ、然ルニ斯諸學事ノ連絡、及ヒ學事ト公私諸事トノ關涉消滅シテ、互ニ隔絕分離スルカ如キハ、實ニ人性ニ戾リ、且國家ノ要務ニモ、相反スル者ト云フ可シ、

凡ソ學問ノ開明進步ヲ促シ、及國家人民ノ公益共利ヲ增サント欲セハ、必ス右論スルカ如ク、天下學林ノ中央ニ位シテ、學問ヲ統括スル者アラサル可ラス、而シテ此統括者ハ、敢テ各個學士ノ事業ヲ補足贊成スルヲ以テ、其務メト爲スヲ要セス、必ス國家ト學問トノ關係ヲ省察管理シ、而シテ偶マ諸學事ノ連絡、及ヒ學事ト公私諸事トノ關涉消滅シテ、互ニ隔絕解離スルニ至ルヲ調護シテ、能ク此連絡關涉ヲ保全スルヲ以テ、其務メトナスヲ要ス、○且ツ此統括者ハ、必ス其中央ノ山處ニ位シテ、常ニ左ノ數件ヲ掌理スルヲ緊要ト爲ス、即チ天下學事ノ景狀ヲ洞視監察シ、學問ノ盛衰隆替ヲ起ス所ノ原因如何ヲ探索シ、學問上ニ功勞アル者ヲ尊重シ、學問ノ上進ヲ稗補スルニ、國家ノ補助ヲ要スルヿアレハ、之ヲ助補シ、實ニ學問ノ妨害トナルヘキ者ヲ蠲除シ、學事ノ私會社、或ハ碩學鴻儒等ト相接シ、及ヒ學問ノ爲メニ博集院ヲ設ケ、更ニ之ヲ盛大ニナス諸件ヲ云フナリ、○蓋シ若シ右等ノ事ヲ以テ、集賢館學士ノ職掌トナスノ制度ヲ立ル𬼀ハ、集賢館學士ハ、即チ教部省（クルツースミニステリウム（按）神道及ヒ諸學術ノ事務ヲ掌ル者ヲ云フ、）ノ參議官ノ如キ者ニシテ、例ヘハ議政官（スターツラート（按）卷之七第六款ニ詳ナリ）タル者、君主ノ參議官トナリテ、立法施政ノ商議ニ加ハルカ如シ、是故ニ若シ此意ヲ以テ集賢館ノ學士ヲ選任シ、以テ其職務ニ從事セシムルニ至ラハ、此學士等ハ、啻ニ天下學林ノ上位ヲ占ムルノ名アルノミナラス、其實モ亦眞ニ此名ニ適合スト云フ可シ、

從來存スル所ノ集賢館ニハ、某二三ノ學科ヲ缺キ、唯專ラ數學及ヒ物體理學ト、史學及ヒ心性理學トヲ主的ト爲ス、去レ𪜈此制度ハ甚タ可ナラス、余カ見ヲ以テスレハ、集賢館實ニ天下學林ノ中央ニ凸處ヲ占メテ、常ニ天下ノ學事ヲ洞視監察セント欲スル𬼀ハ、其館ノ制ヲ設定スル、必ス學問ノ大要種類ト、及ヒ其制度トニ從ハサル可ラス、然ルニ從來集賢館ニ於テ、學問研究ノヿヲ旨ト爲スカ故ニ此館ノ實際ニ功益ヲ爲スヿ甚タ僅々ナルノ大弊ヲ生シタリ、但シ此館ヲ設置スルノ本意タルヤ、決シテ其學士ヲシテ、直ニ學問ノ開明ニ從事セシムルカ爲メニアラスシテ、總テ世道ノ上達ヲ省察セシムルカ爲メナリト云フノ理明瞭トナレハ、從來ノ制度ハ、決シテ此本意ヲ達スルニ足ラサリシ者ナルヿ、亦自ラ明瞭ナル可シ、

是故ニ專ラ國家ノ治體ニ著眼シテ、集賢館ヲ設置スル𬼀ハ、佛國ノ集賢館ハ、稍ヽ此目的ヲ以テ設

スル處ヲ云フ。）ヲ建立セシメ、或ハ草莽學士ノ集賢館建ツル所ノ博集院ニ就テ、學術ノ研究ヲ爲スヲ許シ、或ハ公費ヲ以テ、草莽學者ノ學業上ニ要スル費用ヲ補償シ、或ハ公費ヲ以テ、私人著述スル所ノ書ヲ出版スル等、以上總テ大ニ草莽學者ノ學業ヲ裨益スルノ功アリ、去レトモ之ヲ要スルニ、是等ノコトハ、皆以テ集賢館ノ本務ト云フニ足ラスシテ、或ハ私人ノ力ト雖モ、亦能ク之ヲ辨スヘキノミ、是故ニ集賢館、縱令ヒ僅ニ是等ノコトニ力ヲ盡スモ、未タ曾テ直ニ學問ノ進歩ニ力ヲ盡セリト云フニ足ラス、實ニ直ニ學問ノ進歩ニ力ヲ盡スコトハ、全ク一個人ニ任スルヲ要ス、決シテ集賢館ノ主掌ト爲ス可ラス、○是故ニ若シ學問ノ區域ヲ增大スルコトヲ以テ、眞ニ集賢館ノ主掌ト認定スルトキハ、其事業ノ功益、實ニ觀ルニ足ルヘキ者ナク、決シテ一個人ノ私業ニ優ル所アラサルヲ以テ、恐ラクハ集賢館ノ聲價ヲ以テ、殆ト賤小卑低ナル者ト爲スニ至ル可シ、

是故ニ吾輩ハ、必ス他ノ事業ヲ以テ、集賢館碩學會社ノ聲價ニ適セル職掌ト爲サント欲ス、凡ソ學問ノ事、輓近始メテ教會ノ看護ヲ脱セシ以來、未タ能ク學林ノ中央ニ位シテ、學問ヲ統括スル者アルヲ見ス、若シ學林ノ中央ニ位シテ、學問ヲ統括スル者アリテ、且ツ其制、實ニ眞正ヲ得レハ、絶エテ學問ノ自由ヲ妨害セスシテ、却テ天下學事互相ノ連絡ヲ通察シ、且ツ學事ト公私諸事トノ關涉ヲ詳密ニ探索シ、及ヒ之ヲ尊重スルヲ得可ク、並ニ國家ノ權域ニ屬スヘキ學事監督、及ヒ其眷顧ヲ補助シ、此般ノ事ヲシテ、正理ニ合スルコトヲ得セシムルハ、甚タ難キコアラサルナリ、○右論スル所ノ諸件ノ如キハ、實ニ今日ニ在テ、國家人民ノ文化開明ヲ增益スルカ爲メニ、頗ル緊要ナルコト云ツ可シ、然ルニ今時ノ如キハ、上件ノ諸事ヲ掌ルヘキ者、未タ嘗アラサルカ故ニ、諸學事互相ノ連絡、及ヒ學事ト公私諸事トノ關涉等全ク消滅シテ、互ヒニ隔絶シ、互ニ分離スルニ至レリ、蓋シ精神靈魂ハ、人毎ニ自ラ相異ナル所少カラスト雖モ、必ス又互ニ一致合同スル所アル者ナリ、然ルニ斯諸學事ノ連絡、及ヒ學事ト公私諸事トノ關涉消滅シテ、互ニ隔絶分離スルカ如キハ、實ニ人性ニ戻リ、且國家ノ要務ニモ、相反スル者ト云フ可シ、

凡ソ學問ノ開明進歩ヲ促シ、及國家人民ノ公益共利ヲ增サント欲セハ、必ス右論スルカ如ク、天下學林ノ中央ニ位シテ、學問ヲ統括スル者アラサル可ラス、而メ此統括者ハ、敢テ各個學士ノ事業ヲ補足贊成スルヲ以テ、其務メト爲スヲ要セス、必ス國家ト學問トノ關係ヲ省察管理シ、而メ偶マ諸學事ノ連絡、及ヒ學事ト公私諸事トノ關涉消滅シテ、互ニ隔絶解離スルニ至ルヲ調護シテ、能ク此連絡關涉ヲ保全スルヲ以テ、其務メトナスヲ要ス、○且ツ此統括者ハ、必ス其中央ノ出處ニ位シテ、常ニ左ノ數件ヲ掌理スルヲ緊要ト爲ス、即チ天下學事ノ景狀ヲ洞視監察シ、學問ノ盛衰隆替ヲ起ス所ノ原因如何ヲ探索シ、學問上ニ功勞アル者ヲ尊重シ、學問ノ上進ヲ裨補スルニ、國家ノ補助ヲ要スルコトアレハ、之ヲ助補シ、實ニ學問ノ妨害トナルヘキ者ヲ蠲除シ、學事ノ私會社、或ハ碩學鴻儒等ト相接シ、及ヒ學問ノ爲メニ博集院ヲ設ケ、更ニ之ヲ盛大ニナス諸件ヲ云フナリ、○蓋シ若シ右等ノ事ヲ以テ、集賢館學士ノ職掌トナスノ制度ヲ立ルトキハ、集賢館學士ハ、即チ教部省（クルツースミニステリウム〔按〕神道及ヒ諸學術ノ事務ヲ掌ル者ヲ云フ、）ノ參議官ノ如キ者ニシテ、例ヘハ議政官（スタートツラート〔按〕卷之七第六款ニ詳ナリ）タル者、君主ノ參議官トナリテ、立法施政ノ商議ニ加ハルカ如シ、是故ニ若シ此意ヲ以テ集賢館ノ學士ヲ選任シ、以テ其職務ニ從事セシムルニ至ラハ、此學士等ハ、眞ニ天下學林ノ上位ヲ占ムルノ名アルノミナラス、其實モ亦眞ニ此名ニ適合スト云フ可シ、

從來存スル所ノ集賢館ニハ、某二三ノ學科ヲ缺キ、唯專ラ數學及ヒ物體理學ト、史學及ヒ心性理學トヲ主的ト爲ス、去レトモ此制度ハ甚タ可ナラス、余カ見ヲ以テスレハ、集賢館ハ實ニ天下學林ノ中央ニ出處ヲ占メテ、常ニ天下ノ學事ヲ洞視監察セント欲スルトキハ、其館ノ制ヲ設定スル、必ス學問ノ大要種類ト、及ヒ其制度トニ從ハサル可ラス、然ルニ從來集賢館ニ於テ、學問研究ノコトヲ旨ト爲スカ故ニ此館ノ實際ニ功益ヲ爲スコト甚タ僅々ナルノ大弊ヲ生シタリ、但シ此館ヲ設置スルノ本意タルヤ、決シテ其學士ヲシテ、直ニ學問ノ開明ニ從事セシムルカ爲メニアラスシテ、總テ世道ノ上達ヲ省察セシムルカ爲メナリト云フノ理明瞭トナレハ、從來ノ制度ハ、決シテ此本意ヲ達スルニ足ラサリシ者ナルコト、亦自ラ明瞭ナル可シ、

是故ニ專ラ國家ノ治體ニ著眼シテ、集賢館ヲ設置スルトキハ、（佛國ノ集賢館ハ、稍ヽ此目的ヲ以テ設

立スル者ナリ、）學問文事ニ於テ、卓絶ノ名ヲ得タル輩ハ、總テ其學科流派ニ拘ハラス、必ス之ヲ抜擢セサル可ラス、（神學者法學者ノ如キモ或ハ之ヲ除キ、或ハ徒ニ之ヲ員外ニ置ク可ラス、若シ此ノ如クスル片ハ、之ニ由テ遂ニ學問ト實地トノ關係ヲ毀損スルニ至ル可シ、何者、神學者法學者ノ如キモ、亦必ス世道ノ開明上進ニ於テ、大ニ利害ヲ生スル者ナレハナリ、蓋シ國家ハ、啻ニ大小學校ノ教導ヲ省察シテ、之ヲシテ世道ニ利アラシムルヲ以テ足レリト爲スノミナラス、必ス亦賢儒碩學ノ相合セル集賢館ヲシテ、實ニ世道ニ利アラシムルヲ要ス、

集賢館ノ事業ハ、大抵左ノ諸學ニ隨テ區分ス可シ、即チ第一物體理學、但シ醫學亦或ハ之ニ屬スヘシ、第二心性理學、但シ殊ニ博文學、及ヒ學制ニ係レルヿニ專ヲ關係ス、第三政治學、史學、但シ國家學及ヒ法學亦此科中ニ屬ス、第四神學、但シ殊ニ學問開明ノ次第ニ著意スルヲ旨トス、第五美文學、（シオーニチ、リテラツール（按）殊ニ詩學ヲ云フ、）但シ國家從來此學ヲ以テ殆ト無益ノ者ノ如クナスト雖モ、其利益タル、決シテ少ナカラス、

（第三）若シ集賢館從來ノ職掌及ヒ編制ヲ改メテ上章ニ論スルカ如ク爲ス片ハ、（其學士ノ講義法モ亦隨テ改革セサル可ラス、ヤーコップ、グリム（獨乙人、一千七百八十五年ニ生ル、）ノ論ニ、凡ソ將來事業ノ萌芽ヲ産出シ、及ヒ學問ノ爲ニ豐富ノ材料ヲ育成スルハ、集賢館ノ講義ヨリ優ル者アラスト云ヒシカモ、此説實ニ當レリト云フ可ラス、但シ集賢館出版ノ舊籍中記載スル所ノ新奇ノ論説等ハ、決シテ忽視ス可ラスト雖モ、是等ノヿハ、決シテ集賢館ノ要務ト云フニ足ラス、是故ニ凡ソ集賢館學士ノ講義ハ、專ラ各學科開明進歩ノ次第ヲ明白ニ指示シ、及ヒ學問ノ實際上ニ利害ヲ生スル如何、學問ノ得失如何等ヲ確實ニ辨明スルヲ主旨トスヘシ、○但シ集賢館ニ於テハ、決シテ、講義ヲ以テ要務トナス可ラス、蓋シ講義ヲ以テ要務トナスカ如キハ、彼ノ專ラ學問ノ進歩ニ從事シ、且ツ學問ノ開明ニ由テ、眞誠ナリト認定セラレシヿテ、廣ク傳播スルヲ旨トナセル集賢館（按）從來ノ集賢館ヲ云フ、）ニ於テ、專ラ撰取（按）明論確説ヲ撰取スルヲ云フ、）ト陳説（按）集賢館學士等、自ラ明論確説ナリトスル所ヲ陳説スルヲ云フ、）トヲ以テ、其要務トナスヨリモ、更ニ不可ナリトス、

譯者曰、本款ノ意甚タ錯雜シテ、殆ト解シ難キカ如シト雖モ、之ヲ要スルニ、集賢館ハ自ラ學問上ノ發明進歩ニ從事スルヿナク、特ニ學問ノ景況ヲ省察シ、及ヒ學問ト實際トノ關渉ヲ眷顧シ、而テ學問ヲシテ、實ニ世道ノ上進、人智ノ開明ニ裨益セシムルヿヲ以テ、其主務ト爲スヘキ所以ヲ論説スルナリ、

大井潤一　校

國法汎論卷之九下終

明治十三年五月十三日翻刻御届
同年五月出版

定價金六拾錢

翻刻人　小笠原美治
神田五軒町十八番地

發兌
東京神田五軒町　弘令社
同芝三島町　山中市兵衛
同通三丁目　丸屋善七
大阪心齋橋通備後町角　吉岡平助
書肆
京都寺町通四條上ル　田中治兵衛

賣

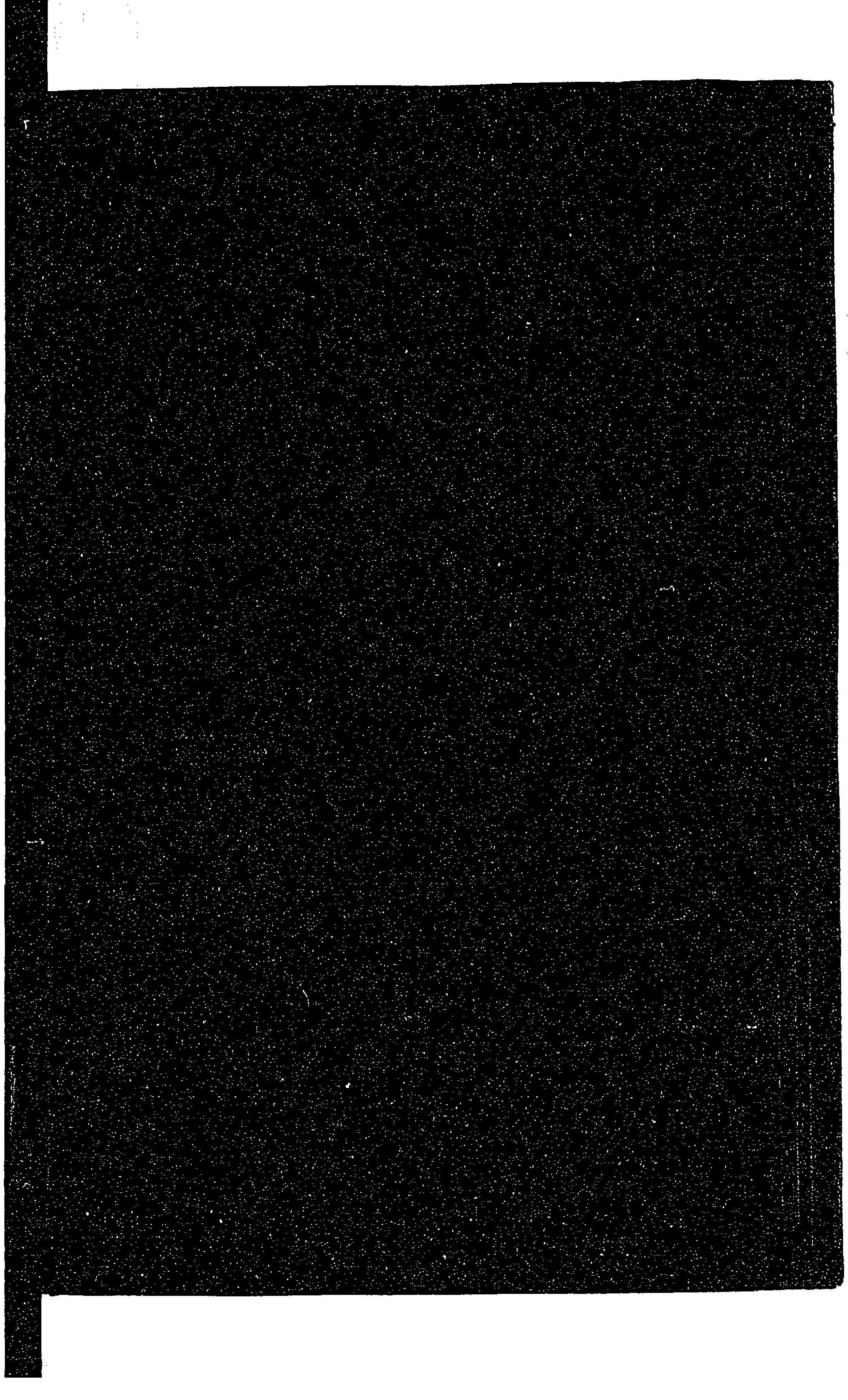
東京通一丁目	北畠茂兵衛
同銀座三丁目	博聞社
同通一丁目	山城屋佐兵衛
同馬喰町二丁目	荒川藤兵衛
同本町二丁目	中外堂
同大傳馬町	東生龜治郎
同横山町	辻岡屋文助
同馬喰町	森屋治兵衛
同通油町	藤岡屋慶治郎
同淺草茅町	北澤伊八
同馬喰町	内田彌平
同通石町	江島喜平
同西河岸	須原鐵二
同通二丁目	小林新兵衛
同銀座二丁目	泉屋孝之助
同通[illegible]町	内藤支店
横濱辨天通	丸屋善八
伊勢津東町	篠野東助
尾張名古屋本町	片野東四郎
岐阜米屋町	三浦源介
和歌山本町	平井文助
廣島中島本町	秋田惣兵衛
同所大手筋町	松浦勝左衛門
筑前福岡橋口町	山崎啓八
長崎袋町	滿都家太平治
同引地町	鶴野常藏
信州長野	小桝屋喜太郎
山形十日町	八文字屋太右衛門
山形七日町	北國屋彌平治
水戸上市下金町	川又銀藏
越後新潟本町通	吉川成藏
同所東堀通	林富吉

弘書肆

越後高田馬出町	小方長吉
同 巻町	管水又平
同 水原本町	西村六平
同 三條上町	樋口屋小左衛門
岩代福島十丁目	近江屋周吉
同 五丁目	齋藤彦太郎
陸中盛岡本町	澤田正助
羽後久保田大町	本間金之助
千葉市場町	乙亥舍
上州高崎田町	文心堂
武州川越南町	菅間定治郎
同 浦和	博聞社
信州小諸	小山九郎兵衛
同 松本	高美甚左衛門
同 上田	鼠屋甲造
仙臺國分町	中村清介
磐城白河天神町	興村市右衛門
羽後大曲	板谷五郎左衛門
同所	能味直作
羽後横手	渡邊八右衛門
米澤立町	素月晨平
岩代若松	八木屋長八郎
同所	田中善平
陸前石巻	三陸屋利兵衛
羽前鶴岡五日町	地主文藏
同所	小池藤治郎
靜岡呉服町	三浦定吉

三州豐橋呉服町	高須又八
越前福井本町	酒井安兵衛
同 武生桂町	黒田善治
伊勢龜山	渡邊東五郎
大津丸屋町	澤宗次郎
但州豐岡宵田町	由利安助
泉州堺大道	鈴木久三郎
兵庫西宮内町	村松爲助
播州姫路俵町	山野長平
備前岡山紙屋町	世羅田益太郎
備後東城本町	高橋友四郎
同 三次	森藤東作
藝州内海港	平山久四郎
山口中市町	阿部準助
雲州松江本町	岡山喜三右衛門
讃州丸龜通町	市原瀧治郎
豐前中津	野依歴三
豐後大分京町	山川正三郎
熊本新二丁目	長崎次郎
鹿兒島松山通	和泉屋支店
函館	魁文社
札幌	報新舍

○其他各府縣全報賣捌書肆



東京圖書館

門 三二函
部 八架
類 號

031559−000−0

特14−19

国法汎論

ヨハン・カスパルト・ブルンチュリー／著

M13

BBE−0173